

令和3年度

群馬大学大学教育・学生支援機構
報告書



群馬大学大学教育・学生支援機構

「令和3年度群馬大学大学教育・学生支援機構」報告書 発刊にあたって

大学教育・学生支援機構

副機構長 渡 辺 秀 司

群馬大学大学教育・学生支援機構は平成18年度に発足し、主に大学教育の企画・運営・改善・評価を担当する大学教育センター、学生の大学生活・就職活動を支援する学生支援センター、入学者選抜と学生募集に係る広報を担当する学生受入センター、学生及び大学教職員の心身の健康保持増進を図る健康支援総合センター、大学教育全体の改革を推進する教育改革推進室の4センター・1室で構成されています。令和2年度には新たに、教育の内部質保証を推進し、教育内容・教育方法改善・成績評価等の組織的チェックを強化するために教育アセスメント委員会を設置しました。さらに、総合情報メディアセンターと学内共同教育研究施設である国際センターも、学生の修学に必須の組織として本機構と連携して活動しております。これら全ての組織は、群馬大学の教育業務を基幹的に担う重要な組織です。

令和3年度は第三期中期目標の6年目の最終年度になりますので、令和4年度に実施される機関別認証評価の受審に向けた対応が必要となりました。令和3年度では、大学教育、人材育成の充実に向けた教学マネジメント体制の構築を行って、改定したDP、CP、APの3つのポリシーを基にした、大学教育の内部質保証のPDCAサイクルによる教育改善の取組みを引き続いて実施しました。さらに、教育の内部質保証体制の整備とその手順を明文化した規定に基づいて自己点検を実施して、その改善計画を策定しました。他方、大学全体においても、群馬大学教育学部と宇都宮大学教育学部の両学部の緊密な連携・協力に基づいた共同教育学部を令和2年度に設置しましたが、令和3年度には、これからの社会に欠かせないデータサイエンスを担う人材育成を目指した文理融合型の情報学部を設置致しました。さらに、令和3年度から文部科学省から認定を受けた「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」を実施しており、これは新入生全員を対象とした必修の教育プログラムです。

本学の教育・研究の質を更に一層高め、本学が地域に根ざした知的な創造を通じて世界の最先端へとチャレンジし、社会と連携して21世紀を切り開いていく大学であることを示す必要があります。そのため、令和3年度における取組みをここに纏め、その総括と課題の摘出を進めていくために本報告書を作成することには大きな意義があります。報告書を纏め、評価と企画の基礎となるデータの系統的整理を行っていくことは、教学のPDCAサイクルを実行していく上でも基本となる作業です。

最後になりますが、本報告書の作成に当たり、編集にご協力を戴いた教職員の方々、また執筆して戴いた方々に深く感謝申し上げます。

目 次

巻頭言

1 大学教育・学生支援機構の組織	1
1.1 大学教育・学生支援機構の組織図	1
1.2 大学教育・学生支援機構構成員	2
1.3 教員による地域貢献事業	8
2 大学教育センター	11
2.1 教養教育部会	11
2.1.1 はじめに	11
2.1.2 令和3年度活動概要	11
2.1.3 令和3年度活動内容	11
2.2 外国語教育部会	13
2.2.1 はじめに	13
2.2.2 英語習熟度別クラス編成とプレイスメントテスト	13
2.2.3 英語アチーブメントテスト	14
2.2.4 Can-do Statementの実施	15
2.2.5 英語101・英語102	17
2.2.6 英語201・英語202	18
2.2.7 英語111・英語112	19
2.2.8 ポートフォリオへの記入	20
2.2.9 理工学部推薦入試入学生英語課題テスト	20
2.2.10 希望者受験用TOEIC-IP, TOEFL ITPテスト	20
2.2.11 ドイツ語技能検定試験・フランス語技能検定試験	21
2.2.12 ドイツ語・フランス語の共通アチーブメントテスト	21
2.2.13 総括	22
3 学生支援センター	79
3.1 入学料免除及び徴収猶予	79
3.1.1 免除申請者数, 免除者数	79
3.1.2 徴収猶予申請者数, 徴収猶予者数	79
3.2 授業料免除及び徴収猶予	79
3.2.1 免除申請者数, 免除者数	79
3.2.2 徴収猶予申請者数, 徴収猶予者数	80

3.3	寄宿料免除	80
3.3.1	免除申請者数, 免除者数	80
3.4	奨学金	80
3.4.1	日本学生支援機構奨学生数 (令和3年10月1日現在)	80
3.5	学生相談体制及び学生相談	80
3.5.1	学生相談体制	80
3.5.2	主な相談事項	80
3.5.3	学生相談実態調査アンケートの実施及び活用	81
3.6	授業欠席状況調査	81
3.6.1	授業欠席者数及び主な欠席理由	81
3.6.2	実施方法, 時期	81
3.7	障害学生への支援	82
3.7.1	支援内容	82
3.8	学生教育研究災害傷害保険, 学研災付帯賠償責任保険	82
3.8.1	加入者数	82
3.8.2	請求種別保険金請求件数	82
3.9	通学証明書, 旅客運賃割引証	82
3.9.1	発行枚数及び主な発行理由	83
3.10	学生寮	83
3.10.1	養心寮入寮者数	83
3.10.2	啓真寮入寮者数	83
3.11	生活支援施設	83
3.11.1	食堂	83
3.11.2	売店	83
3.12	課外活動施設	84
3.12.1	体育施設	84
3.12.2	文化施設	86
3.12.3	課外活動共用施設	86
3.12.4	合宿所	86
3.13	学生団体及び主な活動	86
3.13.1	学生団体	87
3.13.2	大学祭	87
3.13.3	関東甲信越大学体育大会	87
3.13.4	クラブ・サークルリーダーシップ研修会	87

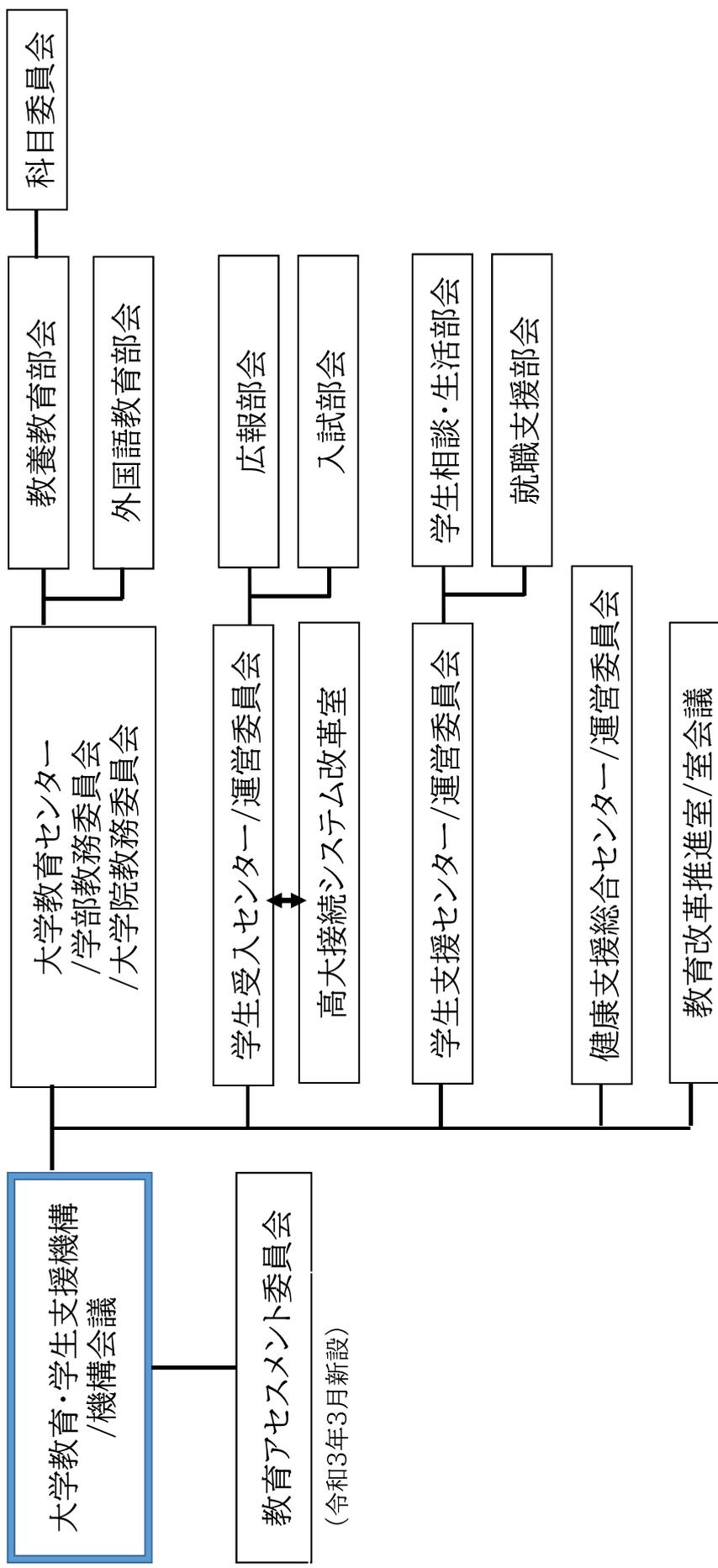
3.14	研修施設	87
3.14.1	北軽井沢研修所	87
3.14.2	草津セミナーハウス	88
3.15	学生の就職支援	88
3.15.1	進路状況及び主な就職先	88
3.15.2	全学就職ガイダンス・セミナーの開催	88
3.15.3	キャリアカウンセリングの充実	88
3.15.4	キャリアサポート室における情報収集環境の充実	89
3.15.5	就職支援の体制強化の充実	89
3.15.6	就職支援BOOKの作成・配布	89
3.16	就業力育成支援	89
3.17	学生生活実態調査	90
3.18	キャンパスニュース群の発行	90
3.19	事件・事故	90
3.20	学生支援センター資料集	90
4	学生受入センター	106
4.1	機動的で一体化した本格的な学生受入のための組織体制の整備	106
4.2	大学入学共通テストへの対応と新型コロナウイルス感染症に対する入試対応	106
4.3	入学者の選抜方法改善と追跡調査	107
4.4	オープンキャンパス等	107
4.4.1	群馬大学Webオープンキャンパス「GU'DAY2021」【Web配信】	107
4.4.2	学部別オープンキャンパス	107
4.4.3	学生広報大使トークライブ（第二弾「受験生応援編」）	108
4.5	学生募集に係わる広報活動	108
4.5.1	高等学校等の教員を対象とした説明会	108
4.5.2	群馬県高等学校長協会との意見交換会	108
4.5.3	大学説明会・進学相談会・（新規）オンライン個別進学相談会	109
4.5.4	夢ナビライブ	109
4.5.5	出張模擬授業	109
4.5.6	高校訪問	109
4.5.7	大学見学受入	109
4.5.8	大学案内等のダイレクトメール、郵送など	109
4.5.9	ウェブサイト等による広報	109
4.5.10	学生広報大使による広報	110

4.6	広報戦略の立案	110
4.7	その他	110
5	健康支援総合センター	118
5.1	はじめに	118
5.2	令和3年度実施事業	118
5.2.1	学生定期健康診断の実施	118
5.2.2	精神保健調査の実施	119
5.2.3	学校生活に関する困りごとの調査実施	119
5.2.4	学生特殊健康診断の実施	119
5.2.5	外国人留学生健康診断の実施	119
5.2.6	自殺予防対策ワーキンググループの活動	119
5.3	健康支援総合センター利用状況	120
5.3.1	利用人数及び件数	120
5.3.2	健康相談の対応内容別件数及びカウンセリング報告	120
5.3.3	疾病領域別利用者数	120
5.3.4	診療科別医療機関紹介件数	120
5.3.5	薬剤別処方日数	120
5.3.6	桐生地区・保健室利用状況	120
5.3.7	昭和地区・学生健康相談室利用状況	120
5.3.8	キャンパス・ソーシャルケースワーカーによる活動	120
5.4	教育関連活動	121
5.5	健康管理に関する調査研究活動	121
5.6	健康支援総合センター主催の委員会等	121
5.7	健康支援総合センターの全国会議等出席	121
5.8	学内行事実施に伴う救護業務	122
5.9	出版・広報活動	122
5.10	社会貢献活動	123
5.11	産業保健活動	123
5.11.1	安全衛生委員会	123
5.11.2	職員の定期健康診断	123
5.11.3	スタッフカウンセリング	124
5.12	通常業務以外の支援業務	124
5.13	健康支援総合センターの現状及び今後の方向性	124
5.14	健康支援総合センター資料集	124

6 教育改革推進室	145
6.1 教育課程・学習成果に関する取り組み	145
6.2 内部質保証に関する取り組み	145
6.3 その他の取り組み	145
6.3.1 ベストティーチャー賞	145
6.3.2 第13回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」.....	146

1 大学教育・学生支援機構の組織

1.1 大学教育・学生支援機構の組織図



1.2 大学教育・学生支援機構構成員

機構長	林 邦彦	
副機構長	渡 辺 秀司	
大学教育センター		
センター長	林 邦彦	
副センター長	渡 辺 秀司	
教授	飯 島 睦 美	
教授	結 城 恵	
准教授	飯 田 敦 史	
准教授	コントレラス・ジェフリー	
准教授	フーゲンブーム・レイモンド	
准教授	ベルジュロン・シルバン	
講師	磯 崎 アンナ	
講師	ネウパネ・プラミラ	
学生支援センター		
センター長	林 邦彦	
副センター長・准教授	五 味 洋 一	
障害学生支援室		
室長	五 味 洋 一	
学生受入センター		
センター長	林 邦彦	
副センター長	杉 山 学	
健康支援総合センター		
センター長	齋 藤 繁	
副センター長・教授	竹 内 一 夫	
講師	宮 崎 博 子	
教育改革推進室		
室長	林 邦彦	
副室長	渡 辺 秀司	
准教授	二 宮 祐	
委員会等		
大学教育・学生支援機構会議		
委員	林 邦彦	理事（教育・評価担当）・副学長
委員	渡 辺 秀司	理工学府
委員	齋 藤 繁	理事（病院担当）・附属病院長
委員	山 内 春 光	情報学部
委員	杉 山 学 夫	情報学部
委員	竹 内 一 夫	大学教育・学生支援機構
委員	五 味 洋 一	大学教育・学生支援機構
委員	二 宮 祐	大学教育・学生支援機構
委員	大 川 雄 司	学務部

大学教育センター学部教務委員会

委員長	林	邦彦
委員	渡	秀司
委員	尾	広明
委員	飯	島美
委員	佐	野史
委員	伊	藤賢
委員	松	崎利
委員	久	田剛
委員	本	島邦
委員	大	川雄
委員	二	宮祐

理事（教育・評価担当）・副学長
 理工学府
 理工学府
 大学教育・学生支援機構
 共同教育学部
 情報学部
 医学系研究科
 保健学研究科
 理工学府
 学務部
 大学教育・学生支援機構

大学教育センター大学院教務委員会

委員長	林	邦彦
委員	渡	秀司
委員	小	林英
委員	音	山若
委員	末	松美
委員	鯉	淵典
委員	筑	田博
委員	齋	尾征
委員	若	井明
委員	大	川雄
委員	浅	尾高
委員	鳥	居征
委員	二	宮祐

理事（教育・評価担当）・副学長
 理工学府
 共同教育学部
 共同教育学部
 情報学部
 医学系研究科
 医学系研究科
 保健学研究科
 理工学府
 学務部
 数理データ科学教育研究センター
 食健康科学教育研究センター
 大学教育・学生支援機構

大学教育センター教養教育部会

部会長	尾	崎広	明
部会員	飯	島陸	美
部会員	鬼	澤陽	子
部会員	岩	井淳	男
部会員	鎌	田英	二
部会員	田	中浩	哉
部会員	長	尾辰	孝
部会員	柴	田孝	之
部会員	高	橋博	浩
部会員	柴	田博	仁
部会員	中	今雄	勇
部会員	後	藤民	就
部会員	渡	辺秀	就
部会員	大	庭志	司
部会員	船	橋瑞	野
部会員	佐	藤幸	貴
部会員	二	宮祐	市

理工学府
 大学教育・学生支援機構
 共同教育学部
 情報学部
 医学系研究科
 保健学研究科
 理工学府
 保健学研究科
 理工学府
 情報学部
 共同教育学部
 共同教育学部
 理工学府
 理工学府
 保健学研究科
 国際センター
 生体調節研究所
 大学教育・学生支援機構

科目委員会：学びのレテラシー委員会

委員長	柴	田孝	之
委員	小	谷英	生
委員	永	野清	仁
委員	奥	津哲	夫
委員	小	林正	行

保健学研究科
 共同教育学部
 情報学部
 理工学府
 共同教育学部

委員	和	田	直	樹	医学系研究科
委員	原	野	安	土	理工学府
委員	大	和	啓	子	国際センター

科目委員会：総合科目委員会	高	橋	浩	理工学府
委員長	金	澤	之	共同教育学部
委員	大	野	彦	情報学部
委員	松	崎	行	医学系研究科
委員	岩	本	司	理工学府
委員	金	澤	之	共同教育学部
委員	小	竹	人	情報学部
委員	上	宮	之	保健学研究科

科目委員会：データ・サイエンス委員会	柴	田	博	仁	情報学部
委員長	齋	江	貴	志	共同教育学部
委員	松	井	一	猛	情報学部
委員	齋	藤	郎	勇	医学系研究科
委員	三	浦	健	太	理工学府
委員	寺	嶋	容	明	共同教育学部
委員	豊	村	暁	健	保健学研究科
委員	小	澤	津	雄	理工学府
委員	濱	元	信	州	総合情報メディアセンター
委員	松	浦	勉	勉	数理データ科学教育研究センター

科目委員会：スポーツ・健康委員会	中	雄	勇	人	共同教育学部
委員長	柿	本	敏	克	情報学部
委員	坂	本	雅	昭	保健学研究科
委員	相	原	智	康	理工学府
委員	田	井	健	太	共同教育学部
委員	木	山	慶	子	共同教育学部

科目委員会：人文・社会科学委員会	今	井	就	稔	共同教育学部
委員長	藤	井	正	希	情報学部
委員	山	本	康	次	医学系研究科
委員	中	沢	信	明	理工学府
委員	山	崎	法	子	共同教育学部
委員	山	内	春	光	情報学部
委員	北	村	純	子	情報学部
委員	村	田	祥	子	保健学研究科

科目委員会：自然科学委員会	後	藤	民	浩	理工学府
委員長	青	木	悠	樹	共同教育学部
委員	石	川	真	一	情報学部
委員	鯉	淵	典	之	医学系研究科
委員	森	本	英	行	理工学府
委員	高	江	俊	光	理工学府
委員	岩	洲	博	之	共同教育学部
委員	西	村	尚	之	情報学部
委員	柳		奈	津	保健学研究科

委員	住吉吉英
大学教育センター外国語教育部会	
部長	飯島睦美
部会員	尾崎広明
部会員	飯田敦史
部会員	コントラス・ジェフリー
部会員	フーゲンブーム・レイモンド
部会員	ベルジュロン・シルバン
部会員	ネウパネ・プラミラ
部会員	磯崎アンナ
部会員	渡辺秀司
部会員	金田仁秀
部会員	末松美知子
部会員	村上正巳
部会員	川島智幸子
部会員	鈴木真粧子
部会員	田中一嘉子
部会員	三原智子
部会	越智貴子

理工学府

大学教育・学生支援機構
理工学府
大学教育・学生支援機構
大学教育・学生支援機構
大学教育・学生支援機構
大学教育・学生支援機構
大学教育・学生支援機構
大学教育・学生支援機構
理工学府
共同教育学部
情報学部
医学系研究科
保健学研究科
理工学府
共同教育学部
共同教育学部
国際センター

学生支援センター運営委員会

委員長	林邦彦
委員	山内春光
委員	五味洋一
委員	吉野浩一
委員	三國正樹
委員	井門亮
委員	和田直樹
委員	菊地千一郎
委員	丸山真一
委員	山口陽弘
委員	坂本和靖
委員	鯉淵典之
委員	近藤浩子
委員	大川雄司
委員	竹内一夫
委員	牧原功

理事（教育・評価担当）・副学長
情報学部
大学教育・学生支援機構
共同教育学部
共同教育学部
情報学部
医学系研究科
保健学研究科
理工学府
共同教育学部
情報学部
医学系研究科
保健学研究科
学務部
大学教育・学生支援機構
国際センター

学生支援センター学生相談・生活部会

部長	山内春光
部会員	五味洋一
部会員	吉野浩一
部会員	三國正樹
部会員	井門亮
部会員	和田直樹
部会員	菊地千一郎
部会員	丸山真一
部会員	渡辺秀司
部会員	竹内一夫
部会員	牧原功
部会員	大川雄司
部会	宮崎博子

情報学部
大学教育・学生支援機構
共同教育学部
共同教育学部
情報学部
医学系研究科
保健学研究科
理工学府
理工学府
大学教育・学生支援機構
国際センター
学務部
大学教育・学生支援機構

学生支援センター就職支援部会

部会長 山内春光
 部会員 五味洋一
 部会員 山口陽弘
 部会員 坂本和靖
 部会員 鯉淵典浩
 部会員 近藤浩子
 部会員 丸山真一
 部会員 大川雄司
 部会員 結城恵

情報学部
 大学教育・学生支援機構
 共同教育学部
 情報学部
 医学系研究科
 保健学研究科
 理工学府
 学務部
 大学教育・学生支援機構

学生受入センター運営委員会

委員長 林邦彦
 副委員長 杉山 彦
 委員 板橋 英
 委員 齋江 貴
 委員 山内 春
 委員 富田 治
 委員 白田 芳
 委員 古畑 朋
 委員 大川 雄
 委員 青木 悠
 委員 小竹 裕
 委員 内田 陽
 委員 天谷 賢

理事（教育・評価担当）・副学長
 情報学部
 理工学府
 共同教育学部
 情報学部
 医学系研究科
 保健学研究科
 理工学府
 学務部
 共同教育学部
 情報学部
 保健学研究科
 理工学府

学生受入センター運営委員会広報部会

部会長 杉山学
 部会員 板橋 英
 部会員 青木 悠
 部会員 小竹 裕
 部会員 岸美紀子
 部会員 内田 陽
 部会員 天羽 雅
 部会員 大川 雄

情報学部
 理工学府
 共同教育学部
 情報学部
 医学系研究科
 保健学研究科
 理工学府
 学務部

学生受入センター運営委員会入試部会

部会長 杉山学
 部会員 板橋 英
 部会員 齋江 貴
 部会員 山内 春
 部会員 富田 治
 部会員 白田 芳
 部会員 古畑 朋
 部会員 大川 雄

情報学部
 理工学府
 共同教育学部
 情報学部
 医学系研究科
 保健学研究科
 理工学府
 学務部

高大接続システム改革室

室長 林邦彦
 室員 板橋 英
 室員 杉山 学
 室員 富山 慶
 室員 伊藤 典
 室員 富田 隆
 室員 内田 陽 芳子

理事（教育・評価担当）・副学長
 理工学府
 情報学部
 共同教育学部
 医学系研究科
 保健学研究科

健康支援総合センター運営委員会

委員長	齋藤	繁
委員	竹内	一夫
委員	宮崎	博子
委員	三國	正樹
委員	井門	亮樹
委員	和野	直樹
委員	菊地	千一郎
委員	丸山	真一
委員	大川	鉄也
委員	大川	雄司

理事（病院担当）・附属病院長
 大学教育・学生支援機構
 大学教育・学生支援機構
 共同教育学部
 情報学部
 医学系研究科
 保健学研究科
 理工学府
 総務部
 学務部

教育改革推進室

室長	林	邦彦
副室長	渡辺	秀司
室員	二宮	祐一
室員	栗原	淳一
室員	杉山	学
室員	岸	美紀子
室員	坂本	雅昭
室員	井上	仁子
室員	越智	貴夫
室員	幾田	英夫

理事（教育・評価担当）・副学長
 理工学府
 大学教育・学生支援機構
 共同教育学部
 情報学部
 医学系研究科
 保健学研究科
 数理データ科学教育研究センター
 国際センター
 大学教育・学生支援機構

教育アセスメント委員会

委員長	林	邦彦
委員	渡辺	秀司
委員	佐野	史一
委員	伊藤	賢一
委員	松崎	利行
委員	久田	剛志
委員	本島	邦行
委員	大川	雄司
委員	佐々木	伸雄
委員	越智	貴子
委員	鈴木	裕之
委員	鳥居	征司

理事（教育・評価担当）・副学長
 理工学府
 共同教育学部
 情報学部
 医学系研究科
 保健学研究科
 理工学府
 学務部長
 生体調節研究所
 国際センター
 数理データ科学教育研究センター
 食健康科学教育研究センター

1.3 教員による地域貢献事業

令和3年度活動内容

No.	教員名	活動内容	実施日
1	飯島 睦美	高崎市立玉村高校 英語指導支援訪問（オンライン指導含む）	2021年4月23日, 5月7日, 8月4日, 8月5日, 11月1日, 11月22日, 2022年1月14日, 3月16日, 3月17日, 3月18日, 3月23日, 3月24日, 3月25日
2	飯島 睦美	高崎市立箕輪小学校 英語指導支援訪問（オンライン指導含む）	2021年4月21日, 5月19日, 11月10日, 11月17日, 12月11日, 2022年2月8日
3	飯島 睦美	高崎市立箕郷中学校 英語指導支援訪問	2021年9月7日
4	飯島 睦美	埼玉県高等学校英語教育研究会英語劇発表会審査員	2021年11月17日
5	飯島 睦美	東京都武蔵村山市立第9小学校 英語指導支援訪問（オンライン指導含む）	2021年6月2日, 8月2日, 8月27日, 11月19日
6	飯島 睦美	東京都小学校英語教育研究会講師	2021年10月22日
7	飯島 睦美	筑波大学附属桐が丘特別支援学校英語指導支援（オンライン指導含む）	2021年11月24日
8	飯島 睦美	津田塾大学国際関係研究所講師（オンライン）	2021年9月16日
9	磯崎アンナ	群馬地域に住んでいる人のための洋書を用いたブッククラブ開催	2021年5月15日, 7月31日, 9月25日, 11月13日, 2022年1月22日
10	竹内 一夫	群馬地方労働審議会・会長代行	
11	竹内 一夫	群馬県障害者雇用対策プロジェクトチーム・座長	
12	竹内 一夫	全国大学メンタルヘルス学会・理事	
13	竹内 一夫	全国大学保健管理協会・評議員	
14	竹内 一夫	前橋市教育委員会学校問題対策委員	
15	竹内 一夫	群馬産業保健総合支援センター・相談員兼評価委員	
16	竹内 一夫	群馬職域メンタルヘルス交流会・幹事	
17	竹内 一夫	北関東医学会・評議員	
18	竹内 一夫	全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会・代表世話人	
19	竹内 一夫	NHK番組「未来スイッチ」番組内紹介、「群馬大学ゲートキーパー研修会」司会運営	2021年5月12日（放映2021年6月4日）

No.	教員名	活動内容	実施日
20	竹内 一夫	前橋市公式youtube 桂萱公民館「子どものストレス・親のストレス～講演風景と館長との対談～」 https://www.youtube.com/watch?v=uCHG5MLzke0	2021年7月10日～
21	竹内 一夫	群馬テレビ「ビジネスジャーナル」コメンテーター 「職場のメンタルヘルス～ウィズコロナ時代のストレス対策～」	2021年8月4日
22	竹内 一夫	上毛新聞「風っ子」取材記事掲載 「人はなぜ笑うの？」	2021年8月8日
23	結城 恵	文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育スタートアッププログラム 地域日本語教育アドバイザー	
24	結城 恵	【文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業フォローアップ事業】 「ハタラクラスぐんま」地域日本語教室 教材開発プロジェクト	2021年9月～2022年3月
25	結城 恵	【文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業フォローアップ事業】 「ハタラクラスぐんま」地域日本語教室フォーラムの開催	2022年2月14日, 2月20日, 3月14日, 3月20日
26	結城 恵	群馬県 「ぐんまSDGs推進ネットワーク」委員	2021年6月14日～2022年 3月31日
27	結城 恵	前橋市 アーツ前橋運営評議会委員	
28	結城 恵	渋川市 総合計画審議会副会長	
29	結城 恵	公益財団法人全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所 (JIAM) 教科問題研究会委員	
30	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」コンソーシアム (文部科学省「留学生就職促進プログラム」) 委員	
31	結城 恵	留学生就職促進プログラム GHKGカリキュラム部会 部会長 GHKGインターンシップ部会委員 GHKGビジネス日本語部会委員	
32	結城 恵	コンソーシアム加盟大学等に在籍する外国人留学生向け 「ビジネス日本語Ⅰ」「ビジネス日本語Ⅱ」の提供	2021年5月22日～7月4日 の土日
33	結城 恵	コンソーシアム加盟大学等に在籍する外国人留学生向け キャリア教育「まちづくりとグローバル・コミュニケーション」の提供	2021年5月8日～7月3日 の土曜
34	結城 恵	コンソーシアム加盟大学等に在籍する外国人留学生向け キャリア教育「グローバル地域創生と企業」の提供	2021年5月8日・5月9日 ～7月4日の日曜

No.	教員名	活動内容	実施日
35	結城 恵	コンソーシアム加盟大学等に在籍する外国人留学生向け「就職活動のための自己分析徹底セミナー」の企画・実施	2021年8月～2022年3月
36	結城 恵	コンソーシアム加盟大学等に在籍する外国人留学生向け「就職活動のためのセルフ・ブランディングセミナー」の企画・実施	2021年10月～2022年3月
37	結城 恵	コンソーシアム加盟大学等に在籍する外国人留学生向け「就職活動のための戦略づくりセミナー」の企画・実施	2021年9月～11月
38	結城 恵	コンソーシアム加盟大学等に在籍する外国人留学生向け「ビジネス日本語フォローアップセミナー」	2021年9月～2022年3月
39	結城 恵	【文部科学省科学技術振興調整 群馬大学・群馬県「多文化共生推進士」養成ユニット フォロー・アップ事業】 「多文化共生推進士」へのヒアリング調査・フォローアップ研修	2022年2月21日, 2月28日, 3月14日, 3月21日
40	結城 恵	「グローバル・ハタラクラスぐんま」プロジェクト／文部科学省委託事業 留学生就職促進プログラム成果報告会&パネルディスカッション 「首都圏周辺地方型」留学生就職促進モデルを考える」	2022年3月18日

2 大学教育センター

2.1 教養教育部会

2.1.1 はじめに

平成23年度に発足した教養教育部会は、教養教育を実施・運営するための調整をはじめとする実務的側面を担う組織である。部会長、副部会長、大学教育センター副センター長、外国語教育部会部会長、科目委員会（学びのリテラシー、総合科目、データ・サイエンス、スポーツ・健康、人文・社会科学、自然科学）の各委員長、国際センター、生体調節研究所、大学教育・学生支援機構から各1名、および、各学部教務委員（共同教育学部、情報学部、理工学部からは各1名、医学部からは医学科、保健学科より各1名の計2名）の構成員からなる。令和3年度は18名のメンバーで活動した。

2.1.2 令和3年度活動概要

教養教育部会は、毎月1回（原則として第3月曜日）定例部会をオンラインにて開催し、教養教育実施に関する諸問題について討議した。令和3年度は、4月に第1回の部会を開催し、8月の休会を除いて、令和4年3月まで計11回の定例会議及び1回の臨時会議を実施した。

2.1.3 令和3年度活動内容

令和3年度教養教育部会の主な業務は下記のとおりであった。

- 1) 次年度教養教育科目開講コマ数の確認
- 2) 次年度教養教育実施体制（担当教員などの確定）についての確認
- 3) 次年度教養教育科目の時間割の確認
- 4) 次年度教養教育等学年暦の確認
- 5) 教養教育部会が主として関わる年度計画の確認
- 6) 非常勤講師の採用及びゲスト講師の委嘱のための審査
- 7) TAの採用に関する確認
- 8) 教養教育科目の授業にかかわる経費などの確認
- 9) 授業評価アンケート項目及び授業改善アンケート項目の確認
- 10) ベストティーチャー賞候補者選考手順の確認
- 11) 教養教育履修手引の確認
- 12) 協定を結ぶ他大学等との単位互換科目の確認
- 13) 学生の移動を伴う授業にかかる経費配分の決定
- 14) コロナ禍での授業実施方法の検討及び実施
- 15) 教養教育科目ナンバリングの設定
- 16) 履修登録取消対象科目の検証と整理
- 17) 成績評価に関する疑義申し立て手続きの整理
- 18) 教養教育にかかる課題と要望の検討
- 19) 障害を有する入学志願者との事前相談に関する報告
- 20) 交換留学生の教養教育科目履修についての報告

これらの主要業務及びそれに関連する事項について、月別に示すと以下のとおりとなる。

- 4月 ゲスト講師委嘱についての審査
教養教育にかかる課題と要望の検討
学事関連の活動制限にかかる対応についての確認

- 対面授業実施状況の確認
 教養教育部会が主として関わる年度計画の報告
- 5月 オンライン授業にかかるフォローアップ調査結果の確認
 教養教育関係予算案の確認
- 6月 令和4年度学部別担当コマ数の確認
 令和3年度前期授業評価アンケート項目の確認
 令和3年度前期授業改善アンケート項目の確認
 前期既修得単位認定の報告
 令和2年度後期授業評価アンケート結果の報告
 令和2年度教養教育アンケート結果の報告
 交換留学生の前期教養教育科目履修についての報告
 令和3年度文化講演会の実施報告
- 7月 令和4年度学年暦案の確認
 前期期末試験実施方法の確認
 ゲスト講師申請方法の見直し（オンライン化）
- 9月 教養教育科目ナンバリングの設定
 令和4年度の教養教育実施についての確認
 大学教育・学生支援機構報告書（令和2年度版）の確認
 保健学研究生の教養教育科目履修の確認
- 10月 対面による授業及びオンラインによる授業の検討
 令和3年度前期授業評価アンケート結果の報告
 令和3年度授業改善アンケート結果の報告
 令和4年度オリエンテーション日程の確認
- 11月 令和4年度非常勤講師の採用についての審査
 令和3年度後期授業評価アンケート項目の確認
 令和3年度教養教育アンケート項目の確認
 学長と学生との懇談会実施
 2号館情報演習室の利用方法（PC撤去）についての確認
- 12月 令和4年度教養教育開講科目の確認
 令和4年度協定を結ぶ他大学等との単位互換科目の確認
 令和3年度教養教育ベストティーチャー賞候補者選考手順の確認
 令和4年度教養教育授業案内の確認
 後期既修得単位認定の報告
 履修登録取消対象科目の検証と整理
 成績評価に関する疑義申し立て手続きの整理
 後期期末試験実施方法の確認
 令和4年度データ・サイエンス科目の一部オンデマンド化の確認
- 1月 障害を有する入学志願者との事前相談に関する報告
 成績評価根拠資料の取り扱いについての検討
- 2月 後期期末試験の実施
 令和4年度開放専門科目の確認
 令和4年度教養教育履修手引の確認
 令和4年度TA任用計画の確認
- 3月 令和4年度新入生オリエンテーション計画の報告
 学生の移動を伴う授業にかかる経費に関する申し合わせの改正
 令和4年度教養教育科目の授業実施方針の検討
 令和4年度教養教育履修手引の作成
 令和4年度教養教育授業案内の作成

その他、具体的な活動の一部を以下に記載する。

1) コロナ禍における授業実施方法の検討について

新型コロナウイルス感染拡大防止と学生の登校機会確保の両立の観点から、令和3年度は必修科目（英語除く）については原則対面授業とした。また、学生の登校機会確保のため、新型コロナウイルス感染状況が比較的落ち着いてきた時期には、オンライン授業用教室も多めに用意して学生の登校を促す取り組みを行った。

2) 成績評価に関する疑義申し立て手続きの整理

教養教育科目における成績評価に関する疑義申し立てについて、厳格かつ客観的な成績評価を担保するため、その手続きを明文化して整理をはかった。

3) 教養教育授業評価について

平成25年度より全学で導入された「学びのリテラシー（1）」、「学びのリテラシー（2）」及び「データ・サイエンス」の授業評価アンケートを、全学部1年生を対象として実施した。いずれのアンケートにおいても、ほぼ全ての設問において8割～9割が良好との回答が得られており、講義目的は概ね達成されていると判断された。

資料

1. 令和3年度 前期授業評価「学びのリテラシー（1）」集計表
2. 令和3年度 後期授業評価「学びのリテラシー（2）」集計表
3. 令和3年度 前期授業評価「データ・サイエンス」集計表
4. 令和3年度 後期授業評価「データ・サイエンス」集計表

2.2 外国語教育部会

2.2.1 はじめに

令和3年度も前年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンライン（ライブ配信）での授業実施となった。担当する教員は、Zoomを使つてのオンライン授業が2年目ということもあり、その機能を駆使しての授業実践が可能となってきた。一方、受講する学生は、高校までに受けた授業経験により、オンライン授業に対する姿勢は、様々であったと言えるが、学生たちはIT機器への適応が早く、Wi-Fi環境の問題以外は、授業はスムーズに進められた。オンライン授業に対するネガティブな意見としては、「対面で発音指導をしてほしい」「顔を見ながらコミュニケーション活動がしたい」といったオンライン上でも改善の余地のあるものばかりであり、オンラインであることが故の解決できない原因からくる批判的意見ではなかった。

また、「外国語教養科目群」に現在7言語を置くいわゆる第二外国語も、英語同様前年度に引き続きすべての言語でZoomによるオンライン授業を実施した。初級教育におけるオンライン授業の難しさは依然として残るものの、前年度の経験と知見を活かすことで、今年度はよりスムーズな授業実践が可能となった。非常勤講師を含めた教員全員の尽力と、学生たちの協力により、様々な問題を乗り越えながら、危惧されたほど学習効果を損なわずに一年間の授業を終えることができた。この経験と知見は、外国語教育全般にとっても大きな糧となったことを申し添えたい。

2.2.2 英語習熟度別クラス編成とプレイズメントテスト

これまでの英語習熟度別のクラス編成は、平成19年度に行ったアンケート調査の分析結果に基づき、平成20年度から、希望する学部・学科のクラスを対象として正式に実施されるこ

とになり、平成21年度より、社会情報学部1年・2年、保健学科看護学専攻1年（保健A・Bクラス）、工学部応用化学・生物化学科1年の英語クラスにおいて習熟度別クラス編成が行われた。平成22年度には、翌年度以降、工学部すべての学科に対して実施することが計画され、平成22年度末に社会情報学部及び工学部の全一年次生に対して、アチーブメントテストを実施した。このデータをもとに、平成23年度の4月には両学部の全新生に対して、プレイスメントテストを行い、習熟度別クラス編成を行った。平成25年度には、医学部（医学科・保健学科）の新生に対して、翌26年度には、教育学部の新生に対してもプレイスメントテストを実施した。また、平成28年度には、平成29年度以降に入学した教育学部2年生についても習熟度別クラス編成の実施が決定された。この結果、平成30年度には、医学部2年生（医学科・保健学科）を除く、すべての教養英語クラスにおいて、習熟度別クラス編成が実施された。

令和2年度も、例年同様、1年次生については1クラス40名以下の習熟度別クラスを全学部で編成し、履修者数を1クラス34名以下とした。令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、プレイスメントテストとして、オンラインで実施可能となったTOEIC-IPテストを用い、その結果をもとに英語111の習熟度編成を行った。

2.2.3 英語アチーブメントテスト

例年、アチーブメントテストは、年度末において1年生、医学部を除く2年生のすべての学生を対象に実施する。その結果は、後期英語授業の成績に一部算入することとなっている。

令和3年度は、アチーブメントテストとして、オンラインで受験可能なTOEIC-IPオンラインテストを、AI監督システムを利用して実施した。初めての、AI監督システムを利用したアチーブメントテストであったが、テスト配信側のシステムトラブルにより、一部の受験者が受験不可能となる事態となったものの、幸い、後日再受験を実施することにより、成績処理に大きな影響を及ぼすことは免れた。

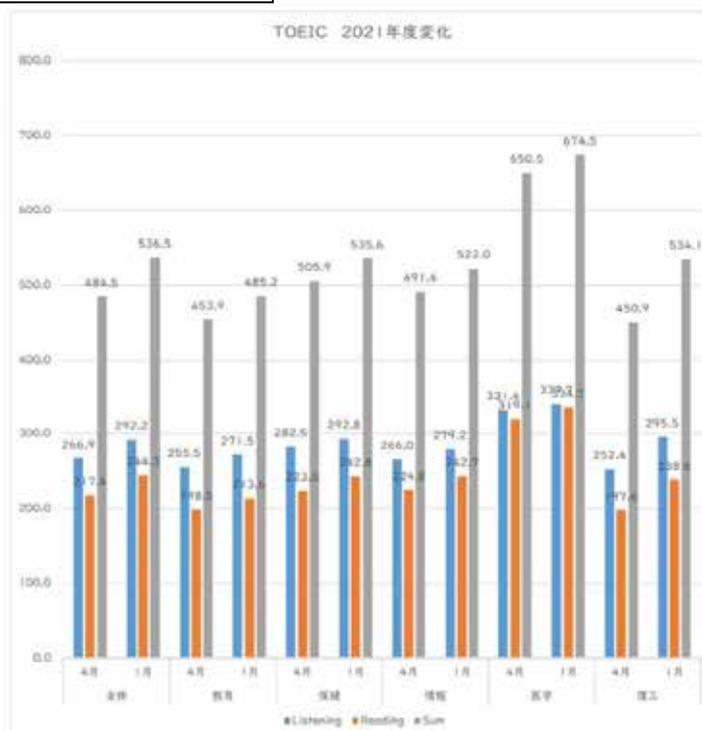
図1は、令和3年度入学生のプレイスメントテスト、アチーブメントテストの結果から、TOEIC-IPテストのスコア成績の変化を示している。この図の示す通り、入学時、全学平均が484.5であったものが、年度末には536.5にまでアップした。入学時を100とすると、まさに111%の伸び率となったことは、特筆に値する。学部別にみると、最も伸び率の大きかった学部は理工学部で、118%であった。これは、もちろん入学時の理工学部平均点が他学部より低かったため、伸び率が大きく出ていることもあるが、本学入学後における学生の英語学習への取組みと、指導に当たった教員の努力の成果であると言えよう。さらに、理工学部の学生の多くが大学院に進学し、また卒業後就職する企業においてもTOEICのスコアが求められるケースがほとんどであるという実態も、彼らの学習動機を高めていることも一つの理由として考えられる。さらに、後述するが、理工学部のみが1年次の英語科目履修単位が、他学部より2単位多い4単位となっていることも、背景にある。一方で、医学部は、入学時の平均点がもともと高いということと、入学後学生にとって、TOEICというテスト内容そのものが、彼らの学習目標と合致していないという点から、学習意欲につながっていないという理由もあり、成績の伸びはあまり観察されていない。これは、例年同様の結果となっている。

ここで、注目すべき点は、「学生の学習意欲、学習動機と的確に合致しているカリキュラムを策定する」ことが、「自律的学習者を育てる」ことにつながる、ということである。今後、教養教育としての英語科目、高年次教育と連携した英語科目のカリキュラムの在り方をしっかりと検討することが求められている。

第二外国語科目群も同様、これまでドイツ語及びフランス語の年度末共通テスト（アチーブメントテスト）を実施し、受講学生の学力向上の度合いを客観的に計測してきたが、令和3年度はコロナ禍により対面での試験ができなかったため、やむを得ず中止した。また、地域貢献活動の一環として例年行っている、両言語の技能検定試験も、コロナ禍により本学施

図1 令和3年度入学生 TOEIC IP 成績変化

		Listening	Reading	Sum	
全体	4月	266.9	217.4	484.5	111%
	1月	292.2	244.3	536.5	
教育	4月	255.5	198.5	453.9	107%
	1月	271.5	213.6	485.2	
保健	4月	282.5	223.5	505.9	106%
	1月	292.8	242.8	535.6	
情報	4月	266.0	224.8	491.4	106%
	1月	279.2	242.7	522.0	
医学	4月	331.4	319.1	650.5	104%
	1月	339.7	334.7	674.5	
理工	4月	252.4	197.6	450.9	118%
	1月	295.5	238.6	534.1	



設の学外組織への貸し出しが認められなかったため、令和2年度に引き続き本学での実施は見送らざるを得なかった。

2.2.4 Can-do Statementの実施

Can-do Statement（英語学習自己省察ツール）を開発し、令和2年度に試行的に運用した。令和3年度より全学部を導入し、1年生は、入学時、前期末、後期末の3回、2年生は、前期末と後期末の2回、教務システム上で実施することとした。

表1には、その内容を示しているが、この内容については、英語科目全体で定めた学習目標に従って、作成したものである。よって、単に言語をいかに効果的に習得するかという観点だけでなく、前半の9項目が「英語学習に対する姿勢、態度」に関する自己評価、後半の11項目が「英語力」に関する自己評価、合計20項目から構成されている。

令和2年度と3年度の結果から、本学の学生は、「英語学習に対する姿勢、態度」に関する自己評価は、概ね高く、「英語力」に関する自己評価は、低い傾向がある。

図2には、令和3年度入学生の、入学時におけるCan-do Statementの結果と、年度末2月における結果の変化を示している。入学時と年度末それぞれの20項目の平均を算出し、その差異を示している。概ね、全体では上昇していることから、自己評価としてもポジティブに変化していることがわかる。特に、保健学科と理工学部では、自己評価が大きく向上しており、前述したTOEIC-IPの結果とも相関性が観察される。このことは、教育的観点からも非常に良い傾向と捉えることができる。自己評価と客観的評価がともに向上することを経験することが、さらに学習者の学習意欲を高めることにつながるこの結果をきちんと学習者に伝え、学習者は行った学習および指導が、成功体験となって学習者にインプットされることまでを、きちんと行うことが必須である。

表2には、Can-do Statement令和3年度4月と2月の変化の特徴を示している。図2および表2の両方からもわかるように、伸びが大きく観察されたのは、後半の項目であり、つまり「英語力」に関する内容であった。このことは、TOEIC-IPテストのスコアの伸びにもポジティブに相関しており、英語力の向上が学生に実感されていたことを示す。このことから、本学が開始した新カリキュラムは、効果をもたらしていると評価できる。

表1 Can-do Statement

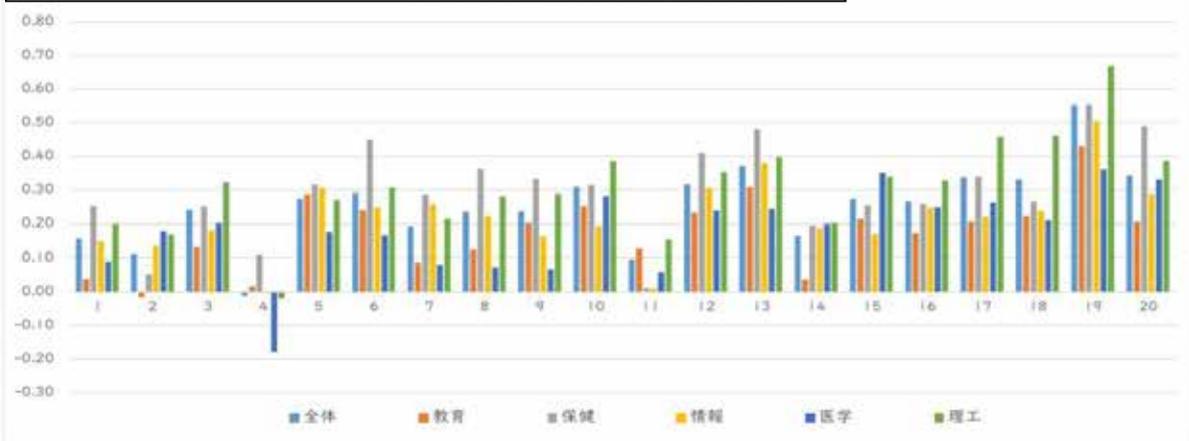
Learning Attitudes

- 1.I can participate actively in English lessons. 英語の授業へ積極的に参加できる。
 - 2.I can cooperate with my classmates using only English. 英語だけを使って、クラスメイトと協力できる。
 - 3.I can participate actively in English discussions. 英語で議論に積極的に参加できる。
 - 4.I can appreciate and accept the opinions of other people. 他者の意見を尊重し、受け入れることができる。
 - 5.I can understand and take responsibility for my roles in tasks and activities. 活動の中で、それぞれが果たすべき役割を理解し、自ら行動に移すことができる。
- Problem-Solving Skills
- 6.I can discuss and identify existing problems about a topic. あるテーマに関して話し合い、問題・課題を見つけることができる。
 - 7.I can work actively with others to make a plan for problem-solving tasks. 問題解決に向けての過程を他者と協働し、計画することができる。
 - 8.I can analyze data from a variety of (on-line and paper-based) sources. 様々な文献から得たデータを分析できる。
 - 9.I can make recommendations based on data. データに基づき、解決策を推奨できる。

English Skills

- 10.I can read English quickly and understand the content. 英語を素早く読み、内容を理解できる。
- 11.I can read approximately ... words per minute. 私は1分間に...語読むことができる。①100語以下 ②150語程度 ③200語程度 ④250語以上
- 12.I can take useful notes from written and spoken English resources. 英語で話されたり、書かれた内容から重要な情報を書き留めることができる。
- 13.I can organize my ideas well for a particular audience in written English. 英語で自分の考えを構成し、読み手を意識しながら書くことができる。
- 14.I can ask and answer questions in an English conversation. 英会話において質問をしたり答えたりできる。
- 15.I can discuss and explain life-related topics in English. 英語で自分の身近なことを議論したり説明したりできる。
- 16.I can answer questions in English and give additional information when appropriate. 状況に応じて情報を補足し、適切に英語で答えることができる。
- 17.I can share my ideas and give my opinion confidently in English. 自分の考えを共有し、英語で自信を持って意見を述べられる。
- 18.I can think critically and express my own opinions regarding social and cultural issues in English. 社会的・文化的な事柄に関して、英語で批判的かつ論理的に考え、英語で意見を述べることができる。
- 19.I can present a specific topic confidently in English (e.g., Poster, PowerPoint, Video). 英語であるテーマについて自信を持って発表できる。
- 20.I can listen, understand, and give my opinions about an English presentation. 他者の英語による発表を聞いて、内容を理解し、英語で意見を述べることができる。

図2 Can-do Statement 令和3年度4月と2月の変化



伸び率の平均

全体	0.25
教育	0.18
保健	0.30
情報	0.22
医学	0.18
理工	0.31

一方で、逆に自己評価が下がった、または伸びがあまり観察されなかった項目は、同じく表2に示した通り、前半の項目で「英語学習に対する姿勢、態度」に関するものであった。特に、医学部では、項目4「他者の意見を尊重し、受け入れることができる」において、大幅な下降が確認された。昨今、高校までの英語授業においても、PBL (Project-based Learnin) の手法が、アクティブラーニングの一つとして取り入れられており、多くの学生がすでに「協働活動」を経験しているのだが、本学のシラバスのように、学期、年間を通して、プロジェクトをグループ活動で協働して進めていくということの経験はなく、他者の意見を聞きながら、自らの意見と折り合いをつけて、一つの解決策を模索していく作業の中で、改めて「他者の意見を尊重し、自らの意見と融合させる」ことの難しさを感じたものと考えられる。

現代社会においては、ますますダイバーシティな環境が広がっており、日常生活や職場環境においても、様々なバックグラウンドや異なった意見を持つ人々が同じ目標、目的に向かっ

表2 Can-do Statement 令和3年度4月と2月の変化の特徴

伸び小

- 1.I can participate actively in English lessons. 英語の授業へ積極的に参加できる。
- 2.I can cooperate with my classmates using only English. 英語だけを使って、クラスメイトと協力できる。
- 4.I can appreciate and accept the opinions of other people. 他者の意見を尊重し、受け入れることができる。
- 7.I can work actively with others to make a plan for problem-solving tasks. 問題解決に向けての過程を他者と協働し、計画することができる。
- 11.I can read approximately ... words per minute. 私は1分間に...語読むことができる。①100語以下 ②150語程度 ③200語程度 ④250語以上
- 14.I can ask and answer questions in an English conversation. 英会話において質問をしたり答えたりできる。

伸び大

- 10.I can read English quickly and understand the content. 英語を素早く読み、内容を理解できる。
- 12.I can take useful notes from written and spoken English resources. 英語で話されたり、書かれた内容から重要な情報を書き留めることができる。
- 13.I can organize my ideas well for a particular audience in written English. 英語で自分の考えを構成し、読み手を意識しながら書くことができる。
- 17.I can share my ideas and give my opinion confidently in English. 自分の考えを共有し、英語で自信を持って意見を述べられる。
- 18.I can think critically and express my own opinions regarding social and cultural issues in English.
社会的・文化的な事柄に関して、英語で批判的かつ論理的に考え、英語で意見を述べるができる。
- 19.I can present a specific topic confidently in English (e.g., Poster, PowerPoint, Video).英語であるテーマについて自信を持って発表できる。
- 20.I can listen, understand, and give my opinions about an English presentation.他者の英語による発表を聞いて、内容を理解し、英語で意見を述べるができる。

て協働しなければならない。教養教育英語という範疇において、英語力のみならず、このようにわゆるジェネリックスキルを習得することも、重要な教養教育のミッションと考える。

2.2.5 英語101・英語102

外国語教育部会では、一昨年度から英語教育改善WGにおいて進めてきた全学の外国語教育改革に取り組み、令和3年度より、教養英語新カリキュラム（群馬大学教養英語コア・カリキュラム）を導入した。コア・カリキュラムでは、教養英語科目における共通目標を以下の通り掲げた。

- ①英語による主体的・協働的な学びを通して、文化・社会と自分のつながりを認識し、場面・状況を考慮したうえで、もっとも適切な形で、自分のアイデンティティを英語で表現（発信）できる力を養う。
- ②英語による主体的・協働的な学びを通して、身の回りの問題や変化に気付き、それについての考察を深め、解決策を発信する力を養う。

1年生における年次目標を以下の通り定め、この目標を達成するために、PBLを手法とした教材（Leap to the Future！1, 2）を、本学内で制作した。

1年次目標

- ①「話す」、「書く」活動を通して、自分自身や身のまわりの文化社会、及び他文化について、自らの考えを効果的に伝える意識を養う。
- ②十分な「読む」、「聴く」活動を通して、多様な文化を理解し、感受する力を磨く。
- ③他者が使う英語やそれらが反映された文化に触れ、その違いに気付き、自分が使う英語を含め、多様な英語（文化）を受け入れる態度を身に付ける。
- ④地域・国内社会及び国際社会における諸問題に関して、英語で物事を批判的かつ論理的に考える力を養う。
- ⑤問題解決のために他者と協働し、自らが果たすべき役割を理解することで、率先して課題に取り組む態度を身に付ける。



Leap to the Future ! 1, 2

さらに、表3に示すような「共通評価基準（ルーブリック）」を作成し、1年生全学部において、統一カリキュラム・シラバスによる授業での評価の公平性を担保することとした。

表3 英語101、102 ルーブリック

Evaluation item	Percentage	Evaluation method	S (Excellent)	A (Very good)	B (Good)	C (Fair)	D (Poor)
			Goals are fully achieved with excellent results	Goals have been achieved	Goals have almost been achieved	Minimum amount of goals has been achieved	Goals have not been achieved
Knowledge/Skill English Proficiency	20%	<ul style="list-style-type: none"> Paper test (ENG 101: 20%) TOEIC (ENG 102: 20%) 	Can communicate effectively using a wide range of vocabulary and the correct use of grammar in any situation.	Can understand vocabulary and grammar correctly and communicate in most situations.	Can meet the needs of everyday life and communicate with a basic knowledge of vocabulary and grammar, and a limited level of expressiveness within a limited range.	Can communicate at a minimum level within a normal conversation although there are times where knowledge of vocabulary and grammar are insufficient.	Cannot communicate well as it is only possible to understand some words – spoken and written.
Thinking/Judgment/Expression Problem-Solving Ability	50%	<ul style="list-style-type: none"> Report 25% Presentation 25% 	Can think more deeply about current issues through discussion and collaboration with others and can propose solutions and express them in the most appropriate way. Can think of new questions and share them with others.	Can think more deeply about current issues through discussion and collaboration with others and can propose solutions and share them with others in an appropriate way.	Can think deeply about current issues through discussion and collaboration with others and can propose more than one solution.	Can think about current issues through discussion and collaboration with others and can propose one solution.	Can think about current issues through discussion and collaboration with others but cannot come up with any solutions.
Attitude and Ability to Learn Autonomously	30%	<ul style="list-style-type: none"> ER 20% Final Reflection 10% 	Can set goals, manage oneself, and learn English actively. Can self-evaluate the achievement level of goals, set the next goal clearly, and take action immediately.	Can set goals, manage oneself, learn English. Can self-evaluate the achievement level of goals and set the next goal.	Can set goals, take a positive approach to learning English, and self-evaluate the achievement level of goals.	Can learn English toward a set goal and check the achievement level of the goal.	Cannot self-evaluate as learning English is approached without setting goals.

2.2.6 英語201・英語202

2年次では、共通目標を以下の通り定め、それぞれの学部によって作成されたシラバスに従って、授業が行われた。

2年次目標

- ①身近な環境、及びより広い国内外における多様性に気付き、そこで起きている出来事に関して自ら批判的に考え、確固たる意見を持ち、場面・状況に適した方法で発信することができる。
- ②他者と協働し、地域・国内社会及び国際社会における問題・課題を発見し、その解決策を考え、提案することができる。

表4には、理工学部英語201、202において、評価の公平性を保つために作成し、運用したルーブリックを示す。

表4 英語201、202 ルーブリック

Evaluation item	Percentage	(Possible) Evaluation method	S (Excellent)	A (Very good)	B (Good)	C (Fair)	D (Poor)
			Goals are fully achieved with excellent results	Goals have been achieved	Goals have almost been achieved	Minimum amount of goals has been achieved	Goals have not been achieved
Knowledge/Skill English Proficiency	20-50%	<ul style="list-style-type: none"> Unified test (TOEIC) Paper test 	<p>Can communicate effectively using a wide range of vocabulary and the correct use of grammar in any situation.</p> <p>Can fully understand and adequately express topics related to own and other areas of study.</p>	<p>Can understand vocabulary and grammar correctly and communicate in most situations.</p> <p>Can usually understand conversations, respond quickly, and deal with topics in specific fields.</p>	<p>Can meet the needs of everyday life and communicate with a basic knowledge of vocabulary and grammar, and a limited level of expressiveness within a limited range.</p> <p>Can understand the main points of an ordinary conversation, and there is no problem to respond.</p>	<p>Can communicate at a minimum level within a normal conversation although there are times where knowledge of vocabulary and grammar are insufficient.</p> <p>Can understand simple conversations and can respond to familiar topics if spoken slowly and simpler words are used.</p>	<p>Cannot communicate well as it is only possible to understand some words – spoken and written.</p> <p>Cannot understand the meaning of a simple conversation even if spoken slowly.</p>
Thinking/Judgment/Expression Problem-Solving Ability	30-50%	<ul style="list-style-type: none"> Written Report Presentation Group Discussion Production 	<p>Can think more deeply about current issues through discussion and collaboration with others and can propose solutions and express them in the most appropriate way.</p> <p>Can think of new questions and share them with others.</p>	<p>Can think more deeply about current issues through discussion and collaboration with others and can propose solutions and share them with others in an appropriate way.</p>	<p>Can think deeply about current issues through discussion and collaboration with others and can propose more than one solution.</p>	<p>Can think about current issues through discussion and collaboration with others and can propose one solution.</p>	<p>Can think about current issues through discussion and collaboration with others but cannot come up with any solutions.</p>
Attitude and Ability to Learn Autonomously	20-30%	<ul style="list-style-type: none"> ER ALC NEXT Reflection Class attitude (Contribution) 	<p>Can set goals, manage oneself, and learn English actively.</p> <p>Can self-evaluate the achievement level of goals, set the next goal clearly, and take action immediately.</p>	<p>Can set goals, manage oneself, learn English.</p> <p>Can self-evaluate the achievement level of goals and set the next goal.</p>	<p>Can set goals, take a positive approach to learning English, and self-evaluate the achievement level of goals.</p>	<p>Can learn English toward a set goal and check the achievement level of the goal.</p>	<p>Cannot self-evaluate as learning English is approached without setting goals.</p>

2.2.7 英語111・英語112

理工学部においては、学生の大学院進学率が高く、その進学の有無判定にはTOEICの得点を利用されている。また学部・大学院ともに、卒業・修了後ビジネス界に就職する率もとても高い学部・研究科であり、職に就いた後も英語力を要求されることは必至である。そこで外国語教育部会は、平成22年度に群馬大学の学生のおよそ半数を占める工学部（現、理工学部）学生の英語力を増強するために、大幅な英語カリキュラムの改善を検討した。その結果、平成23年度には教育基盤センター（現、大学教育センター）「外国語教育部会」がこれを実行に移した。おもな変更点は以下のとおりであるが、平成24年度以降もこの方策を継承し、さらに、1クラスの受講者数を削減するために、全体のクラス増を実現した。令和3年度現在、計20クラスを開講し、引き続き、1クラス30名以下の少人数クラスでの授業を実施している。

- 1) 週2回（90分×2回）の英語授業を履修する。
- 2) 前期2単位、後期2単位で、1年次に4単位を修得する。
- 3) 週2回のうち、1回は文法・読解力の養成、1回はコア・カリキュラムに沿って、全学統一の4技能育成を目的とした授業とする。

上記に示した、3) 文法・読解力養成の授業が本授業に相当する。

本学における全学の卒業要件となる英語の単位数は4単位であるが、英語力が低く且つ英語に苦手意識を持つ学習者群については、1年次に4単位を集中的に履修させることが望ましいと考え、週2回の授業で4単位を取得させるカリキュラムを運用している。

こうした改変の成果は、新カリキュラム導入から2年後の平成25年度末のアチーブメントテストの結果に明確に現れた。また、平成27年7月のTOEIC-IPテストの結果は前年度比の伸び率が高く、その原因としては、理工学部における統一カリキュラムの効果に加え、平成27年度より、理工学部の入試に英語試験が導入されたことに起因すると考えられる。さらに、入試科目の英語導入後においても、TOEIC-IPテスト結果は引き続き伸びている。平成27年度以降から令和元年度7月実施の平均点は、H27（433.25点）、H28（446.80点）、H29（457.60点）、H30（467.30点）、R1（462.5）と着実に継続して伸びている。令和2年度は、新型コロナ感染拡大のため試験そのものの実施を見送ったが、令和3年度末のTOEIC-IPテストでは

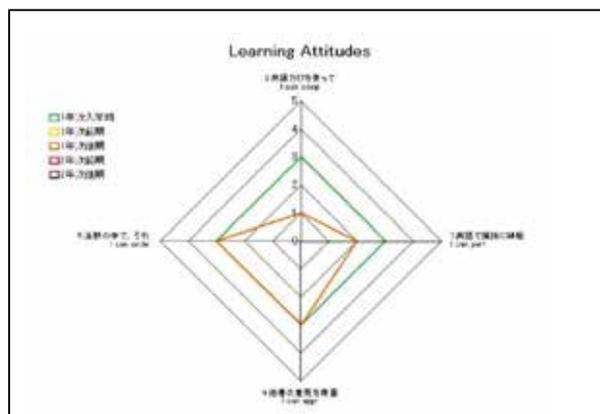
上述した通り、オンラインにて実施し、534.1点という平均スコアが出た。オンラインテストは、若干ペーパー版よりも点数が高く出る傾向にあると思われるものの、そのことを考慮しても、この高い平均スコアは特筆に値する。

2.2.8 ポートフォリオへの記入

令和3年度より、英語学習を管理するための英語ポートフォリオを導入した。このポートフォリオでは、以下の内容が随時保存されていくこととなり、学生本人や指導教員も学生の学習状況を観察することが可能となっている。

- ・ TOEIC-IPテストの結果
- ・ プレイメントテスト結果
- ・ 英語科目のリフレクション内容
- ・ Can-do Statementの結果

このポートフォリオの有効活用により、学生が自己の学習状況をモニターしながら自律的に学習するメタ認知力も高めることが期待される。右図には、Can-do Statementの一部の学年経過を示している。



このように、学生は自身の自己評価についても、どのように捉えていたかを確認することが可能となっており、新たな学習目標設定にも有効である。

2.2.9 理工学部推薦入試入学生英語課題テスト

令和3年度より、理工学部では、推薦入試入学生を対象として、入学前の課題、入学後の課題テストを実施した。

課題は、大学入試対策として頻繁に利用されている英語文法、語法、語彙に関する問題集を課題として与え、自習をしてもらい、入学後にその習得状況をテストで確認することとした。

新型コロナウイルス感染拡大のため、対面での課題テストとせず、オンラインで実施した。結果は、100点満点、156名受験で、全体平均が69点、物質・環境類が68点、電子・機械類が69点であった。類によつての差異はほとんどなく、分布も正規分布を示していた。50点以下の学生については、再試験を課し、習得を強化した。これは、一般入試入学者とともに授業内活動を行うにあたって、その活動に難しさが感じられないようにするための対策であった。今後、この課題および課題テストの有効性は、きちんと検討をしたい。

2.2.10 希望者受験用TOEIC-IP, TOEFL ITPテスト

TOEICならびにTOEFLについては、例年、全1年生を対象に全学オリエンテーションで説明を行っているが、令和2年度は、対面での説明会が開催できなかったこともあり、資料を配布することで対応をした。

群馬大学では、平成15年度からTOEIC-IPを継続的に実施しており、外国語教育部会が中心となって、多くの学生のTOEIC-IP受験を促している。実施は年2回（7月／1月）で、平成21年度からは、申し込み手続を群馬大学で直接行うことにより、受験料を低く抑えることが可能になった。なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、TOEIC-IP試験を中止とした。

海外留学を希望する学生にとってTOEFLの成績が要求されることが多いため、群馬大学では、平成20年度からTOEFL-ITPを荒牧キャンパスで年2回（6月もしくは7月と、12月もしくは1月）実施している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、

TOEFL-ITP試験を中止とした。令和3年度は、AI監督をつけての試験として、TOEIC、TOEFLともに再開した。受験者数および平均点は、以下の通りである。

	受験者	平均点
TOEFL (R 3. 7.13)	14名	485.4
TOEIC (R 3. 7.21)	78名	615.6
TOEIC (R 4. 1.27)	23名	555.0

2.2.11 ドイツ語技能検定試験・フランス語技能検定試験

群馬大学では、ドイツ語、フランス語担当教員の協力のもと、地域貢献活動の一環として、本学学生のみならず周辺地域の受験希望者も受験できるドイツ語技能検定とフランス語技能検定の公開試験を、荒牧キャンパスで継続的に実施しているが、前年度に引き続き令和3年度もコロナ禍により、本学施設の学外組織への貸し出し許可が下りなかったため、荒牧キャンパスでの実施は見送らざるを得なかった。その結果、ドイツ語技能検定試験（5級～1級）は、ドイツ語専任教員が所属する大学での実施が前提となることから、群馬県内での実施は前年度に引き続き全面的に中止となり（県内の大学でドイツ語専任教員を置いているのは本学のみである）、フランス語技能検定試験（5級～準1級）は春季試験、秋季試験ともに群馬県内の別の会場で実施した。ちなみに、実施日時と受験者数は以下のとおりである。

フランス語技能検定試験

- ・実地日時：春季試験：令和3年6月20日（5, 4, 3, 準2, 2級）
学内外の総申込者数：49名（複数級併願者含む）
- ・実地日時：秋季試験：令和3年11月21日（日）（5, 4, 3, 準2, 2, 準1級）
学内外の総申込者数：71名（複数級併願者含む）

2.2.12 ドイツ語・フランス語の共通アチーブメントテスト

現在7言語開講されている外国語教養科目は、特にドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語などの印欧語族の言語学習において、高等学校までの英文法の学習を補完し、当該言語のみならず既習の英語の構造をも、より論理的に整理して理解する貴重な機会ともなっている。このことは、英語以外の外国語学習が、英語や母語を含んだ総合的な言語能力を高め、学習者のコミュニケーション能力全体の向上に寄与することにもつながる。したがって教育内容の充実のためには、学習の達成度を客観的に把握することも重要である。

外国語教養科目のうち、専任教員が在籍しているドイツ語及びフランス語については、学習の進捗を測定するために平成21年度以来、共通のアチーブメントテストを実施しているが、前年度に引き続き令和3年度もコロナ禍により対面試験の実施が困難であったため、中止せざるを得なかった。

なお、平成21年度以来10年以上にわたって実施されてきた本試験には、ここ数年以下のような一定の傾向が続いている。

- * 4単位（120時間）を履修する学生の平均得点は、ドイツ語ではどの学部でも全国のドイツ語技能検定3級合格者の最低得点と概ね同等、フランス語ではフランス語技能検定4級合格者の平均点と概ね同等である。
- * 2単位履修者の平均得点は4単位履修者に比べて例年約20点低く、高得点者が少ないうえ、極端に得点が低い者が多い傾向が続いている。
- * クラスサイズが30名を超えると得点が下がり始める傾向がある。

教室では、学生の英語以外の外国語に対する興味や学習意欲は十分高いのに、学力・学習能力のみが年々少しずつ低下してゆく傾向が見られる。英語以外の外国語への興味・意欲を保ちながら、外国語の学習能力を高める指導の工夫、少人数授業の徹底、およびカリキュラ

ムの拡充が、今後の課題であろう。また、英語以外の外国語の履修者の方が未履修者よりも、TOEICなどの英語の得点がより大きく向上することを示すデータも徐々に集積されつつある。

2.2.13 総括

新型コロナ感染拡大によって、対面授業でコミュニケーション活動を主として行ってきた外国語教育は、当初大きな混乱をきたした。しかし、我々は、創意工夫を行う努力と学生の忍耐力と適応力のおかげで、どうにか教育効果、学習効果を維持することができた、と考えている。

今後、どのような教育環境が日常的になっていくのか、現段階では予想できないものの、この2年間で学び得た経験、知見は、必ずや今後の教育に生かされていくものであることだけは、明確に言える。私たちは、人間の力強さと前進しようとするたくましさを共有できたことを誇りに思い、令和3年度の報告としたい。

資料 1

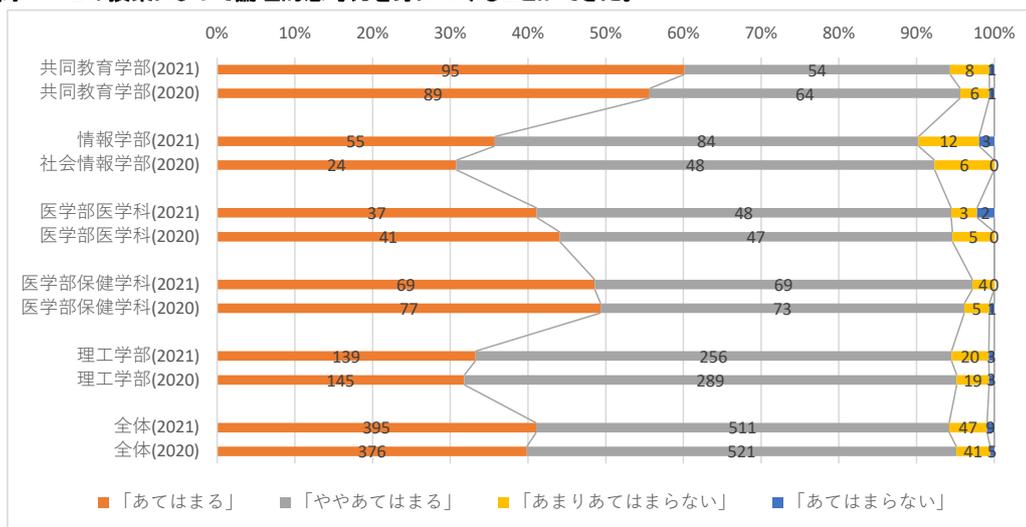
令和3年度 前期授業評価「学びのリテラシー（1）」集計表

区分	年度	対象者数	提出者数	回収率(%)
共同教育学部	2021	202	158	78.2
	2020	(203)	(160)	(78.8)
情報学部	2021	184	154	83.7
	2020	(102)	(78)	(76.5)
医学部 医学科	2021	108	90	83.3
	2020	(112)	(93)	(83.0)
医学部 保健学科	2021	161	142	88.2
	2020	(162)	(156)	(96.3)
理工学部	2021	494	418	84.6
	2020	(553)	(456)	(82.5)
合計	2021	1,149	962	83.7
	2020	(1,132)	(943)	(83.3)

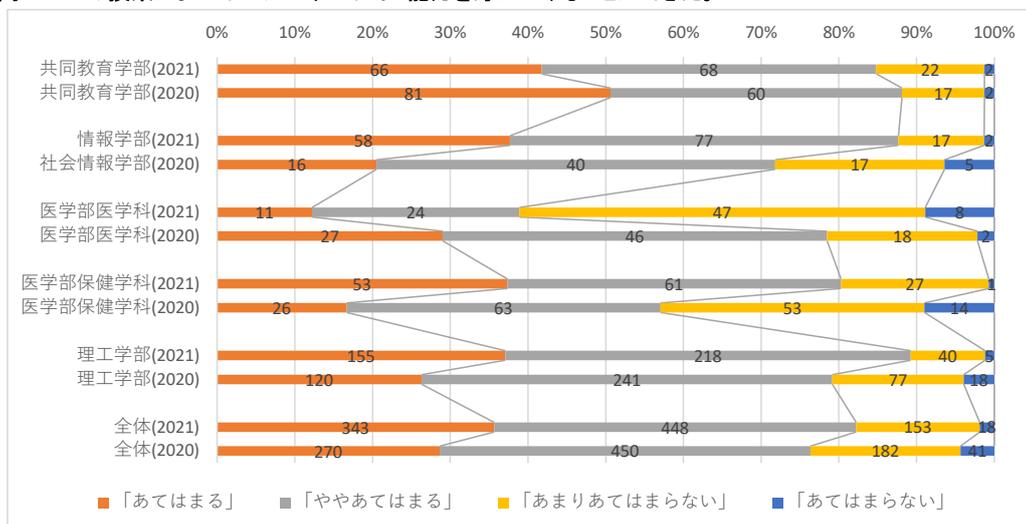
※ ()は昨年度の結果

※評価基準 1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」(以下 同様)

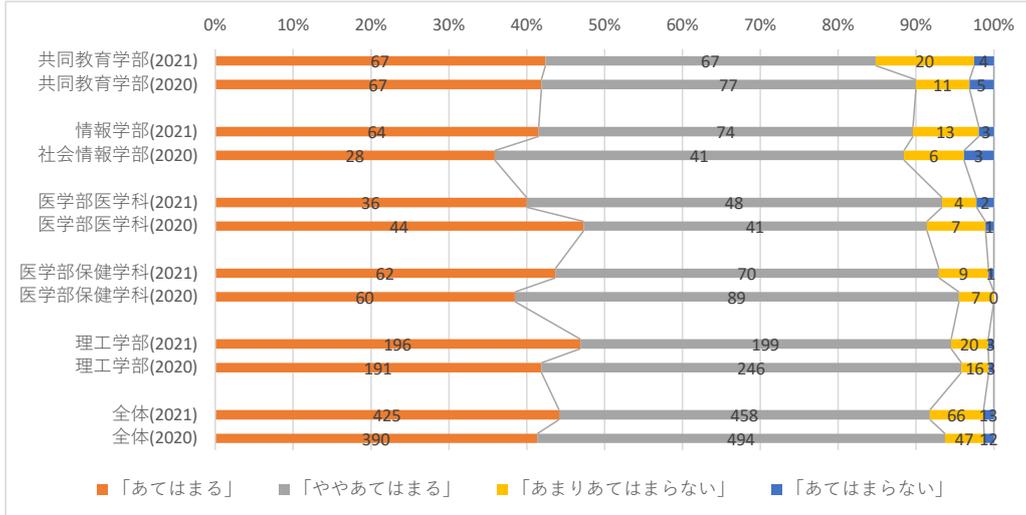
質問 1. この授業によって論理的思考力を身につけることができた。



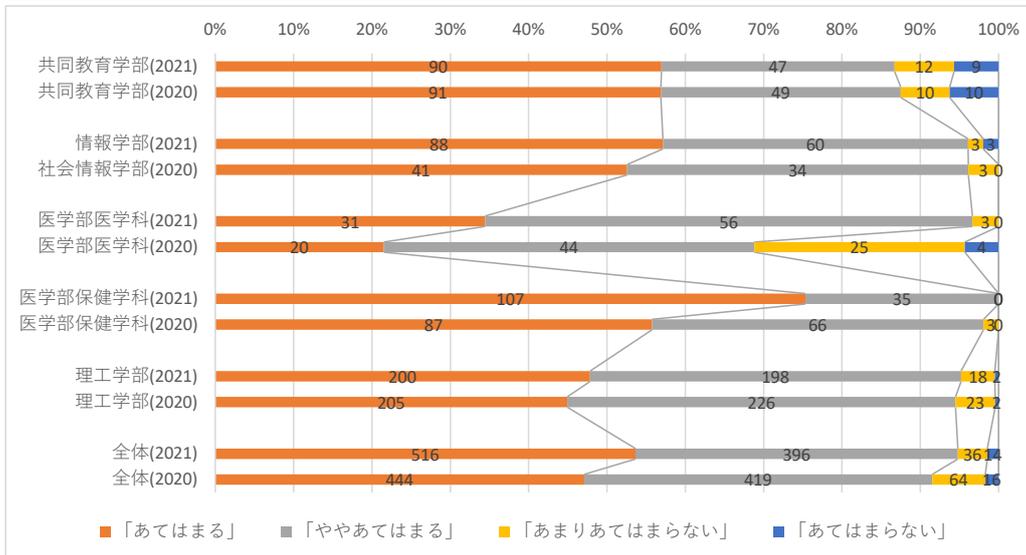
質問 2. この授業によってコミュニケーション能力を身につけることができた。



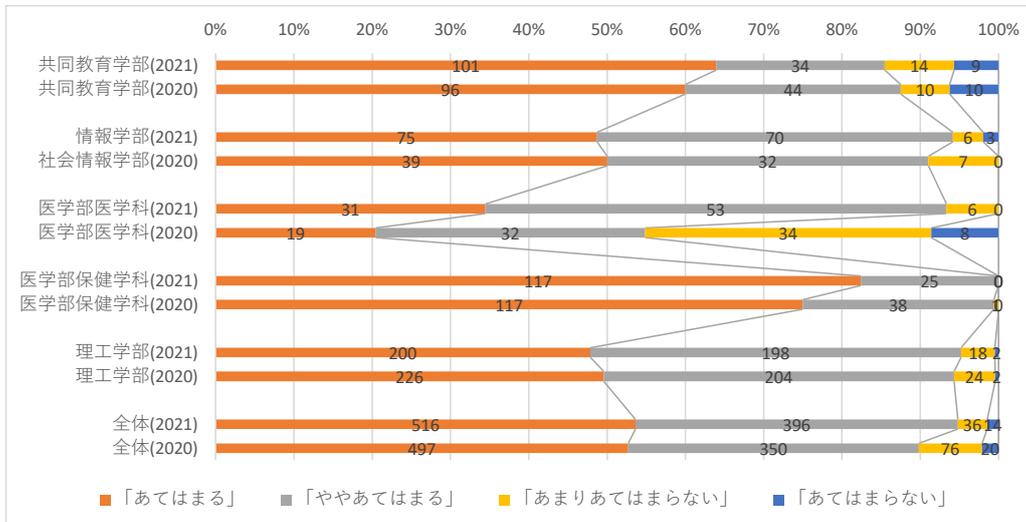
質問 3. この授業によって大学生に必要な日本語の能力を高めることができた。



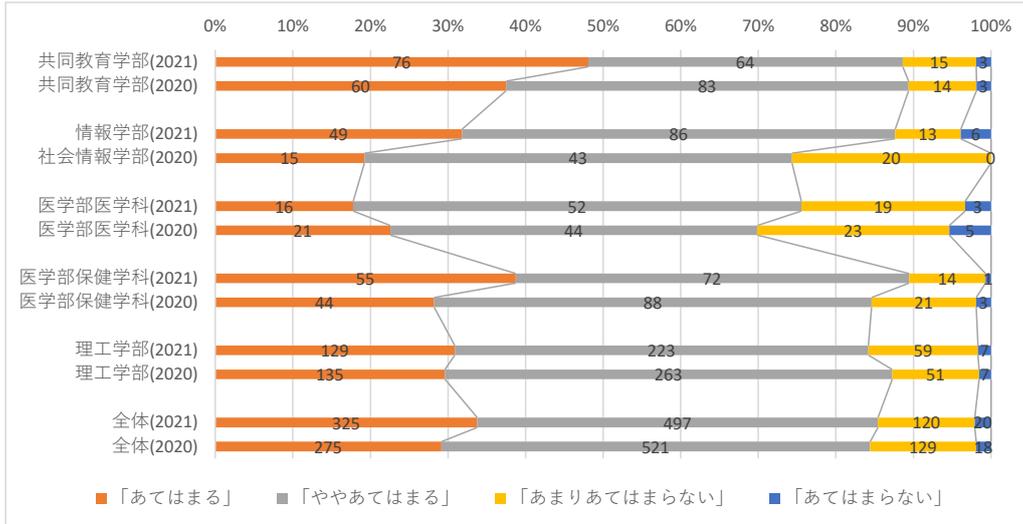
質問 4. この授業で報告の仕方やレポートの書き方が修得できた。



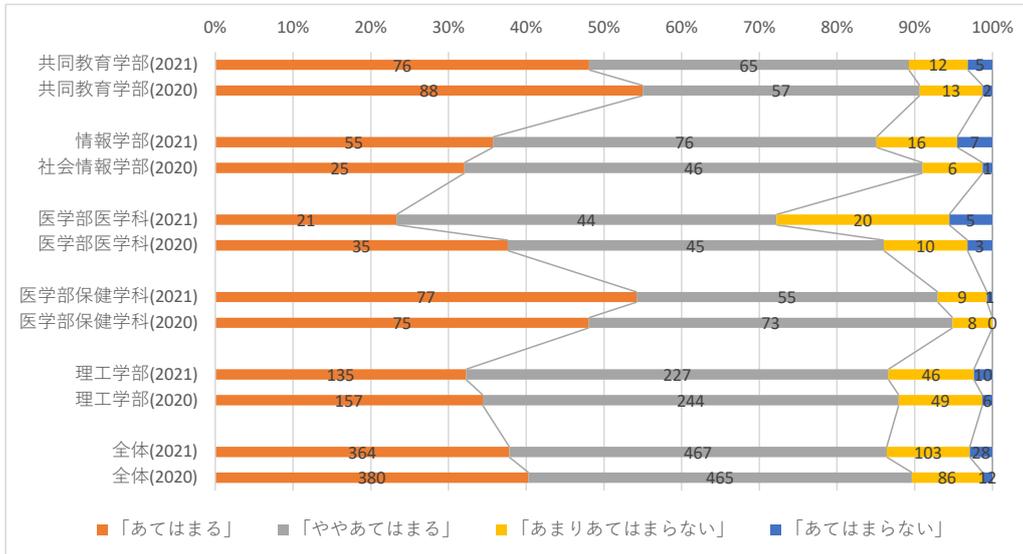
質問 5. この授業で情報収集や引用の方法について学ぶことができた。



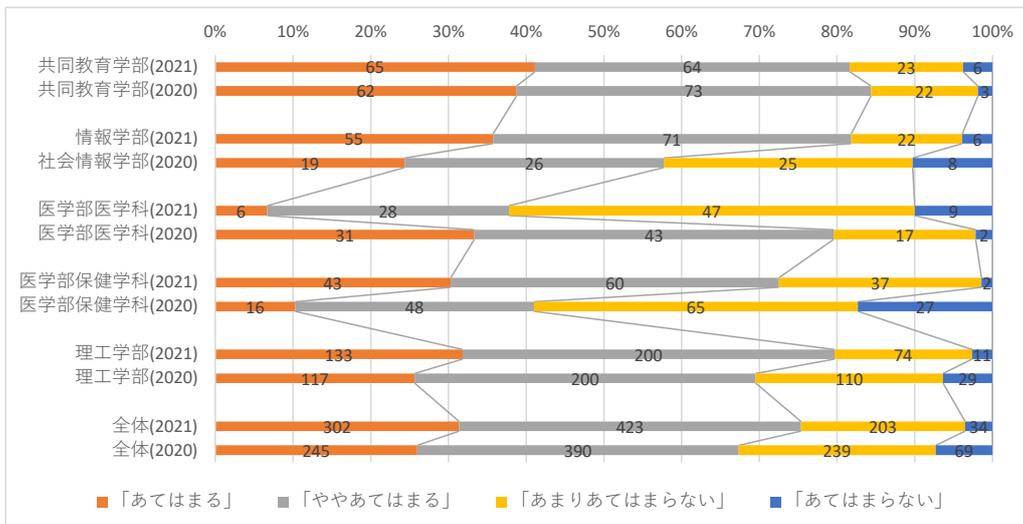
質問 6. この授業で大学での学習方法を修得できた。



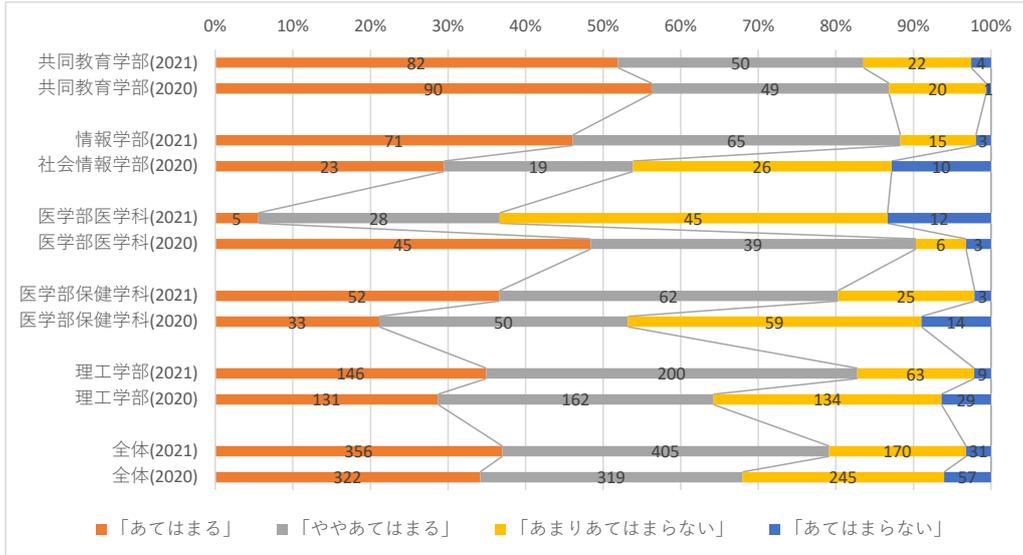
質問 7. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。



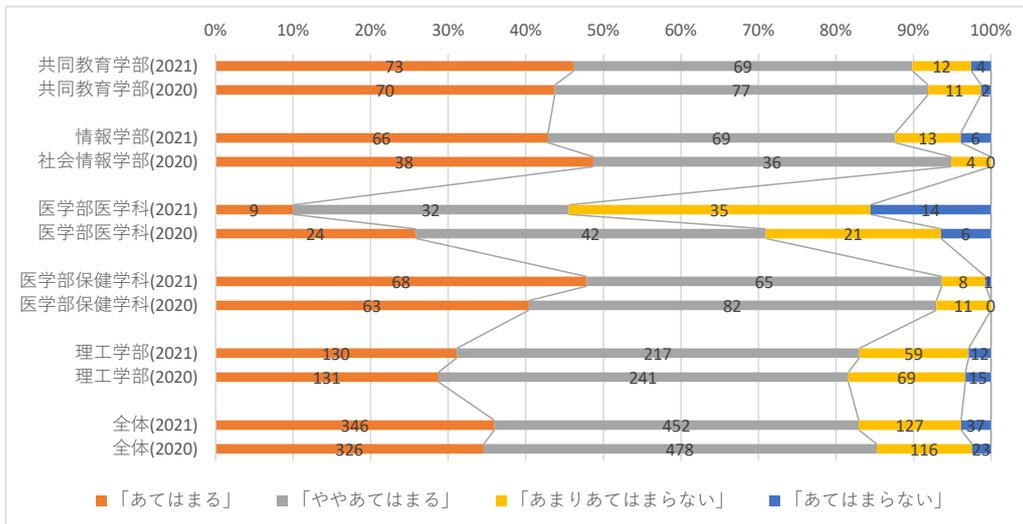
質問 8. 教室での討論は活発であった。



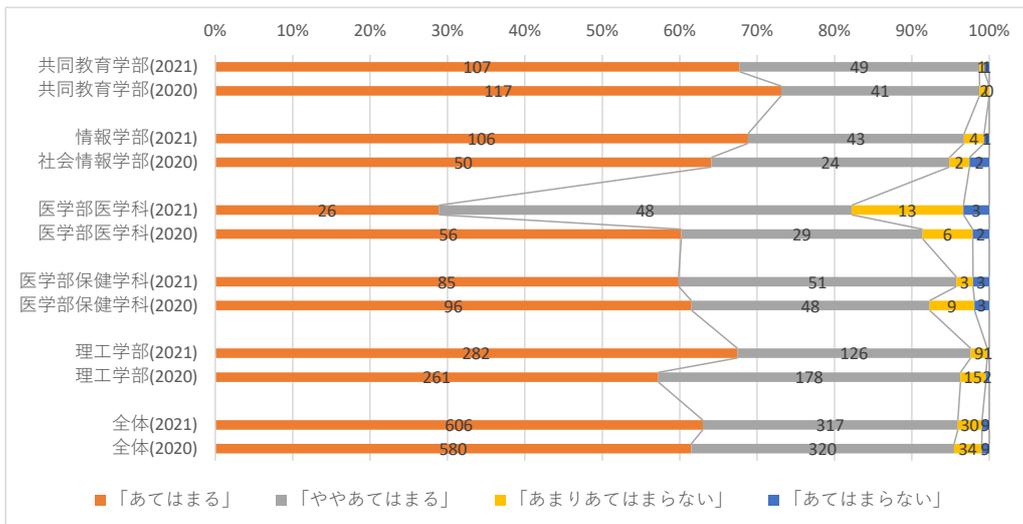
質問 9. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。



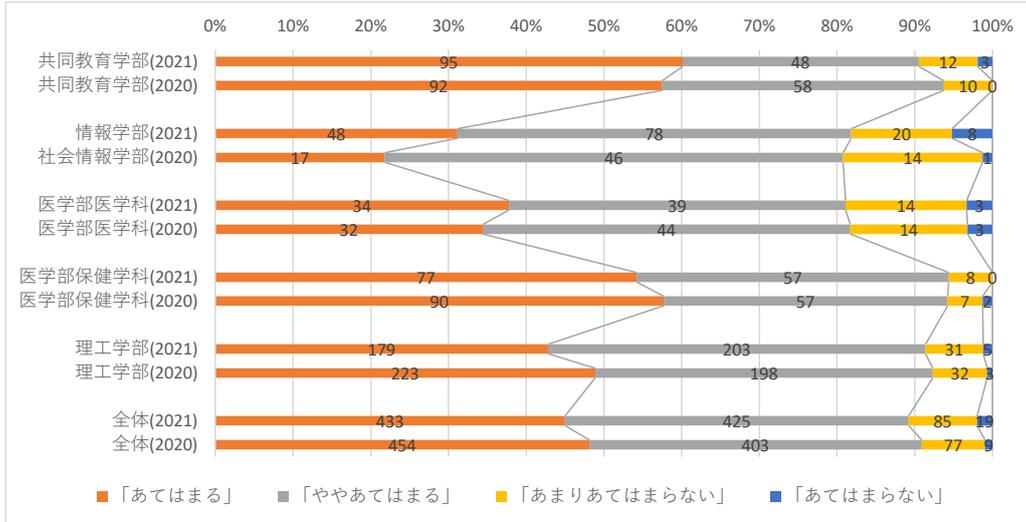
質問 10. 宿題(課題)の内容や量は適切であった。



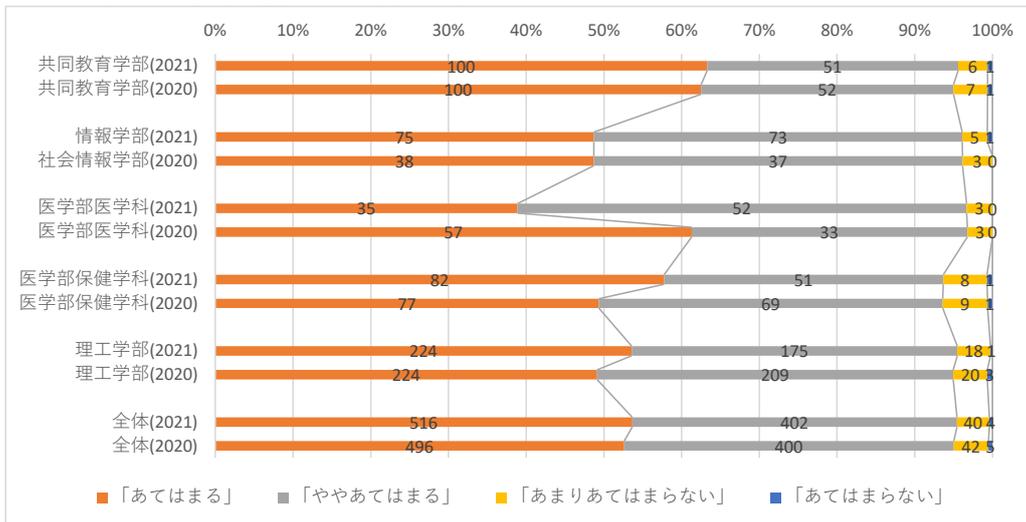
質問 11. グループワークの人数(グループワーク実施しなかった場合はクラスの数)は適切であった。



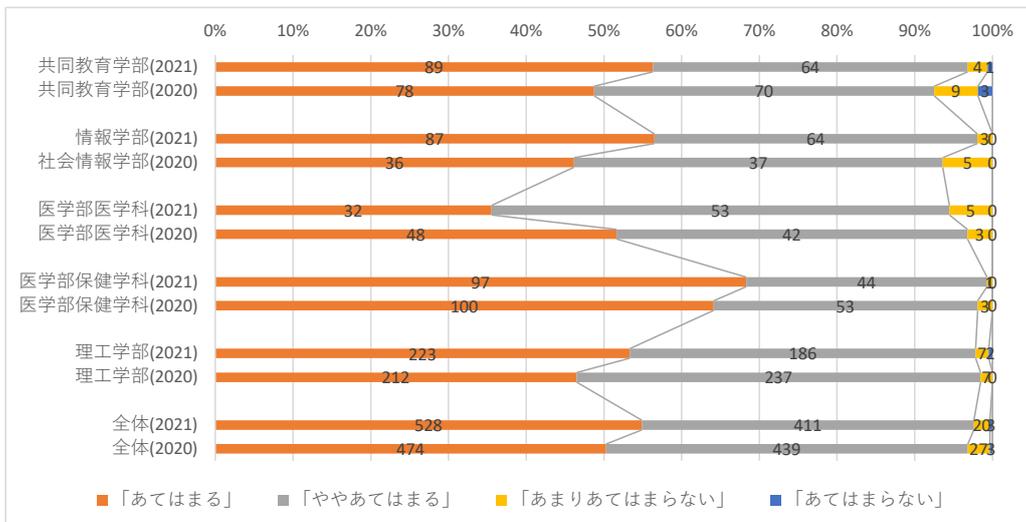
質問 12. 学部の専門教育を学ぶために必要な授業内容であった。



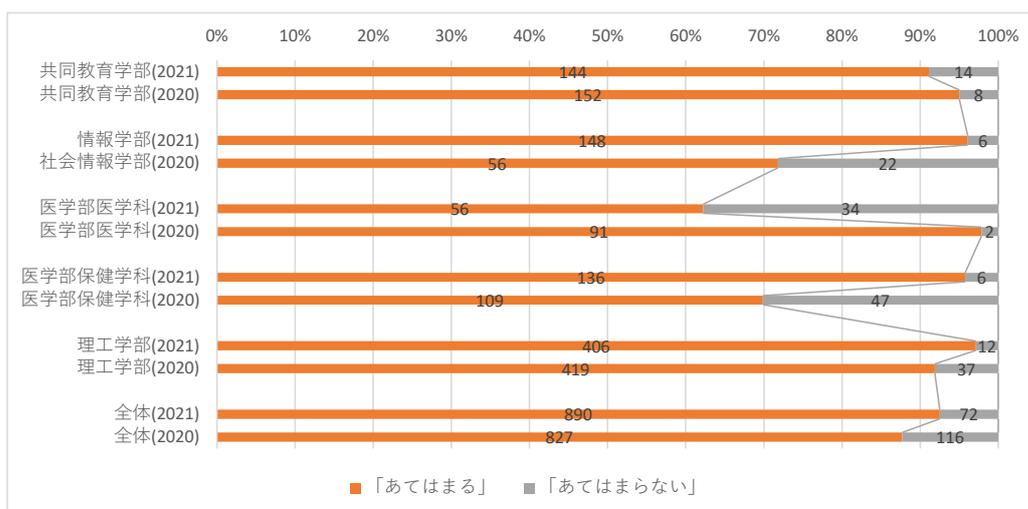
質問 13. 自分はこの授業に積極的に取り組んだ。



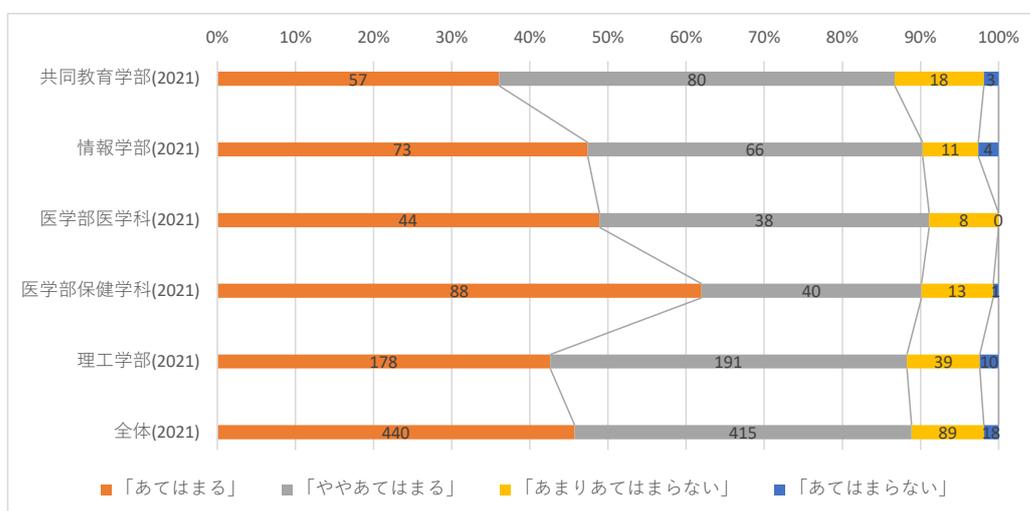
質問 14. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。



質問 15. この授業は教員による一方的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加(例えば、教室内のグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど)を取り入れた授業(アクティブ・ラーニング)であった。



質問 16. 教養教育科目全般に関して、オンラインを利用した授業に満足している。



学びのリテラシー(1)に関して、気付いた点、改善すべき点等を自由に書いてください。

質問1. この授業によって論理的思考力を身につけることができた。

一方的に情報を聞かされる授業が他授業と比べ多く感じられた。そのため授業に退屈してしまう場面が数回起こった。

会話を論理的に進めることができるようになった。

添削結果が知りたかった

授業内で学んだ論理的思考を課題で復習したり、その逆に授業内に課題の論理的思考を復習したりしたので身についた。

医療に携わっていくに当たり、客観的に理解を得られる文章は必ず必要となる。誰が読んでも、納得できる、感性に左右されない論理的文章を構築する能力を高めることができた。

日本語の理解というどうしても後回しにされがちな分野ではあるが、今回このような講義の形で学ぶことが出来、とても参考になる部分が数多く存在することがわかった。

文献を調べて読み込み、それを自分の意見の支えにするという構成を学ぶことができた。

あまり能動的であつと言えない。もっと、主体的に取り組めるような授業展開にほしい。

自分の意見だけを提示するよりも、意見に沿った文献を使って裏付けながら説明した方が論理的で、説得力が増すことを実感した。

アクティブに取り組めるような授業内容であり、満足です。ただ、もう少し、論理的に考えられる活動があるといいと思いました。

特に講義中盤のレポートの作成の仕方の部分では理論の組み立て方をしっかり理解することができました。

レポートに書くべき内容や、発表する際の話の順序等を学び、論理的に説明する方法について理解できた。

資料と授業がとても分かりやすかった。

講義だけでなく、レポートやプレゼンテーションを行うなどの実践的に学ぶことのできる授業があったため、倫理的思考力をより身に付けることができた。

発表やレポート作成において、根拠を明確に示すことの重要性を学ぶことができた。

論文にはグラフがたくさんあるため、そのグラフから何がわかるのかを考える必要があり、論理的思考力が培われたと感じる。

レポートや卒業論文に関わる知識を身につけることができるため、重要だと思いました

ややあてはまるとした理由は、以前から知っているような知識を授業で説明されたりしたからでした。しかし、知らない知識も身についたのでよかったです。

毎週の課題が出る中で論理的思考が学べた。

内容は少し難しいのですが、練習や課題でアウトプットし、よりよく学ぶことができました。

討論をするには時間が短かった。

アカデミックライティングを身につけることが出来、とても良かった。

自分の未熟さを痛感した。

題材が文学鑑賞だったため、論理的に考える機会は少なかった。文学を味わうということと論理的な思考の両方が中途半端だった様に感じた。

様々な講義を通して、研究倫理や文章の書き方等基礎を学ぶことができた。

自分の意見に根拠を付ける過程を学べたと思う。

新聞の読み方やノートの取り方など基本的には独学でしか学ばないようなことについて学ぶ機会があったのでよかったです。

文章の組み立てなどで学ぶことができたと思う。

文章の要約の仕方について学ぶ授業など、論理的な思考力を身につけるのに役立つものが多いと感じる。

質問2. この授業によってコミュニケーション能力を身につけることができた。

論理的文章の構成の演習の色合いが強く、コミュニケーションの要素はあまりなかった。

毎回同じグループで活動したため、グループのメンバーとは話す機会があるが他は関わりが全く無かった。

この授業は電子・機械類の全員が集まる数少ない授業です。そのため、授業中に失言などをすると同じ類の人全員にさらされてしまいます。物質・環境と少しごちゃまぜでお願いしたかったです。

対面授業であるため、周囲の人との会話が発生した。しかし、上記の理由から、コミュニケーションの機会はさほど多くは無かった。

グループの人とは話しかけられるようにはなった。

最初の自己紹介だけはあまりにも酷かった。設備の問題なので仕方ないことではある。

グループメンバーとよく会話が出来た。

オンラインだったので難しかった

あまり他の人と意見を交換する授業が多くなかった。後半の森先生の授業は講義型だったので、文章構成の重要な理論は数多く学べたがコミュニケーション力の向上はあまり感じられなかった。

グループワークの形式を通して、1つの目標に向けて協力することの大切さを、学べた。

初対面の人とも話せたのでよかった。

グループワークも行われたので、初対面の人とコミュニケーションをとる力は養われたと思う。
グループでの活動が少なく、話す機会があまりなかった。
どう表現すればいいのかわからないとき、周りの人がアドバイスをくれることが多く、一人でレポートを作り上げたわけではないので、コミュニケーションをうまく取れたと感じた。
アクティブに取り組めるような授業内容であり、満足です人と話す機会が多く、いろいろな人と出会うきっかけとなりました。
班員のみに限らず、話す機会が設けられていたのでありがたかったです。
もっと話し合う時間が欲しかった。
人前で発表する能力は大切だと思う。グループワークなどを通して複数人の同級生と討論できたことは良かった。
発表などもあって他の専攻の人の意見を聞くことが出来た。
班のみんなとたくさん話すことができた
グループがいつも固定なのは、男女比が偏ったグループにとってやりづらいものだったろうと思う。
グループワークがそこそこ設けられていたが、zoomでの話し合いが多く、互いにカメラオフにしていたためそんなに話が弾まなかったから。
グループワークはほとんどなかったが、発表の際に、質問の時間を使ってコミュニケーションをとれた。
他者と話し合いを行う機会や、ともに考える時間があつたため、よりコミュニケーション能力を身に付けることができた。
同じ専攻の友達と授業を通しての交流はあまりなかったように思うので、少し残念。
発表に慣れることができた。他の人の発表を聞くことで参考にしようと思える点もあった。
班の人と話し合う。というものがあつたが、ずっと同じ班の人と話している感じだったので、もっと多くのグループと話せばさらにコミュニケーション能力は身につくと思った。
班員とのグループ活動が多めにあり、良くコミュニケーションが取れた。
プレゼンを作り発表するまでの過程で友達と相談しあつたり、先生方に質問したりすることでコミュニケーション能力を身につけることができたと感じた。
グループで同じになった人と多くの意見交換を行うことができた。
プレゼン能力の向上につながった。
自分の考えをどのように相手に伝えるかの練習が主な活動でしたが、発表や意見交換を通して多くの人と関わり合えた。そのため、コミュニケーション能力は少し伸びたと感じる。
この授業がコミュニケーションを最も取りやすい授業だった。
プレゼンの発表では周りの人がたくさん意見を言うので、私も積極的に意見を出せた。(質疑応答の時) こういった雰囲気生まれて素晴らしかった。
対面だと席が遠くて話が聞き取りにくかった。
質問をする練習も行うことが出来た。
相手に伝わるようにゆっくりと話すようになった。
人とコミュニケーションをとる機会があまりなかった。
授業で取り組んだのは、文章を書く作業なので、反論やそれに対する答えを想定することはあっても、コミュニケーション力アップに繋がるようなことは扱いませんでした。
ブレイクアウトルームの時間でコミュニケーション能力を身に付けることが出来た。
クラスメイトとの話し合いが多く、仲を深めることが出来た。
学籍番号順で、5人という丁度よい人数だったので、グループワークがやりやすかったです。
オンラインになってしまうこともあり、難しい場面があつた。
相手に伝えるにはどうしたらよいか考えることが多かつたように感じる。
コロナ禍ということもあり、あまり周囲の人と会話をするのができなかつたのが少し残念でした。
グループ活動が多かつたので話をすることはできましたがzoomと直面で話す人が分かれてしまいスムーズな活動が難しく感じました。
グループはたまに入れ替えるなどをして、多くの人と交流したかつたと感じる。
演習時に話し合う機会が多かつたのでコミュニケーション能力がついた。
コミュニケーションはあまりとらなかつた気がする。
話し合いをする時間があつたのでよかつた。
オンラインが多かつた。
グループに分かれての授業もありコミュニケーションを深めることができました。
グループワークを通じて身につけることができた。
コロナ禍でも対面での実施をなんとかしてくださったおかげで、友達が新たにできました。多くの方に当てはまると思いません。
授業ごとにブレイクアウトルームを利用したグループワークをした際や授業時間外に学生同士でzoom会議を開く課題に取り組んだ時などにコミュニケーション能力を向上させることが出来たと思う。

質問3. この授業によって大学生に必要な日本語能力を高めることができた。

文章の書き方などはじめからもう一度詳しく学ぶことができた。

授業内容は参考になるものであった。

まだ高めることはあまりできていないが、知識は付いたと思うので、これから高まっていくと思う。

言語を深めることができた

討論など自分の意見を述べる際に必要な力がついた。医師になり患者にわかりやすく伝えるのに役に立つだろう。

要約力・読解力をつけることが出来た。

日本語のルールや、敬語、謙譲語などの社会に出るにあたって必要になる力がついた。

手紙やメールでの日本語の正しい使い方を学ぶことができた。

正しい日本語の使い方や、高尚な分作成のために役立つ授業でした。意識して日々日本語を使っているわけではないので、大変なためになりました。

メールの書き方の部分で、失礼のない話し方を学習することができました。

正しい言葉遣いなどを学ぶことができた。

パワーポイントなどを使って自分の意見をまとめる事が出来た。

敬語など忘れていた知識を思い出させてくれたため。

高校まででは習ってこなかった内容を学ぶことができた。

普段の講義だけでなく、レポートの作成や、文献を読むことを通じて日本語の能力をより得ることができた。

発表者の日本語の使い方から刺激をうけた。

どのように発表するのか考えるときに身についたと思います。

言葉遣いに関しては、もう少し詳しい内容をやってみたいと思いました。

前期の期間中に、実際に企業にメールを送る機会がありました。授業で学んだ軽症の使い方や、メールの送り方を思い出しながら送ることができました。

専門的な知識はほぼないので、そういったものをしれたのはよかった。

他の人に自分のレポートを説明することができ、良い学びになった。

ほかの人の発表や意見などを聞くと、私の知らない単語やすぐわかりやすい説明をしていて、まだまだ日本語の能力が足りないと感じました。

プレゼンをする時やワードでレポートを作成する時に、どのような言葉で説明するべきか、正しい日本語が使えているかなどを自分で確認しながら授業の内容に取り組んだため、日本語の能力が以前より高まったと感じた。

日本語の練習はしませんでした。作ったレポートを添削していただいたり、レポートを書く作業により、ある程度身についたのかと思った。

「心」の独特な漢字の読み方を間違っていたら、その都度教えてくださったので、勉強になりました。

文章をどのように書けば相手に伝わるのか等学べた。

語尾をそろえたり言い回しが重複しないよう気を付けるようになった。

敬語の使い方など社会に出てから必要となることを教わることができた

自分で文章をつくったりあるいはほかの人の文章を見る機会があり、とても勉強になりました。

既に知っていて実践していたことがほとんどだった。

手紙の書き方など、大学生が社会に出たときに必要な日本語を学ぶことにより日本語の能力を高めることができたと思う。

質問4. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。

物理基礎実験が始まる前に習得したかった。

非常に参考になった。特に手紙の書き方、敬称の使い方についての講義は多くの学びを得れた。

私のレポートを添削してもらうことで正しいレポートの書き方を身につけた。

詳しく学ぶことができた

わかりやすい講義のおかげで身についた。

レポートの書き方についてはもう少し深くやってもいいのではないかと思った。

レポートでの注意点について確認することができた。

引用文献の書き方や、医中誌ウェブなど、論理的で説得力のあるレポートを書くための材料をたくさん知ることができた。

レポートの書き方に特化した授業だと感じました。これを、前期の基礎物理実験や、後期の化学の実験に活用できると多い馬す。

レポートの書き方の説明に基礎科学実験と被る部分がありましたが、私としては内容の再確認ができてとてもありがたかったです。

大学生としてのレポートの書き方は、この授業で教わらなければ知らないことなので、教わることができてよかった。

レポートの書き方の講義であまり、声が聴こえなかった

レポートを書くときの言葉遣いなどを入学後すぐに学ぶことができ、日頃の課題等に非常に役立った。

要約の仕方などをまとめることが出来た。

この講義のおかげで感想文とレポートの違いを理解できた。

おおまかな概要はわかったが、細かいところが分からないから。
特にプレゼンテーションの仕方やパワーポイントの作成方法に関してはとても役に立つ情報ばかりでした。
この授業では、レポート作成とプレゼンテーションの発表を行う機会があった。授業では先生が書き方、発表のポイントを詳しく指導して下さったため、良い学習ができました。
いい勉強になりました。
レポートの構成の書き方や書く内容、参考文献の扱いなどを知ることができた。
レポートの書き方はかなり身に付けることができました。
高校や中学とは違うような書き方も知ったのでよかったです。
レポートについて様々な条件がある中、実際に自分で実験をして、レポートを作成することができた。
今までレポートを書いたことは何回もあったが、文献の書き方やレポートの構成について曖昧な部分が多々あったため、この授業で詳しく知ることができた。
報告やレポート作成について、いろいろな先生方の意見を聞いたことが大きかったです。繰り返し説明して下さったおかげでそれを意識し、習得できました。
今までのレポートでたくさん間違っているところを発見できる良い機会でした。
個人的に配布資料の存在がすごく良かった。
他の授業でレポートを書く際に、この授業で学んだ事がとても参考になった。
パラグラフライティングのやり方は、本当にためになりました。
先輩の例をいくつか見せてもらうことができたので、参考になりました。
毎週レポート課題が課されたため、あてはまると感じた。
引用文献の書き方は非常に参考になったと思う。
今まで実験レポートや、先生への手紙を書いたことがなかったので、書き方を学ぶことでできて良かったです。
レポートの書き方はもう少し早く学びたかった。
他の教科のレポートで役に立ちました。
レポートの書き方については大学で初めて学ぶもので、とても参考になりました。
重要な点をまとめたものと、なぜそうなるのか、理由を簡潔に説明されていて、真似するだけでなく自分で考えて書くことができるのではないかと考えた。
本授業で学んだメールの書き方やレポートの書き方は他の授業でも生かすことができ、ためになった。

質問5. この授業で情報収集や引用の方法について学ぶことができた。

情報収集の説明の講義があったが、あまりに情報量が多すぎて、実践に移しづらい。
レポートに、参考文献を記す際の書式についても学びたかった。
情報収集を行うことはなかったが、複数の資料を引用することはあった。
あまり理解できない面も多かった
引用方法は自分で調べたり、他の授業で教わったりしたので新たな知識を得ることはあまりなかったが良い復習になった。
引用方法やしてはいけないことについて理解することが出来た。
参考文献を探す必要のある課題もあり、良い練習となりました。これを知っているということは今後の研究人生の中で大変重要だと感じました。
引用の書き方について詳しく知りたかった。
引用元をしっかりと書くこと、引用する文献をレポート内に番号を振って載せるなどを学習できました。
以前は引用した際に記載する必要があることを知らなかった。早い段階で引用方法について学べて良かった。今後のレポートや研究発表などに活かしたい。
図書館の使い方、引用の仕方について知ることが出来た。
メディアセンターの利用方法を知ることができた。
引用の記載方法は何度も指摘して下さったおかげで、正しいものが書けるようになりました。CiNiiの調べ方も教えて下さり、他の授業でも使うことができました。
授業で詳しく教えて下さり、その後の実践だったため、良く学べた。
事前の講義で今まで知らなかった情報収集の方法を知ることができました。
学術雑誌や電子ジャーナルの利用方法について学ぶことができました。
医中誌ウェブの使い方にまだあまり自信がありません。
間違った情報を収集しないようにしたいです。
インターネットには正しい情報と誤った情報が混在しているため、利用する側はしっかりと知識を持って引用していく必要がある。
今まではインターネットで調べ、その情報が正しいかを吟味しながら引用する必要があったが、医中誌Webなどから引用する方法を学習したことにより自分のレポートがより論理的なものになったと感じた。
ネットでの検索方法から、コロナの影響で図書室は行けませんが図書室での借り方まで教えていただきました。実践しながらじゃないのでなかなか難しかったですが、真摯に質問に答えて下さったので良かったです。
引用文献の書き方や引用の方法がとても勉強になった。

括弧やカギ括弧などの使い方の違いを知ることができました。
参考文献等を用いる場面があり、学べたと思う。
文献自体の信用度や種類を学べた。
情報収集については、実際に自分で調べてみる宿題などもあり、実践的に学ぶことができました。
情報収集についての説明が足りない
科学者における倫理を学び、そこから引用などの方法を学ぶことができ、覚えるだけでなく学習することができたと感じる。
引用、参考文献の書き方をしっかり学ぶことができた。

質問6. この授業で大学での学習方法を修得できた。

大学がどのようなものか体感できた。
そういったことをテーマにした回があってよかった
学習方法の観点からはあまり向上を感じなかった。
高校までとは違い、自分で考え行動する必要があるということが理解できた。
学習方法はより具体的に学び、習得したかったです。
この授業を履修しながら自分で効率的な学習方法について考えることができました。試行錯誤して、学習に取り組みました。
講義への取り組み方、あまり休まない方が良いということを教えていただきました。
学習方法についてはあまり学ぶ機会が無かったように思う。
zoomでの授業方法がまだあまり確立していないから。
資料の集め方を学ぶことができ、大学の学習に非常に役立つものだと思います。
自分が聞き逃していたのかもしれないが、テスト前となった今、高校と同じような勉強法をしている自分がいるから。
スライドを使った説明はわかりやすいものだった。
できたと思いますが、本当に学んだことが活かしているか不安です。
数少ない対面授業であったため貴重な時間であった。
この授業で得た知識を生かしていきたい。
情報学部である意義を全く感じなかった。
ノートの取り方など高校とは勝手が違うところを学べ良かったです。
設問自体が曖昧に感じる。
この授業で高評価を取ることに必要なレポートの書き方は分かったが、他の授業とは似ても似つかぬ基準が多々あり、全体として参考になったとは言い難い

質問7. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

医系の国語表現との連携を確認したい。
興味に関して配慮されていないと感じた。
難しすぎる
添削結果が知りたかった
どの先生も丁寧に教えてくれて助かった。私は特に、わかりやすく相手に伝えることが苦手なのでこの授業で学べて今後のためになると強く感じた。
わかりづらい部分の講義動画をアップロードしてくださったのは、本当に助かった。
基本的なところから教えてもらったので理解が追いつきやすくてよかった。
あまりあてはまりません。大変当てはまるので特に私から言うことはないと思います。特にないので、素晴らしいことだと思います。以上です。ありがとうございます。
三人の先生に講義を行っていただきましたが、どの先生も学生側の配慮をしてくださっていて、大変ありがたかったです。
レポートの書き方や敬語に関する知識などが不十分な学生も多いと思うので、授業があってよかった。
スライドなどを利用した分かりやすい説明だった。
先生方がわかりやすく教えてくれたため。
非常に興味のある内容であり、その上先生が興味を引く授業を行ってくれたため、良い学習ができた。
実際に自分で実験して、レポートを作成したため、これから必要になる知識を学ぶことができた。
一方的な説明ではなく、問いかけるような説明もあり、自然と積極的に活動できました。毎回質疑応答を取ってくださったので良かったです。
文章を読む際や課題が割りあてられた際に、わかる人とわからない人ができてしまい、その説明にブレイクアウトルームの時間が割かれることがよくあった
型にはまっているものであったため、あまり感じなかった。
教師側の独断と偏見、興味関心に沿った授業内容

質問8. 講義での討論は活発であった。

会話の際は皆が元気になっていた。

オンラインだったので難しかった

前半はグループ討論が多かったが、私の班ではあまり積極的な意見交換がなされていないと感じた。また後半の授業では先生が指名して発表する講義型であったので討論の活発化は感じなかった。

発言や討論が必要とされる場面が少なかった。

コロナの影響で満足に討論を行えなかった。

どうしても講義に積極的に参加する人とそうでない人に分かれてしまっていた。

グループによると思う。私のグループはあまり話す人がいなかった。

グループ内で討論する活動もあり、自分で文章を論理的に組み立て、発言をするよい練習になりました。討論する良い機会となりました。

これに関しては私自身が積極的に議論を進めることができたと思います。

活発なグループとそうでないグループがあった。

この講義では複数回グループワークが実施され、いずれも活発なものであった。

グループワークは良い経験になった。

レポート後のほかの学生からのフィードバックは、自分のレポートがどのように見られているのか客観的に見ることができました。

アットホームな雰囲気、積極的に討論が行えた。

班員の人と課題について活発な討論が行われた。

学生・先生間の話し合いは活発でした。発表のときは、学生と学生間の話し合いも活発でした。

授業形式が討論ではありませんでしたが、先生に意見を求められた際に、皆が積極的に発言していたので、他者の考えを知るという意味ではよかったです。

担当教員はその機会を設けようとしていたが、学生の題材に対する関心の差が大きかったため、議論と呼べる程度のもはなかった。

討論はあまり行われず、個人で行う方が多かった。

zoomではリーダーのような人が現れてその人が主導になって話し合いを進めていたので意見を出し合うことはあったものの活発とまでは感じませんでした。

グループワークがあり話し合いを行えました。

コロナにより討論は控えて授業が行われた。

講義での討論を先生は嫌う傾向があり、生徒の発言に対して飛ぶ鳥を落とすかの如く否定をする。討論をさせる気がさらさらない

質問9. 教員や他の学生とコミュニケーションをとる機会が多かった。

課題のフィードバックや一部学生の意見発表に留まり、コミュニケーション活動は乏しかった。

教員とはほぼなし。学生とは対面授業であるため発生はした。

教員の方と話をしたことはなかったです。

教員とコミュニケーションを取る機会はあまりなかった。

オンラインだったので難しかった

授業内以外で友人と討論することができたので良かった。難しいお題を出題されたときに友人間で話し合いや討論が発生しやすと感じた。

基本的に講義を聴くのが主で、自分が声を発することはなかった。

コロナの影響で少し難しい所もあった。

グループワークで学生とコミュニケーションをとれた。教員とのコミュニケーションは難しかった。

教員はない

学生とは話したが、教員の方とはほとんど話していない。

あまり先生とのコミュニケーションをとる機会がなかったのが問題だと感じました。先生は大人数の生徒に対して一人のみであるので少し物足りなく感じました。

教員とはコミュニケーションをとっていない。

特に学生同士でコミュニケーションをとる機会が多く、ありがたいと感じています。

オンラインの時にはコミュニケーションがとりづらかった。

全く他の人とコミュニケーションをとらない授業の時は対面でもよいと思った。

前述にもあるが、グループワークが実施されたためコミュニケーションを取る機会は複数回設けられていた。

他の専攻の人と関わる事が出来た。

新型コロナウイルスの影響ではばなかったと言っていると思う。

教員からのレポートに対するコメントなどがあったのは嬉しかったが、友達同士で情報共有しながら進められればより良かったと思う。

課題を通して、自分が分からないことや解決に向けてのコミュニケーションが多く取れた。

質疑応答の時間や課題提出が多く設けられていたため、当てはまると思いました。

コロナの影響でオンライン授業が少なくなりましたのでコミュニケーションの機会は減少したと思う。

学生同士は2・3回に1回程度あったが、教員とは皆無であった。

同グループの学生とコミュニケーションを取るとは多々ありましたが、教員やその他の学生とコミュニケーションを取る機会はほとんどありませんでした。

グループワークでコミュニケーションをとることができました。

コロナ禍だったため、学生とのコミュニケーションは少しできたが、教員とのコミュニケーションを取るのには難しかった。

会話はあるがコミュニケーションはない。教師側が生徒側の発言を一方向的に否定する場面がしばしば見受けられる。

レポートを添削し合うことや、議論をすることができたのでよかった。しかし、そういった時間のない講義も多くあったので、そういった際の講義において大人数で講義室に集まり講義を受ける必要はあるのかと感じた。

教員とはあんまりですかね。他の学生とは沢山話しました。

誰かとコミュニケーションをとることが出来る時間が有り難かった。

数少ない対面授業だったので、おもしろかった。

質問10. 宿題(課題)の内容や量は適切であった。

締め切りが翌日であることは先生方の都合がつかならば変更していただけるとありがたいです

提出期限が早く、負担が大きかった。

翌日にすぐ提出しなくてはならない課題もあり、翌日の講義の関係から十分に練った課題を作成することが難しかった。

多い☑毎週のようにあった

授業翌日が課題の提出期限なのは、流石に期間が短すぎる。

量は大丈夫なのですが、まだ班員とそんな話していない中で共同作業するのは個人的にはきつかったです。

適切な量であったと感じる。

少し負担が大きかった

他のALと比べて課題量が多かった。

提出期限を伸ばして欲しい

求められている考察量に対し少し期限が短かった気がします

負担にならない程度の量であった。

少し多いと感じました。

レポート課題は多いと感じたが、それ以外は適切だった。

森先生の課題の場合、分量に対して期限が短かすぎるように思われた。

課題提出までの期間が短いように感じられます。

基本ちょうどよかったが、週によっては多すぎることもあった。

少し多いと感じることもありつつも、内容については適切だったと思います。これからも意欲的に課題や勉強に励みたいと思います。

やや多いと感じる日もありましたが、全体的には丁度良かったと感じています。

やや多いと感じた。

発表原稿等が主な課題であったが、授業で学んだ内容が活きる課題だったため良かった。

2000字程度のレポートは頑張れば1週間でできると知った。

私的には多かったため。

必要な能力を身に付けるために適切な量だった。

課題の内容を分かりやすくしてほしい。県庁へのメールの文を書けという課題のとき、文中に「文章を書け」とあったと記憶しているが、文章だけなのか、件名なども書くべきなのかが分かりにくかった。

ちょうどいい量だったと思います。

1日で書くにはさうとう努力を要した。

他の講義の課題がある中、この講義では少なすぎず多すぎない課題の量であった。

一度に出される課題は一つで、それに集中してできました。また、期間も十分にとってくださったので、自分の力を発揮できてよかったです。

たまにすごく量の多い宿題があった

締め切りが早く、大変だった。

少し負担が大きかったと感じています。

翌日までに文章の提出を求められるのは辛かったです。しっかり推敲するように言われるのですが、他の課題もあるので、もう1日でも長ければ、もっと推敲できたと思います。

文学作品の内容を要約するのにPowerPointを使用する意義が理解できなかった。PowerPointにまとめるには文字数が多く、本来の用途とはかけ離れていたと思われる。

毎週出される1000字のレポートが大変でした。

ちょうど良い量だったと感じる。

期限が短すぎた
内容は授業と関連するものでよかったです量が多かったです。
量が多かったです。
宿題は適切でした
課題をすでに提出したのかどうかを忘れてしまうことがあったので、googleフォームよりもLMSに提出するほうが良いと思った。
提出期限が短く、文章の推敲などに時間をかけることは不可能
他の科目の課題と比較して締め切り期日が早かった。

質問11. グループワークの人数(グループワークを実施しなかった場合はクラスの人数)は適切であった。

やや多すぎるとも感じた。
4, 5人は適切であったと感じる。
やった覚えがあまりない
私のグループは現在5人であるが、5人だと少し議論の際に参加していない人が必ず一人は出てしまうので、4人でちょうどいいと思う。
教員自らアドバイスを与えてくださる席と教員の目が届きづらい席で、差を感じた。
4人ならば全員話せたので良かったです。
4, 5人でちょうどよかったです。
7人以下にした方が良いと思う。10人だと発表が90分で終わるにはぎりぎりになるため。
5人以上にすると一人は必ず意見を出さなくなる
全員の意見を聞け、かつ少なすぎない、ちょうどいい人数だと思いました。しかし、もっと学生同士で話し合う時間があつたらいいなと感じました。
8人が良かったと感じていますが、6人でも十分に活動できました。
多くも少なくもなく、ちょうどよかったです。
コロナ禍ということもあり大人数でのグループワークは無かったが、私にとっては4~5人が話しやすく、討論しやすかった。
グループワークを行いやすかった。
グループワークがなかった
もっと他の人のプレゼンテーションを共有したかった
ちょうど良い人数でコミュニケーションが取りやすかった。
発表のときに、10人グループを作ったのですが、1人の待ち時間が少なく感じました。
5人グループと6人グループがあったが、私のグループは6人で少し演習の時間が足りないと感じた。
6人は少し多いと感じました。
学籍番号の遠い人との交流が出来たことがありがたかった。リーダーを決めて頂いたことで動きやすくて良かった。
行きやすい人数だったと感じる。
もう少し議論したいように感じたのでより少数でのグループワークもしてみたい。
人数もそれぞれの意見がしっかり聞けるような人数だったので良かったです。
全体講義の時は少し人数が多いように感じた。
授業に参加している人が20人程、あとは寝ていたとしてもわからないような状況
同じメンター同士(前半後半ではない)の活動を増やしてほしい
5,6人だとグループ全員の意見を発表できる適切な時間になっていると思った。

質問12. 学部の専門教育を学ぶために必要な授業内容であった。

医学部の基礎医学、臨床医学との親和性をより前面におし出すと意欲向上につながる感じた。
講義の受け方、手紙やメールの書き方は大人になる上で必要なものである。それらを学べて良かった。
初回の方は印象的だった
レポートの書き方や実際に起こりうるトラブルを学ぶことで、日常生活で気をつけなければならないことを数多く学ぶことが出来た。
実験倫理などを学べたり、文章やメールの書き方のように、社会に出てからも使える知識が養えた。
やや当てはまると思います。やや当てはまるからこそ、ややあてはまると思います。そうでなければ、やや当てはまらないと思います。申し訳ありませんでした。
講義の取り組み方やレポートの書き方は専門教育を学ぶためには必要だったと思います。
全ての基礎となる発表方法、引用方法などについての知識が得られ、それは専門教育を受ける上でも少なからず役立つだろうと思う。
研究室になるための心構えの授業があったから。
大学の基礎情報を学ぶことができ、充実した講義であった。
自分の意見を伝えるという行為が肝になってくるので、それに生かしたいです。

授業のスライドが分かりやすかったです。
文学作品の内容を「データ」と解釈するのはさすがに無理がある。
これから論文等書く際に必要な知識を得ることができたと感じる。
レポートの書き方、グラフの読み取りなど専門的な内容に必要なことを学べたので良かったです。
学部の専門教育を学ぶのに必要なこととは
まだ専門的な勉強をしていないのでなんとも言えないです。

質問13. 自分はこの授業に積極的に取り組んだ。

行うべきことを行った。
課題もしっかり丁寧に取り組んだ
課題に対して最善を尽くせたとと思う。
グループワークでも積極的に発言するように頑張った。
毎回発言をしっかりし、意欲的に活動に取り組めたと思います。発言すべきところではしっかり発言し、同じグループ内でのコミュニケーションがスムーズにできたと思います。
特にグループワークでは積極的に議論に参加し、話し合いを素早く進めました。
積極的に取り組むようにしたが、合計で3回ほど、講義内容がほとんど聴こえない講義があった。
発表があることでモチベーションがあがり取り組みやすかった。
課題を真面目にやった。
積極的に学びました。課題には全力で取り組みました。
自分なりにがんばりました。
大学の基礎情報が多くあったため、積極的に課題や班員との討論に参加できた。
重要なポイントを聞き逃さないように注意深く講義を受けていました。わからなかったことは、質問して解決しました。また、他の子の質問で、自分の疑問が解決したこともあります。
「心」のレポートを考えることやほかの人の発表を聞くことは面白かったので、積極的に参加することができました。
積極的と感じる場面が個人的に少なかった。
グループワークなどのおかげで積極的に授業に取り組みことができました。
このことに関して全く評価されない

質問14. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

進行に沿っていた。
そう思います
1回だけオンラインの調子が悪く、授業通りに進むなかったことを除けば、概ね進行はシラバスに沿っていると言える。
予定通り講義が進んだ。
大変良い進行速度だったと感じます。これからもこのk¥幼なペースで授業を進行していただければ、生徒としては大変有賀代価と存じます。ありがとうございました。
適切だったと思います
適切だった。
シラバス通りの授業内容であった。
シラバスを見ていなかったです。
紙でわざわざ配って、説明していただいたので、その後の予定がよくわかりました。
様々なジャンルの講義が行われたと感じる。
LMSがとても見やすかったので、講義進行がわかりやすかったです。

質問15. この授業は教員による一方的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加(例えば、講義内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなども含みます)を取り入れた授業(アクティブ・ラーニング)であった。

講義の性質上、回によって講義形式かグループワーク形式かかなり異なった。
アクティブラーニングが本講義に相応しいかはさておき、ディベート活動を盛り込んでも良かったと感じる。
一部では当てはまると感じた。
取り入れてはいた。
最初の授業からグループワークを行いたかった。
オンラインだったので難しかった
後半の授業では「あてはまらない」
基本的に学生同士のコミュニケーションを促進するような講義形式を取り入れて行っており、とても良い形式に感じた。
最後のパワーポイントを用いた発表の場面では、多少学生同士の交流はあったが、それ以外は講義を聴くのが主であったように感じる。
グループワークが多かったのでアクティブラーニングがおこなえた。
あてはまるが、一方的な講義がなかったわけではないのもう少しグループワークをするべきだと感じた。

90分間一方的な説明を聞く講義もいくつかありました。全体講義においても、グループディスカッション等を入れて頂けるとありがたいです。
ディベートの機会は大変多かったと思います。それによって、私は物事をおおくの視点から考えることができ、視野が広がったと感じました。大変いい機会だったと思います。
特にグループワークを盛んに行っていただきました。
グループワークが実施されていたのが良かった。
1人で考えたり先生の話聞く授業が多かったため、改善して欲しいと思った。
非常に双方向の授業だった。
前半の授業はアクティブ・ラーニングと言える。
様々な人とコミュニケーションが取れて、良い学びになった。
最初は日本人と話す時はとても難しいだと思います。しかし、今はどんどん話の能力が上がります。
グループ発表の時間が2回用意されました。
対面授業が行うことができない中、zoom飲み会やブレイクアウトルームでの議論など、学生同士の交流について工夫されていて良いと思いました。
授業中に文章を紹介され、何が悪いのか考えました。
関心・意欲の差が大きくグループワークが非常に取り組みにくい雰囲気であった。
グループワークの時間を結構確保していただいたので、ほかの授業よりも長くグループメンバーと話することができました。
講義ごとに差が大きかったように感じた。勿論アクティブラーニング形式の物も多かった。
グループでしっかり話し合えてよかったです。
真逆と言っても過言ではない

質問16. 教養教育科目全般に関して、気付いた点、改善すべき点、オンライン授業に関する感想等を自由に書いてください。

わからない問題があるから教えてほしいと頼んだら、個人個人にはおしえないと言われ、多くの人がわからないであろう問題もその後の授業で解説がなかった。
生徒同士での話し合いの機会がないので、話し合う機会を増やしてほしい。
コロナ拡大によるオンライン授業のいくつかは今後も継続して行っても良いと思った。
課題の連絡が、LMSできたり、Gmailで来たりなど、先生によって異なっていたので少しわかりにくかったです。
以前オンラインで実施した際に中々授業が円滑に行えなかったことがあったので、今後はそのようなことはないようにしてほしいです。
オンライン授業でも、学問について理解を深めることができました。
とても良かったです
理系関係だけでなく、心理学、経済学、保険制度など幅広く様々な分野を学ぶことができ物の考え方の視野が大きく広がった。
wifiが悪い時に授業に支障が出たので、LMSに授業の映像をあげてもらえるとありがたいです
オンデマンド式の授業をもう少し増やしても良いのかと思った。
学びのリテラシーやデータサイエンスもオンラインで十分可能だと感じました。
情報法の授業は毎回大幅に時間オーバーしていて、時には40分以上オーバーすることもあったので改善して欲しい。
とてもわかりやすい講義でした。
初めは慣れないオンライン授業に苦戦したが、慣れてしまえば問題点は何も無い。
オンライン授業の前後に対面授業を配置するといった不親切な時間割構成は是正されるべきである。また、対面とオンラインを状況に応じてより柔軟に選択できるようにしてほしい。
ビデオをつけなくて授業をしてくださるとバッテリーの消費が少なくてよい。
移動時間、食事、感染対策、資料の見やすさ、声の聞き取りやすさ、質問や意見のしやすさなどを考えると、オンラインでよかった
むしろ、移動の手間などを感じる人もいる。オンラインと対面を個人の意思で選択できる方式の導入が最善だと感じた。
オンライン授業自体はとてもよいものであったが、やっぱり対面でのコミュニケーションをする機会が失われるのは学生として少し損失があると思った。
Q32は授業によると思いました。英語や第二外国語などはオンラインではなく、対面授業が良かったです。
オンライン授業は画期的で非常に満足でした。そうはいても友人と会う日も大切だと思うので週二日ほどの対面授業はちょうど良いと感じました。オンラインで事足りる授業は継続してオンラインで良いと思います。
健康保健の対面体育を座学にするべきと思う。酸欠対策のためにマスクを外すことが許されている教科であるからこそ、この時期にやるべきではないと思った。
スライドの内容を書き写す必要のある授業では、書くための時間をとってほしい。
オンライン授業だと体調不良になったとき、対面授業よりも休みやすくていいなと思いました。
オンラインと対面とのハイブリッド形式の授業はやめた方が良かったと思う。対面になってもパソコンの画面に集中することが多かったため、いっそオンラインにしても良いのではと思った。

オンライン授業になって授業内での教員への質問が対面よりもやりやすくなったため非常に良かった。他にもオンラインと対面はそれぞれ一長一短な点があると思うので今後もハイブリッド型の授業が望ましいと思う。
科目により満足度は違います。
オンラインで授業を行うことによる支障は特になかったと思う。
グループが作られていてそのグループの中の人とは話しやすかったです。グループが作られていて助かりました。
対面を増やしてほしいです
チャットには全体と個人の二種類があるが、多くの教授は質問は全体がよいと考えているようです。しかし、個人的には、他人にまた質問しているのかと思われるのが嫌なので個人で送ってしまいます。
課題を提出するために使うサイトや、講義に使う資料のあるサイトが授業ごとに違って大変です。全てLMS上にあればいいなと思います。
オンライン講義は自分に合っていると感じた。私個人は、オンライン化を進めていってほしいと感じている。
対面授業が少ないため人と関わる機会となり、それに加えレポートの書き方など大学生の姿勢を学ぶことが出来たためとても良かったと思う。
オンラインだと時間も取れ、わからないところはすぐに調べられてとてもやりやすかったです。
学びのリテラシーはオンラインでよい。全部オンライン授業でよい。
ベルジュロン先生の英語の授業は、積極的に英語を使って先生やクラスメイトと話す機会、プレゼンテーション力を身に付ける機会を設けてくださったので、すごく有意義な授業を受けることができました。
オンラインだとなかなかやる気が出ない。
個人的に前橋まで通うことにそこそこの時間と電車代がかかるためオンライン授業であったことは取り組みやすかったと思います。自分で選んだ授業だったので取り組みやすかったです。
オンライン授業はどうしても一方的な授業形態になりがちである
情報法の講義時間が毎回30分ほどオーバーしていたので、改善すべきだと思う。
表現の仕方など必要なことの多くを学べた
それぞれの科目において様々な授業の方法があり、良かった。
大学の教室で受講していると声を出して発言するのが難しかった。インターネット接続が不安定になることがあり、時々zoomが落ちてしまうのは問題だと思った。
結局学校でzoomを受ける人が多くなるのであれば、オンライン授業の意味はないのでは？と感じた。多くの人数がzoomを利用しているせいか、回線が遅く調べ物が必要な時に満足に調べられなかった。
電波が途切れることがあるので受講しづらい時があった。
プレゼンテーションやコミュニケーションが主になる授業をzoom上で行うのは難しい部分があったり、インターネット環境に左右されることがあったりするため対面授業が望ましいと思いました。
突然ブレイクアウトセッションになるとその時の環境や状況によって積極的な議論惨禍が難しくなってしまうので、あらかじめそれを行うならば提示しておいてほしい
個人的に、オンライン授業をこれからも継続してほしい。移動時間も削減でき、質疑応答などもチャット機能を使えば生徒と先生の一対一で行うことができる。できれば、後期もオンライン主体で授業を受けたい。
オンライン授業においてパソコンに不調が見られたとき授業が受けられないということが起きたが、先生が授業の動画を撮ってくださったので非常に助かった。授業の録画はよく取るようにするべきだと感じた。
レポート作成などが難しく苦戦した。初めての経験が多かったので、授業についていくのが大変だった。
ディスカッションがある授業で主体性を向上させることができました。大学構内でオンライン授業を受ける際に、ネットワークが不安定になることが多々あるため、大学構内のWi-Fiの整備をしていただきたいです。
授業によって課題の量や時間配分が適切でない授業がある。
オンライン授業でも、学生同士の交流ができる機会が多いのでとても良いと思います。
通学に多くの時間を取られずに済むのはいいと思うけれど、オンライン授業は苦手だなと思いました。
わざわざ対面でやるような内容でなくても対面で授業を行う必要性が分からなかった。オンラインだと課題を管理するのが大変だった。
オンライン授業はやはり孤独感があり、あまりやる気が出ないときもあった。
この授業ではほぼ対面で受けることができみんなと協力しながらできたのでとても良かったです。また、普段話さない子とも話せてとても良い機会でした。
オンライン授業だと、どうしてもアクティブラーニングが難しくなってしまうので、zoomのブレイクアウトルームなどの機能を使えばさらに良い授業になるのではないかなと感じた。
オンライン授業だと、顔を出さない人やブレイクアウトに入っていない学生がいるので、可能であればもっと対面を増やして欲しいです。
コミュニケーションの機会は減ったが、オンライン授業だからこそできることも増えていた。
オンライン授業での講義は対面よりも先生の声ははっきり聞き取れ、また、自室で受けられるので騒音などでかき消されることもなく充実した講義を受けることができました。
グループワークでは同じ人ばかりで、なかなかコミュニケーションをとる機会がなかった。

興味湧かず寧ろ億劫になり単位取得を諦めた科目がいくつかありました。またオンラインの場合教員による一方的な講義になり得るため改善もしくはキャンパス内での対面講義を普及させてほしいです。
オンラインのために、学校に行く必要なかった為、負担が少なくてよかった。授業の内容が分からないということもなかった為、続けて欲しい。
時々映像が止まったり、音声が乱れたりした。
授業を受ける教室が限られていて、他の生徒の声が自分のマイクに入ってしまったて困ることがあったので、もう少し開放する教室の数が欲しい。
授業料を安くするなり、オンライン授業に転換した際の措置を取ってほしい。正味、授業料とオンライン授業が釣り合っているとはとても思えない。
教養教育科目が対面授業であるメリットを一つも感じない。対面授業が可能になってもオンラインで開講して欲しい。わざわざキャンパスまで行って受けるのは、交通費と時間の浪費だと思う。
グループ活動を行う授業は対面で行うようにしてほしいです。
オンラインでの開催によってキャンパスへの移動時間がなくなりその分睡眠を取ることができたので、大分ありがたかったです。ただ、他学部の人と顔を合わせることがないのでその点寂しかったです。
zoomでおこなったことで、画面は誰でもよく見ることができるのが良かった。大人数では難しいが、ビデオオンにすることでしっかり受けられると思った。
オンライン授業は私にとって有意義な授業だった。
オンライン授業は家の中で受けることができるので、静かな環境で講義を聴くことができとても良かったです。
オンライン講義だと、実際に提出物を提出するわけではないため、どれを提出してどれを提出していないか把握することが多少困難だった。
新型コロナウイルス感染症対策としてのリモート授業であったけれど、やはり学内で友人たちと授業を受ける形式が自分にはあっていると感じたので、少しでも早く新型コロナウイルス感染症が収まることを願っています。
オンライン授業でも問題ないと思いました。
オンライン授業がメインになるとどうしても生徒間の自由な会話が減ってしまい、全然友達が増えず苦勞している。授業のブレイクアウトルームなどがもっと増えたらいいと思う
英語のグループワークはオンラインではやりやすかった。
先生によって言っていることが違って混乱した。最後の課題は50点分もあるにもかかわらず、パワポのみを見て成績をつけるということは適切ではないと思った。パワポだけでなく発表も見えて判断してほしい。
キャンパス内の通信状況が不安定で授業に支障が出るので改善していただきたい。また大澤先生が生徒に威圧的な態度であり生徒側的には授業に取り組む姿勢が損なわれると感じたので改善していただきたい。
もう少し友達とコミュニケーションをとる機会が欲しかった。
zoomでの講義に限られた中でも、一つ一つの対応が丁寧だったと思います。どの教養教育科目の先生も、質問に丁寧に回答してくださいました。ありがたいことだと感じています
zoomのトラブルが多かったが、他は問題なかった。一回一回授業のzoomIDが変わるのが分かりづらかった
教養教育科目は教科書などがなく、先生の作ったPDFしか復習教材がない。そのため、授業をあとから何度も繰り返し見れるのはとても良かった。対面授業になっても、授業の録画は続けてほしいと思う。
オンライン講義ではスライドを自分のパソコン画面で見られるのがよかったが、指示内容が理解できなかつたときにすぐに同級生に聞けないのが難点だった。
たまに、資料を共有することができてない時もありましたが、問題なく分かりやすい授業でした。
動画を見返せるかどうか先生に依存しているのでその認識を共通にしてほしいです。
オンライン授業で自分の家から受けることができその分楽ではあったが集中力が続かないときもあった。時々でも対面があればよいと思った。
学生同士の話し合いは難しい
4、5月中にオンライン授業では接続不良などで講義に参加できないことがあり焦った経験がある。そのためオンライン授業の利点もあるが、4、5月は対面を多くするか、接続不良の対応をした方がいいのではと思った。
これからもオンライン授業がいいです。
対面での授業が難しい中でも、少しでも多くの知識をつけ、自身の考えを深めることができるような授業が展開されていて有意義な時間を送ることができたと思う。
家がキャンパスから遠いためオンライン授業は移動費や移動時間の浪費の削減となった。
今までにない授業の仕方だったので、最初は戸惑ったが、だんだんと慣れていった。
オンラインでも、グループワークなどで他の学生との交流ができたのが良かった。
オンライン授業はトラブルが多いのかと思っていたが、ほとんどトラブルはなく、授業が行いやすかった。
オンライン授業は友達を作ることが難しいのが一番だめなところだなと感じました。大学では友達の輪を広げたいので対面授業になってくれるとありがたいなと思います。
私はオンライン授業・テストが合わないため、前期の授業はやや受けづらかったです。
教員と学生の意思疎通ができない、スライドの表示がされない、といったトラブルの改善をしてほしい。特に教員と意思疎通ができない時には、問題が起きていることも伝えられないので困惑した。

オンライン授業であっても、全く支障がなかったと思いました。
もう少し他の学生と話し合いをする機会が欲しかった。
先生側の電波が悪いことで、授業内容が理解できないときがあった。また、ブレイクアウトルームなどで意見を交換しないといけない場で、はなさないひとなどがいたのが困った。
やはりオンライン授業では一人で受けていることの孤独感が大きかったです。全面的にとまでは行かないと思うのですが人数の少ない授業は対面授業にさせていただきたいなと思いました。
双方向の授業になるように心がけてくださる先生が多く、非常に楽しく学べました。
対面授業するために大学に行っても、ただ教えられるだけなので、ディスカッションの面でもオンラインの方が効率的でいい面も多いのではないかなと思うことが多々あった。
オンラインでも充実した授業を受けれた。
オンライン授業は、コミュニケーションが取りにくいですが、チャットやリアクションなどを用いて、しっかりとコミュニケーションが取れていたと感じました。
授業が受けやすく面白かった。
レポートなど、大学生らしい学習に慣れることができた。
やはりオンライン上で受けているので、授業に集中し切れないうところがあった。しかしブレイクアウトルームなどで他専攻の人と話すことができたのは良かった。
オンライン授業を通して他学部の学生と何度かコミュニケーションをとることができたのでよかったです。
1日にオンライン授業が4コマ以上続くと、目が疲れてしまうなど感じました。
早く対面授業を受けたいです。
オンラインの方が荒牧まで登校しなくて済んだので、体力的に楽でした。
オンラインは良いが、周りに自分の欲求を掻き立てるものがたくさんあり、授業に集中しにくい感じもした。
グループでスライドを作成して発表となると、意思疎通が取りにくい部分があり、少し大変だなと感じました。
zoomに動画をアップロードするスタイルの授業はモチベーションが続かない。学校に来ることが難しく友人を作るきっかけが少なかったため、グループワークなどの活動を増やしてほしい
同じ教室にいるのにzoomで話し合いをする意味が分からなかった。wifiが重い時が多かった。
対面がほぼないため、全体的に自分が受け身になってしまった。
対面だったら体力消費がすごいと思うのでありがたかった。
はじめは不安でしたが、徐々に慣れてきたのであまり不便に感じることはありませんでした。後期の対面授業を楽しみにしています。
オンライン授業は、声が聞き取りにくい等わずかな問題点はあったが、さほど気にするようなものではなく、対面と同様に活発に活動することができた。
一方的な講義であるならば、zoomでの配信をする必要はなく、オンデマンド方式とするべきだと思います。先生方側の通信状況により、満足に授業が受けられないこともありました。
最終課題が難しかった
一部ではコミュニケーションの場が設けられているが、一方教員の一方の講義がややあった。
医学部の人にとって荒牧キャンパスは遠い場合が多いので、毎日行かずに自宅で授業を受けられるのはよかったです。
対面よりも質問がしやすいと感じ、とても良いと思いました。
と先生たちの間で課題の回答や問題の実施などをほぼ同じ形式でやってほしかったです。中には入力することに時間がかかるものもあったので試験の時などに入力の得意さによって違いが出たりしてしまうと思いました。
オンラインだと討論などがしにくくなるが、代わりに分からないところを調べながら授業を受けることもできた。個人的には良いと思ったので、来年以降も対面と併用して取り入れてほしいと思う。
オンライン授業のおかげで時間に余裕ができ、課題に時間をかけたり、趣味に時間を費やすことができた。
気軽に、分からない所とかを同じ授業を取ってる友達に聞きにくい(特に授業中とかにコミュニケーションしづらい)
教養教育科目はほとんどオンラインであったが、たまに音が聞こえなくなったり画面が止まったりすることが何回かあったものの、オンライン授業の便利性的観点から考えると良い授業形態であるのではないかと感じた。
レポートの書き方など知ることができて満足している。
色々な有用なことが学びました。
教養教育科目は正直将来に必要なことかなと思ってはいたけれど、いざ学んでみると将来に役に立ちそうなものばかりでした。オンライン授業だと対面の時よりも気が緩んでしまうけれど、楽しく学習できた。
オンラインでもズームを用いたグループ活動が積極的に行われていました。本講義を通して、レポートの引用等に関して学ぶ事が出来ました。また講義内で配布されたレポート例が今でも非常に参考になっています。
オンライン授業に初めは慣れませんでした。今はzoomを使って様々なことができるようになりました。その分、大変なこともあったけど、オンライン授業も非常に楽しかったです。
先生の一方的なものだとやる気がなくなってしまうので、グループワークなどを増やしてほしい。
通信に不具合が生じた場合でも、先生方はそれに配慮してくださるため、安心してオンライン授業を受けることができた。
オンラインでは緊張感がなく、コミュニケーションが少ないように感じた。対面授業で他の学生とコミュニケーションを取ることができて良かった。

自宅のインターネット接続の影響などによりZOOM上でのディスカッションがうまくいかないことがあった。
オンライン授業と言えど、他の生徒などとコミュニケーションをとり、意見交換する機会が多分にあったので、支障なく授業が進行していた。
初めはオンライン授業であることを不安に思っていました、分からなところを質問することもでき、しっかり授業の内容を理解することができたので、良かったと思います。
授業ごとに後から自由に録画を視聴できるかどうかが違うので、なるべく統一してほしいと思いました。
教養は講義型が多かったので、リモートでもよいが、第二言語は対面でやりたいと思います。
学びのリテラシー(1)の演習以外の講義は全てオンライン授業にしても良かったのではないと思う。
オンラインだが、興味深い授業が多かった。
オンラインだからこそさまざまな学生とグループワークがたくさんできて多くの考えを知ることにつながった。
オンラインは楽だが、接続が切れないか不安だった
オンラインは会話がしにくかった。対面に比べて、活発に話そうという気持ちが薄れるからだと思った。また、講義では進みが早く感じたり、反対にスムーズに進まなかったりすることが多いと感じた。
オンライン授業だとやりにくいところや理解しにくいところが多かったように思う。
メールでの失礼にならない文章の書き方やプレゼンの発表など、実生活で活かせるような内容が多かったように感じました。
中国語を履修していたが、周りに人が居ないので気軽に発音練習をすることができて良かった。
慣れないことも多く大変だった。
うまく接続されないことが多かったです。提出物の提出の不具合が起きた場合自分でどうにかしないとイけず意見も何もいだけなかったことに不満を持ちました。
オンライン授業は一方的な授業になりやすいように感じた。とはいえ、画面が見やすく声も聞き取りやすかったので、オンライン授業にも良いところはあると思う。今後も必要に応じて使い分けて欲しい。
対面の授業を早く受けたいです。
途中で接続が途切れたりほかの生徒たちの雑音が気になった。
先生に直接質問がしにくかった。
後期はすべての授業を対面にするのではなく、オンラインで受けることのできる授業はオンラインで受けるべきだ。
オンライン授業では生徒の顔ももしかすると先生の顔も見られないことがあり、対面授業の時と同じだけの習熟度とはならないと思った。
zoomを用いてグループワークがある授業もあり、他の学部や同じ学部の生徒同士の交流ができて良かった。
オンライン授業よりも対面授業の方が、教授の目の届く環境であるということで授業内での学生同士の議論も活発になると思いました。
オンラインであっても、お互いの顔が見えたり、意見の交換がしっかりできたので、良かった。資料などは自分で印刷していたが、量が多く、インク代などもあるので少し大変だった。
オンライン授業はとても聞きやすかったです。
ネットのトラブルが多く、授業には入れないことがかなりあった。
講義資料の配布がされたり、zoomの機能を活かしてリアクションをとっていたのが良かった。
ずっとパソコンの画面を見ていなければいけないため、それは目が疲れて大変でした。
ずっと教授が話し続ける講義があった
集中力が続かなかった。進みが速く、ノートをとるのが難しい授業があった。
1日オンライン授業の日は通学与帰宅にかかる時間が省略でき、その時間を有効的に活用することができるので、その点ではいいと思った。
今まで知らなかった言葉の使い方などを知れて少し大人になれた気がする。
学校で授業を受けるとネットが繋がらなくなり、授業がうまく聞き取れないことがあったので、zoom内で出席をとるようなことがあれば、出席していないことになるためその対処を改善しなければいけないと思った
内容は高度だったが、非常に分かりやすかった。そのためどの教科も楽しく受けられた。
大学の回線が悪く繋がりにくいことを除けばオンライン授業でもよく学習することができたと思います。ありがとうございました。
zoomに入ってからオーディオに接続するのに若干のラグがあるので、zoomを開いてからすぐに話し始められると聞き取れないことがあります。そのため、zoom開設後、少し待ってから話し始めてほしいです。
オンライン授業で、特に不便さなどは感じず、むしろオンライン授業の方がチャットで先生にメッセージを送ることができるので、意見を言うハードルが下がり、個人的にはオンライン授業の方が良いと感じた。
オンライン授業だとパソコンに表示されて見やすいという利点があると思います。しかし、オンライン授業は他学部の学生と話す機会がほとんどないため状況が落ち着いたら対面も増やしてほしいなと思います。
オンラインで私が慣れない点もあったが、オンラインならではの機能を使用したり工夫して授業をしてもらったりと、とても助かり自分の身のためになった授業だった。
オンライン授業だったため発言しやすい面もあったが、ブレイクアウトルームなどの少人数の場だと逆に発言しにくかった。少人数で議論するときは、相手の顔を見ながらやる方が活発な議論になると感じた。
オンライン授業に満足はしているが、対面授業が欲しかった。

レポートの書き方について、あまり知らなかったのでとても勉強になりました。
昨年度まであまり新型コロナウイルス感染症の影響を受けていなかった地域で勤務していた教員がオンラインでの講義に十分に適応できていない。具体的に記述すると100文字に収まらないため詳細は省く。
オンライン授業のため、インターネットの影響が大きく関係し、やりずらさは多少感じたが、授業自体はとても満足している。
オンラインということで不安もあったが、あまり大きなトラブルもなく一学期を終えることが出来てよかった。
生徒の意見をとりいれようとする制度を各授業で設ける必要があると思った。
オンライン授業も良いですが、コロナが収束したら対面授業を増やして欲しいです。
前期はオンライン授業がほとんどだったため、後期は対面授業の割合が増やせると良いと思っている。(新型コロナウイルスの蔓延状況が収まれば)
提出するファイル名などに指定がない場合でも、何も書いてないと不安になるため、できるだけ「指定なし」と書くか、指示してもらえるとわざわざ質問なくて済むので助かります。
オンラインの授業にはオンラインの良さがあると思うので良いと思う。
有意義な講義をして下さり、ありがとうございました。
オンライン授業の便利さを感じた。情勢が落ち着いてからも適宜利用してほしい。
音割れがあった授業があったので、インターネット環境については、今一度見直してほしい。また、学生に間いながら授業を進めていたので、オンライン授業でも、理解しやすい内容になっていた授業が多かった。
オンライン授業でもしっかりと授業が受けられ、特に問題はなかったと思います。
オンラインの講義をする場合は、オンデマンドを活用したほうが学習を早く進められる。
ビデオをオンにするとWi-Fiの問題なのか、どうしてもzoomの動きが遅くなってしまい戸惑うことが何度かありました。できれば、ビデオをオンにするのは一時的にしたほうがいいのではないかと思います。
ほとんどの科目が基本的にオンラインで顔を合わせることがほとんどなくなり合いがあまり増えなかったと感じました。なので科目によってはグループ活動を増やしてほしいと感じたものがありました。
改善すべき点は特に見当たりませんでした。オンラインでの授業にもかかわらず、充実した話し合いができたので、良かったと思います。
全ての講義がオンライン授業ではなくて良かったです。
時々ミュートになっていない学生が大きな声で騒いでいたりするため、ホストの方で強制ミュートを設定していただきたいです。
オンラインだからと割り切ればまあ満足だが、欲を言えば対面での実施がしたい。資料を保存できる点、自宅で受けられる点、カンニングありのテストが多い点はメリットだが、デメリットが多すぎた。
コロナ禍で通学に不安があるので、家で手軽に講義を受けられてよかった。また通学しないことで時間が空き、別のことに時間を割けたので悪くはなかったと感じた。
コロナ渦のなか、私たちのために講義の準備をしていただき、ありがとうございました。おかげさまで、素晴らしい学びにさせていただいたと思います。後期も宜しくお願い致します。
面白い授業やためになる授業があったから、受けてよかった。
通信環境が悪い(学校内)ためよく先生の画面が止まることや先生がzoomから落ちてしまうことがあるので回線をしっかりしてほしい。
オンラインだと、コミュニケーションをとることが難しくそこに四苦八苦した。しかし、そのことはいい経験であったようにも感じる。
ズームだと全員の前で質問しなければいけないときがあるのがいやだった。
オンラインでできることに限りがありました。
学校のWi-Fi設備が多人数に対応しきれず通信不具合が多く見られた
課題ばかり出す割には授業の内容が薄いような気がした。対面にしてグループワークなどを増やしてほしいと思った。
パワーポイントを用いた授業は自身のスキル向上につながった。ありがとうございました。
全体的に、学生からのチャットを逐一確認していただきたいです。もちろん頻繁に確認して下さる先生もいらっしゃいます。
オンラインでも理解しやすいように講義が作られており非常に良かった。オンデマンド形式もあると良いと感じた。
学生と教授の間のやりとりが、大人数になるとできていなかったもので、少し残念。
少しでも顔出しをすることで、授業のやる気が出た
オンラインでもしっかり学べたので良かったです。
生徒側が意欲的に参加できるような授業形態で楽しく授業をうけることができた。各自で実験をする課題は色々な人の意見が聞けてよかった。
授業が時間内に終わらず昼休みが10分ほどしか取れないことが多かった。
自分自身の問題ですが、カメラオフの状態だと緊張感が持てず、講義に集中しきれないので後期の教養教育科目ではカメラオンを基本スタイルにしても良いと思った。
オンライン授業でも、様々なことを学ぶことが出来て良かったです。
プレゼンテーション能力を高められたり、メールの書き方などを学ぶことができ良かったです。

zoomにて先生の音声や画面がしっかり見えているかどうかを、チャットやリアクションボタンを使って確認していたことはよかった。
この科目は非常に大切だと思う。この授業通りに、これからの大学の生活を受けていこうと思っています。
教養教育科目のオンライン授業はとても充実したものであった。
ほとんどがオンラインの授業であったが、回線切れ等に対する配慮もしっかりあり、特に不満はなかったです。
なれないオンライン授業でしたが、相手の顔が見えないため、自分の意見を言いやすいという点ではメリットを感じた。しかし、グループ討論で相手の顔が見えないと話が弾まないなどの問題が生じてしまった。
私は高校の授業で少ししかパソコンを触っていない為課題の提出が上手く出来なかったり、提出したと思っていても出来ていなかったものもいくつかあった。
ぐんま未来学について、リアベ提出箱を翌日に削除すると、毎授業リアベをかくということを初回授業で聞いていなかった人がずっとときがつかないということがみうけられた
オンライン授業だったので、講義のスライドが非常に見やすかったです。
教養教育科目は全てオンライン授業での対応が良いと思った。ただコミュニティのなかでコミュニケーションをとる意味でも健康教育などでの体育は非常に有効だと感じた。2年次以降も続けていくべきだと思う。
レポートの書き方を学べたので、後期の学生実験で活用したいと思います。
荒牧キャンパスへ行って授業を受けたかったですが、オンライン授業でしかできないことを生かしている授業で良かったです。
オンラインでも対面と同じような学習ができた。
90分間ずっと先生の説明を聞く授業はきついと感じた。
教養科目は様々な分野の科目を履修登録し、新しく知ることばかりでとても充実していました。ありがとうございました。
オンライン授業でも十分満足しました。
オンライン授業で、学生同士の議論の導入が円滑であったり興味を引く工夫がなされているとよいと思いました。
対面とオンラインのバランスが良かったと思います。ノートをとるのが大変だったので、スライドを切り替える時には合図がほしかったです。
多くの授業があり、その中から興味のある物を選択し受講できたので良かった。
教養教育科目での課題で多すぎる科目があり、専門科目を十分に学ぶことが出来なかった
密にならないように学部や類別に分けて対面授業を行うことは、感染対策がある程度されていてよかったが、大学に行くまでの移動が密になりやすいので講義の時間を密になりにくい時間帯に行ってほしいと思った。
オンライン授業は、とても良かったです。
オンラインで資料などが配られた授業では、後から見返しやすいと良いと思いました。オンラインでも通信環境以外の問題なく授業を受けることができました。
家だと、対面で授業を受けるより集中力は落ちた。しかし、登下校の時間を省き、時間を取らせてすみません節約出来た事は大きかった。
やはりグループワークはお互いの顔が見えたり、物理的な距離も近い方がよいと思うため、グループでの話し合いや作業はオンラインだと対面よりやりにくい面があった。
グループワークが多いところが良かった。
対面での授業よりも教員や生徒との交流が薄く、学びの定着があまり出来ていない気がした。
私は授業で学ぶことを楽しむことができました。教師の方々の説明が分かりやすいだけではなく、その説明から自分たちで話し合っ内容を深めたりと自分の知識が深まっていくのを感じながら授業を受けられました。
オンラインでも問題なくコミュニケーションを取れて授業を円滑に受けることが出来た。改善すべき点は特にないと思います。
対面でやった方が集中できる気がした。
オンライン授業でも何の問題もなく受講することができました。ブレイクアウトルームで討論はできるのでコロナが収束するまではオンライン授業にしていきたいです。
オンライン授業と対面授業を比較するとオンライン授業の方が教授の音声聞きやすく、音声の点において良かった。
オンライン授業でも対面と変わらないクオリティが保障されていた。

資料2

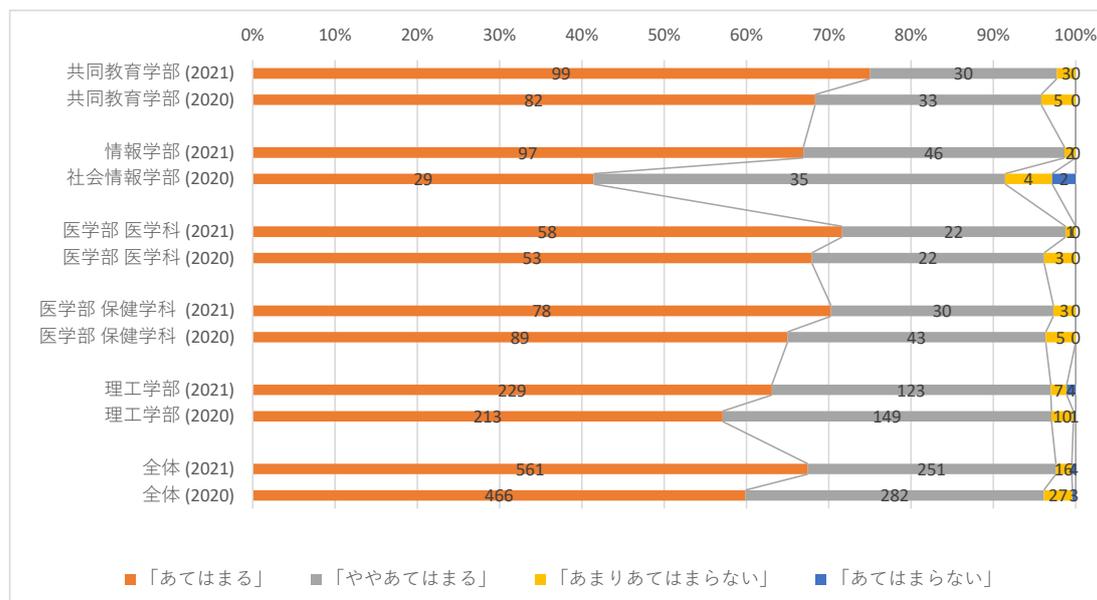
令和3年度 後期授業評価「学びのリテラシー（2）」集計表

区分	年度	対象者数	提出者数	回収率(%)
共同教育学部	2021	182	132	72.5
	2020	(206)	(120)	(58.3)
情報学部	2021	152	145	95.4
	2020	(104)	(70)	(67.3)
医学部 医学科	2021	90	81	90.0
	2020	(110)	(78)	(70.9)
医学部 保健学科	2021	138	111	80.4
	2020	(165)	(137)	(83.0)
理工学部	2021	401	363	90.5
	2020	(552)	(373)	(67.6)
合計	2021	963	832	86.4
	2020	(1,137)	(778)	(68.4)

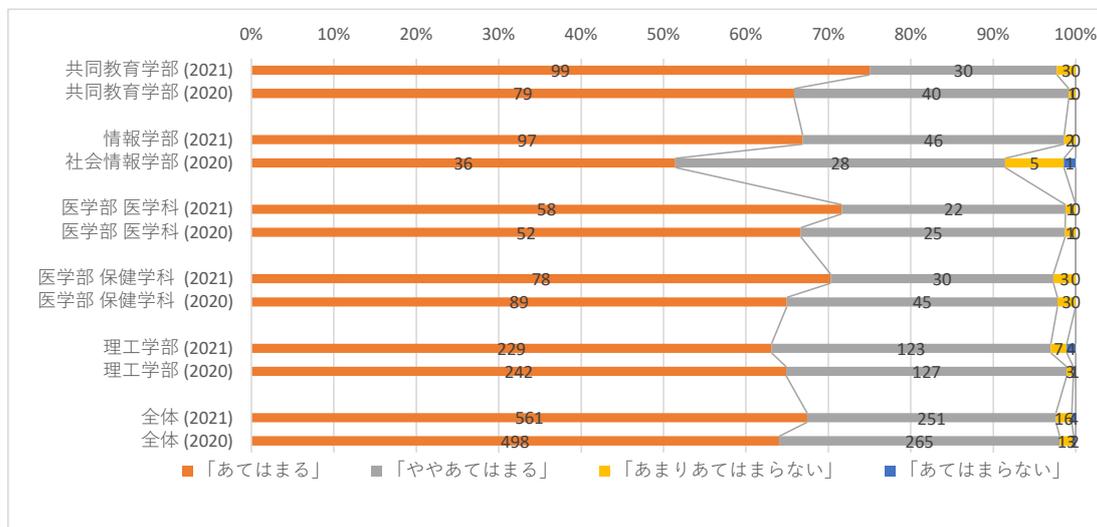
※共同教育学部のうち、2名教育学部の学生を含む。

※（ ）は昨年度の結果

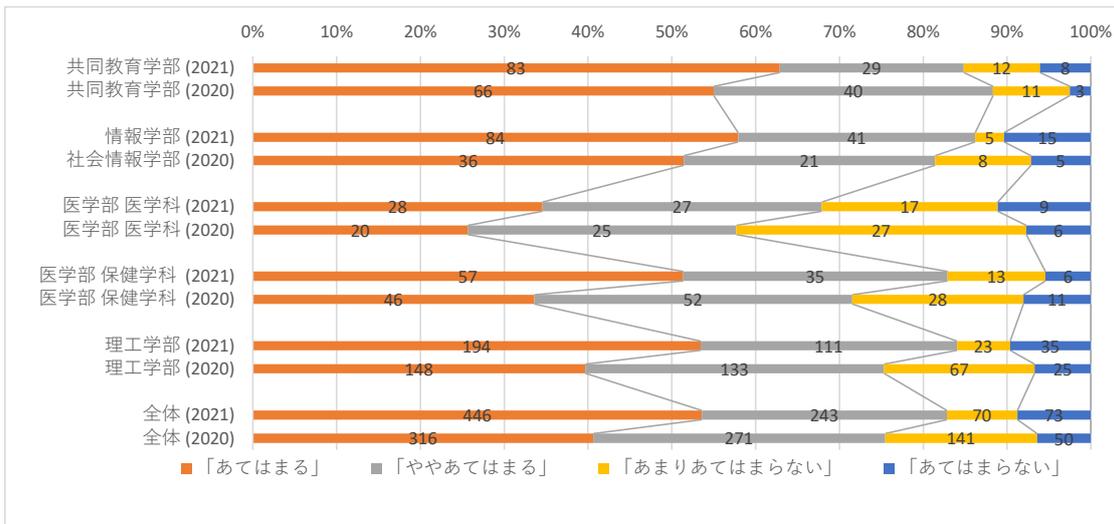
質問 1. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。



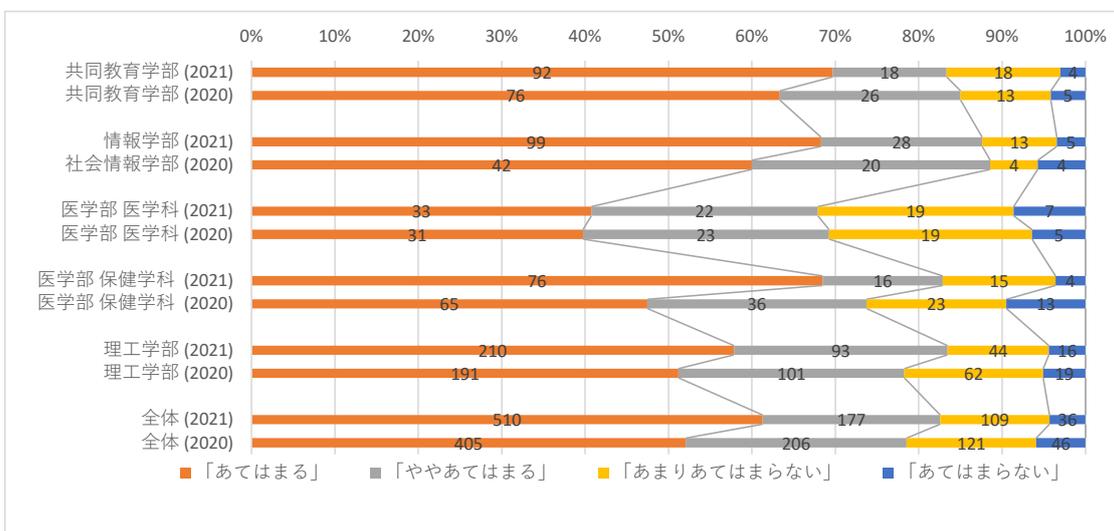
質問 2. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。



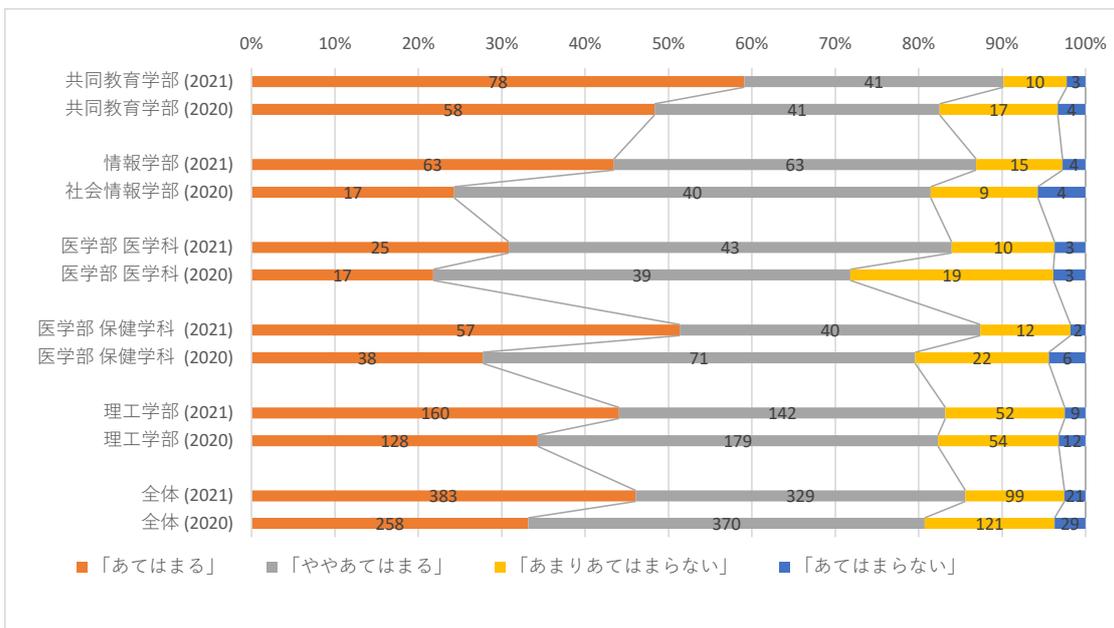
質問 3. 講義での討論は活発であった。



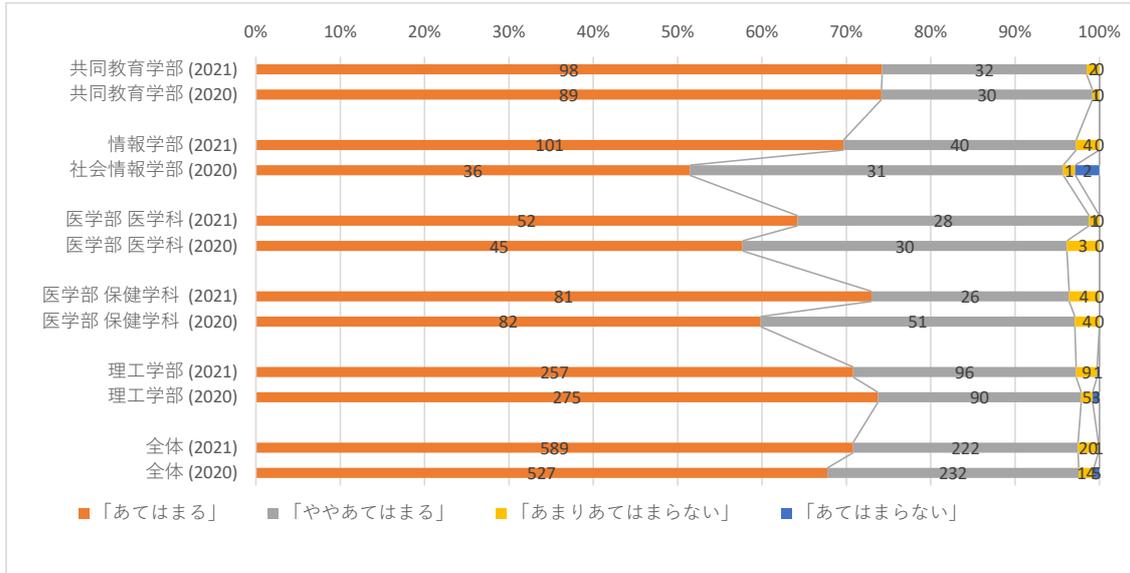
質問 4. 教員や他の学生とのコミュニケーションをとる機会が多かった。



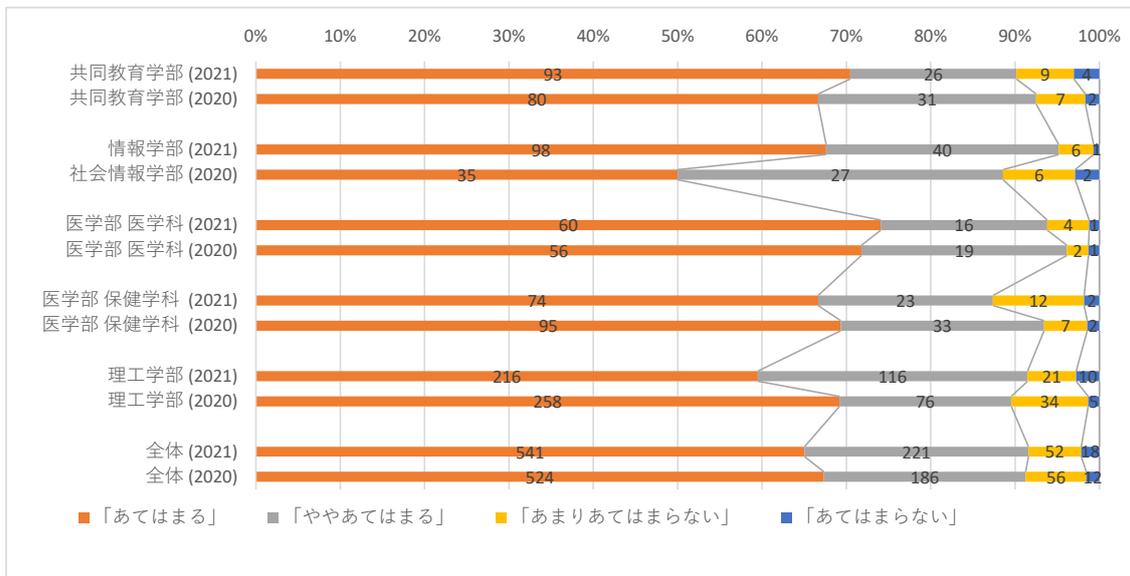
質問 5. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。



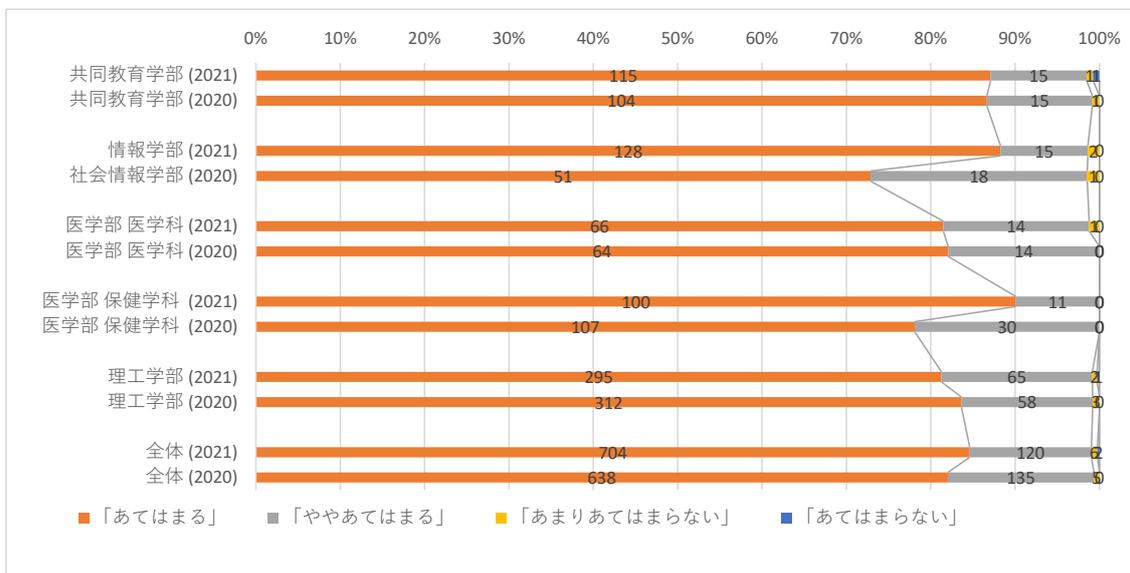
質問 6. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生との対応は適切であった。



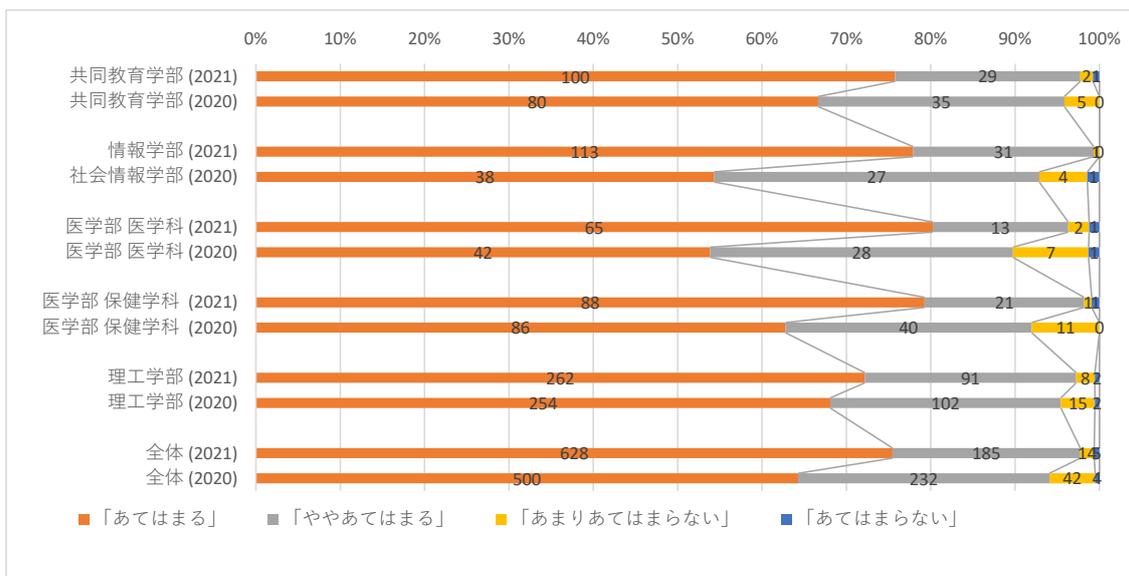
質問 7. 希望した科目を選ぶことができた。



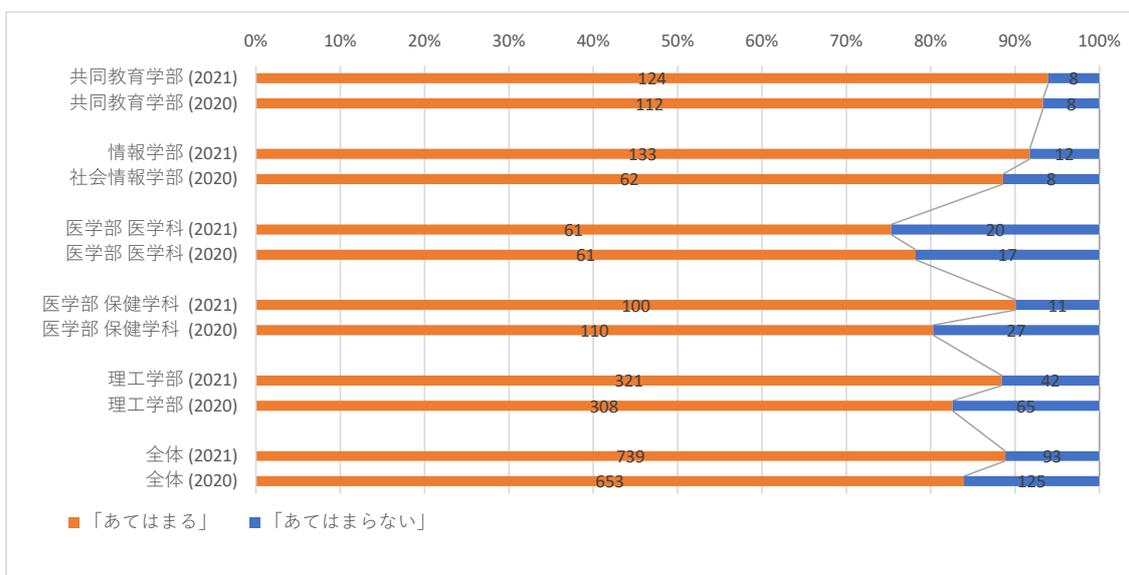
質問 8. クラスの人数は適切であった。



質問 9. 講義の環境は適切であった。



質問10. この授業は教員による一方的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加(例えば、講義内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど)を取り入れた授業(アクティブ・ラーニング)であった。



【自由記載】

質問1. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

適切な進行スピードであった上に、発問も積極的だったので、関心を持って受講できた。

「知ったら挙手」ではなくて「知らない人は挙手」の方が良い。セントラルドグマについて3、4回は説明された。

議論の時間が長すぎてマンネリ化してしまった。

わかりやすく説明してもらえて生物未履修者でも大丈夫な内容であった。

身の回りの化学のプレゼンをしていく授業で、これから必要になるであろうスキルの練習としてとてもいい授業だと思う。

導入のハードルが低めに設定されており、受講生の関心が回を重ねるごとに高まっていくのが感じられた。

ほかの授業では学ぶことが出来ないような様々な多様性についてグループで深く話し合うことが出来た。

とても面白い内容で、群論という分野に興味を持つことができました。ありがとうございました。

分野の基礎から説明しているので安心して授業を受けられました。

普段の授業では知ることのできない部分まで学ぶことが出来た。

扱われる題材がとても楽しかった。

少し内容が難しかったように感じた。

災害になじみのない生徒が多くいたなか、災害の知識を分かりやすく教えてくれました。

一方的な授業ではなく、学生の理解を常に確認しながら進めている印象だった。

いろんなジャンルの知識が深まったと思う。質問をしてくださと言われていたのでより相手のプレゼントをしっかりと聞こうと思えた。振り返りシートを送ってくださるので自分のプレゼンの反省ができた。

質問と直接関係ないが、群大の学部生は優秀という印象を受けた。私の学部生のころより優秀である。グループディスカッションで意見を言えることは感心した。

ポジティブ心理とネガティブ心理という、身近で興味深い内容でした。

毎回の授業で、自分の書いた答えと他の人が書いた答えが見ることができたのが良かった。また、ブレイクアウトルームで、そのことについて意見交換をすることも良かった。

興味のあることを調べることができたので良かったです。

英語での専門的内容の動画が一度だけ流され、それについてリアクションペーパーを書きなさいと言われたときは、困ってしまいました。学生の理解度と合っていないと思ってしまいました。

自分たちでレジュメを作り、話し合う内容も自分たちで決めるという生徒主体的な授業であったので非常に興味を持って授業に参加できた。

非常に難しく、授業を受けてかつビデオで再度聞かないと理解できなかった

丁寧に説明されていた。

生物化学を学科で学んでいるため内容がかぶるところがあり、ある程度基本的なことは理解できた。先生方がスライドを用いて詳しく説明してくれたが、専門的なことについては理解が難しいところもあったように感じる。

生物の知識がほとんどなくても理解しやすい授業だった。課題やグループ発表により、自分で調べて理解を深める機会を得ることができた。

少し難しくない内容が多かったように感じた。

合唱や器楽学習など内容が幅広く興味深かった。

初心者でも分かりやすかった

大変わかりやすい内容でした。実験が多くて、簡単なものと少し複雑なものがあったが、興味深いものだった。

取り上げられていた授業課題が楽しくできる物でよかった。

興味があるのみでなく、専門的な知識があった方がより理解できるだろうと思う内容もあった。

ハンセン病問題を扱うことを事前に知らせて欲しい。学びのリテラシー（2）一覧の中にどのような内容の講義なのか書いて欲しい。

銀行の人から金融の話があったこと。グループ活動をしたこと。

学生同士の議論が中心だった。

わかりやすい講義だった

プログラミング初心者には少しハードな授業だったので辛かった。

高校で生物を履修していない生徒には難しかった

授業の前にこの授業に関するような話題の話を持ってきたくれたりして興味深かった。

専門的な用語などはあまり出なかったので、題材テキストも読みやすかった。

質問2. シラバスの記述は授業の進行に沿った適切なものであった。

完全にシラバスに沿ったわけではなかったが、生徒のことを考えて内容を変更しており授業内容はとても充実していた。

発表があるならばシラバスに書いて欲しかった。

シラバス通りでとてもやりやすかった。

シラバスでは、MIT Opencourseware の利用を推奨していたが、MITの方はあまりこの授業の参考にはならなかった。微分積分で少し参考になった程度であった。

シラバスに沿ってはいなかったが話し合いに時間を多く設けた良い授業だった。

日程表が提示されていたため、どのような授業を行うのか、事前に確認することができた。

毎週、スムーズに講義が進行していた

シラバスの通りに進んでいたのが計画を立てやすかった。

進行方向を常に考え、講義を展開していた

コロナもあって、思うように進んでいなかった部分もあった感じがする。3回目の実験が対面で実行できなかった。

質問3. 講義での討論は活発であった。

討論の機会がなかったため、わざわざ対面授業である必要性を感じなかった。

プレストなどで意見発表の機会が多く、色々フィードバックされたので、受け身にはならないように工夫されていたのでよかった。

他人の意見を閲覧することはできるが、議論ができたわけではなかった。

色々な学部の人たちと関わることのできる貴重な機会だった。

先生が話しやすく、発言しやすかった。

私から指名して質問しないと話してくれない、もしくは「これに対してどう思うか」という投げかけに答えてくれず、結局私のひとり語りになる場面がたまにあったのがストレスだった。

討論の機会は提供していただいたが、学生側の意識の問題で討論が活発だったとは言えない。

何時間もかけて性の多様性を社会で受け入れていくためにはどのようなことが必要なのかをじっくり話し合っ、発表でみんなに提案できた。

対面での講義では活発な意見交換ができ良かったです。

対面実験のグループ内で討論ができた。また、授業内容も毎回討論しやすい内容だった。

グループ活動が少ない。
考えが思いつかないとき、一緒に悩むということができなかった。
グループ活動がほとんどであったため、グループによって様々であった。
他学部との活発な意見交流をすることができ、非常に貴重な知見を得ることができた。
もう少し学生間の討論が欲しかった
少人数でのグループワークは活発であった。全体討議となると、質疑応答は出づらかった。
活発に討論することができました。
学生同士の話し合いが主の授業でした。
仕方ないことだけれど、zoomのブレイクアウトルームでの話し合いは少しやりにくい部分があった。
オンラインだと討論するのが難しいように感じた。
討論の時間はありませんでした。
疑問点、論点を自分たちで設定し、話し合ったのでとても活発な意見交換ができた。
発表が終わったあとに質疑応答があり、そこで多く話し合いがあった。
単純に難しいテーマだったので、活発に出来なかった。討論する場は多く設けられており、私も知らないなりに積極的に参加した。
討論ではなく、講義形式であったが、授業内容は毎回興味深いものでとても面白いと感じたため、満足している。
生徒同士や生徒と先生方との交流があまり見られなかった。しかし、授業内でグループプレゼンテーションをするという取り組みがあったため、その際、生徒同士で良いディスカッションができたと思う。
毎回異なる班でディスカッションをするのは、普段交流のない学生とコミュニケーションをとることができたので、良かったです。
友人と虫の名前について討論した
発表はいい感じで行った。質問するとされる役割を両方できて、内容はより深く理解した。
グループで考える時間があったので意見交換ができた。
講義で生徒同士の討論があったのはカリキュラムで定められた一回のみであるが、ブレインストーミングを採用した討論で、非常に活発な討論を実現できたように感じた。
グループワークの班がずっと一緒だったため同じ学生としか関われなかった。
様々な学部の生徒が意見を出し合っていた。
積極的に発言する人が偏っているように感じた。
小さいグループに分かれて活発な話し合うことができた
話し合いがとても活発だった
グループ内の親睦が深まっていなかったのもあって、グループワークの際もほとんど質問したり、議論したり、といった内容はなかった。
自身の考えを伝えられるくらいのちょうど良い時間配分をしてくれた。

質問4. 教員や他の学生とのコミュニケーションをとる機会が多かった。

専門的な知見からのアドバイスをいただくことが多々あり、非常にありがたかったです。
教員とのコミュニケーションはあまりなかったような気がする。
一方的な授業ではなく、他の人の考えを活かしていくことが出来たので、良かった。
授業ごとの感想・コメントに対するフィードバックが細やかだった。

コミュニケーションを取る機会はなかったが、講義後のレポート提出はみんなが見ることができるところに出すので、いろいろな人の考えなどを見ることができて良かったと思う。

私たちの意見を反映させながら授業を進めてくださった。

他学部や他専攻の人とのグループワークを通して、様々な考え方や他の分野について知ることができ、視野を広げることができた。

対面実験やその内容でコミュニケーションを取ることができた。

分からないとき、答えだけ教えるのではなく、一緒に考えながら教えてくださった。

グループメンバーとたくさん話し合いを行い、交流を深めることができました。4つの発表を通して、同じグループメンバーで行った点は、オンラインと対面が交差する授業において、とてもやりやすかったです。

対話の中で、学生の意見の尊重や今後必要なことの伝授など、あらゆる面で配慮してくださっていた。

先生が積極的にコミュニケーションを取っていた。

先生の意見も聞くことができ、現在の学校教育の指針をしっかりと吸収することができた。

先生が質問の時間の時に会話でコミュニケーションを取ってくれていたのが比較的やりやすかったのではないと思う。

生徒の意見に肯定的にコメントを返していた。もっと伺いたいことはあったが、講義の目的からするとほどよかったと思う

班員で話し合う機会も多く、よかったと思います。

グループでの話し合いが多く、楽しかったです。

学生とは特に話さなかった。

他の授業では関わることのない他学部の人ともたくさんコミュニケーションを取ることができた。

半分以上が先生方の講義を聴いて、レポート提出をするというものだった。オンラインであっても、ある議題について数分間グループ内で意見交換をする等の取り組みもできるのではないと思う。

虫と一緒に探したりした

人数は少ないおかげで何回も同じグループで仲良くなった友達がいる。

最後の方の回ではレポート構想の発表をして残りの人が質問や感想を言う機会があった。それぞれの授業で数分話し合いをすることはあったがあまり多くはなかった。

先生の考えをもとに、生徒自身で考える講義内容だった。

班がランダムで編成されるなど様々な人と積極的に交流することができた。

質問をすることが容易にできる講義だった。

質問5. この授業で報告の仕方やレポートの書き方を修得できた。

かなり丁寧に説明して下さった上に、他の学生のものを見て反省することもできたのがよかった。

より良いレポートを目指すのに必要なことを学ぶことが出来た。

グループワークという形だとどうしても責任感にバイアスが生じてしまう為、少人数なのを活かして個人単位でプレゼンを行わせた点が良かった。

毎授業ごとにほかの班にどんな討論をしたのかを報告する活動があった。これの役割を班の人と回しながらやっていたので報告の仕方を学ぶことが出来た。

他の授業ではレポートの提出はワードなど、パソコンで行うものが多い中、この授業では手書きでレポートを作成するため、とてもためになった。

もともとレポートの書き方は習う。発表も別の授業です。

発表をたくさんしたので、伝え方の工夫を考えながらできた。

報告の仕方などの指導はあまりなかった。

パワポのプレゼン発表なので如何に視覚で訴えるかで勝負した。そのためおそらくレポートの書き方とかには準じていないと思う。

授業内容と関係ない

もともと修得していたため、この講義ではとは言い難いためである。例示などを示しており、レポート自体は書きやすかった。

先生が実際に使われる表現を補足で説明していたため、さらに理解が深まった。

特に講義の後半で、効果的なプレゼンテーションの為に必要なことを学ぶことができた。また、他の人のプレゼンテーションからも多くのことを学べた。

プレゼンテーションについて、他の授業であまり行わなかったため、相手に伝わるようにスライドを作ったり、話し方を工夫したり、報告の仕方を学べたと思う。

レポートは書いたが、書き方に関する指導はあまりなかった。

パワーポイントでの発表における様式、評価点などを学ぶ機会が多かった。特に、語り方について多く言及していたことが印象深い。

発表レジュメの作り方を学んだ。

一人ひとり発表の機会があり、実践的に学ぶことができた。

伝え方がわかりやすかった。

質問6. 出欠管理、成績評価基準など教員の学生との対応は適切であった。

明確に説明して下さったので安心して受講できた。

出席を取るときがある時とない時があったため、毎回出席していても、出席となっているか不安であった。

メールで課題を提出できなかつたときに、はっきりと、次提出できなかつたら単位でない、と言ってくれたから気が引き締まった。

出席確認ができず、授業中に直すということがあったので、それがなくなるとよいと思った。

適切であったと思う。

グループ発表だけではなく、通常の講義への参加度（質問をするなど）も成績評価に入れてほしいかったです。

状況に応じて臨機応変に対応されていた。満足である。

出席カードで管理をしていた

講義の最初に出席確認をして、出席に関する単位についてもわかりやすかった。

成績評価の内訳が曖昧であった。

質問7. 希望した科目を選ぶことができた。

第2希望の講義であったが、満足のいく内容であった。

抽選に外れたので仕方ない。

もともと、大学院系の不十分なアナウンス（講義形式不明瞭、急な連絡、担当講師と調整中など）のもと、教育学の単位修得のために悩んだ末履修した。結果的に、とても満足している。

シラバスの内容を読んで難しかいと思ったけど、気楽で授業を受けた。

社会について学べた。

グループで集めた意見が自分のと異なり、自分のしたかった内容と変わってしまった。

質問8. クラスの人数は適切であった。

もっと多くても良いかもしれない。

班の人数が5人で深く話し合うにはちょうどいい人数であった。これが8チームあり、それぞれが様々な多様性について調べて意見を述べてくれたので、たくさんの知識も知ることが出来た。

プレゼン発表が授業日数内に終わったから。

少人数だったので、意見交換もしやすかったです。

もう少し多くても良い

椅子机がもう少し多い教室だとありがたかったです。

全員が2回ずつ発表をする機会があり、良かったです。

特に困ることは無かったが、グループで話し合いをするときに同じ人とグループになることが多かったのもう少し多いといろいろな人と意見交換ができてよいと思う。

グループの人数が多すぎて全員での話し合いが難しかった。

グループの人数差による影響がかなりあった。

質問9. 講義の環境は適切であった。

班での活動なのでオンラインでは厳しい部分もあった。日時を決めて集まる必要が生じた。

コロナの影響で仕方ないのですが、やはり対面実験をもっとやりたかったです。

たまに通信が悪い時がありました。

対面とオンラインの両方の形でやったが、対面のほうがディスカッションしやすかった。

感染状況に応じて、集合とzoomを使い分けていた。最初の講義がzoomであったこともあり、途中からzoomとなっても特に支障なくスムーズに移行できていた。

できれば対面で反応を見ながらの発表がしたかった。

話し合う機会が多く、学校で他の授業を受ける日はこの授業を受講する場所に悩んだので、できれば対面授業にさせていただきたかったです。

対面で受けたらもっと交流が深まるのではないかと思った。

教室のスピーカーとZOOM上の両方に、スライド内に埋め込まれた動画や音源ファイルの音を出力する方法について、マニュアルなどがあれば先生方に配布しておくと思われ。

コロナウイルスの影響でオンライン授業になってしまったが、これは仕方ないことだと思う。

最初のグループ以外zoomでの発表でしたが、対面でやりたかったです。

少し周りがうるさかった

ほとんどオンラインで実施していたため、あまり気にする必要がなかった。

年明けから次第に新型コロナウイルス感染症の勢いが強まったことを考慮すると、対面で授業できなかったことは残念ですが、適切だったと感じます。一方で、授業内での資料共有に手間取る場合があります。

講義を受けやすい環境だったと思う。

質問10. この授業は教員による一方向的な講義ではなく、学生の能動的な学修への参加（例えば、講義内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど）を取り入れた授業（アクティブ・ラーニング）であった。

結晶を個人でことになるが、どのようにすれば目的とする結晶を作ることができるのかをグループで話し合う機会が毎授業あったので良かったと思います。

学生は授業後に講義内容のまとめや自分の意見を書いたレポートを提出するだけで、学生同士で意見を交わす機会が活発であったとは思えない。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の状況下では仕方がないものと感じる。

学生同士で話し合いは出来ていないものの、発言は毎回あり活発な授業だったと思います。

基本的に講義の時間はほとんどが班の話し合いで使うことが出来たので、双方向の授業であった。

実験があった。

後輩にも薦めたい内容だった。

発表する機会を多く設けてくれたため、グループワークが活発でした。学生一人一人が主体的になって授業を行えたと思います。

質問の時間が設けられていたから。

グループワークの重要性を実感できた。学力の樹で、思考力の重要性も論理的に理解した。社会人になってから、座学のものが多い印象。座学とグループワーク、on jobを組み合わせ実践していきたい。

特に講義の前半にあったグループワークでは、グループで何か案を出していく際に気を付けなければいけないことを学び、実践することでその意味と効果を実感できた。

生徒同士の討論や意見交換などのブレイクアウトルームの時間がもう少し欲しかったです。

生徒間での話し合いも活発に行われていた。

時々、チャットでリアクションを求められる回はありました。それ以外は、先生から学生への講義形式でした。

プレゼンテーションが楽しかった。

グループで一つの話題に関する情報を探し出し、発表の準備をしたため、かなり能動的な学修が出来たと思う。

討論の機会が多く、加えて発表もレポート課題もあった。非常に良い講義だったと思う。

学生が自分たちで活動をすることのできる講義であったと感じます。

授業の最後にペアを組んで問題を出し合うという取り組みが良かったと思います。

自分でレジュメを作り、発表し、質疑応答をしながら議論を深めていくという、理系の授業ではあまりない授業方式だったので面白かった。

授業の時間は、議論が中心に進んでいた。

このような機会が非常に多かった。

話し合いの時間がとても多かった。

先生一人当たり、三コマ分の講義があった。しかし、冒頭30分だけ講義をして、残りの時間を班ごとのプレゼンの準備、さらに、残りの二コマをプレゼン発表の時間に先生が居た。これは、少し不満だった。

最後の各々のスライド作成はとても面白かった。個人的に言えば、テーマを見つけるのがとても大変で、作成に関して言えば、かなりの重労働であったが、他の人の話を聞くのはとても興味深く、面白かった。

質問11. 学びのリテラシー (2) に関して、気付いた点、改善すべき点等を自由に書いてください。

コロナ禍なので仕方ないことではあるが、話し合いや発言の多い授業なので対面で行えるとよかったと思う。

基本は対面授業であるから、オンラインで参加している人が減点されるという評価の仕方は良いと思った。そうでなければ誰もが通学しないに決まっている。

学びのリテラシー2は抽選という形式をとった以上、自分が最も望んだ授業を履修できなかった生徒は多いと思います。多少でも、似た範囲の授業を後々展開してほしいです。

グループワーク活動によって、他学部の人たちとさまざまな会話ができるところがとても良いと思います。

対面で議論することと、日本語がとても面白いものだと感じることができた。

前提となる基礎分野をより具体的に明示すると、受講の判断や準備に活かせる。

もう少し話し合いの機会を増やしてほしいです。

講義選択をするときに、対面で行なうか、オンラインで行なうかを記載してほしい

専門に進むと学ぶことが出来ない科目が多く、学びのリテラシー2は非常に魅力的な科目だと感じた。

学生同士で交流ができて楽しかったです。

スライドの作り方などが学べてよかった。

グループ活動で他学部の学生とたくさん話すことができてとても嬉しかったです。

毎回出席していても、出席となっているか不安になるため、出席の取り方を全科目統一してほしいです。

データサイエンスで学んだ内容を根本からの理解に変えることができたためとてもよかったです。また、金融に関する講義を外部講師のかたから実際に聞くことができたため、大変勉強になりました。

学びのリテラシーの希望調査をするときに詳しい授業内容が知りたいから、各講義のシラバスを見れるようにしてほしい。

大学生の意見交換だけで参考書の内容を考察することは困難であり、400文字以上は大変すぎると思った。

もう少し話し合いの場を増やして様々な人の意見を聞いてみたいと思いました。

自分の学びたいテーマを選択し、主体的に学ぶことができる環境だった。

授業によって生徒の負担にかなり差があったので、課題の量などを揃えて貰えたらより他の科目にも時間を裂けたのではと思います。

専門科目では触れぬような内容が学べて楽しかった。

私は今までプログラミングをしたことがないこともあり、授業の進度がはやく、少し難しいなと感じました。グループワークの時間が多く、クラスメイトと話し合いの機会があって良いなと思いました。

ほかの生徒に報告文の批評させることで話す側も聞く側も取り組む際の真剣さが向上したと感じた留学生と交流する機会はありませんので授業の中で交流出来たことでわかりやすい伝え方を学ぶだけでなく、留学生と話すことが出来たといういい経験になりました。

学部別の班編成は少し厳しいです。落ちこぼれの私目線では、才色兼備の医学部生や情報学部生へ質問に抵抗を感じてしまいました。可能であればですが、学科は違えど学部は同じであると個人的にはありがたいです。

討論の機会が多かった点が良かった

ありません。ありがとうございました。

講義の内容は面白いもの、知らないものが多く大変勉強になりました。講義後の課題などの提出物に関する説明をもっと詳しくしてほしいです。

本題目の担当教員はお二方いらっしゃるが、年度で交替するのではなく別の題目として扱うべきだと思った。大別では確かに医療情報に関わる分野であるが、お二方ではご専門の方向性が離れているように感じられる。

人前で発表することへの恐怖感が減った。

偶然にも少人数であったため、丁寧に指導いただけて嬉しかったです。少人数ゆえに、一人一人がアクティブに学ぶことができる幸運な機会に恵まれました。お世話になりました。

第1, 2希望が外れてこの講義になったので不安だった。内容がかなり難しかった。一人では解けない。

分子の構造をグループ分けした点群は、高校の知識の発展でとても面白かったです。

自分の専攻する学問以外の科目を教養として学べたり、自分が所属している学部以外の先生方のご指導を頂けるよい機会であったと思う。

私の興味のある分野を学ぶことができるとても有意義でした。改善すべき点は特にありません。

生徒同士でレポートを作成したり、この講義で学んだことをプレゼンしたりと、様々な活動がありよかった。

レポートの追加課題が多かった。減らしてほしい。また実験の1週間後にヒント出すのはよいと思わない。レポートの提出日と重なると、それ以前にレポートをつくれな。

コロナの影響で実験が少なかったが、内容はとても充実していたので、この講義を受けられてよかった。

実験をたくさんでき、人数が少なかった分色々な人と話したり、関わる事ができたので、この授業を取って良かったです。

コロナ禍で回数は限られましたが実験をたくさん行っていただき楽しむことができました。ありがとうございました。

研究者になるうえで、どのようなことが必要なのか、その一要素を知ることができた。

授業内容がシラバスに書いてある内容だったため、シラバスを見て、本当に自分が学びたい分野を学ぶことができました。

対面での授業も実施してくれてうれしかったです。計4回の発表は、自分の知らなかったことをたくさん学べる機会となりました。この授業のおかげで、「災害」に対する意識が高まりました。ありがとうございました。

ここでは「日本語の歴史と現在」というテーマで授業が進んでいたが、根底にあるものとして文章力や説明力など、今後必要な能力を鍛えようとする意志が感じられた。

自分の考えだけでなく、他の人の考えも多く聞けておもしろかった。

もう少し初心者にも分かりやすい説明をして欲しかった。

生徒少数で授業が行われたので、教師との連絡がしやすかったと思う

グループワークを行う時間が少し短いと感じた。また、同じグループに固定するのではなく多くの学生同士が関われるようグループを変えるのも良いと感じた。

目標とする結晶を育成できた人がほとんどいなかったため、目標が少し高いように感じた。

毎週の講義がとても楽しかったので満足している

もう少し実験室で実験したかった。

オンラインであったからだと思うが、同じクラスのこの会話や討論をする場が少なかったなどは感じた。

グループでの話し合いを進めるごとに作品のクオリティが高くなっていくのを実感した。そこから、話し合いの大切さに気づくことができた。

特にはないです。ありがとうございました。

授業時間のずれなどが生じず、計画通りのスムーズな講義が展開されていた。

対面授業だったのでオンライン授業よりも理解しやすく、専門的な講義が多かったけど将来役に立つであろう授業だったと思います。

火7-8限のものが多い印象があり、そのコマに必修があったため選択肢が減ってしまった。もう少し開講時間をばらけさせ、可能な限り被らないようにすれば選択肢も増えると感じた。

学生の積極性が試されていた点が良かった。

アクティブラーニングということで、他の人がどのように感じたのか、どのような考えを持っているのかを見ることができたため、「このような考え方もあるのだな」と気づくこともあり、良かったと思う。

自分の興味を持つ分野で非常に有意義であった

大切なお知らせや、作品制作上のルール等はメールで送信したり、LMS上に記載して欲しいです。

大学院生として講義に参加して悩んだ部分は、質疑応答等は活発に行えるが学部生主体で実施する機会を奪わないか？という点である。最終的にはそれも学習の一環として自身の役割を理解しながら良い塩梅で過ごせた。

自分の所属している学部とはあまり関係のない分野だったがとても興味深かった

この経験は高学年になって研究をする上で、とても重要になるのではないかと思います。ありがとうございました。

今後の人生において大切なことを学ぶことができました。ありがとうございました。

素晴らしい講義をして下さり、ありがとうございました。

一人一人の意見に丁寧にアドバイスしてくださりありがとうございました。

身近な社会の話題について考えるきっかけになる授業だった。

学生の話合いが中心の授業でした。課題の量も適切でした。

他の学部生との交流ができるようにグループワークが取り入れられていて、コミュニケーションを頻繁に取ることができた。最後のプレゼン発表によって他の人の考え方などを取得することができたので良い機会だった。

難しかったです、対面で行っていただけたので、授業だけは一生懸命聞こうと心がけることができました。

広い意味で「サイエンス」を扱ってくださったおかげで、自由に音についての実験をすることができました。

会計学がどのようなものであるのか少し理解することができた。

自分の学びたい分野をより深く学習できる点が良かった。

2週間で1分野ということもあり、内容としてもかなり盛沢山だったと感じた。様々な分野に触れることができ、貴重な経験になった。分野を1つに絞り、もっと多くの時間をかけて深める研究もしてみたいと感じた。

この授業の形式はとても良いと思います。

自分で設定したテーマについて学びを深め、プレゼンする経験は楽しくもあり、自分の表現のスキルを高めるのに役立った。

コロナが流行してきたら、対策をしてくれて助かった。

実験を通して、楽しみながら学ぶことができました。

虫を捕まえたのは小学校ぶり、虫自体をまじまじと見る機会がなかったのでとても新鮮な経験ができた。

虫を捕まえて名前を調べる活動を通して虫への苦手意識が改善され、今までは虫に遭遇するとできるだけ距離をとっていたが、最近は何目か考える余裕ができた。この講義を受講してよかった。

実際に参画センターへ行くなど社会と実際につながる場面が多く、自分が学んだ男女参画についてより理解することができました。

任意の時間外学習がある科目は、その参加の有無がどの程度成績に影響するのか予めわかると良いと思います。分からなかったのが、遠距離通学(群馬県外から)だと、そういった科目は選びにくかったです。

能動的に学修に参加することができて、深い学びとなりました。ありがとうございました。

普段の生活では留学生と交流する場面がないので、新鮮な環境で授業を受けることができた。

PowerPointを使ったプレゼンが後半の授業の主な活動だったが、活動を通してポロノイ図やポストの最適配置などさまざまな数学的なことから地理的なことに帰結させる活動が行えた。

私は唯一のオンライン授業で受けていましたが、先生はほんとにたくさんの工夫をしてくれました。ほんとに感謝します。ありがとうございました。

講義として聴いていてもとても面白かったけれど、教養教育科目と分ける必要があるのかあまり分からなかった。

生徒がレジュメ・書記の役割を分担し、主体となってディスカッションを進める形式が取られていました。従って『生徒が作り上げる講義』が重要視された講義であると感じ、非常に有意義な時間になりました。

レポートの書き方やプレゼンテーションの仕方についてきちんと指導があったため、書き方やプレゼンの進め方を修得できた。また、学生による討論を中心とした授業になっていてよかった。

グループで役割分担し、協力し合い、多くの討論を行えた点が良かった。

自分の成長につながる良い授業であった

先に述べたとおり、教室のスピーカーとZOOM上の両方に、スライド内に埋め込まれた動画や音源ファイルの音を出力する方法について、マニュアルなどがあれば先生方に配布しておくと思われ。

グループ発表はこれからも続けてほしい。とても楽しい発表会だった。また、自由な発表を行えるのも良かった。

前回の講義の内容が少し入っていることが多く、関連付けて学べたのが良かったと思う。

講義ありがとうございました。これからも多くの留学生と交流する機会を得られる授業として行ってほしいと思いました。

計二回のグループワークでグループのメンバー両方同じだったので、メンバーを変えていろいろな人とコミュニケーションをとる機会を作っても良かったと思う。

身の回りの化学は私にとってあたりの科目だと感じました。授業の内容は主に生徒のプレゼンテーションでオンラインではなく対面でできたならよかったのになと思いました。

ディスカッションの時間を取ってくださって、その時間は自分の意見を言えるようになるとともに他の学生と交流を深めることのできる貴重な時間だなと感じました。

日本語について、身近なものほど知らないことは多いということに気づきました。

相手にわかりやすく説明する難しさ

半年間ありがとうございました。

虫を採集して提出という今まで経験したことのない講義であったため、新鮮でありとても楽しかった。

無断で授業を欠席したり、授業を真面目に受けていない生徒がいるように感じた。

他の学部の人とも意見交換をできたことが良かったと思う。

適切な人数で学ぶことができたと思う。オンラインであったが、グループ活動では上手く情報共有をして進めることができた。

講義を通して、他学部の学生との交流ができたことが良かったです。

アクティブラーニングが良い経験になり、学んだ分野に対する関心が深まったので良かったです。

すごく楽しかったです！ありがとうございました。

輪読資料をプレゼン形式で発表するのは面白かったです。しかし、範囲ごとに十分理解できていないと感じる部分がありました。授業の終わりごとに、軽く説明があるとそういった問題が生じづらくなると思いました。

対面で実施していただき良かったです。

コロナ禍で対面授業がほとんどない中、ゼミ方式だったため、他の学生とのコミュニケーションをとれるのがとても大学の授業という感じがしてよかった。

他学部の学生ともディスカッションができて、自分の考えを伝えたり相手の意見を聞くことで日本語の仕組みについての理解を深めることができてよかった。

自分の学びたい分野を選択できて良かった。

生徒同士で考え合って議論を進めることができていたのでよかった。

毎回の授業で、確認問題を出してくれていたのも、内容の理解がより付加められ、良かった。

今回ZOOMを用いての講義でしたが、特に学生間でのコミュニケーションは対面の方がとりやすいのではないかと思います。

主体的に考える講義だったのでとても実りあるものになった。

教授側からの話が興味深いものばかりで、討議が活発になった。

グループの分け方をもう少し考えた方がいいと思う。

とても楽しかったです。

とても楽しく学習できた

ディスカッション形式の授業で、コミュニケーション能力・プレゼン能力・ダイバーシティに関する知識などを習得することができました。ただ、もう少し毎授業の方針を明確にしてくれると嬉しかったです。

連絡するのが遅いときがあったので遅かったら連絡が欲しかったです。

他の学部の人たちとも交流できて、さまざまな意見を聞いて学べることも多くあったのでとても満足しています。また、男性と女性で意見が違った部分もあり、参考になりました。

今回は指定されたウェブページ作成であったが自由なウェブページ作成をやってみたいと思った。

グループで活発に意見交換を行うことができ、先生ともコミュニケーションを積極的にとることができたと思う。そういった雰囲気があり、良かったと思う。

オンライン授業も併用しながらではあったが、とても能動的に活動できた。また、他学部とのグループワークはとても刺激的で、非常に良かったと思う。

令和3年度 前期授業評価「データ・サイエンス」集計表

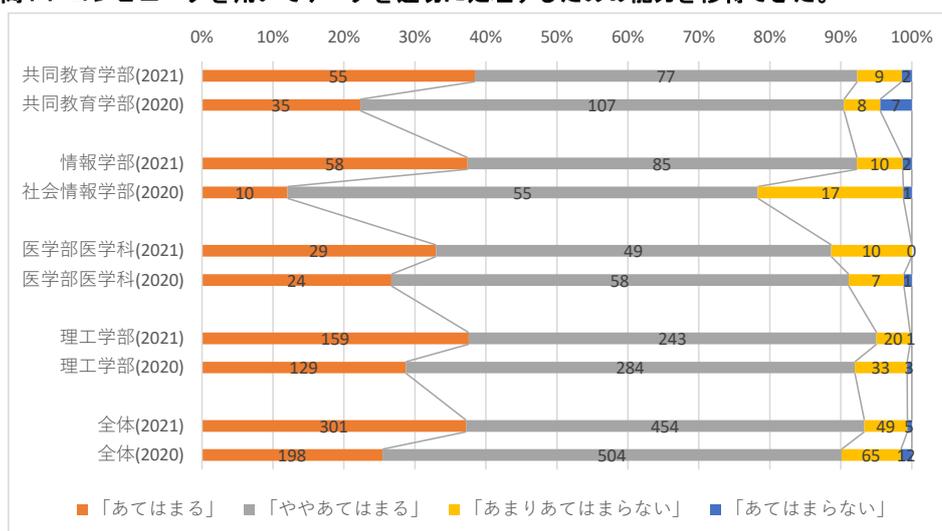
※保健学科は後期開講のため未実施

区分	年度	対象者数	提出者数	回収率 (%)
共同教育学部	2021	205	143	69.8
	2020	(203)	(157)	(77.3)
情報学部	2021	187	155	82.9
	2020	(102)	(83)	(81.4)
医学部 医学科	2021	108	88	81.5
	2020	(112)	(90)	(80.4)
理工学部	2021	515	423	82.1
	2020	(552)	(449)	(81.3)
合 計	2021	1,015	809	79.7
	2020	(969)	(779)	(80.4)

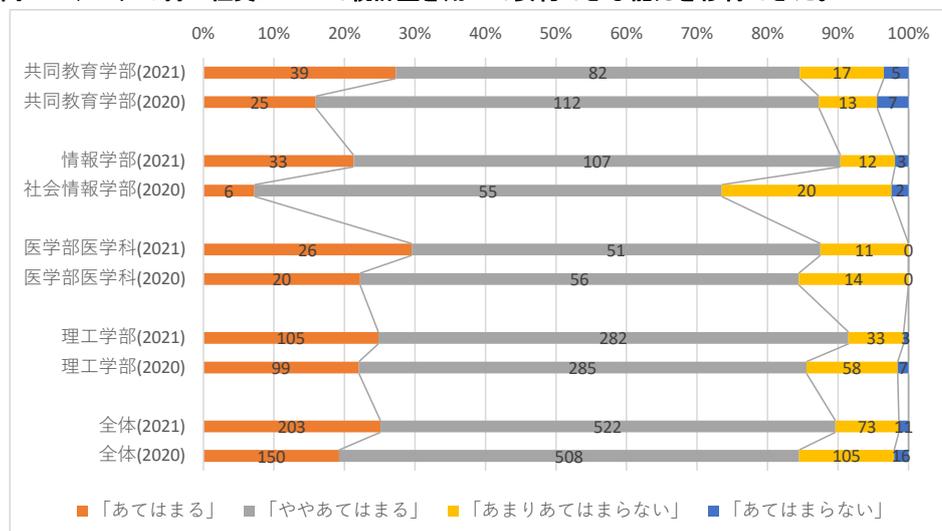
※ ()は昨年度の結果

※評価基準 1「あてはまる」2「ややあてはまる」3「あまりあてはまらない」4「あてはまらない」

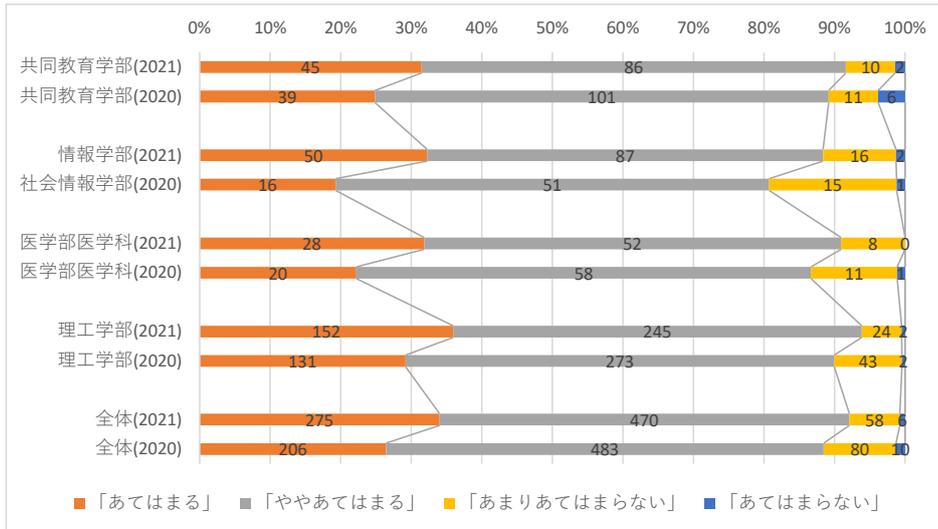
質問1. コンピュータを用いてデータを適切に処理するための能力を修得できた。



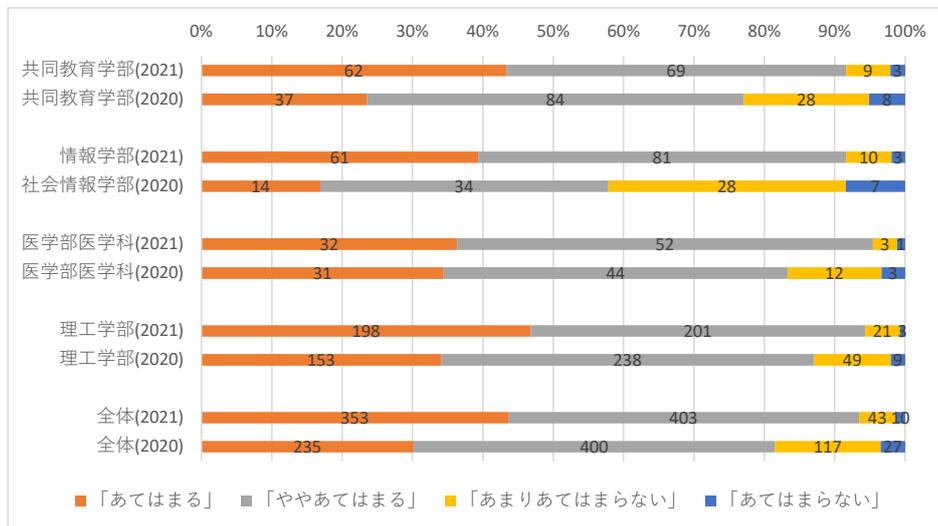
質問2. データの持つ性質について統計量を用いて要約できる能力を修得できた。



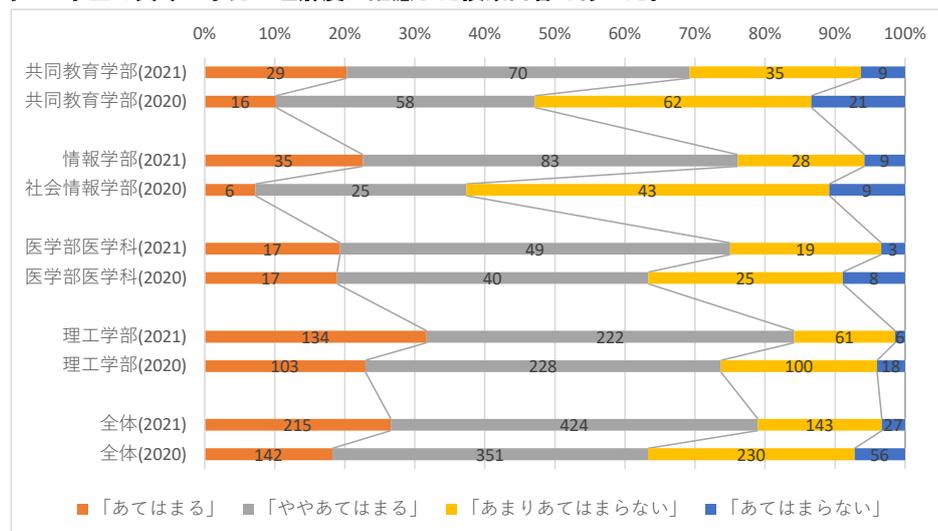
質問3. データ処理のためのコンピュータやソフトの操作を身につけることができた。



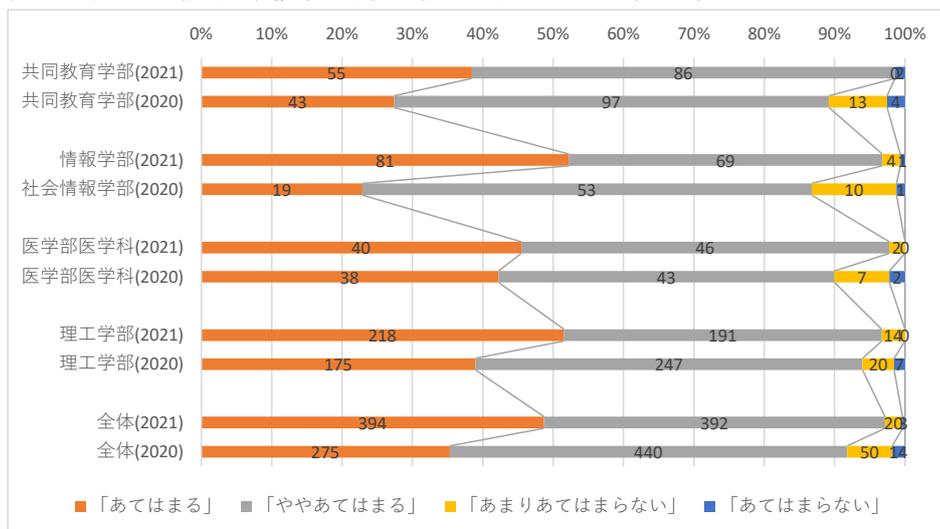
質問4. 授業内容の構成は適切であった。



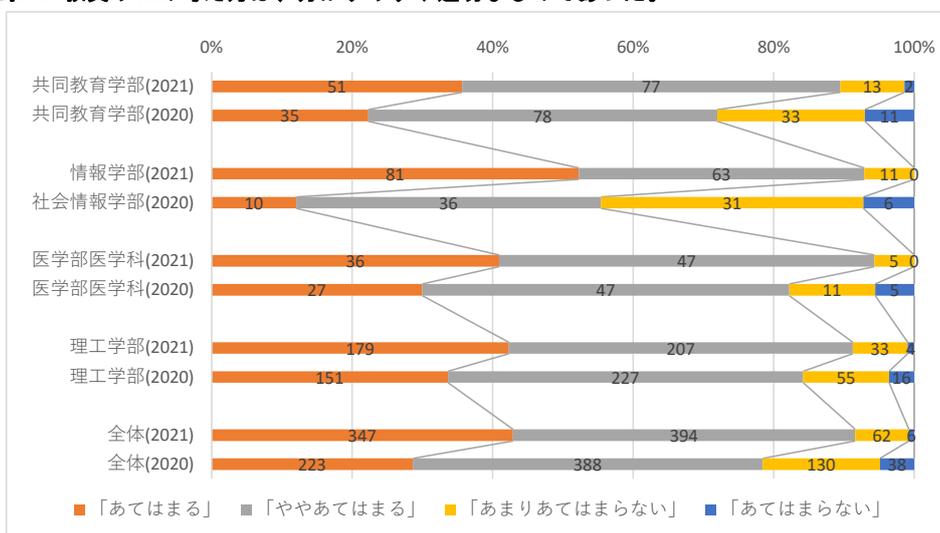
質問5. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。



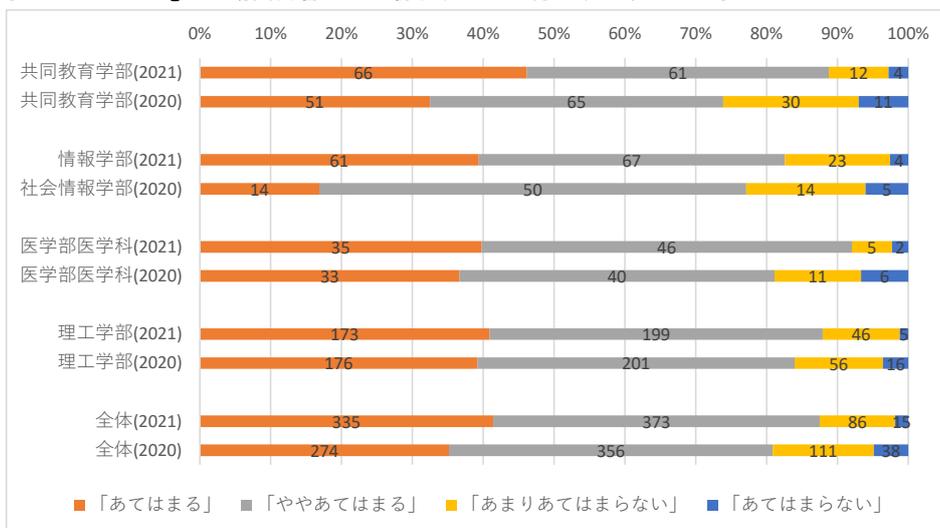
質問6. シラバスの記述は、授業の進行に沿った適切なものであった。



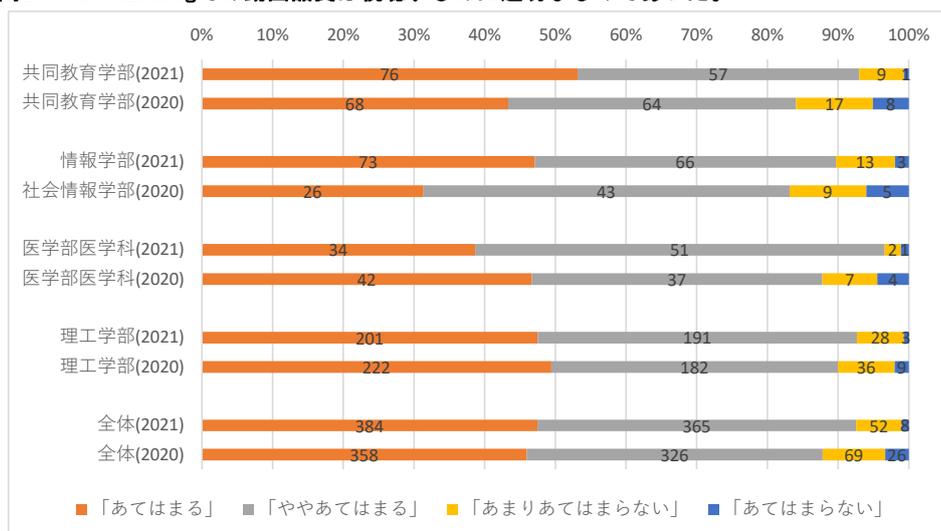
質問7. 教員やTAの考え方は、分かりやすく適切なものであった。



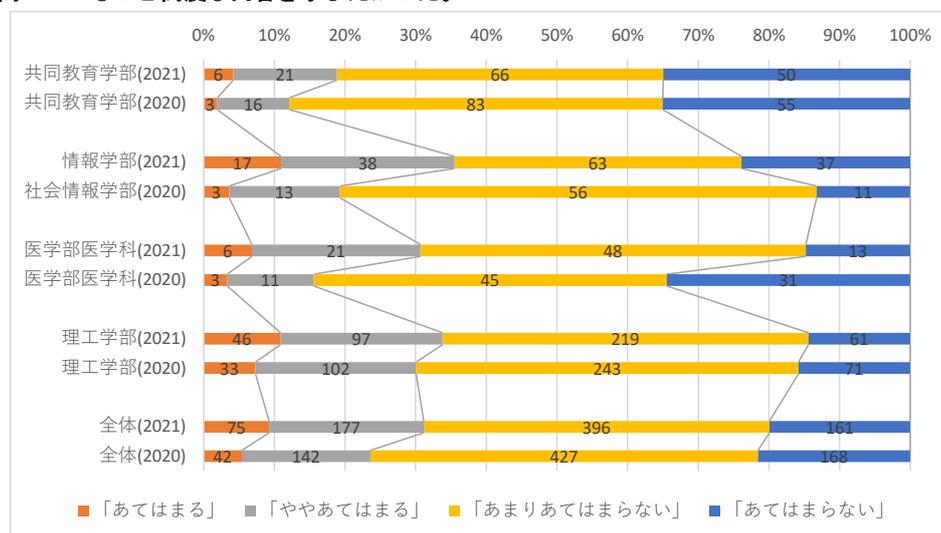
質問8. e-learningでの動画内容はよく練られていて分かりやすかった。



質問9. e-learningでの動画品質は視聴するのに適切なものであった。



質問10. もっと高度な内容を学びたかった。



情報の授業に関して、気付いた点、改善すべき点等を自由に書いてください。

質問1. コンピュータを用いてデータを適切に処理するための能力を修得できた。

エクセルはUIが優れていないので学習意欲が削がれた。
知識は付いたと思うので、これから実践していくことで能力が付いていくと思う。
スライドが見やすく、理解しやすかった。
説明が分りづらい部分がありました
データの抽出や整理、関数の使い方、グラフ・図・表の作り方など、今まであまり馴染みがなかったことを学習できました。
最終課題の取り組み方の説明をもっと丁寧にしてほしかったです。
最終課題の前に膨大なデータの扱い方を教えてほしかったです。
先生の話は分かりやすかったがオンラインの為サクサク次に進むため途中からついていけなくなったから。
高校で学んだ内容と重なる部分があったため良い復習になった。
日本語が聞きづらくて何を喋っているのかほとんど理解できなかった。
説明がわかりやすく整理されていてよかった。
エクセルを扱うのが初めてであったが、講義中の説明が丁寧で分かりやすかったため、正しく知識を身に付けることが出来た。
講義後や講義中にエクセルを用いた演習や、問題を解くため、非常に能力を育成できました。
Excelを含め様々な知識を取得できたと感じる。
いつも使っていないといずれ忘れてしまいそうだったと思った。
とても役に立ち重要なことだとは思っている。
教え方が丁寧でしっかりと基礎から身についたと思う。
特にエクセルについての処理を学ぶことができた。

質問2. データの持つ性質について統計量を用いて要約できる能力を修得できた。

この質問文が理解できないほどには、能力がついていないのだと思う。
スライドが見やすく、理解しやすかった。
データの取り出しやフィルター、ピボットテーブルを活用する方法を身につけられました。
対面ではなかったため、理解度が低い。
データの量が多くなってきて混乱する部分もあったが、うまく対処することができた。
Excelを使った方法は今まで知らなかったため将来役に立つと思った。
演習や講義によって実践的な力を身につけることができました。
演習問題等を通して、身につけることができたと思う。
難しかったがまあまあ身についたと思う
まだまだ慣れてないのでうっすらとした知識です。
この分野についてより詳しい説明が欲しかった。

質問3. データ処理のためのコンピュータやソフトの操作を身につけることができた。

自分一人では操作できない。
エクセルで様々な関数の扱い方が分かったので良かった。
コンピュータの操作方法をもっと詳しく講義でやるべきではないかと感じた。
オンラインばかりだったので実習はあまりなかったために、できるようになったとは思わない。
前述したようにExcelの様々な使い方を学習することができました。
Excelの基本的な使い方を習得できた。
先生の話は分かりやすかったがオンラインの為サクサク次に進むため途中からついていけなくなった、でもついていけた部分はものに出来たから。
エクセルなどの使い方の知識が全くなかったため、授業で基本的なことから学習することができ、よかった。
オンラインで直接せずに勉強するのは難しいと思います。
Excelの様々な関数の使い方を学ぶことができた。
エクセルの使い方がよくわかった。
実際にExcelを使うことで実践的な実力を身につけることができた。
配布された動画を視聴し、詳しい操作等身につけられたと感じる。
ふだんつかわないと忘れてしまいそうです。
エクセルが前よりも使えるようになりました。

主にExcelやその計算式の使い方について学ぶことが出来た

質問4. 授業内容の構成は適切であった。

途中からオンデマンドになったので授業が受けやすかった。

ほとんどは問題に感じませんでしたが、最終レポートの提示日に対して、締め切りが早すぎる気がしてしまいました。提示日をもう少し早くしていただけるとありがたかったです。

スライドの中の語彙が難しすぎと思います。

基礎的なところから順番に教えていただけて良かったです。

高校の復習から発展まで順序良く授業が進められていた。

非常に良かったと思います。

対面・オンラインの2種があり良い内容だったと感じる。

それほどまでに重要な内容だと承知しているが、情報倫理の内容は他科目の内容と重複している。

説明の順序がごたつく場面がかなりあったように感じました。改善していただけたらと思います。

人間の先生の授業を受けたかった。

質問5. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

少し早いと感じる場面があった。

進むのが早すぎて追いつけなかった

最終課題が野球で統一されているのはよくないと思う。

説明が早いところがあったので、生徒の反応を確認してやれば良かったと思う。

私自身がパソコンが苦手ということもあり、授業についていくのが難しく、ややペースが速いと感じました。

説明のスピードが速い気がしました。しかし、質問に対して丁寧に対応してくださるので、スピードは大きな問題には感じませんでした。

データについては社会に出てから必要になるため、良い学びになった。

最終演習で急激にレベルが上がったように感じました

オンライン授業が多かったため、学生の理解度を確認しながら、講義を進めていくことが困難に感じた。

一方的な説明だったのでメモを取り切れない時があった。また、内容が難しいところはわかりにくくなっていった。

後半は授業を録画として残してくださったため、テストを解きながらわからない部分は何度も見返すことができました。

これから特に必要とする内容中心だったため、興味のある内容が多かった。

野球に関してあまり知らなかった。

時間が限られている中、必要とされていることが決まっているためあれくらいの難易度になってしまうのはしょうがないことかとは思ふ。

とても充実していたが私にとって最終課題がとても重く感じた。もう少し詳しい説明が欲しいと感じた。

途中で作業を間違えるとそこから講義についていけなくなってしまうことがあった。

最終課題が授業範囲を超えている。ピボットテーブルなど習っていない。

データ統計で野球に関する内容にするのは理解にかなりの個人差が出ると思います。ならどうするかと言われても代案は特にないのであくまで感想です。

プログラミングの授業の難易度が高かった。

理解が難しい部分があった。質問がしにくかった。

質問 6. シラバスの記述は、授業の進行に沿った適切なものであった。

適切でした。

シラバスに沿っていたと思います。

シラバスどなりに授業が進められていた。

シラバスを見ていなかったです。

ほぼ予定通り進行していた感じる。

LMSや教務システムなどいろいろなところに進行が書いてあり理解しやすかったです。

質問7. 教員やTAの考え方は、分かりやすく適切なものであった。

早口になって聞き取れないときがあるのでゆったりと講義してほしかったです。

説明が早いところがあった。

もう少しゆっくり授業を進めてほしかったです。

前述したように説明スピードだけが気になりました。しかしそれ以外には全く問題はありませんでした。

もう少しゆっくり、順序をわかりやすく話してもらえるとありがたかったです。

クラスによって最終課題についての説明が違って戸惑った。
毎回丁寧に教えていただき、授業の補足説明があったため、理解しやすかったです。
話の進む速さがちょうど良く実際に作業しながら講義を聞くことができた。
少しおどおどした教員もいた
先生が授業を進めるのが早すぎる。一つのp c でzoom見ながらExcelやらをやるのが大変だった。止まってほしかったり、戻ってほしくても先に進みすぎて、どこまで戻ってもらえばいいかわからなかった。
最終課題の説明が不十分であると感じた。
どんどん進んで、ついて行けない。
途中、かなり生徒個人の事前知識に影響される内容のテストがあった覚えがあります。授業を受けて努力すれば点が取れるテストがよかったです。
親切に教えていただきました。
分からないところが存在したら質問しやすい環境であったため、良かったと感じる。
分かりやすかったです。
最終課題の時、先生によって与えられる情報が違って不公平だと思った。(やり方のヒントをおしえてもらっていたりして)
エクセルを使用した講義の時は、もう少しゆっくと説明してほしいです。
最終課題の説明がわかりづらかった。

質問8. e-learningでの動画内容はよく練られていて分かりやすかった。

無必要に言い回しが複雑だったり、学習事項の本質的意義が明快に示されていないと、理解の妨げとなる部分が目立った。
講義動画を見ても問題が分からなかったりしたのでもう少し分かりやすいのが良いと思いました。
見やすかった。
必要なことがしっかり説明されていました。
要点を押さえた良い資料だった。
機械音声をもう少し軽減して欲しい。
もっと簡単に説明したらいいと思います
説明だけでなく例題も組み込まれていて分かりやすい動画だった。
とても分かりやすかった。機械音声が聞きやすい声質、速度だった。
最高の教材だった。他の作品もあるならやりたい。
特に重要だったところ等は、繰り返し行われていて良かったと感じる。
e-learning用のスライドを参照すれば事足りるのではないかと感じた。スライドを読み上げる動画ではなくそれを十分に補足する内容にすべきだと感じた。
各回の動画について、分かりやすく特に問題はなかったと思う。ただ、後半については少しわかりにくかった。
良く練られていて分かりやすいはずのものであるが、自分の理解力不足のせいで完全な理解には及んでいないのが残念である。
関数の操作の練習ももっと詳しく教えて欲しい
スライドに沿って機会が喋っているだけで、あまり有用性を感じなかった
内容はわかりやすかったけど、サイトページが見つらいという印象を受けました。

質問9. e-learningでの動画品質は視聴するのに適切なものであった。

人工音声の読み上げ速度が遅く、聞き取りづらかったが、任意の速度に調整できたのでよかった。
良く作られていて見やすかった。
前述したように、必要なことがしっかり説明されていました。
動画が自分に合った速度で視聴できるため、退屈することなく視聴できた。
時々音が飛んだ時があったが内容理解はきちんとできた。
動画と配布資料があり、良かったと思う。
動画を視聴しようとしたところ、途中で何度か止まってしまう、視聴を諦めたものがありました。自分の家のネット環境が悪かった可能性も考えられますが、念の為ご確認ください。
キーボードの矢印は反応するが○秒飛ばしできないので復習する際に少々不便であった。

質問10. もっと高度な内容を学びたかった。

医学科などでは、jsfiddleを用いてhtmlやcssにも触れていたようだ。情報学部としても、一年次から触れる機会を設けるべきだと感じた。

基本的なところを理解できたので十分な授業内容だった。

今回の授業でさえついていくのが難しかったです。

今回のレベルが丁度いいと感じます。

むしろ高度すぎる内容を学んでいる気がしました。

充足な内容の授業だった。

私はあまりエクセルやプログラミングに詳しくなかったため、十分な内容でした。

高校で学んだデータについて忘れていた部分があったため、ちょうど良い授業の難易度であった。

十分に高度だと感じた。

ちょうど良い内容だったと思う。

私にとっては十分高度な内容でした。

個人的には、ちょうどよい内容であった。

高校での情報の授業よりも高度なことが学べたため、私には身の丈に合っていると感じました。

十分な内容であった。

これ以上の内容であったら、全てが中途半端になってしまうように感じた。

プログラミングについて、少し物足りなかった。

初学者の私にとっては十分高度な内容であった。

パワーポイントの正しい使い方や知識を学びたいと思いました。

ちょうど良かったと思っています。

質問11. データサイエンスの授業に関して、気付いた点、改善すべき点、オンライン授業に関する感想等を自由に書いてください。

物理実験などでレポートを書くとき、エクセルで関数を使い計算するので、さまざまな数量について知ることができて大変役に立った。

自分的には、授業の進行が早かったので予習をすることが大切であることに気づいた

オンライン授業でも、e-learningを通してしっかりと学習することができました。

エクセルの使い方を学ぶことができてよかったです。

分かりやすかった

大学生になり生まれて初めて自分だけのPCをもったためExcelなど全く扱えなかったが今授業を通して最低限の技能を身につけられたと思う。

高校の時よりも詳しくexcelの使い方を学べたのでよかった。

Excelのより高度な使い方を学べたので、これからに生かせそうだ。

演習問題が文章が日本語的に間違っているところが散見されたので、修正していただけるとわかりやすかった。

オンデマンド式の授業形式のおかげでわからないところがあったら何度でも見直しができる良かったです。

すべてオンライン授業でも良かったと感じました。

とてもわかりやすい授業でした。

毎回の課題で、膨大な表データを打ち込まなくてはいけなかったり、データの差し替えに気づきづらかったりと、本質的でない箇所での労力を強いている点は是正されるべきである。

習ったことだけでは解けない問題を出題しないでほしい。

出席必要でなく演習をすれば良いという方法は画期的でとてもよかった

excelのみを扱うことに関して不満を感じた。また後半の関数系に関しては、簡潔にまとめられるように感じた。

先生が優しく授業も分かりやすく、授業の意欲がわきました。ありがとうございました。

大学生になってから本格的にパソコンを使い始めたので、わからないことばかりでした。しかし、授業スピードも適切で、説明も丁寧だったため、とても助かりました。

エクセル関数がスライドに書かれたものをコピペしただけだったので習得できていないと思う

ある時間にzoomで質問する時間を聞てほしいと感じた。

大学生になって初めてエクセルに触れたので最初は非常に苦手意識を持って授業に参加していたが、操作の慣れない中授業速度が速く、先生の操作に後れを取らないよう必死だった。

パソコンの難しさを痛感する講義内容であった。後半は講義が無くて正直言って楽であったが、難しい内容を独学で学ぶことの大変さはとんでもなかった。データサイエンスも対面でやるべきだったと思う。

オンライン授業だからこそ、パソコン操作はわかりやすく伝わると思った。

エクセルの使い方が理解できた。

データや情報について専門性が高い授業でした。後半の授業の内容がかなり難しかったです。しかし、前半授業のエクセルの使い方の授業は特にためになりました。
授業後に解く問題は、問題文がわかりづらいものがあった。
もう少しプログラミングについて触れてみたかったと思う。
高校では全然やらなかったことをやったので難しく感じました。オンライン授業に関しては、受講する分には簡単だが、分からないところが聞きにくいのでメリットとデメリットがあって甲乙がつけがたいと思います。
オンラインでも何も問題ありませんでした。
授業内で解説があるため自分も実践しながら出来るため、理解が深まった。
Moodleの演習問題で、正解を入力したが点数に反映されなかった
講義動画がわかりやすかった。
エクセルを使った計算方法を定着させることができたので良かったです。
今までの情報の授業では扱わなかった内容だったので新鮮さがあり楽しかったです。これからの時代とても必要になる力なので、もう少し時間をかけたほうがいい気もしました。
最初の何回かの授業は対面であったが、コロナウイルスの蔓延によってほとんどオンライン授業になってしまったことは残念でした。データサイエンスのよってエクセルの知識がついたことはよかったです。
私は機械音痴なので、一人で課題を進めるのは少し大変だった。しかし、これからできなければいけないことなので、しっかり覚えられるようにしようと思う。
後半のオンライン授業における教え方がとても丁寧でよかった。
オンデマンドを利用した配信がもっと増えるといいと思う
オンライン化によって、コンピューターが苦手な私はきつかった。本当に苦手な人向けにプログラムを構成してほしいと思った。苦手な人のために、事前申し込みで5人まで対面で可などの配慮があったら良かった。
エクセルを使った授業についていくのが大変だった。そのおかげでエクセルを得意にならなければという思いになった。担当の先生がとても丁寧に教えてくださり、理解を深めることができました。演習に関しても、学生のスピードに合わせてくださり、しっかりと学ぶことができました。
最終課題の量が比較的多いと感じました。他の教科との兼ね合いもあるので、個人的には、最終課題は数週間前から手をつけはじめることのできる状態でお願いたかったです。
学部ごとに将来実用的な能力を身に付けたい
基本的なことをじっくりと教えてくれるので、授業に遅れることなくスムーズに進めることができました。
最終課題の解説をもう少しわかりやすく丁寧にさせていただけると理解しやすく課題に取り組むと思いました。
張さんの授業のスピードが速すぎて、パソコン操作が苦手な私は、授業に全然ついていけなかった。
毎週データサイエンスの授業が楽しみでした
もう少しゆっくり説明してほしいと思った。
エクセルの使い方を学べた
エクセル操作がとても難しかった
実践的にエクセル計算が学べるので、定着しやすかったです。
エクセルの使い方は最初は全くわからなかったですがこの授業を通して学ぶことが出来てとても良かったです。
zoomだと難しいかもしれないが、生徒の進行具合を見たらうえて先の説明に行きたいと感じた。先生の操作が早かったので追いつかず、焦った場面があった。スライドや動画は分かりやすくてよかった。
データ・サイエンスの授業を通してさまざまな機能を使いこなすことができ、これから役立つことも沢山学ぶことができました。ありがとうございました。
コンピュータの操作方法は人によって得意不得意が大きく、かつやったことのある人と全く経験のない人に差があると感じたので、クラス分けが配慮されてもいいのではないかと思った。
データの処理の仕方を一通り学ぶことができたので講義を受けて非常に良かったと思いました。
基本的なexcelの使い方やデータの扱い方からしっかりと学べて良かったです。
最後の課題の野球はマニアックすぎでは？まずは野球のルールから学ばなくてはならない……もっと他のデータにして欲しい。
excel画面を開きながらzoomで画面を見て説明を受けるのがやりづらかったです。また、進むスピードが速系感じました
コロナだから仕方ないと思うが、演習のようなものももっとあると楽しいと思った。
オンデマンドのため、自分の空いた時間に好きに見ることが出来たため、休日にやって、平日を楽にするといった個人個人の作戦がとれてよかった。Excelを使った取り組みは将来もつかえるので、為になった。
時々先生のExcelが止まって授業が止まる。授業を配信しながらなので、パソコンが重たくなって固まってしまうのは仕方がないことだと思う。授業はわかりやすくて簡単に理解できた。
教員と学生の間で緊張感があり学生の反応が鈍かったので積極的に学生が反応できるようにアイスブレイクなどをして緊張感をほぐすことが必要だと思う。

一度だけe-learningの解答におかしなところがあったため改善してほしい。
最終課題についてです。ソフトバンクがクラス分担から取り除かれた理由はありましたが、なぜ阪神タイガースに関しては何もないのでしょうか。理由を知りたいです。
期末課題が授業のレベルと全く合っていない。四則演算を身につけたばかりの小学生に微分積分の課題を出すようなものだ。講義の内容だけでは不十分過ぎる。早急に対応して欲しい。
対面で行った時はよかったです。
授業の重要な内容は高校の時点で学んでいるため、復習になる内容もあったが、全体を通して良かった。ただ、エクセルの授業はあまり積極的・意欲的に取り組めなかった。オンラインでなく対面で実施して欲しい。
e-learningでの講義は自分のペースで進めることができるのでとても良かった。
初めてのエクセルでわからないところがたくさんあったが、なんとかできたと思う。
ある程度コンピューターについて学ぶことが出来て良かったと思う。
学生の間での交流がもう少しほしかった。
私は素晴らしいと感じたので、特にありません。
オンライン授業になってから自分のペースで学ぶことができた
Excelの基礎知識を学習できました。また身近なネットワークの仕組みや、コンピューターの仕組みも教えていただきました。今まで頻繁に使うことが無かった知識なのでこの講義で学習出来て良かったです。
Excelを使ってデータを分析する方法などがわかってよかった。
先生がカタコトで早口だったので、ついていくのが大変だった。早口を指摘してもあまり治らなかった。
私は理解に時間がかかることが多いので、e-learningで何度も復習できるのが良かったです。
膨大なデータ量から適切なデータを抽出するのが非常に難しく、時間のかかるものだった。
データに関して初心者には難しかったのかなとおもう。課題とかは、もう少し同じ課題にした方がお互いにいいと思う。
最終課題のレポート課題についてですが、教科に関係ないスポーツの知識の有無で課題の難易度に差が出るようなものは公平性にかけてるのではないかと思います。
データサイエンスの授業を受けたことで、エクセルを使い方を身につけることができました。データ処理は社会人になってからも役に立つと思うので、今のうちからエクセルを使いこなせるようになりたいです。
かなり専門的な内容で難しいので、授業進度は多少遅くても、よりしっかりと講義されると良いと思った。
その授業に教わったことを実技的な課題にするのではなく「このような課題を出します」といった指針を示しておいて、次の週にその授業で教わった内容の課題に取り組んだ方が長期的に記憶に残るのではないかと思います。
1回目の講義で大学内のネットのつなぎ方を教えて欲しかった。2回目の講義で説明されたができればはじめに知りたかった。
最終課題としてデータ分析を行うことはいいと思うが、講義内容よりも格段にレベルが上がっていること、また生徒によって基礎知識に差がある課題内容（野球の場合何を安打とするのか等）だと少し不公平ではと感じる。
途中のE-learningの時の課題が難しいときがあったがそのときに質問をする機会があるのがよいと思った
Word,Excel,PowerPointの上手な使い方を教えてほしかった。
先生ごとにそれぞれで授業のスライドを作成して欲しかった。「僕、ここは違うと思うんだけどね」とスライドを見て仰っている先生がいたので、戸惑った。
高校までで習った分野からその応用まで幅広く学ぶことができてよかったです。基本的に個人での取り組みが多かったため、グループを通しての活動を行うとより様々な成長が得られるのではないかと思います。
Excelの扱いが思ったより難しかった
難しく感じた部分もあったので、操作を教授が実際にやりながら教えた方が分かりやすいではないかと思いました。
excelの便利さを再確認できた。
Excelを初めに使う際、パソコンについてなにも知らなかったためOfficeのダウンロードの仕方が分からず戸惑った。なのでパソコンについてより初歩的なことも含めて教えて欲しかった。
オンラインでも全く問題なく授業に取り組むことができた。
この授業を受けて、パソコンスキルを大幅に上げることができました。また、情報管理などのことも知れたので、学んだことをしっかりと覚えておきたいです。
普段の課題と最終課題の難易度の差が大きかったため改善してもらいたい。
データの処理に関する講義はしっかりと行うべきだと感じた。LMSにあげられている資料だけでは何を言っているか全くわからない。
授業の資料や動画を見ることができるようになっていてよかった。オンラインでもわかりやすく教えてくださり、よかった。
楽しい授業をしていただきありがとうございました。
もともとコンピュータでの作業が苦手なのですぐにできるわけではないけれど、この授業で教えていただいたことを活かしたいと思いました。

最終課題が、授業の内容に沿ったものではなかったと思う
e-learningでおこなう講義よりも、実際に教授が講義を行う方が良いと感じます。
大学に入って本格的にパソコンを使い始めたので、授業内容は非常に難しく感じた。しかし、時間をかけて学習すれば理解できる内容であったため苦労はしたが、内容を大体は理解することが出来たと思う。
エクセルや、コンピュータの知識がかなり身についたのでよかった。
やり方を細かく教えていただけなので、取り組みやすいです。
最終課題が難しく時間がかなりかかる。
Excelの使い方を学べて良かった。
知らなかった専門的なことまで学べてよかったです。
もともとパソコンを使うのがメインの授業なので、オンラインでも対面でもそれほど変わらないと思った。
とても良い授業だったと思います。しかし、パソコンが苦手な私にとっては少し難しいと感じました。先生の教えは丁寧でとても理解しやすかったです。
後半の方の問題を受ける形式の時に動画などでも説明されていないが少しわかりにくいような問題がごくまれにありました。直接ではなくても説明してくれると良いかと思います。
オンライン講義や対面授業を混ぜていたため、混乱するものであったが、大学に行く機会があまりなかった私にとっては良い授業であった。
オンライン授業はかなりやりやすく、快適でした。
オンラインでも十分にエクセル等の使い方を学ぶことができたのでよかった。
Excelの使い方についてもう少し詳しく教えてほしかった。
コンピューターの使い方もっとも学んだほうが良いと思います。
オンライン授業の授業動画があると、個々人が自分のペースで理解を深められるから良いと思った。
先生方が生徒の質問に対して丁寧に御回答下さる為、生徒に沿った講義になっていると感じました。またオンデマンド期間もズームを行ってくださっていたのがよかったです。
パソコンの知識が皆無だった私にとっては非常に高度な授業でした。特にデータ処理は本当に難しかったです。
最終レポートの自由課題を作る意図を知りたかった。
最終課題の内容については、人によっては野球の基礎知識から学ばなければならず、苦勞する人もいるなど個人差が出やすいのもっとたくさんの人に認知されているような内容でも良いのではないかと感じた。
私自身の問題であるが、説明を受けた日から少し日が経過した後と同じことをしようとすると混乱が生じたためプライベートでも触れた方が良かった。
最終課題のデータ件数が非常に多かったのでエクセルが頻繁にクラッシュしてしまった。内容もかなり難しく、自身の未熟さを知った。
最初は講師の方の説明が速すぎて、作業についていくのが精一杯だった。オンラインだとわからないところがあっても聞きにくい不便だと感じた。
オンライン授業でも先生が分かりやすく説明をしてくださったので、コンピューターの正しい使い方を身につけることができました。後半の動画での授業内容も分かりやすく、とても役に立ちました。
パソコン、またその使い方の知識に乏しいので、難しいところもあった。
データの扱いに慣れない学生にとっては課題の難易度が高く、機械のトラブルも考慮すると期限までに提出することは困難だった。手順が整理されて示されているようなものを提示してもらえるとよりよかったと思う。
最終課題の容量が重すぎてスムーズに課題に取り組みなかった。ほぼ全球団のデータは流石に重すぎる
自分は今まであまりデータ・サイエンスを学んだことがなく、知識も浅かったので少し高度な内容だと感じた。理解度に応じて行う内容のレベルを調整できるようになってほしいと思った。
先生によって差がでるのではないかと少し思いました。
オンライン授業だとコンピュータ操作が分からない時に質問しづらかった。
野球について全く知らなかったので最終課題には困りましたが、野球について知るいい機会になったと思います。
オンラインだがりやすかった。
Excelなどは苦手意識があったのだが、先生と一緒に進めていくという感じで授業が進んだのでとても取り組みやすかった。
クラスによっては最終課題のヒントが与えられているようですが、課題の点数に大きく差が生まれてしまうので止めて欲しいです。学生全体にヒントを与えるなら話は別ですが。
文系にとっては少し難しく感じる時もあったけど、必要な知識は学べたので良かったです。
説明が早いので聞き逃すと大変だった。
質問できる場が設けられているとはいえ、Excelに非常に苦手意識があるため正直何が分からないのかもわからない状態でした。先生と同時進行でやるなどの授業の仕方だと有難かったです。
動画内の解説をもう少し分かりやすくして欲しかったです。

最終課題の容量が大きく、いろいろと大変だった。
最終課題で習ってもいない作業をさせられたため困惑しました。もっと最終課題をする際に有用な内容を事前に教えていただきたかったです。今までの授業内容と最終課題とのレベルの乖離がひどいと思いました。
少しわかりづらかったです。先生との意思疎通がうまく出来なかったのもう少し詳しく質問に答えて欲しかったです。
現在私は、MOSの勉強をしているが、あまり授業でやったことがない作業ばかりだった。もう少し踏み込んだテクニックも身につけたかった。とても授業は丁寧で分かりやすかった。
こちらの問題だと思いますが、オンライン授業をパソコンで受けていたため、途中で作業などを行うときにzoom画面が見づらかったり、作業しづらかったりしました。
エクセルでの操作の説明で先生が生徒達ができるか毎回聞きながら進めていたので進むスピードがちょうど良かったです。
データサイエンスの授業はとてもわかりやすかったです。
この授業は全体を通してとても楽しかった。まだエクセルなどでできない部分は多く残るけれど、新しいことをたくさん知ることができてよかった。
最終課題において、クラスごとに教える内容は統一してほしいと感じた。
エクセルの使い方や、コンピューターネットワークのことなど、細かいこともしっかり学べたので良かったです。
オンライン講義の時の説明が早くほとんどついていけなかった。学生は、zoomとExcelの二つを開いた状態で受講するのでそこに配慮してほしいかった。
コンピューターを扱うのはとても難しいなと思った。
自分の力で計算やグラフを作成する力が身についたと思う。
エクセルに関して苦手意識があったが、この講義のおかげでその意識がなくなった。
個人的には、エクセルを使う授業で、ズームの画面と自分のエクセルの画面を隣り合わせにして、説明を聞きながら実際にやってみることができたので、オンラインで有り難かったと感じた。
最終課題を行う際に、以前の授業内容を残していただいたので、きちんと取り組めてよかったです。内容の理解も深まりました。
動画視聴によるオンラインでの授業は、自分がわからないところは何度も自分のペースで振り返ることができ私はやりやすいと感じた。
最終課題含め、生徒の事前知識にかなり影響される授業だと思いました。質問しやすい環境が良かったので、対面が良かったです。
オンラインだったため友達や先生に分からないところを質問することができなかったのが辛かったです。パソコンの使い方に慣れていない学生にはオンライン授業はかなり負担が大きいのと感じました。
改善点は特に見受けられなかった。
データサイエンスは途中から個人の動画視聴による学習だったが、効率的に学べたと思う。オンライン授業ということではあったが、本授業を通して得たものは多く、ネットに不慣れな私にはとてもありがたい内容だった。
最終課題について授業でやり方を教えてくれるクラスと教えてくれないクラスがあり、課題進行に偏りが出た気がしました。
一学期の間、お世話になりました。ありがとうございました。
音声付きの動画が分かりやすくよかったです。
最終課題の難易度が高かった
今まで学んだことの復習が多かったが、その中でもまだやり残していたことがあったので、これからの生活に活かしていきたいと思う。
この授業のおかげで、パソコンの使い方を学ぶことが出来ました。
インターネットの使い方から、エクセルの使用法まで、情報分野における様々なことを学ぶことができました。非常に自分にとっていい学びになりました。これを機にもっと学びたいです。ありがとうございました。
データの分析を理解すると、最終課題の様な膨大なデータも簡単に分析できることがわかった。
データ処理に関する基礎を学ぶことができたため、良かったと感じる。
オンライン授業で周りの人にも疑問を聞きづらく、分からない箇所をそのままにしてしまうことが多かったので、できる限り対面授業にしてほしいと思います。
大変お世話になりました。ありがとうございました。
オンライン授業の授業動画を群馬大学LMSに残してもらえたところが、復習ができたのでありがたかった。
私はパソコンが非常に苦手で、最底辺レベルの人に寄り添っている内容、課題だとは思いませんでした。もっと生徒の声を聴けるような授業形態にさせていただきたいと強く思います。
新しくパソコンを買い、ワードやエクセルの使い方に慣れていなかったのが、データサイエンスで学べてよかった。
話すのが早かったけど、後で動画をあげてくれるのはありがたかった

私は本当にパソコンが苦手なため、先生の説明では理解が追いつかないことがありました。その点については、あとから授業動画や補足の説明をまとめて出してくださったため、助かりました。
入学当初はパソコンを使うことに不安でしたが、データ・サイエンスを通してパソコンに慣れる事ができて良かったです。もっと様々な知識を習得して、より速くパソコンを使えるようになりたいです。
最終課題の説明がクラスごととに違いすぎる。わからない体で生徒に説明されても分からない。困る
映像授業がわかりやすかった。
前半は対面授業でしたが、その中のエクセルを使わない講義はオンライン授業でもよかったと思います。
高校であまり情報の授業が濃くなかったため、この前期の講義で学ぶことが多々あり、とても有意義なものとなった。
最終課題は少し負担が大きかったが、全体的に興味深い内容だった。簡単なプログラミングも学ぶことができてよかったと思う。
e-learningの形式の授業が思った以上に良かった。
ためになった
パソコンの画面が1個なのでズームとエクセルを交代交代で動かしていたので、そのときは授業のスピードが速かったなとかんじました。ありがとうございました。、
エクセルを詳しく学べたことはとてもよかった。
少し課題が難しい印象を受けた。
ありがとうございました。ここで得たスキルをこれからも向上させていきたいと思います。
最後の課題が急に難しくなったので、かなり時間がかかりました。
最終課題にかなり手こずりました。もっと自分でも練習してエクセルを使いこなせるようになりたいなと思いました。
普段の演習と最終演習とのレベルの差が大きすぎると感じた。
前半の対面で行った講義は対面でやる必要があるのか少々疑問であった。生徒間のコミュニケーションが求められる内容ではないのに。
もっと高度なデータ処理の仕方を学びかったです。
対面で講義を受けながらデータを実際に処理する授業がよかった
オンラインだとなかなか授業に集中できない。オンデマンドの授業もしっかり見る気になれなかったのでやめるべきだと思いました。
Excelの基本的な利用方法や関数の使い方などこれから役立つスキルを身につけることができとてもよい機会となった。
先生の説明が丁寧だったので、最終課題をやる際にも、どうすればいいかわからないということもなく進めることができました。
高校まででは習わないような役に立つ知識を身につけることが出来て今後のためになるよい授業だった。各自でeラーニングを使って学習するスタイルは確実に理解しないと解けない問題も多々あり大変良かったと思う。
前半部分を対面、後半部分をオンラインで行ったが、分けなくてもよいのではないかと思います。
コンピューターの仕組みやデータに関する基礎を学ぶことができた。
オンライン授業でコミュニケーションが難しい中、教え方が非常に丁寧で良かったと思います。
Zoomを使いながらExcelを使うと画面が見ずらくなって、少しやりづらかった。
全体的に非常に難しかった授業だと思いました。
課題の問いが途中で切れていたり、意味のある日本語になっていなかったりしていた。また質問箱に質問を入力できなかった。
最終課題が少し難しかった。
パソコンについて大学から学び始めたので、詳しい授業を受けることができ満足しています。
エクセルを使用した講義の際に、ついていけなくなってしまうことが多々ありました。可能であれば、最後の講義のように毎回の講義で講義動画をもう一度視聴できるようにしてほしいです。
この科目は非常に大切だと思う。私はコンピューターの使い方はあまり得意ないので、この科目は非常に役に立つだと私は思う。
授業進度がはやいように感じた。
最終課題の難易度が少し高いように感じた。もう少し難易度を低くしても良いような気がする。
後半からの動画を視聴しテストに答えるという授業形態は、とてもやりやすく、自分ペースで内容を理解しテストに取り組めたのでワードやエクセルの知識がより深めることが出来たと思います。
私はExcel等の操作になれておらず難しいことも多かったが、丁寧な指導で分かりやすかったです。
インターネットサービスの仕組みなど、かなり専門的な内容も学ぶことができたので良かった。オンライン授業に不満はなかった。
Excel等のより本格的な使い方を学ぶことができた。対面授業の方が質問しやすかったとは思いますが、オンラインでも十分技能を習得できたと思う。

データエンジニアリングとビジネスマインドの部分も幅広く触れてほしかった。最終課題は作業量がただただ多いだけであつた。
オンラインだったので、作業の同時進行がやりやすかつたです。
授業ごとの的確な指示で説明されていて、わかりやすかつた。自分が操作を誤り、操作においていかれた場合が大変なのではないかと思つた。
最終レポートについては、簡単なやり方を最初に教えてくださらないと、かなり難しいと思つました。
データ処理に関する知識を学べたので、今後excelを使う上で有意義な講義ばかりだつたと思う。
難しかつたが十分ついていける内容であつた上、オンラインでもわかりやすかつた。
思つていたよりもExcelの使い方が難しかつたですが授業で幾らかの操作方法などを学び少し出来るようになりました。データサイエンスだけではありませんがオンラインなので質問しづらかつた気がします。
エクセルについて学ぶことができた点は良かつたが、zoomの画面とエクセルの画面を同時に開いて作業することが困難だつた。
何も知識のなかつた私でも理解できるようなわかりやすい授業だつた。苦手意識がなくなつた。
スライドを見ながらきちんと学べば技術を身に付けられる、実践的で充実した授業でした。特に改善すべき点は無いと思つます。
課題のデータを開くのに時間がかかつたことが気になつた。
基礎的なところからの学びだつたので、理解しやすく進捗も丁度良かつたです。
後半のデータの扱いなどは、動画を見て勉強するものですが、動画なしで先生が説明してもいいのではないかと思つました。
オンラインでの授業は先生へ意思が伝えにくく授業でおいてかれてしまつたことがあつたが、授業動画を見返すことで復習をすることが出来たので良かつた。
Excelとzoom画面を両方見ながらExcelを操作すると、Excel画面上でボタンが省略され、指定された操作をするのに時間がかかり、授業に遅れることになる
とても楽しかつた。
授業の資料を配布して頂けたので、復習がしやすく良かつたです。
動画を観て、自分のペースで学習出来ることは良かつた。
基本的に自分がエクセルを使ったデータの読み取りや表計算などに弱いので、最終課題が少し難しかつた。しかし、能力を自力で身につけ、実践演習を行うという意味では役に立つたと思う。
大学に入り初めてパソコンを扱い、最初はわからないことばかりことだらけでしたがエクセルなどの社会に出てもおそらく使うソフトを勉強できたので良かつたです。
りんりん姫はわかりやすく良かつた
習つたことが具体的にどう活かされるのかが上手く学べなかつたと感じた。
オンラインでの授業では説明と同時進行で作業を進めることは困難だつた。
Excelの使い方について詳しく説明していただくところが良かつた。
授業はとても面白く、先生方も面白い方ばかりで授業をとても楽しむことができました。ありがとうございました。すみません、最終課題の提出をすっかり忘れておりました。
e-learningの動画がわかりやすく学習しやすかつた。
もっと復習すればよかつた。
後半は私にとってはなかなか高難度な内容だつたが、良い経験が得られたと思う。理系の学生になつたような気分がして楽しかつた。excelの基本的な関数をわかりやすい説明で習得できた。
データサイエンスの最終課題の説明をもう少し詳しくしてもらいたかつた。しかしそのおかげで課題解決のためにいろいろな方法を試すことができたのでその点ではよかつた。
今後必要になってくる知識の基礎を身に付けることができたと思う。今回の学びをさらに発展させ、情報社会の中で生きていけるようにしたいと思う。
わかりやすい説明で最終課題も何とか仕上げる事ができたので良かつたと思つます。
データの分析について理解することができました。
Excelは表やグラフなどをより見やすくしたり、整理したりして、様々な作業を時短するために利用していると思うので、もっと時短のテクニックを加えて教えてほしかった。
パソコン関係の知識が全くない状態だつたので、一年生の初めにこのような授業ができてとても役立ちました。特に最終課題では、初めて大きなデータを扱い、良い経験になりました。
授業内容は難しかつたが、先生の教え方がわかりやすく助かつた。最終課題はなんとかクリアできたので良かつた。疑問点を質問しやすく、この講義は対面よりオンラインの方が適していると思う。

資料 4

令和3年度 後期授業評価「データ・サイエンス」集計表

区分	年度	対象者数	提出者数	回収率 (%)
医学部保健学科	2021	162	103	63.6
	2020	(162)	(136)	(84.0)

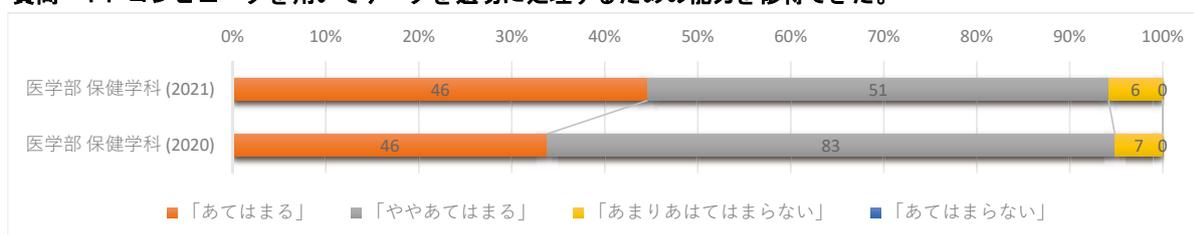
※ ()は昨年度の結果

※ 医学部保健学科以外は、前期開講済

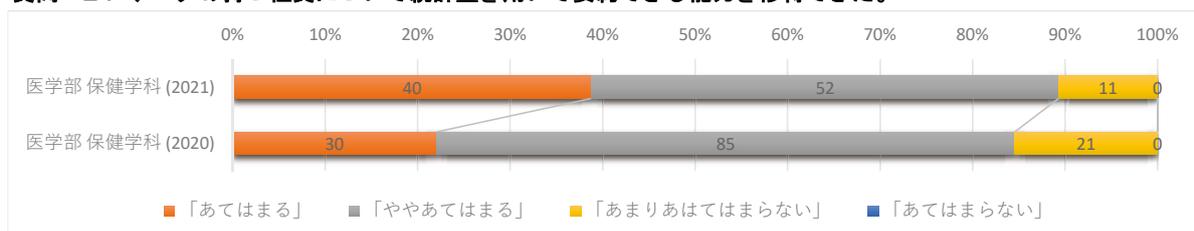
※ 評価基準 1「あてはまる」2「ややあてはまる」3「あまりあてはまらない」4「あてはまらない」

あなたが本年度受講した「情報」の授業についてお尋ねします。

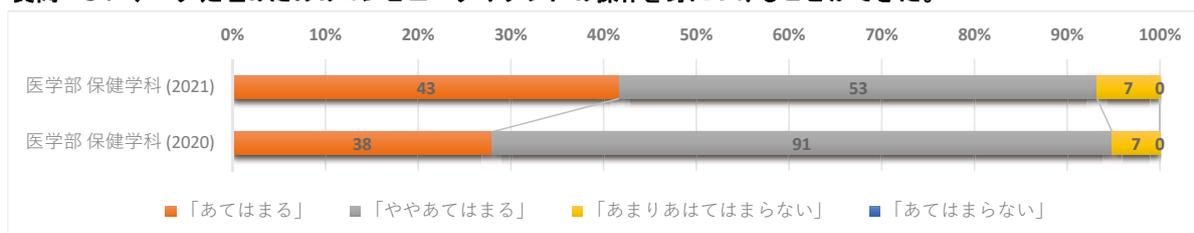
質問 1. コンピュータを用いてデータを適切に処理するための能力を修得できた。



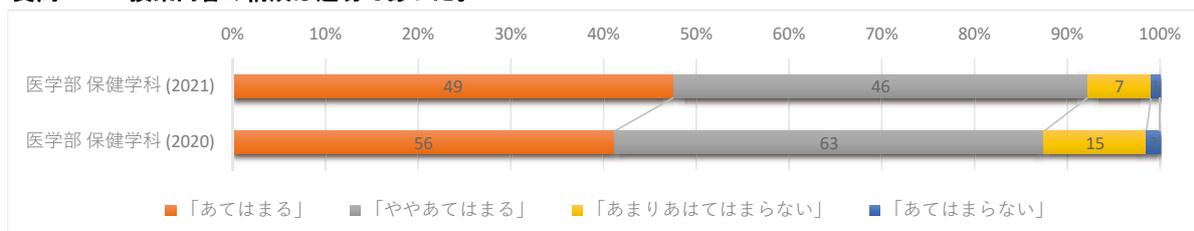
質問 2. データの持つ性質について統計量を用いて要約できる能力を修得できた。



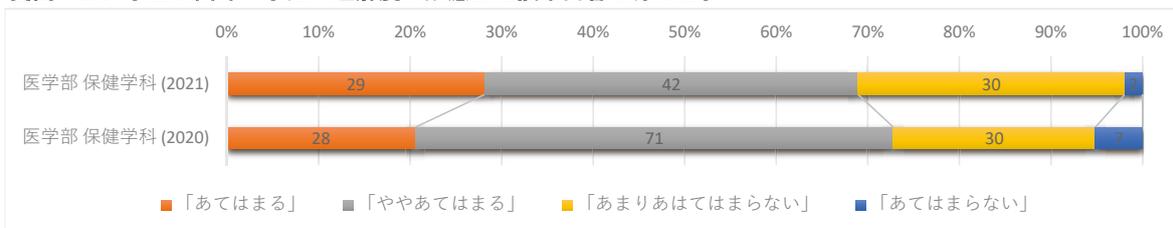
質問 3. データ処理のためのコンピュータやソフトの操作を身につけることができた。



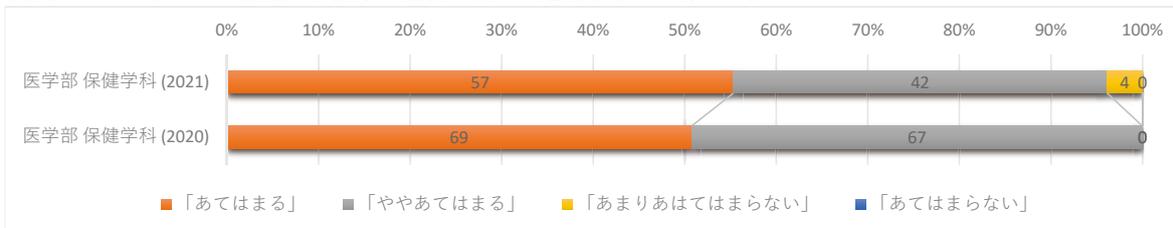
質問 4. 授業内容の構成は適切であった。



質問 5. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。



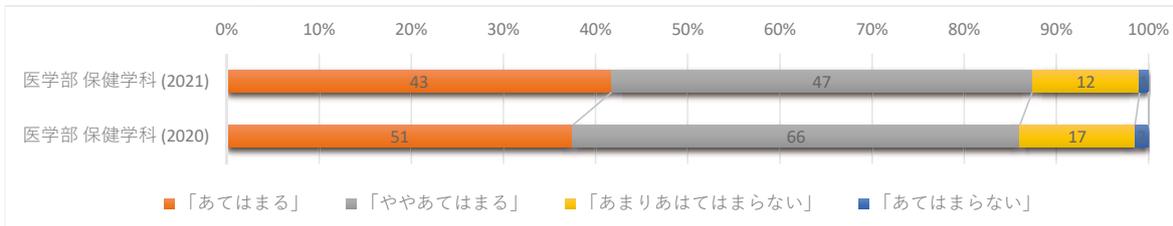
質問 6. シラバスの記述は、授業の進行に沿った適切なものであった。



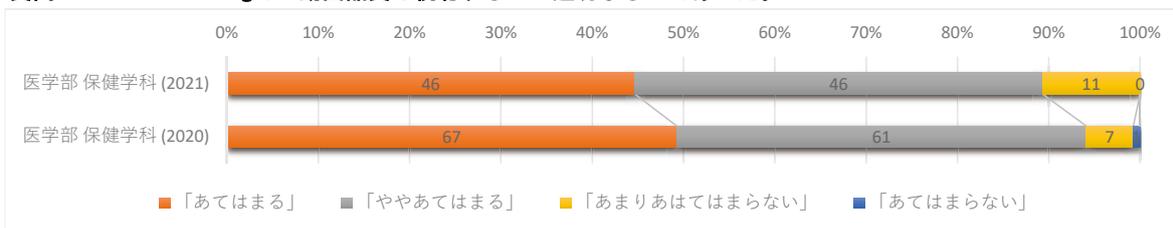
質問 7. 教員やT Aの教え方は分かりやすく適切なものであった。



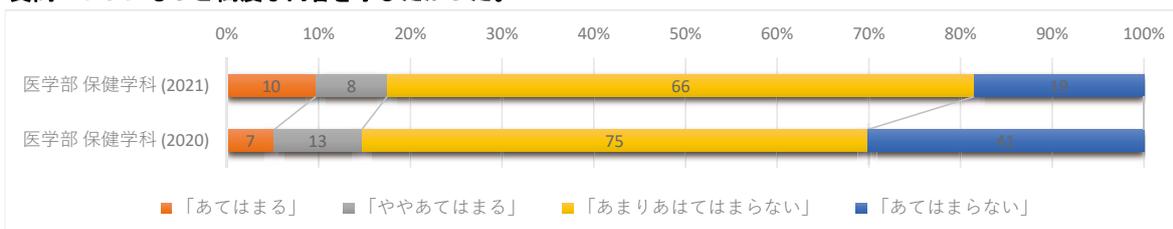
質問 8. e-learningでの動画内容はよく練られていて分かりやすかった。



質問 9. e-learningでの動画品質は視聴するのに適切なものであった。



質問 10. もっと高度な内容を学びたかった。



【自由記載】情報の授業に関して、気付いた点、改善すべき点等を自由にご書いてください。

質問1. コンピュータを用いてデータを適切に処理するための能力を修得できた。

(回答なし)

質問2. データの持つ性質について統計量を用いて要約できる能力を修得できた。

(回答なし)

質問3. データ処理のためのコンピュータやソフトの操作を身につけることができた。

(回答なし)

質問4. 授業内容の構成は適切であった。

図書館の説明はオンラインで良かったと思う。

講義よりも、その講義内容を使った演習を増やしてほしい。

質問5. 学生の興味・学力・理解度に配慮した授業内容であった。

教員の説明が速すぎるのではないかと感じています

はやかった。

野球のデータを分析する意味が理解できない。ルールがわからない人が大半であるのが現実である。

授業はほぼ資料内容をAIが読み上げている動画を流しているだけであったため、もっと先生の言葉での説明や演習を行ってほしいと感じた。

質問6. シラバスの記述は、授業の進行に沿った適切なものであった。

(回答なし)

質問7. 教員やTAの教え方は分かりやすく適切なものであった。

最終レポートで他のグループと教え方、指示の丁寧さにおいて、差異がありすぎた。自身のグループでは、最終レポートでの具体的なExcel操作方法は全く教えられず、学生に丸投げと言う感じであった。

教えて頂いているという感覚はなかった。動画を見ただけ。

質問8. e-learningでの動画内容はよく練られていて分かりやすかった。

(回答なし)

質問9. e-learningでの動画品質は視聴するのに適切なものであった。

自宅で再生しようとする、途切れ途切れになってしまい使用しづらかった。自宅の環境の問題かもしれないが、他の動画視聴で問題はなかった。

質問10. もっと高度な内容を学びたかった。

(回答なし)

質問11. データ・サイエンスの授業に関して、気付いた点、改善すべき点、オンライン授業に関する感想等を自由にご書いてください。

知らないことがたくさん学べてよかった。実用的な知識が多くて興味が湧いた。

難しくついていけない部分も多くあったが、友達に聞いたり協力し合いながらできた。

前半は講義を聴くだけであったのに対面、後半はExcel実習が主であったのにオンラインだったので逆の方がいいと思います。

流れが早くて大変だったが、習得できれば将来何かに役立つスキルではあると思うのでよかった。しかし、習うだけではすぐに忘れてしまうので、要点をまとめたシートなどで演習を進めていく方が身につくと思う。

分からない部分があったら、先生に直接聞くことができ、理解を深めることができ良かったです。オンラインであってもデータ処理や性質に関することについて学ぶことができ、講義の復習用として後から復習できるようになっていたのだから分からないところや復習したいところを復習することができた。

様々な関数を使って計算したり、表を作成したりしたことで、データサイエンスについて興味を持つことができた。

多くのデータを実際に扱うことは初めてだったので、とても難しかったです。教授の説明があったためやり遂げることができました。

全体として、学生のニーズにマッチしておらず、有意義なものに感じられなかった。

直接質問できないオンライン形態も考慮し、具体的かつ丁寧な教え方をしてください。上宮先生の対面での授業は良かったが、その後のオンライン課題は質が悪すぎです。

難しい内容もあったが、コンピュータソフトがより使えるようになって良かったと思った。わからないところを質問したり、友達と相談することを考えると、実際に授業があっても良いのかなと思った。

エクセルの使い方を深く学ぶことができた。今後活用していきたい。

看護のAグループでは、最終課題のやり方の説明についての説明が一切なく、他のグループと同じ評価基準であるのに授業の内容が異なるのはおかしいと思った。改善してほしい。

授業を受けても課題ができない。授業で習ったこと以外の技術が必要であるのに説明されず自力でどうにかしなければならなかった。期末課題で評価をするのはよいが、期末課題ができるような授業をしていただきたい。

講義ありがとうございました。オンライン授業は難しいかなと思いましたが、わかりやすい動画があり、何とか理解することができました。

コンピューター操作が苦手な人にももう少し配慮して講義を考えてほしい。

私のクラスは最終課題のやり方を教えてもらえなかったため、他クラスの生徒よりも時間をかけ、結果的にやり方も異なっていた。このような差があったにもかかわらず成績は同じようにつけられる事は納得がいかない。

授業動画をmoodleなどで復習できるようにして欲しかった。

オンラインで学んだ方が良い回と対面で行った方がわかりやすい回が逆であった。

最終課題が重すぎる

活動が中心の内容はオンライン授業ではなく、対面でやって欲しいなという時がありました。後で授業内容を見直せるようにとLMSに載せて頂いたのがとても助かりました。

エクセルは難しかったけれどできると便利だと思いました。

授業の後にテストをすることで、内容の理解や復習ができて良かった。

とてもいい講義でした。

最終課題が難しかった。

3 学生支援センター

学生支援センターは、学生生活及び就職活動に対する支援、修学に係る相談等を行っている。運営に当たり委員会を置き、各学部等から委員が選出されている。審議内容等は、学生相談、生活支援及び就職支援等である。当該支援業務の事務は、学生支援課が各学部の学生支援担当係と連携を図り行っている。令和3年度の主な支援等の事項は、次のとおりである。

3.1 入学料免除及び徴収猶予

入学料について、学部生においては、特別な事情（学資負担者が1年以内に死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合をいう。）により納入が著しく困難な場合について、また、大学院生、専攻科生においては、経済的理由により納入が困難、かつ、学業優秀と認められる場合又は特別な事情により納入が著しく困難な場合について、修学を支援するため、免除及び徴収猶予を行っている。

また、東日本大震災により罹災したことに伴う経済的理由により納入が著しく困難な場合について、免除を行っている。

3.1.1 免除申請者数、免除者数

令和3年度入学料免除申請者数、免除者数は、次のとおりである（詳細は資料3.1.1のとおり）。

4月1日入学：免除申請者数 243人、免除者数 223人

10月1日入学：免除申請者数 15人、免除者数 15人

3.1.2 徴収猶予申請者数、徴収猶予者数

令和3年度入学料徴収猶予申請者数、徴収猶予者数は、次のとおりである（詳細は資料3.1.2のとおり）。

4月1日入学：徴収猶予申請者数 4人、徴収猶予者数 4人

10月1日入学：徴収猶予申請者数 1人、徴収猶予者数 1人

3.2 授業料免除及び徴収猶予

経済的理由により納入が困難、かつ、学業優秀と認められる学生又は特別な事情（学資負担者が納入期限の6ヶ月以内（入学者については、入学前1年以内。）に死亡又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合をいう。）により納入が著しく困難な場合について、修学を支援するため、免除及び徴収猶予を行っている。

また、東日本大震災により罹災したことに伴う経済的理由により納入が著しく困難な場合について、又は学部生及び大学院に在籍する、成績が特に優秀な学生を対象として、免除を行っている。

3.2.1 免除申請者数、免除者数

令和3年度授業料免除申請者数、免除者数は、次のとおりである（詳細は資料3.2.1のとおり）。

前期：免除申請者数 838人、免除者数 762人

後期：免除申請者数 825人、免除者数 757人

3.2.2 徴収猶予申請者数, 徴収猶予者数

令和3年度授業料徴収猶予申請者, 徴収猶予者数は, 次のとおりである(詳細は資料3.2.2のとおり)。

前期: 徴収猶予申請者数 0人, 徴収猶予者数 0人

後期: 徴収猶予申請者数 0人, 徴収猶予者数 0人

3.3 寄宿料免除

本学では, 学生本人又は学資負担者が風水害等の災害を受け, 納入が著しく困難と認められる場合, 免除を行っている。

3.3.1 免除申請者数, 免除者数

令和3年度寄宿料免除申請者数, 免除者数は, 次のとおりである。

免除申請者数 0人, 免除者数 0人

3.4 奨学金

本学では, 日本学生支援機構の奨学金と地方公共団体や民間奨学団体から本学に募集依頼のあった奨学金を扱っている。これらの奨学金は, いずれも学業・人物ともに優秀であり, かつ健康であって経済的理由により学資の支弁が困難であると認められた者が対象となる。

なお, 日本学生支援機構の奨学金には, 無利子貸与の第一種奨学金と有利子貸与の第二種奨学金と返還不要の給付奨学金があり, 貸与奨学金は, 貸与終了後に返還が必要となる。

3.4.1 日本学生支援機構奨学生数(令和3年10月1日現在)

第一種: 学部生 912人, 大学院生 221人

第二種: 学部生 715人, 大学院生 19人

給付: 学部生 447人, 大学院生 0人

(詳細は資料3.4.1のとおり: 「学部生」には, 専攻科生を含む。)

3.5 学生相談体制及び学生相談

本学は, 次のような学生相談体制を設け, 学生の個人的な問題や悩みごとについての相談に応じている。

3.5.1 学生相談体制

全学の学生を対象に荒牧キャンパスに学生相談室を, また, 理工学部の学生を対象に桐生キャンパスに学生相談室分室を設けて相談に応じている。

3.5.2 主な相談事項

主な相談事項は, 勉学・進路・就職活動, メンタルヘルス, クラブ・サークル活動, 経済的事情・アルバイト, 対人関係についてなどである。

3.5.3 学生相談実態調査アンケートの実施及び活用

令和3年12月現在で在籍している助教以上の専任教員に対して、令和3年1月1日から12月31日までの間に学生から相談のあった内容や各教員の対応について「学生相談実態調査アンケート」を令和4年2月に実施した。

実施方法については、Googleフォームを活用しWeb上で回答を入力してもらい、入力されたデータを用いて報告書にまとめた。

なお、回収率は53.88%であった。

3.6 授業欠席状況調査

欠席状況調査は、授業への受講状況を通して本学学生の学業意欲を調査し、精神面の障害や不健康状態にある者を早期に発見して、面談等により本人へ適切な指導を与えることを目的としている。

3.6.1 授業欠席者数及び主な欠席理由

令和3年度前期欠席者数：48名（詳細は資料3.6.1のとおり）

令和3年度後期欠席者数：27名（詳細は資料3.6.2のとおり）

主な欠席理由：早朝に授業があるため寝坊，精神的な悩み，身体的病気怪我，進路の迷い等

3.6.2 実施方法，時期

1) 実施方法

- ・実施時期は、5月（前期）と11月（後期）の年2回を実施基準月とする。
- ・調査対象は、卒業研究に着手（研究室に所属）しない学部学生とする。
- ・調査科目は、各学部が指定した科目とする。
ただし、1年次は、学部の依頼により大学教育センターが指定した授業科目とする。
- ・調査方法は、調査科目について連続4回の出欠チェックを行う。
- ・集計作業は、各学部担当事務（1年次生は学務部）が行う。
- ・4回のチェックのうち3回以上欠席した者をクラス担任別に集計する。
- ・クラス担任別集計に基づき面接対象一覧と個人ごとの面接票を作成する。
- ・面接票には学籍番号，所属，氏名，住所，電話番号等を記載する。
- ・学部長名（1年次生は学生相談・生活部会長名）で面接対象一覧と面接票を添えて，クラス担任等に対して欠席者の事情聴取を期限内に終了するよう依頼する。

2) クラス担任による欠席者の事情聴取

- ・例年はクラス担任等が対象者を呼び出し，直接面談して聴取するが，令和3年度は，オンライン授業となり学生の入構を制限したため，ZOOM等によるオンライン面談も可とし，欠席理由等を聴取する。
- ・面談により適切な指導を行い，かつ，精神科医の面談の要否を判断し，その内容を面接票に記載して，その都度学部長（1年次生は学務部）に提出する。

3) 医師による欠席者との面談

クラス担任等から学部長（1年次生は学務部）に提出された面接票を，健康支援総合センター医師が確認し，医師の指導が必要であると判断した欠席者と面談を行い，必要なカウンセリング等を行う。

3.7 障害学生への支援

障害のある学生がその能力並びに障害の種別及び程度に応じ、十分な教育を受け、学生生活を送ることができるよう、大学教育・学生支援機構学生支援センターに、障害学生支援室を設置している。

3.7.1 支援内容

群馬大学障害学生修学支援実施要項に基づく修学支援の必要な学生には、個別に障害の種別及び程度に応じた支援内容を明記した「配慮願い」を授業担当教員へ通知している。また、全教員に対して「障害学生支援での一般的な配慮事項」を配付して周知を図っている。

聴覚障害学生には、授業ごとに必要に応じて、UDトークやパソコンテイク、手話通訳等の情報保障を行い、肢体不自由学生には、休憩室の設置、車椅子対応の施設整備、低身長者のための踏み台の設置、介助者による移動介助などの支援を行い、内部障害学生には、講義中のトイレ退席等の配慮、また、発達障害学生には、休憩室の設置、学生支援センター専任教員及び健康支援総合センター医師による面談、履修相談などの支援を行っている。

3.8 学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険

学生教育研究災害傷害保険は、学生が正課，学校行事，学校施設内外における課外活動，学校施設内，通学，学校施設等相互間の移動時に係る全ての傷害に対して補償を行う保険である。

学研災付帯賠償責任保険は、学生が正課，学校行事，インターンシップ，介護等体験活動，教育実習，ボランティア活動等及びその移動時に，他人にけがを負わせたり，他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償する保険である。

本学では，教育研究の円滑な実施のために，入学の際に当該保険に全員が加入することを勧めている。

3.8.1 加入者数

令和3年度の学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険の加入者数は，資料3.8.1のとおりである。

3.8.2 請求種別保険金請求件数

令和3年度の学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険の請求種別保険金請求件数は，資料3.8.2のとおりである。

3.9 通学証明書，旅客運賃割引証

通学証明書は，学生がJR，私鉄，バス等の通学定期券を購入する際に必要となる証明書である。学生旅客運賃割引証は，学生の修学上の経済的負担軽減と学校教育の振興に寄与することを目的としている制度で，片道乗車区間の距離100kmを超える区間を乗車する際に使用することができる。

通学証明書及び学生旅客運賃割引証発行業務については，荒牧地区，昭和地区，桐生地区及び太田地区で証明書自動発行機にて行っている。

3.9.1 発行枚数及び主な発行理由

令和3年度の通学証明書及び学生旅客運賃割引証の発行枚数等は、資料3.9.1のとおりである。

3.10 学生寮

本学には、前橋地区に養心寮、桐生地区に啓真寮の2寮がある。

学生寮は、学生が修学にふさわしい環境において勉学を継続するための住居施設として設けられている。

3.10.1 養心寮入寮者数

令和3年度の養心寮入寮者数（定員は男子74人、女子62人、合計136人、寄宿料月額4,300円）は、延入居者数が1,450人で、入居率は88.8%である。なお、男子部屋数は77室であるが、入居不可室が3室あるため、74室を定員とした。

3.10.2 啓真寮入寮者数

令和3年度の啓真寮入寮者数（定員は男子65人、女子24人、合計89人、寄宿料月額 ワンルーム型25,000円、シェア型15,000円）は、延入居者数が916人で、入居率は85.8%である。

3.11 生活支援施設

本学では、学生生活の利便性を確保し、経済面の支援を図るために荒牧地区、昭和地区及び桐生地区にそれぞれ食堂・売店等を設けており、群馬大学生生活協同組合に委託している。

食堂では食事及び懇親会等を、売店では、書籍、日用品、旅行斡旋等を市価より安く提供している。

3.11.1 食堂

事項・地区	荒牧地区	昭和地区	桐生地区
座席数	447席 (ホール内405席, 外42席)	286席 (ホール内264席, 外22席)	558席 (ホール内438席, 外20席, 桐園100席)
営業時間	11:30 ~ 13:30	11:00 ~ 14:00	11:30 ~ 13:30 桐園 11:30 ~ 13:30
年間営業日数	293日	294日	252日
年間利用者数	33,360人	28,008人	49,537人
提供メニュー数	40以上	20以上	40以上

令和3年度は新型コロナの影響で、縮小しての営業となっています。

3.11.2 売店

事項・地区	荒牧地区	昭和地区	桐生地区
営業時間	10:00 ~ 16:00	10:00 ~ 17:00	10:00 ~ 16:30
年間営業日数	243日	294日	250日
年間利用者数	36,621人	46,845人	36,660人

令和3年度は新型コロナの影響で、縮小しての営業となっています。

3.12 課外活動施設

本学には、荒牧、昭和、桐生の各キャンパスに各種の課外活動施設があり、体育の授業の他、学生の利用に供している。その主な施設については、次のような施設仕様、使用等状況である。

3.12.1 体育施設

○荒牧キャンパス

陸上競技場

陸上競技場は、400メートルトラックである。陸上競技部が主として使用している。

また、トラック内のインフィールドも、やり投げ等の陸上種目の他、多目的な軽スポーツ実施の場として使用している。

サッカー・ラグビー場

サッカー・ラグビー場は、サッカー又はラグビーの公式試合が可能な面積を持っており、サッカー、ラグビー及びフットサル用のゴールが設置してある。また、夜間照明も設置してあり、サッカー部、ラグビー部、アメリカンフットボール部及びフットサルサークルが主として使用している。

テニスコート

テニスコートは、硬式専用コート3面、軟式専用コート3面（いずれもクレーコート）、全天候型コート2面（オムニコート）、両用コート1面（クレーコート（ゴルフ練習施設併設））の9コートがあり、硬式テニス部やソフトテニス部が主として使用している。

また、オムニコートは夜間照明が設置してあり、人工芝のため雨上がりにすぐ使えることもあり、利用率が高い。その反面、人工芝の消耗も激しく、修繕費がかかるのが難点となっている。

野球場

野球場は、天然芝で、夜間照明が設置してある。準硬式野球部、硬式野球部、軟式野球サークル及び医学部準硬式野球部が主として使用している。

プール

プールは、50メートル8コースで、6月から8月まで使用している。水泳部が主として使用している。

第1体育館

第1体育館は、主としてバレーボール、バスケットボールなどに使用し、それぞれ2面使用可能である。バレーボール部、バスケットボール部が主として使用している。

第2体育館

第2体育館は、主としてバドミントン、卓球、体操競技、ダンスなどに使用している。

また、ダンス用の広い面積の鏡や、体操での安全確保用のウレタンを敷き詰めたピットも設けている。バドミントン部、卓球部、体操部、ダンス部が主として使用している。

なお、第1体育館、第2体育館の間にトレーニングルームが併設されている。

武道場

武道場は、剣道用の床面が1面、柔道用の畳面が1面の計2面があり、各種武道で使用

する他、畳面にレスリング用マットを敷き詰めてレスリングをすることも可能である。剣道部、柔道部、空手道部、少林寺拳法部が主として使用している。

弓道場

弓道場は、平成22年度に新営され、公式試合が可能となった。弓道部が主として使用している。

馬場

馬場は、馬術部が使用している。乗馬して練習すると馬場の表面が荒れるため、馬術部学生が馬場の部室に常駐（授業時間及び深夜を除く）し、馬の飼育と馬場の管理を行っている。

なお、飼育している馬は馬術部の所有であり、その餌代は学生が拠出している。

○昭和キャンパス

体育館

体育館は、バレーボール・バスケットボール・バドミントンなどの球技で使用するアリーナと、剣道場・柔道場各1面の武道場があり、武道場の2階は卓球場となっている。

昭和地区では体育の正課授業がないため、学生の課外活動用として、バレーボール部、バスケットボール部、バドミントン部、剣道部、柔道部、卓球部が主として使用している。

弓道場

弓道場は敷地面積が狭隘であるため、荒牧地区と比べると射場の幅は狭くなっている。弓道部が主として使用している。

○桐生キャンパス

菱グラウンド（サッカー・ラグビー場、野球場）

サッカー・ラグビー場は、サッカー及びラグビー用のゴールが設置してあり、サッカー部、ラグビー部及びフットサルサークルが主として使用している。野球場は、天然芝で、硬式野球部が主として使用している。

テニスコート

テニスコートは全天候型コート（オムニコート）が3面あり、硬式テニス部、ソフトテニス部が主として使用している。

また、夜間照明が設置してあり、人工芝のため雨上がりにすぐ使えることもあり、利用率が高い。その反面、人工芝の消耗も激しく、修繕費がかかるのが難点となっている。

プール

プールは、25メートル7コースで、6月から8月まで使用している。水泳部が主として使用している。

体育館

体育館は、1階には剣道用の床面が1面、柔道用の畳面が1面の計2面があり、各種武道で使用している。剣道部、柔道部、空手道部、少林寺拳法部、ダンスサークル、八木節同好会が主として使用している。また、トレーニングルームも併設されている。2階は主として球技用のフロアであり、バスケットボール部、バレーボール部、卓球部、バドミントン部が主として使用している。

弓道場

弓道場は、弓道部が主として使用している。

3.12.2 文化施設

文化施設等は、次のとおりである（荒牧キャンパスのみ）。

ミューズホール

ミューズホールは、大学会館内の多目的ホールで、各種会合、集会等に使用する施設である。

集会室

2室の集会室があり、うち1室は和室である。和室は主として茶道部が使用している。

3.12.3 課外活動共用施設

○荒牧キャンパス

課外活動共用施設は、南北に2棟あり、北棟は主として運動系サークルが、南棟は主として文化系サークルが共同で利用している施設である。北棟は1階、2階ともに8部屋の計16部屋あり、南棟は1階、2階ともに6部屋の計12部屋がある。

北棟1階に運動講義関係の器具庫があり、その他の部屋は部室として使用している。南棟は音楽演奏に向く防音の部屋が1室、写真部用の暗室、学生が各種印刷に利用する印刷室などがある。また、荒牧祭実行委員会もこの課外活動共用施設を中心に活動している。

○昭和キャンパス

課外活動施設は体育館と繋がっており、1階、2階、3階に各6部屋の計18部屋あり、1階には音楽演奏に向く防音の部屋が4室ある。主に文化系クラブ・サークルが利用している。

○桐生キャンパス

課外活動共用施設は、1階に9部屋、2階と3階に各6部屋の計21部屋あり、1階には音楽演奏に向く防音の部屋が1室、写真部用の暗室、学生が各種印刷に利用する印刷室などがある。主に文化系クラブ・サークルの活動場所や運動部の器具庫及び倉庫として利用している。

3.12.4 合宿所

○荒牧キャンパス

4部屋あり、広さは談話室が12畳、1・2号室が計22畳、3号室が14畳、4号室が14畳である。

なお、就寝用具などは学生の持ち込みとなっている。

○桐生キャンパス

4部屋あり、広さは1号室が12畳、2号室が15畳、3・4号室が各6畳である。

関東甲信越大学体育大会などの各種競技大会開催間近には、強化合宿で利用率が非常に高くなる。

なお、各部屋には就寝用具が備えられており、共用の調理場や浴室等も利用できる。

3.13 学生団体及び主な活動

学生団体及び主な活動は、次のとおりである。

3.13.1 学生団体

令和3年度のクラブ・サークルは、資料3.13.1のとおりである。

本学の運動部で対外試合のある種目では、荒牧キャンパスと桐生キャンパスは「4年制大学」の出場枠となり、昭和キャンパスは「6年制大学」の出場枠となるため、同じスポーツ名ではあっても「荒牧・桐生」と「昭和」は別団体、というクラブ・サークルが多い。

3.13.2 大学祭

学生の意識高揚と、広く群馬大学を学外に情報発信することなどを目的とし、大学祭を開催しているが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、荒牧祭（荒牧キャンパス）、群桐祭（桐生キャンパス）は中止となり、医学祭（昭和キャンパス）は隔年開催で非開催の年度であった。

3.13.3 関東甲信越大学体育大会

関東甲信越大学体育大会は、学生スポーツの健全な発達及び普及を図り、併せて相互の親睦に資するため関東甲信越地区13大学（東京地区大学を除く。）が共同で開催している。

令和3年度は、埼玉大学が主管校として、群馬大学、山梨大学、都留文科大学の3大学がそれぞれ以下の種目を担当して実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中止となった。

埼玉大学担当：陸上競技， テニス， バスケットボール， 剣道， 卓球

群馬大学担当：硬式野球， サッカー， ソフトテニス， 水泳， 体操， 柔道

山梨大学・都留文科大学担当：準硬式野球， ラグビー， 弓道， バレーボール， バドミントン， 空手道

3.13.4 クラブ・サークルリーダーシップ研修会

クラブ・サークルリーダーシップ研修会は、クラブ・サークルの新旧リーダー等を対象に、課外活動団体の健全な活動及び発展に寄与させることを目的として毎年行っている。

令和3年度は、自殺予防に関するゲートキーパー研修を以下のとおり実施した。

令和3年5月12日（水）オンライン開催

（研修内容）

- ・講演 ①「うつ状態のチェックポイント紹介」
- ②「自殺予防について」

3.14 研修施設

研修施設として北軽井沢研修所と草津セミナーハウスがある。その概要等は次のとおりである。

3.14.1 北軽井沢研修所

この研修所は、本学の教員及び学生等がセミナー等で利用することを目的に昭和49年に設置された。所在地は、群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢字南木山樋2032-242（北軽井沢大学村1条8丁目）で、敷地面積2,497㎡、建物面積285㎡のC型鋼ビン接合フレーム型2階建の建物となっている。

北軽井沢研修所は、令和4年3月31日（木）をもって利用者の受入れを終了した。

令和3年度延利用者数（新型コロナウイルス感染拡大の影響により受付を停止）

群馬大学所属者	その他	総数
0人	0人	0人

3.14.2 草津セミナーハウス

この施設は、関東甲信越地区国立大学の共同利用合宿研修施設として、教職員及び学生が起居を共にし、相互に研鑽し人間関係を深め、対話や学習を重ねながら教養を高め、自然に親しみ、豊かな人間性を育成することを目的に昭和59年に設置されたが、配管の腐食、壁面のひび割れ等による耐震面での安全性低下及び老朽化により、維持管理が極めて困難となったため、令和2年3月31日をもって営業を終了し、令和3年度に文部科学省へ不用建物工作物撤去費の予算配分を要求し認められ、撤去された。

3.15 学生の就職支援

荒牧キャンパスに全学生が利用可能な進路指導室としてキャリアサポート室を設置している。学生自身の適性や志向を見定め、明確な目的意識を持たせ、社会や仕事、働くことの意味や意義を考え学ばせる実践的な就業体験や各種の就職ガイダンス・セミナーを開催し、多様化する就職活動に対する支援を行っている。

3.15.1 進路状況及び主な就職先

令和3年度の学生の進路状況等は、資料3.15.1のとおりである。

3.15.2 全学就職ガイダンス・セミナーの開催

本学で実施した就職ガイダンス等は、次のとおりである。

- 1) 就職ガイダンス
 - 基本講座 全3回参加延人数 326人
 - 実践講座 全7回参加延人数 234人
 - 特別講座 全4回参加延人数 75人
- 2) 公務員講座
 - 全3回、参加延人数：147人
- 3) 各種試験対策講座
 - 全2回、参加延人数：153人
- 4) インターンシップ関係説明会及び体験報告会
 - 全4回、参加延人数：828人
- 5) 合同企業説明会・公務員等業務概要説明会
 - 全2回、参加延人数：83人
- 6) 医学部生向け講座
 - 全3回、参加延人数：205人

3.15.3 キャリアカウンセリングの充実

学生の就職相談体制の強化として、前橋地区、昭和地区及び桐生地区にキャリアカウンセラーを配置し、Zoomを使用したリモートによるカウンセリングを実施した。

- 1) 利用延人数：620人
- 2) 主な相談・指導内容
 - ・就職活動の進め方・職業適性・自己分析の相談
 - ・エントリーシート、履歴書の添削

- ・面接試験の指導助言

3.15.4 キャリアサポート室における情報収集環境の充実

- 1) 学生用に就職情報検索等のためのパソコン・プリンターを設置
- 2) 各種企業情報データを集約して教務システムに公表
- 3) 各種求人・会社説明会・インターシップ・公務員試験案内等の設置と配付
- 4) 先輩の就職活動報告書の公開
- 5) 就職関連書籍・DVD, ガイダンス動画の貸出
- 6) 就職ガイダンス開催・各種企業説明会, セミナー等の案内やカウンセリングの予約状況等について, ツイッター, Gメールによる情報発信

3.15.5 就職支援の体制強化の充実

- 1) 国公立大学が参加する就職指導担当者研修会や全国就職指導ガイダンスにおいて意見交換を図るとともに企業の人事担当者等による専門的助言や情報の収集により就職支援体制を強化した。
- 2) 体験型インターンシップを推進するため, 実習先企業を継続的に確保し, また受入企業の新規開拓を図った。
 - ・事前説明会参加者: 395人
 - ・実習事前講座参加者: 82人
 - ・実習参加者: 298人
 - ・インターンシップ終了後の体験報告会参加者: 231人

3.15.6 就職支援BOOKの作成・配付

就職支援BOOK(手帳版)を作成し, 各学部の就職対象学生に配付した。

3.16 就業力育成支援

大学教育センター, 理工学部, 情報学部と連携し, 以下のような就業力育成の取組を実施している。

- 1) 学生の就業力育成のため, 就業力育成支援室を設置し, キャリアサポート室と連携しながら, 社会人としての就業観育成から将来の就業までを意識したキャリア教育を行っている。
- 2) 就業力育成のための科目として, 初年次教育で「キャリア計画(2単位)(必須科目)」, 「キャリア設計(2単位)」(理工学部1年生対象)及び「学びを構築する(2単位)」(情報学部1年生対象)を実施している。これらの授業では, 学外の有識者や学内研究者等の講演会も実施している。
- 3) 企業での就業体験型インターンシップの事前教育として, 理工学部2年生を対象に座学と企業見学を主要内容とした「インターンシップI(1単位)」を, キャリアと社会の諸相について理工学部3年生を対象に「キャリア展開(2単位)」を開講している。
- 4) これらの就業力育成関連の科目やインターンシップを統合化し, 学士課程を通じて, 学年進行に応じたキャリア教育を展開している。

3.17 学生生活実態調査

学生の生活実態や要望等を把握し、有効な学生支援の方策を検討するために、5年毎に実施することとした学生生活実態調査を、平成15年度、平成20年度、平成25年度及び平成30年度に実施した。

また、内容を報告書にまとめ、講師以上の教員及び関係事務職員に配付し、学生支援への活用を図っている。

3.18 キャンパスニュース群の発行

「キャンパスニュース群」は、主に各キャンパスの学生活動情報をウェブサイトに掲載し発信している。

主な掲載内容は、各地区学園祭及びフットサル大会レポート、クラブ・サークル活動紹介等である。

3.19 事件・事故

本学学生が関係した事件・事故の件数は、次のとおりである。

- ・交通事故：5件（学内2件，学外3件）
- ・盗難：2件
- ・その他犯罪被害等：7件

3.20 学生支援センター資料集

資料3.1.1, 3.1.2：令和3年度入学料免除及び入学料徴収猶予実施状況

資料3.2.1, 3.2.2：令和3年度授業料免除及び授業料徴収猶予実施状況

資料3.4.1：日本学生支援機構奨学生数（令和3年10月1日現在）

資料3.6.1：令和3年度学部1～3年次生欠席状況調査一覧（前期）

資料3.6.2：令和3年度学部1～3年次生欠席状況調査一覧（後期）

資料3.8.1：令和3年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険加入者数

資料3.8.2：令和3年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

資料3.9.1：令和3年度通学証明書発行枚数，学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

資料3.13.1：令和3年度クラブ・サークル一覧

資料3.15.1：令和3年度学部卒業生の進路状況及び主な就職先

令和3年度入学科料免除及状況

	免除申請者数 (人)		免除許可者数 (人)		合計	
	4月入学	10月入学	判定	4月入学		10月入学
共同教育学部	27	0	全額免除 2/3額免除 1/3額免除	17 5 5	0 0 5	17 5 5
情報学部	23	0	全額免除 2/3額免除 1/3額免除	13 5 4	0 0 1	1 0 1
社会情報学部	2	0	全額免除 2/3額免除 1/3額免除	0 1 1	0 0 1	0 1 1
医学部	8	0	医学科	全額免除 2/3額免除 1/3額免除	1 4 3	0 0 3
			保健学科	全額免除 2/3額免除 1/3額免除	11 7 8	0 0 8
理工学部	56	0	全額免除 2/3額免除 1/3額免除	29 18 5	0 0 5	29 18 5
学部の計	142	0	全額免除 2/3額免除 1/3額免除	58 35 22	0 0 22	58 35 22
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	全額免除 半額免除	0 0	0 0	0 0
社会情報学研究科 (修士課程)	4	2	全額免除 半額免除	4 2	2 6	6
医学系研究科 (修士課程)	1	2	全額免除 半額免除	1 0	2 0	3
保健学研究科 (博士前期課程)	9	0	全額免除 半額免除	2 0	0 0	2
理工学府 (博士前期課程)	74	5	全額免除 半額免除	51 16	5 16	56 16
大学院修士課程の計	88	9	全額免除 半額免除	58 16	9 16	67 16
医学系研究科 (博士課程)	7	1	全額免除 半額免除	6 0	1 0	7 0
保健学研究科 (博士後期課程)	2	0	全額免除 半額免除	2 0	0 2	2
理工学府 (博士後期課程)	3	5	全額免除 半額免除	3 5	5 8	8
大学院博士課程の計	12	6	全額免除 半額免除	11 0	6 0	17 0
特別支援教育特別専攻科	1	0	全額免除 半額免除	1 0	0 1	0 1
合計	243	15	全額免除 2/3額免除 1/3額免除	140 40 17	15 0 17	155 40 17

令和3年度入学科料徴収猶予実施状況

	猶予申請者数 (人)		判定	猶予許可者数 (人)		合計
	4月入学	10月入学		4月入学	10月入学	
共同教育学部	0	0	許可	0	0	0
情報学部	0	0	許可	0	0	0
社会情報学部	0	0	許可	0	0	0
医学部	0	0	医学科	許可	0	0
			保健学科	許可	0	0
理工学部	4	0	許可	4	0	4
学部の計	4	0	許可	4	0	4
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	許可	0	0	0
社会情報学研究科 (修士課程)	0	1	許可	0	1	1
医学系研究科 (修士課程)	0	0	許可	0	0	0
保健学研究科 (博士前期課程)	0	0	許可	0	0	0
理工学府 (博士前期課程)	0	0	許可	0	0	0
大学院修士課程の計	0	1	許可	0	1	1
医学系研究科 (博士課程)	0	0	許可	0	0	0
保健学研究科 (博士後期課程)	0	0	許可	0	0	0
理工学府 (博士後期課程)	0	0	許可	0	0	0
大学院博士課程の計	0	0	許可	0	0	0
特別支援教育特別専攻科	0	0	許可	0	0	0
合計	4	1	許可	4	1	5

令和3年度授業料免除状況

	免除申請者数(人)			免除許可者数(人)		
	前期	後期	合計(前→後)	判定	前期	後期
共同教育学部	全額免除	58	116	全額免除	27	31
	2/3額免除	15	13	2/3額免除	15	28
教育学部	全額免除	64	122	全額免除	0	0
	2/3額免除	40	38	1/3額免除	9	18
情報学部	全額免除	23	47	全額免除	4	10
	2/3額免除	7	4	1/3額免除	4	11
社会情報学部	全額免除	50	100	全額免除	6	9
	2/3額免除	23	29	1/3額免除	3	3
医学部	全額免除	41	85	全額免除	13	12
	2/3額免除	7	5	1/3額免除	5	5
医学部	全額免除	97	196	全額免除	0	0
	2/3額免除	23	23	1/3額免除	4	5
理工学部 総合理工学科(夜間主)除く	全額免除	224	451	全額免除	23	23
	2/3額免除	124	124	1/3額免除	6	10
学部(昼間)の計	全額免除	557	1,117	全額免除	8	6
	2/3額免除	38	113	1/3額免除	4	7
総合理工学科(夜間主)	全額免除	9	19	全額免除	7	8
	2/3額免除	0	0	1/3額免除	0	0
教育学研究科 (修士課程)	全額免除	0	0	全額免除	0	0
	2/3額免除	0	0	1/3額免除	1	1
教育学研究科 (専門職学位課程)	全額免除	0	0	全額免除	0	0
	2/3額免除	7	16	1/3額免除	4	6
社会情報学研究科 (修士課程)	全額免除	2	5	全額免除	1	2
	2/3額免除	20	32	1/3額免除	6	5
保健学研究科 (博士前期課程)	全額免除	164	321	全額免除	79	76
	2/3額免除	193	181	1/3額免除	70	142
大学院修士課程の計	全額免除	38	70	全額免除	26	25
	2/3額免除	11	21	1/3額免除	11	7
理工学部	全額免除	29	60	全額免除	8	4
	2/3額免除	78	151	1/3額免除	3	6
大学院博士課程の計	全額免除	1	2	全額免除	19	25
	2/3額免除	838	1,663	1/3額免除	8	4
特別支援教育特別専攻科	全額免除	0	0	全額免除	53	54
合計	全額免除	838	1,663	全額免除	452	450
	2/3額免除	99	114	2/3額免除	99	213
	1/3額免除	145	159	1/3額免除	145	267
	合計	1,082	1,936	合計	696	724

令和3年度授業料徴収猶予実施状況

	猶予申請者数(人)			猶予許可者数(人)		
	前期	後期	合計(前→後)	判定	前期	後期
共同教育学部	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
共同教育学部	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
情報学部	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
社会情報学部	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
医学部	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
医学部	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
理工学部 総合理工学科(夜間主)除く	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
学部(昼間)の計	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
総合理工学科(夜間主)	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
教育学研究科 (修士課程)	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
教育学研究科 (専門職学位課程)	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
社会情報学研究科 (修士課程)	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
医学系研究科 (修士課程)	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
保健学研究科 (博士前期課程)	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
理工学部	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
大学院修士課程の計	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
医学系研究科 (博士課程)	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
保健学研究科 (博士後期課程)	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
大学院博士課程の計	0	0	0	許可	0	0
	0	0	0	許可	0	0
特別支援教育特別専攻科	0	0	0	許可	0	0
合計	0	0	0	許可	0	0

資料 3.4.1

令和3年度日本学生支援機構構奨学生数（学部・研究科別内訳）

令和3年10月1日現在(人)

学部・研究科	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		計			
	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	一種	二種	給付	給付
教育学部	42	29	27	32	29	24	42	31	18				91	55	47	193
共同教育学部			15	17	13		6	16	18				69	61	56	186
社会学部													63	44	37	144
学部	41	27	22										41	27	22	90
医学部	10	7	7	11	4	13	3	14	2	12	15	1	76	75	19	170
保健学科	37	25	25	30	24	38	15	42	21				156	125	85	366
工学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0	0
工学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0	0
工学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0	0
理工学部	96	69	49	98	55	85	39	112	38				416	328	181	925
学部計	226	157	130	206	188	215	236	171	97	12	15	1	912	715	447	2074
専攻科																
特別支援教育特別専攻科	0	0	0		0								0	0	0	0
教育学研究科	0	0	0	0									0	0	0	0
教育学研究科	0	0	0	0									0	0	0	0
社会学部	0	0	0	0									0	0	0	0
社会学部	0	0	0	0									0	0	0	0
社会学部	0	0	0	0									0	0	0	0
医学系研究科	1	0	1	0									2	0	0	2
医学系研究科	3	0	1	0		1	0	0					6	0	0	6
保健学研究科	6	2	3	1									9	3	0	12
保健学研究科	0	0	0	0		1	0						1	0	0	1
工学研究科	0	0	0	0									0	0	0	0
工学研究科	0	0	0	0									0	0	0	0
工学研究科	0	0	0	0									0	0	0	0
理工学府	96	9	102	7									198	16	0	214
理工学府	2	0	0	2	0	1	0						5	0	0	5
大学院計	108	11	0	8	0	3	1	0	0	0	0	0	221	19	0	240

※一人の学生が第一種と第二種と給付を併用している場合もあるので、延べ人数である。

総計 2314

資料 3.6.1

令和3年度学部1～3年次生欠席状況調査一覽(前期)

	教育学部		社会情報学部		医学部			理工学部		合計
	名	率	名	率	医学科	保健学科	計	名	率	
1年生 対象者数	201		183		122	165	287	507		1,178
欠席者数	2	1.0%	4	2.2%	0	2	2	13	2.6%	21
					0.0%	1.2%	0.7%			1.8%
2年生 対象者数	203		102		135	165	300	568		1,173
欠席者数	6	3.0%	1	1.0%	0	0	0	4	0.7%	11
					0.0%	0.0%	0.0%			0.9%
3年生 対象者数	227		120		125	161	286	593		1,226
欠席者数	0	0.0%	0	0.0%	8	0	8	8	1.3%	16
					6.4%	0.0%	2.8%	1.3%		1.3%
合計 対象者数	631		405		382	491	873	1,668		3,577
欠席者数	8	1.3%	5	1.2%	8	2	10	25	1.5%	48
					2.1%	0.4%	1.1%	1.5%		1.3%

※ 学生数は、令和3年5月1日現在
 ※ 欠席者数下段は、欠席率

資料 3.6.2

令和3年度学部1～3年次生欠席状況調査一覽(後期)

	教育学部		社会情報学部		医学部			理工学部		合計
	名	率	名	率	医学科	保健学科	計	名	率	
1年生 対象者数	201		183		122	165	287	507		1,178
欠席者数	2	1.0%	0	0.0%	1	1	2	4	0.8%	8
					0.8%	0.6%	0.7%			0.7%
2年生 対象者数	203		102		135	165	300	565		1,170
欠席者数	6	3.0%	4	3.9%	0	1	1	5	0.9%	16
					0.0%	0.6%	0.3%			1.4%
3年生 対象者数	227		120		125	161	286	591		1,224
欠席者数	1	0.4%	0	0.0%	0	0	0	2	0.3%	3
					0.0%	0.0%	0.0%	0.3%		0.2%
合計 対象者数	631		405		382	491	873	1,663		3,572
欠席者数	9	1.4%	4	1.0%	1	2	3	11	0.7%	27
					0.3%	0.4%	0.3%	0.7%		0.8%

※ 学生数は、令和3年11月1日現在
 ※ 欠席者数下段は、欠席率

資料 3.8.1

令和3年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険加入者数

(令和3年8月1日現在)

学部名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他(研究生等)	計
共同教育学部	193	195	0	0	0	0	0	388
教育学部	0	0	219	232	0	0	0	451
情報学部	176	0	0	0	0	0	0	176
社会情報学部	0	89	98	107	0	0	1	295
医学部	119	129	117	122	127	105	0	719
保健学科	156	163	148	151	0	0	0	618
計	275	292	265	273	127	105	0	1,337
理工学部	480	540	533	495	0	0	0	2,048
工学部	0	0	0	0	0	0	0	0
計	480	540	533	495	0	0	0	2,048
合計	1,124	1,116	1,115	1,107	127	105	1	4,695

(令和3年8月1日現在)

研究科名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他(研究生等)	計
教育学研究科	0	1	0	0	0	0	0	1
大学院教育学研究科(専門職学位課程)	17	13	0	0	0	0	0	30
社会情報学研究科	11	3	0	0	0	0	0	14
医学研究科	6	5	0	0	0	0	0	11
博士課程	15	35	23	32	0	0	0	105
博士前期課程	20	36	0	0	0	0	0	56
博士後期課程	1	1	5	0	0	0	0	7
計	42	77	28	32	0	0	0	179
理工学府	294	285	0	0	0	0	0	579
工学研究科	7	12	14	0	0	0	0	33
計	301	297	14	0	0	0	0	612
特別支援教育特別専攻科	10	0	0	0	0	0	0	10
合計	381	391	42	32	0	0	0	846

資料 3.8.2

令和3年度学生教育研究災害傷害保険，学研災付帯賠償責任保険請求種別保険金請求件数

(件)

	学部	学生教育研究災害傷害保険						学研災付帯 賠償責任保険	総計
		正課中	学校行事中	通学中	課外活動中	その他	合計		
荒牧地区	教育・共同教育・社会情報・情報	0	0	1	1	0	2	0	2
昭和地区	医学	0	0	0	1	0	1	0	1
桐生地区	理工	3	0	1	0	0	4	2	6
太田地区	理工(生産システム)	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		3	0	2	2	0	7	2	9

令和3年度通学証明書発行枚数

(枚)

荒牧地区		昭和地区		桐生地区		太田地区		合計
電車	バス	電車	バス	電車	バス	電車	バス	
286	65	121	19	186	15	0	0	692

令和3年度学生旅客運賃割引証発行枚数及び主な発行理由

(枚)

	正課	帰省	就職	課外活動	見学	旅行	その他 傷病・治療	計
荒牧地区	160	1,379	555	0	365	197	1	2,657
昭和地区	576	3,321	640	1	561	144	10	5,253
桐生地区	228	2,067	751	0	154	53	7	3,260
太田地区	5	7	0	0	0	0	2	14
合計	969	6,774	1,946	1	1,080	394	20	11,184

令和3年度クラブ・サークル一覧

整理番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地域				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
1	荒牧クラブ・サークル協議会	○				その他
2	荒牧祭実行委員会	○				その他
3	生協学生委員会	○	○	○		その他
4	文化部会(昭和地区)		○			その他
5	運動部会(昭和地区)		○			その他
6	荒牧ジャズ研究会	○				文化部
7	アドバンス[Advance]ボランティア子供向けイベント	○				文化部
8	E. S. S(English Speaking Society)	○				文化部
9	囲碁・将棋部	○				文化部
10	泉の会(知的障害の子供と遊ぶ会)	○				文化部
11	ELMO(遊びのプログラム)		○			文化部
12	映画研究会	○	○			文化部
13	SRC(献血)	○	○	○		文化部
14	E∞gg[えっぐ]医療や社会について学ぶ		○			文化部
15	エレクーン部		○			文化部
16	演劇部テアトル・ヒューメ	○				文化部
17	音楽研究会			○		文化部
18	かるた会	○		○		文化部
19	合唱サークル Pico		○			文化部
20	学生団体ink	○		○		文化部
21	きょうだいの会ばずる	○				文化部
22	気象天文研究部	○		○		文化部
23	競技麻雀部	○		○		文化部
24	医学部競技麻雀部		○			文化部
25	群馬おきりこみ合唱団	○				文化部
26	群馬大学BBS会(ボランティア・少年少女の悩み)	○	○	○		文化部
27	群馬大学AI, IOT研究会	○				文化部
28	群馬大学外科手技サークル		○			文化部
29	教育サークル・青竹(ボランティア・児童教育研究)	○				文化部
30	Guit's(アコースティックギター)		○			文化部
31	クラシックギター部	○		○		文化部
32	グリークラブ	○		○		文化部
33	折紙研究会"Origin"	○	○	○		文化部
34	医学部軽音楽部		○			文化部
35	国際医療ボランティアの会(FORS)		○			文化部
36	Beyond(ボランティア留学生と交流)	○				文化部
37	混声合唱団	○		○		文化部
38	茶道部	○				文化部
39	写真部(荒牧)	○				文化部
40	写真部(昭和)		○			文化部
41	写真部(桐生)			○		文化部
42	書道部	○				文化部
43	聖書研究会			○		文化部
44	G. K. オールスターズ	○		○		文化部
45	吹奏楽団	○	○	○		文化部
46	たんぼぼ(自閉症児ふれあい支援)	○				文化部
47	地域活性化団体 enerGy	○				文化部
48	哲学の森		○			文化部
49	天文部		○			文化部
50	電子計算機研究会 IGGG			○		文化部
51	東洋医学研究会		○			文化部
52	AAA☆KIDS(トリプルエーキッズ)ボランティア小児喘息		○			文化部
53	美術愛好会		○			文化部
54	ピアノ部		○			文化部
55	ファンタスティック手芸部	○				文化部
56	フィルハーモニックオーケストラ部	○		○		文化部
57	フォーク・ロック愛好会	○		○		文化部
58	Fore-Bridge Orchestra(ビッグバンドジャズ)		○			文化部
59	FLOW Orchestra	○	○			文化部
60	Voice Cream(アカペラサークル)	○	○	○		文化部
61	漫画研究部	○		○		文化部
62	マンドリン・ソサエティ		○			文化部
63	前橋文学会		○			文化部
64	メサイア管弦楽団・合唱団	○				文化部
65	モダンジャズ研究会(医学部)		○			文化部
66	モダンジャズ研究会(理工学部)			○		文化部

令和3年度クラブ・サークル一覧

整理番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地域				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
67	野外教育研究会	○	○	○		文化部
68	八木節同好会			○		文化部
69	夢のわたらせなないろ号	○	○			文化部
70	落語・コント研究会	○		○		文化部
71	ラジオ同好会			○		文化部
72	レストアサークル(機械分解修理)	○		○		文化部
73	LAMP(イベント企画団体)	○				文化部
74	ロボット研究会	○		○		文化部
75	LEADS(小児糖尿病)		○			文化部
76	YMCAクラブ(子供たちと交流)	○	○	○		文化部
77	情報メカトロニクス研究部			○		文化部
78	映画部(MEMENTO)	○	○			文化部
79	群馬大学BBS会	○	○	○		文化部
80	合気道部	○	○	○		運動部
81	アメリカンフットボール部	○		○		運動部
82	医学部★ダンスサークル		○			運動部
83	Et's(バスケットボール)		○			運動部
84	エスケープ(硬式テニス)	○				運動部
85	学生フォーミュラチーム	○		○	○	運動部
86	空手道部	○		○		運動部
87	環境プロセススポーツ同好会			○		運動部
88	弓道部(全学)	○		○		運動部
89	弓道部(医学科)		○			運動部
90	弓道部(保健学科)		○			運動部
91	CRAFT(フットサル)	○				運動部
92	群馬の希望(サッカー・フットサル)	○				運動部
93	剣道部(全学)	○	○	○		運動部
94	剣道部(医学部)		○			運動部
95	Get's(サッカー)	○	○			運動部
96	硬式テニス部(全学)	○		○		運動部
97	硬式テニス部(医学部)女		○			運動部
98	硬式テニス部(医学部)男		○			運動部
99	硬式野球部	○		○		運動部
100	ゴルフ部(医学部)		○			運動部
101	サイクリング部	○		○		運動部
102	サッカー部(全学)	○				運動部
103	サッカー部(医学部)		○			運動部
104	サバイバルゲーム部			○		運動部
105	少林寺拳法部	○		○		運動部
106	自動車部	○		○	○	運動部
107	柔道部(荒牧)	○	○	○		運動部
108	柔道部(理工学)			○		運動部
109	柔道部(医学)		○			運動部
110	準硬式野球部	○				運動部
111	準硬式野球部(医学部)	○	○			運動部
112	水泳部	○	○	○		運動部
113	スキー部(全学)	○	○	○	○	運動部
114	スキー部(医学部)		○			運動部
115	ソフトテニス部(全学)	○		○		運動部
116	ソフトテニス部(医学部)		○			運動部
117	体操部	○		○		運動部
118	卓球部(全学)	○		○		運動部
119	卓球部(医学部)		○			運動部
120	ダンス部	○				運動部
121	ツバサFCコーチングスタッフ	○				運動部
122	軟式野球サークル アウィル	○	○	○		運動部
123	ハンドボール部	○				運動部
124	馬術部	○	○	○		運動部
125	バスケットボール研究会	○				運動部
126	バスケットボール部(全学)	○				運動部
127	バスケットボール部(医学部)		○			運動部
128	バスケットボール部(理工学部)			○		運動部
129	女子バスケットボール部(医学部)		○			運動部
130	バドミントン部(全学)	○		○		運動部
131	バドミントン部(医学部)男子		○			運動部
132	バドミントン部(医学部)女子		○			運動部
133	バレーボール部(全学)男子女子	○	○			運動部
134	バレーボール部(医学部)		○			運動部

令和3年度クラブ・サークル一覧

整理番号	クラブ・サークル名	主な活動(所属)地域				区分
		荒牧	昭和	桐生	太田	
135	バレーボール部(保健学科)		○			運動部
136	B-STYLE(ダンス)	○		○		運動部
137	Vit'z(ダブルダッチ)		○			運動部
138	V. B. C. 桐生(バレーボール)			○		運動部
139	フィールドホッケー部	○				運動部
140	フットサル部	○		○		運動部
141	ラグビー部(全学)	○		○		運動部
142	ラグビー部(医学部)	○	○			運動部
143	陸上競技部(全学)	○		○		運動部
144	陸上競技部(医学部)		○			運動部
145	Let's Met's		○			運動部
146	ONE WAY(バレーボール)	○				運動部
147	RUSH(フットサル)	○				運動部
148	ワンダーフォーゲル部	○	○	○		運動部
149	Gunma University Motorcycle Club (旧バイク部)			○		運動部
150	野外活動サークル	○				運動部
151	アーチェリーサークル	○	○	○		運動部
152	オリエンテーリング部	○		○		運動部
153	WBC	○				運動部
154	OPEN		○			運動部
155	ラクロス部	○				運動部
156	Navi	○				運動部
157	バドレックス			○		文化部
158	ダブルダッチサークル Rally	○				運動部
159	群馬大学スマブラサークル		○			文化部

資料 3.15.1

令和3年度学部卒業生の進路状況(9月卒業を含む) 【確定】

区分 学部	卒業年度	卒業生数 (A)				就職者数										就職活動中	その他 (D)	就職率 (E) $E=C/(A+B-D) \times 100$		
		大学院・専攻科	他大学学部等	研究生等	各種専修学校等	留学	業種別内訳													
							教員					医療機関	企業等	公務員等	自営業					
							小	中	高	特別支援	その他									
計 (B)		計 (C)																		
教育学部	R3	13	2		2	1	18	2	62	53	8	13	2		38	28		206	6	97.2
	R3	2	1		1		4								91	19	3	113	5	95.8
医学部	R3													106		1		107		100.0
	R3	21					21							115	2	12		129	1	99.2
理工学部	R3	340		3			343			1				154	24	1		180	6	96.8
	R3	376	3	3	3	1	386	2	62	53	9	13	2	221	285	84	735	18	97.6	
計																				

備考：その他(D)欄は、各種試験準備、留学生の帰国、家事従事等である。

【教育学部】

■教育

〈幼稚園・認定こども園〉

認定こども園江木幼稚園 群馬大学共同教育学部附属幼稚園

〈小学校〉

前橋市 高崎市 桐生市 伊勢崎市 太田市 沼田市 館林市 渋川市 藤岡市 富岡市 安中市 榛東村 昭和村 玉村町 邑楽町
群馬大学共同教育学部附属小学校
秋田県(大館市) 栃木県(宇都宮市 栃木市 野木町) 埼玉県(熊谷市 鴻巣市 深谷市) 神奈川県(秦野市) 新潟県(新潟市 上越市)
静岡県(磐田市)

〈中学校・中等教育学校〉

前橋市 高崎市 桐生市 伊勢崎市 太田市 沼田市 館林市 渋川市 藤岡市 富岡市 吉岡町 玉村町 大泉町 中之条町 長野原町 邑楽町
群馬大学共同教育学部附属中学校
青森県(つがる市) 茨城県(つくば市) 栃木県(宇都宮市 栃木市 佐野市) 埼玉県(熊谷市 戸田市 久喜市 皆野町) 東京都(目黒区)
神奈川県(横浜市)

〈特別支援学校〉

県立高崎 県立沼田 県立太田 県立渡良瀬 県立二葉・高等 県立盲学校 群馬大学共同教育学部附属特別支援学校
埼玉県(大宮ろう学園 坂戸ろう学園)

〈高等学校〉

県立渋川 県立前橋清陵 県立長野原 県立嬬恋 前橋育英 東京農業大学第二
埼玉県(県立小川 浦和麗明)

■公務

群馬県	高崎市	伊勢崎市
桐生市	沼田市	渋川市
太田市	前橋市教育委員会事務局青少年課児童文化センター	前橋市消防局
埼玉県所沢市	埼玉県戸田市	埼玉県狭山市
埼玉県皆野町	栃木県足利市	長野県上田市
東京都文京区	富山県入善町	日本年金機構
水戸市消防局	宇都宮職業安定所	

■企業・法人等

(一財)太田市行政管理公社	㈱ケイスリー	㈱東和銀行
(学)蒼羽藝術学園	㈱スポーツプロテクト	群馬県市町村職員共済組合
心水塾	㈱ベイシア	高崎商工会議所
システム・アルファ㈱	㈱ユーロプレッツァ	自治労群馬県本部
星野進学ゼミ	㈱ワンセルフ	富士部品工業(株)
㈱グンエイ	㈱群馬銀行	群馬大学
ウェルビー㈱	㈱足利銀行	㈱ユーコー
クロスプラス㈱	㈱クスのアオキ	㈱ワコール
タカラベルモント㈱	㈱サシノベルテ	㈱学究社
パーソナル情報システム㈱	㈱スプリックス	㈱松竹エンタテイメント
㈱BP	㈱ナガイ	㈱明日香
㈱JUNCTION	㈱メガスポーツ	米沢信用金庫
㈱アイティフォー		

【社会情報学部】

■公務

群馬県	群馬県警察	前橋市
高崎市	太田市	館林市
板倉町	みどり市	群馬労働局
関東信越国税局	千葉県	長野県

■企業・法人等

(一社)IGTまちづくり共通プラットフォーム推進機構	㈱群馬総合土地販売	㈱両毛システムズ
(生協)コープぐんま	㈱ジーシーシー	桐生厚生総合病院
(福)前橋あそか会	㈱セントラルサービス	桐生信用金庫
(福)前橋市社会福祉協議会	㈱ハウステック	群馬セキスイハイム㈱
あかぎ信用組合	㈱フレッセイ	群馬ダイハツ自動車㈱
ぐんぎんシステムサービス㈱	㈱プロコード	群馬医療福祉大学
サンデンシステムエンジニアリング㈱	㈱ベイシア 流通技術研究所	群馬日産自動車㈱
しげる工業㈱	㈱マンナンライフ	高崎健康福祉大学
システム・アルファ㈱	㈱ヤマダホールディングス	高崎市農業協同組合
しのめ信用金庫	㈱ユーコーポレーション	上毛新聞社
㈱JOETSU	㈱栄久	全国農業協同組合連合会群馬県本部
㈱アプロ	㈱総合PR	大島会計事務所
㈱キーテクノロジー	㈱ イトマンスイミングスクール	㈱栃木銀行
(一財)船員保険会	㈱ クレスコ	㈱北川鉄工所
SOMPOケア㈱	㈱ ココト	㈱鈴木
T&D情報システム㈱	㈱ コモドソリューションズ	埼玉県信用農業協同組合連合会
あさかわシステムズ㈱	㈱ ジューエムエーシステムズ	松竹㈱
コムチュア㈱	㈱ パーソルプロセスアンドテクノロジー	松竹芸能㈱
ジブラルタ生命保険㈱	㈱ フォーミュレーションI.T.S.	新明電材㈱
セコム上信越㈱	㈱ フューチャーインフィニティ	清和海運㈱
はるやま商事㈱	㈱ ベルバーク	西武鉄道㈱
ユアサブライムス㈱	㈱ ライズプランニング	積水ハウスリフォーム㈱
ユニシステム㈱	㈱ 一条工務店	太陽誘電㈱
㈱ E&W	㈱ 原田	長野県信用組合
㈱ JR東日本商事	㈱ 総合オリコミ社	長野都市ガス㈱
㈱ YSK e-com	㈱ アミバラ	日本ビジネスシステムズ㈱
㈱ アクト	㈱ ウェアーズ	日本放送協会
㈱ あづま商店	㈱ システムインテグレータ	富士通㈱
㈱ アルテナカ	㈱ ホンダカーズ栃木中央	味の素AGF㈱

【医学部 医学科】

■公務

経済産業省

■医療・福祉業

JCHO群馬中央病院
伊勢崎市民病院
館林厚生病院
桐生厚生総合病院
群馬大学医学部附属病院
JCHO埼玉メディカルセンター
みさと健和病院
横浜市南部病院
横浜市立みなと赤十字病院
横浜市立大学付属病院
横浜市立大学附属市民総合医療センター
横浜労災病院
近森病院
熊谷総合病院
虎ノ門病院
公立昭和病院
厚木市立病院
国立千葉医療センター

群馬県済生会前橋病院
公立藤岡総合病院
公立富岡総合病院
高崎総合医療センター
災害医療センター
埼玉協同病院
山口大学医学部附属病院
自治医科大学附属さいたま医療センター
自治医科大学附属病院
湘南藤沢徳洲会病院
焼津市立総合病院
新東京病院
深谷赤十字病院
水戸協同病院
青梅市立総合病院
千葉大学医学部附属病院
千葉労災病院

※病院名は通称で表記

渋川医療センター
前橋赤十字病院
太田記念病院
利根中央病院
川口総合病院
川崎協同病院
相模原協同病院
多摩北部医療センター
大和市立病院
都立駒込病院
都立松沢病院
東京慈恵会医科大学附属病院
東京大学医学部附属病院
東京都済生会中央病院
藤沢湘南台病院
脳神経疾患研究所附属総合南東北病院
板橋中央総合病院

【医学部 保健学科】

■公務

群馬県
藤岡市
千葉県
埼玉県
埼玉県行田市

高崎市

青森県階上町
栃木県小山市

太田市

埼玉県越谷市
東京都葛飾区

■医療・福祉業

あさくらスポーツリハビリテーションクリニック
内田病院
伊勢崎市民病院
関越中央病院
群馬県済生会前橋病院
公立藤岡総合病院
(医)IMSグループ
(医)柱名会
(医)慈泉会相澤病院
(公社)山梨勤労者医療協会
(独)地域医療機能推進機構
(福)恩賜財団済生会
ART女性クリニック
イムス三芳総合病院
さいたま赤十字病院
安曇野赤十字病院
伊那中央病院
茨城リハビリテーション病院
亀田メディカルセンター
金沢城北病院
健和会病院
虎ノ門病院
公立置賜総合病院

公立富岡総合病院
黒沢病院
角田病院
鶴谷病院
榛名荘病院
東前橋整形外科病院
国立成育医療研究センター
埼玉県立小児医療センター
桜十字病院
山梨リハビリテーション病院
秋田赤十字病院
上尾中央総合病院
信州大学医学部附属病院
新潟県厚生農業協同組合連合会
新潟市民病院
新久喜総合病院
成田赤十字病院
聖マリアンナ医科大学病院
製鉄記念室蘭病院
青森慈恵会病院
足利赤十字病院
中津川市民病院
長野市民病院

※病院名は通称で表記

日高病院
前橋協立病院
前橋赤十字病院
美原記念病院
老年病研究所附属病院
群馬大学医学部附属病院
鳥取大学医学部附属病院
東京医科歯科大学病院
東京医科大学八王子医療センター
東京女子医科大学附属病院
東京大学医学部附属病院
東京都立小児総合医療センター
東京品川病院
東京湾岸リハビリテーション病院
日立総合病院
猫山宮尾病院
白岡中央総合病院
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
福島県厚生農業協同組合連合会
芳賀赤十字病院
豊島病院
六本木スキンクリニック
獨協医科大学病院

■企業・法人等

㈱リクルート北関東マーケティング
(一財)上尾中央医科グループ協議会
埼玉医科大学

㈱弥栄 訪問看護ステーションふれあい
(一財)中部公衆医学研究所
日本医科大学

ジェイエムシー(株)
㈱BML

【理工学部 化学・生物化学科】

■教育

〈高等学校〉
埼玉県立高等学校

■公務

秋田県

警視庁

関東運輸局

■企業・法人等

プライムフーズ(株)
 (株)クライム
 (株)ナフアシスト
 J-POWERジェネレーションサービス(株)
 アキレス(株)
 ニプロ(株)
 マレリ(株)
 リスパック(株)
 王子製鉄(株)
 (株)イノベックス
 (株)おびなた
 (株)キャピタル・アセット・プランニング
 (株)コムテック

(株)環境技研
 (株)群馬銀行
 (株)山田製作所
 (株)サンプラネット
 (株)ジーアフター
 (株)スリーボンド
 (株)テレバイダー・エンターテイメント
 (株)ネットワーク
 (株)ビーネックステクノロジーズ
 (株)ビーンズラボ
 (株)フコク
 (株)三技協
 (株)秋田県分析化学センター

富士スバル(株)
 澤藤電機(株)
 (株)千代田グラビヤ
 (株)日立プラントサービス
 (株)八十二銀行
 月島環境エンジニアリング(株)
 三甲(株)
 第一共ケミカルファーマ(株)
 東洋インキSCホールディングス(株)
 日軽パナールシステム(株)
 白十字(株)

【理工学部 機械知能システム理工学科】

■公務

埼玉県

足利市

■企業・法人等

サンデンホールディングス(株)
 SOLIZE(株)
 WDB工学(株)
 ギガフォトン(株)
 タカノフーズ(株)
 フクシマガリレイ(株)
 ボッシュ(株)
 ミネベアマミツミ(株)
 (株)NTT東日本一関信越

(株)古川製作所
 (株)WOWOWコミュニケーションズ
 (株)アーチ
 (株)キッツ
 (株)ゼクウ
 (株)ダイキエンジニアリング
 (株)タマディック
 (株)ディーアンドエムホールディングス
 (株)パイロットコーポレーション

理研鍛造(株)
 (株)ワールドインテック
 (株)河野製作所
 (株)日水コン
 山崎製パン(株)
 芝浦機械(株)
 太陽誘電(株)
 日研トータルソーシング(株)

【理工学部 環境創生理工学科】

■公務

群馬県
 館林市
 岩手県
 富山県
 長野県長野市
 林野庁

高崎市
 栃木県
 愛媛県
 愛知県西尾市

伊勢崎市
 千葉県
 足利市
 静岡県富士市

■企業・法人等

技研コンサル(株)
 K&Oエナジーグループ(株)
 UTエイム(株)
 かんぼシステムソリューションズ(株)
 ニッソーファイン(株)
 ユアサ商事(株)
 (株)コンヴァノ

(株)チャレンジドジャパン
 (株)メニコン
 (株)植木組
 (株)日水コン
 三菱電機ホーム機器(株)

鹿島建設(株)
 住友ケミカルエンジニアリング(株)
 太陽誘電(株)
 第一生命情報システム(株)
 日本道路(株)

【理工学部 電子情報理工学科】

■企業・法人等

小倉クランチ(株)	(株)山田製作所	(株)アサヒ
鹿島エレクトロニクス(株)	(株)ジーシーシー	(株)CRANE
(株)両毛システムズ	(株)アドテックス	ITTO個別指導学院館林駅前校
NECネットエスアイ(株)	(株)NTTデータMSE	(株)日立ハイシステム21
NTT東日本グループ会社	(株)NTTデータビジネスブレインズ	(株)日立産業制御ソリューションズ
アイアース(株)	(株)OSK	(株)良品計画
アドバンテスト(株)	(株)ZOZO	関総エンジニアリング(株)
カービュー(株)	(株)アルファ	三菱電機ビルテクノサービス(株)
ガンホー・オンライン・エンターテイメント(株)	(株)エル・ティール・エス	森ビル(株)
キャノンソリューションズ	(株)ソフィア	太陽誘電(株)
コンピュータ・テクノロジー(株)	(株)トラストシステム	東日本電気エンジニアリング(株)
セイコーエプソン(株)	(株)ナレッジサイエンス	東日本旅客鉄道(株)
ニチコン(株)	(株)ナンバーワンソリューションズ	日研トータルソーシング(株)
パーソルキャリア(株)	(株)ヒップ	日清紡マイクロデバイス(株)(旧新日本無線株式会社)
ファナック(株)	(株)リクルートR&D	日本システム開発(株)
マックス(株)	(株)ワールドインテック	日本信号(株)
ラピステクノロジー(株)	(株)図研	本田技研工業(株)
リコーITソリューションズ(株)	(株)日水コン	明電プラントシステムズ(株)
ルネサスエレクトロニクス(株)		

【理工学部 総合理工学科】

■企業・法人等

(株)CRANE	(株)マイナビEdge(旧ゼネラルエンジニアリング(株))	(株)NTTデータフロンティア
中国化薬(株)	(株)テクノプロ	キヤノン(株)
(株)日水コン	(株)エクシード	NTTデータシステム技術(株)
(株)ココオ		

4 学生受入センター

学生受入センターは平成18（2006）年4月に発足し、センターにはセンター長（教育・評価担当理事・副学長）と副センター長（兼任）、兼任教員（各学部の入試又は広報担当委員会の委員長）が在籍する組織である。センターの運営については、学生受入センター運営委員会が設置されている。そして、下部組織として「入試部会」と「広報部会」を組織し、各学部等から委員が選出されている。審議内容は、「入試部会」が入学者選抜方法の改善に関すること等（これらを以下、「入試関係業務」という）であり、「広報部会」が学生募集に係る広報活動に関すること（これらを以下、「広報関係業務」という）である。

令和3（2021）年度に関しても令和2（2020）年度に引き続き、入試・広報関係業務等の実施事項は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため様々な点で活動が制限され、通常とは異なる結果となった。

4.1 機動的で一体化した本格的な学生受入のための組織体制の整備

入試関係業務は、全学の入学試験委員会と連携を図るほか、学務部学生受入課が各学部の入試担当係と連携を図り、令和3年度も従来通り業務を遂行した。

広報関係業務は、平成29（2017）年6月に設置された「群馬大学広報本部」の下部組織である「学生受入部門」において企画・立案を行い、「広報部会」で具体的な実施方法を練り、実行するという2体制となった。しかし、これら学生受入のための広報関係業務は密接に関連しているので連携体制をとる必要があり、広報本部学生受入部門会議と学生受入センター運営委員会広報部会を合同で開催して、業務を遂行した。

今後も継続される大学入試改革、高大連携活動の活発化、そして、18歳人口の減少を踏まえるならば、本学の学生受入のための入試関係業務と広報関係業務の実施体制をさらに発展させる必要がある。したがって、機動的で一体化した本格的な学生受入のための組織の設置、すなわち、専任のアドミッション・コーディネータを複数名配置した本格的なアドミッションセンターの設置が本学でも必須となった。そこで、本学では来年度の早期に本格的なアドミッションセンターの設置を目指すこととなり、設置準備の作業を行うこととなった。

4.2 大学入学共通テストへの対応と新型コロナウイルス感染症に対する入試対応

大学入試センターが令和3（2021）年度から実施を開始した「大学入学共通テスト」において、新型コロナウイルス感染症に対する入試対応のため、昨年度に準じて実施日程が、本試験：令和4（2022）年1月15～16日、追試験（各都道府県で試験会場設置）：1月29～30日という日程となった。本年度、本学は本入試である1月15～16日と、追試験の1月29～30日の計2回の実施を担当した。

新型コロナウイルス感染症に対する入試対応のため、令和4（2022）年1月21日付で本学ウェブサイトにて、「2022（令和4）年度一般選抜追試験実施要項」を掲載し、周知した。

加えて、文部科学省より、令和4（2022）年1月11日付（依頼文）「令和4年度大学入学者選抜における受験機会の更なる確保について（依頼）」により、従来の追試験等の対応に加え、受験機会の確保に更なる配慮を行うよう依頼がなされたことから、本学の対応に関して検討した。そして、これらの検討結果を全学の入学試験委員会／学生受入センター運営委員会にて決定し、令和4（2022）年1月28日に本学ウェブサイトにて、「2022（令和4）年度群馬大学入学者選抜における受験機会の確保について」として掲載し、周知を行った。

4.3 入学者の選抜方法改善と追跡調査

前年度入試の実施状況等については、例年同様、受験産業による報告会を学内で複数回実施して本学を含めた大学入試の最新動向の把握を行った。

これら複数回場で得た情報、受験産業から個別に提供された情報、そして本学で実施した各種アンケートや入学後の成績等の追跡調査結果を参考とし、前年度の入学者選抜方法において報告された各学部の課題等の対応状況を含め、令和3（2021）年度入試の総括及び課題の報告を行ってもらった。これらを基に、本学で毎年度実施している「入学者選抜方法研究報告書」を作成し、次年度以降の入試改革に役立てることとした。

4.4 オープンキャンパス等

毎年本学では、教育研究及び学園生活の現状を、具体的に分かりやすく伝える場として、また、受験生の進路決定に資することを目的として、全学のオープンキャンパス「群馬大学オープンキャンパス『GU'DAY20xx』」と各学部学科等が開催する「学部別オープンキャンパス」を実施していた。

しかし、今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症のため、全学も学部別ともに従来形式の来場型でのオープンキャンパスの実施は中止とした。その代替として、昨年度に引き続き、全学と各学部を一本化し、原則として全てのプログラムがWeb上で完結する形式の「群馬大学オープンキャンパス『GU'DAY2021』」の実施を、広報本部学生受入部門会議／学生受入センター運営委員会広報部会で決定し、昨年度と同時期の7月下旬から8月上旬の2週間実施した。

このWebオープンキャンパスに対して、群馬、茨城、栃木、静岡、埼玉、千葉、神奈川、東京、新潟、長野の全高校（約1,700校）へ周知文書とチラシを送付し、加えて、前年度の群馬大学オープンキャンパス申込者へのメール配信、そして、本学ウェブサイトやSNS等でも積極的に告知した。その結果、オンラインでの高校生及び保護者等による延べ4,429名の登録参加者があった。

4.4.1 群馬大学Webオープンキャンパス「GU'DAY2021」【Web配信】

新型コロナウイルス感染症のため、今年度も前年度と同様、全学と各学部を一本化し、Web配信による形式の「群馬大学Webオープンキャンパス『GU'DAY2021』」を、7月20日（火）から8月2日（月）の14日間開催した。例年同様に、総務課広報係と連携した事前のPR活動等の効果もあり、計14日間のWeb配信で4,429名の高校生と保護者のオンライン登録参加者があった。

イベント内容についても、平成29（2017）年度から発足した「群馬大学学生広報大使」の発案による企画を引き続き実施した。特に今回もWeb配信ということで、「学生広報大使トークライブ」を計画して実施し、多くのオンライン参加者から好評を得た。これらを含め、今回もWebオープンキャンパスの実施に対して、オンライン参加者へのアンケート結果から高評価を得た。

4.4.2 学部別オープンキャンパス

前記したように、各学部学科等が開催する今年度の「学部別オープンキャンパス」は、新型コロナウイルス感染症のため「群馬大学オープンキャンパス『GU'DAY2021』」へ一本化したため、今年度も中止となった。

4.4.3 学生広報大使トークライブ（第二弾「受験生応援編」）

Web配信による「群馬大学Webオープンキャンパス『GU'DAY2021』」の実施の際、「学生広報大使トークライブ」が、今年度も大変好評であった。この「学生広報大使トークライブ」は昨年度と同様、YouTubeでライブ配信し、チャット機能により寄せられた高校生からの質問にリアルタイムで回答するという、大学のオープンキャンパス企画としては目新しく充実した対応であったため、オンライン参加者のアンケートにおいて満足度の高い企画となった。

この結果を受け第二弾として今年度も昨年度と同様、受験シーズンを迎える直前の時期、10月16日と17日の2日間、各学部学科等の在學生に受験の体験記を中心に語ってもらうことで、特に高3生の受験に向けた不安を解消し、本学への志願に結び付けてもらうことを目的として「学生広報大使トークライブ（第二弾「受験生応援編」）」を開催した。その結果、2日間で延べ243名の高校生等のオンライン登録参加があった。参加生徒の本学への志願率（2022年度入試）は80%台後半を記録し、在學生を全面に出す企画は受験生のニーズを捉えていることが昨年度と同様に示された。

4.5 学生募集に係わるその他の広報活動

学生受入センターでは、学生募集に係わる様々な広報活動を行っているが、令和3（2021）年度も令和2（2020）年度と同様、新型コロナウイルス感染症への対応のため様々な点で影響があった。その主な学生募集に係わる広報活動の事項とその状況は、次のとおりである。

4.5.1 高等学校等の教員を対象とした説明会

本学の主催で、高等学校等の進路指導担当等の教員を対象とした「高等学校等の教員を対象とした入学試験に関する大学説明会」を、例年6月下旬に開催している。これは以前、高等学校等の「進路面談（7月中旬頃）の前に、説明会を行って欲しい」旨の意見を進路指導担当等の教員から受け、平成28（2016）年から開催日時を従来の7月下旬より前倒しして行っている。

昨年度は新型コロナウイルス感染症のために開催時期などの混乱があったが、今年度はオンラインにて従来通りの6月25日（金）に「高校教員向けオンライン入試説明会」として本学主催で開催した。この説明会には、過去3年間の入試において志願者のあった約1,300校へ案内通知し、74校の高校教員の参加があった。そして「高校教員向け入試資料」を6月30日から本学ウェブサイトで公開した旨の案内を同様の約1,300校へ通知した。

本学主催ではないが、高校教員向け入試説明会として次の4件へ学生受入センターとして参加し、説明を行った。（1）5月28日（金）に「東京・多摩地区高校向けオンライン入試説明会」として都立高校の教員対象に参加24校、（2）8月17日（火）に「東京・多摩地区高校向けオンライン入試説明会」として都立高校の教員対象に参加39校、（3）12月17日（金）に「千葉向けオンライン入試説明会・情報交換会」として千葉県の高教員対象に参加12校、（4）12月24日（金）に「静岡向けオンライン入試説明会」として静岡県の高教員対象に参加16校。

4.5.2 群馬県高等学校長協会との意見交換会

平成30（2018）年に群馬県高等学校校長協会からの要請を受け、平成30（2018）年度は7月と11月の2回、令和元（2019）年度は7月の1回、群馬県高等学校長協会出席者と本学関係者での意見交換会を実施していた。しかし、今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、日程調整が付かず開催できなかった。

4.5.3 大学説明会・進学相談会・(新規) オンライン個別進学相談会

今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響があったが、県内・近県等を中心に、高校や受験産業からの要請を受けて、オンラインを含め延べ64回、大学説明会・進学相談会等の対応を行い、高校生及び保護者等に群馬大学のPRを行った。

新規の活動として、本学主催で高校生を対象とした「オンライン個別進学相談会」を10月25日(月)から10月29日(金)の5日間開催し、関東・甲信越地方を中心に計45名の参加があった。オンライン参加者の多くから満足した相談が行えた旨の評価を受けることができた。

なお、参加者の本学への志願率(2022年度入試)は80%台後半を記録し、受験生のニーズを捉えていることが示された。

4.5.4 夢ナビライブ

新型コロナウイルス感染症のため、株式会社フロムページが主催する高校生向け進学イベント「夢ナビライブ」は、オンラインとオンデマンド配信が混合した形での開催となった。本学は7月10日と11日の両日開催の「夢ナビライブ2021Web in Summer」と、10月2日と3日の両日開催の「夢ナビライブ2021Web in Autumn」において、学部教員による夢ナビ講義Video、講義ライブ質問対応・研究室訪問、そして、学生広報大使によるオンラインセミナー(トークライブ)を行った。計5名の教員による講義等(参加者計528名)と、延べ10名の学生広報大使によるオンラインセミナー(参加者計514名)を行った。

4.5.5 出張模擬授業

今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響があったが、高校からの依頼により、オンラインを含め延べ50校の高校生に対して、各学部学科等による出張模擬授業を実施した。

4.5.6 高校訪問

今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルスの影響があったが、広報本部の教職員を中心に、県内・隣県等の延べ38校を高校アプローチ戦略に基づいて訪問し、高校の進路指導主事等との意見交換を行った。

4.5.7 大学見学受入

今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症のため、大学見学の受入は原則中止したが、理工学部で計2校の受入れを行った。

4.5.8 大学案内等のダイレクトメール、郵送など

今年度も例年通り、広報活動のためのツールとして、冊子体の大学案内を作成して、オープンキャンパスや出前説明会等において配付する予定であった。しかし、今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症のため、過去3年間の入試において志願者のあった約1,300校の高校へ大学案内を郵送した。また、高校3年生へDM(ダイレクトメール)も送付した。

4.5.9 ウェブサイト等による広報

今年度も例年通り、本学ウェブサイト等を活用し、受験者等への情報発信(LINE、Twitter等のSNSを含む)を種々行った。「入学者選抜に関する要項」や「学生募集要項」の発表、受験状況の公表のほか、平成25(2013)年度からは試験問題及び解答例・評価のポイント、群馬大学入学者選抜における受験上の配慮内容、次年度以降の入試の変更点を公表している。また、大手の受験産業が運営する進学情報サイト等に入試情報を掲載し、より広範な広報活動を行った。

加えて、本学に関する紹介動画を各種作成して、群馬大学公式チャンネル（YouTube）に掲載した。

4.5.10 学生広報大使による広報

本学の広報活動を推進するため、学生ならではの視点を活かして広報活動の企画・実施に参画してもらうことを目的として、平成29（2017）年度から「群馬大学学生広報大使」の活動が行われている。具体的な活動内容としては、オープンキャンパスへの協力、夢ナビライブなどの進学イベントへの参加、高校訪問への同行など多岐にわたる活動を行っている。ただ今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症のため、活動が制限されたが、今年度は「群馬大学Webオープンキャンパス『GU'DAY2021』」での「学生広報大使トークライブ」やラジオ番組「Guuum（グウウウム）」などの活動を行い、多くの高校生の共感を得た。

4.6 広報戦略の立案

今年度も、平成29（2017）年6月に発足した「群馬大学広報本部学生受入部門」と「学生受入センター広報部会」で連携して、広報戦略等を継続して検討した。

4.7 その他

令和4（2022）年度「群馬大学オープンキャンパス『GU'DAY2022』」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、従来の来場型としては開催せず、令和3（2021）年度と同様、原則として全てのプログラムがWeb上で完結するWeb配信型（一部来場型イベントも実施）として開催することとした。

資料4-1：2021年度 入試広報活動まとめ（高大連携・学生募集広報委員会（令和4（2022）年5月19日開催）【資料4-1】）

資料4-2：「夢ナビライブ2021Web in Summer」参加報告（学生受入部門会議／学生受入センター運営委員会広報部会（令和3（2021）年9月7日開催）【資料1-1】）

資料4-3：「夢ナビライブ2021Web in Autumn」参加報告（学生受入部門会議／学生受入センター運営委員会広報部会（令和3（2021）年11月11日開催）【資料1-1】）

2021年度 入試広報活動まとめ

2022年3月31日現在
広報本部学生受入部門

1、オープンキャンパス「GU' DAY 2021」

開催期間	会場（参加者数）	主な対象者	実施者
7月20日（火）～8月2日（月）	オンライン (4429名)	高校生 保護者	総務課

2、高校教員向け入試説明会等

開催日	内容	主な対象者	対応・実施者
5月28日（金）	東京・多摩地区高校向けオンライン入試説明会 都立高校中心に24校参加	高校教員	学生受入センター
6月25日（金）	本学主催高校教員向けオンライン入試説明会 全国の約1300校に周知し、74校参加	高校教員	学生受入センター 各学部
6月30日（金）	高校教員向け入試資料を本学 web 公開 全国の約1300校へ案内通知	高校教員	学生受入センター 各学部
8月17日（火）	東京・多摩地区高校向けオンライン大学説明会 都立高校中心に39校参加	高校教員	学生受入センター
12月17日（金） （初開催）	千葉向けオンライン入試説明会・情報交換会 千葉県の高校12校参加	高校教員	学生受入センター
12月24日（金）	静岡向けオンライン入試説明会 静岡県の高校16校参加	高校教員	学生受入センター

3、本学主催オンライン個別進学相談会（初開催）

開催日	参加人数等	主な対象者	実施者
10月25日（月） ～10月29日（金）	関東・甲信越地方 を中心に45名	高校生	学生受入課 広報本部学生受入部門長 アドミッション・コーディネータ

4、高校訪問（高校アプローチ戦略を策定し、2020年度から全学として実施）

訪問日	訪問回数等	主な対象者	実施者
通年	38校	高校教員 (進路指導主事)	副学長 広報本部学生受入部門長 アドミッション・コーディネータ 理工学部

5、大学説明会等

開催日	実施内容・回数等	主な対象者	実施者
通年	オンライン含め64回	高校生 高校教員	総務課 各学部

7月10、11日	夢ナビライブ 2021Web in Summer ・学部教員による、夢ナビ講義 Video・講義ライブ質問対応・研究室訪問 ・学生広報大使によるオンラインセミナー（トークライブ）	高校生	総務課
10月2、3日	夢ナビライブ 2021Web in Autumn ・学部教員による、夢ナビ講義 Video・講義ライブ質問対応・研究室訪問 ・学生広報大使によるオンラインセミナー（トークライブ）	高校生	総務課
7月22、23日	学生広報大使トークライブ「Youは何しにグンダイへ!？」（オープンキャンパスGU' DAY2021の1イベントとして、学部毎に開催）	高校生	総務課
10月16、17日	学生大使トークライブ「受験生応援編」（学部毎に開催）	高校生	総務課

6、出張模擬授業

開催日	実施回数等	主な対象者	実施者
5月～12月	オンライン含め50校	高校生	各学部

7、大学見学 ※新型コロナウイルスのため原則休止中

実施日	来学校	主な見学者	対応
12月～3月	2校	高校生 高校教員	理工学部

8、ダイレクトメール、配信、郵送等

実施日	内容	対象	対応
4月～	旺文社「高大コネクト」サービスを使い、オンライン入試説明会、オープンキャンパス、学生募集要項公表等の情報を随時配信	直近3年間で志願者があった高校約1300校 (データ提供：学生受入課)	アドミッション・コーディネータ
4月～	オンライン入試説明会、オープンキャンパス、学生募集要項公表等の情報をメールで直接随時送信	高校訪問等の現場で名刺交換した高校教員約100名	アドミッション・コーディネータ
7月～	オープンキャンパス、選抜要項公表、学生募集要項公表等の情報をメールで直接随時送信	6月25日のオンライン入試説明会に参加した高校教員約80名	アドミッション・コーディネータ
7月	オープンキャンパスGU' DAY2021告知DM	リクルート「スタディサプリ進路」登録者に向けて、GU' DAY2021の告知（配信範囲 茨城・栃木群馬埼玉千葉東京神奈川、高1～3）偏差値帯で高校を選別。約7000通。	総務課

4月～	オープンキャンパス、学生募集要項公表等の情報を理工学部公式LINEで送信	理工学部公式LINE友達登録済 407アカウント	理工学部
10月	理工学部案内等郵送 (Web0C理工学部体験型イベントにて配付を予定していた資料の郵送)	Web0Cにて理工学部体験型イベントに申込済みの高校生・保護者約160名 (※理工学部体験型イベントは新型コロナウイルスのため開催中止)	理工学部
1月	fromページ「入試直前激励号」チラシ同梱	首都圏エリア(東京、埼玉、神奈川、千葉)の高校3年生及び高卒生86,000名へ発送	理工学部
1月	fromページ「入試直前激励号」広告掲載	全国の高校3年生及び高卒生を対象に、40万部を発送	理工学部
3月	fromページ「新学年スタート号」特集記事『リケジョのための理工系学問を学べる特集』への記事広告掲載・ダイレクトメール配信	(冊子)全国の新高校2・3年生を対象に、約40万部を発送 (メール)全国の理工系志望の女子ユーザーを対象に配信	理工学部

9、広告

実施日	媒体名	内容	規格・部数等	対応
10月1日(金)	長野県民新聞別冊(「近隣の大学の大学特集」)	大学概要、SNS等の紹介	・発行部数4万部 ・長野県の全高校2、3年生に、高校を通して直接配布	総務課
7月4日(日)	下野新聞「2021夏休オープンキャンパス・体験入学」特集	連合広告(オープンキャンパス案内)	・タブロイド版フルカラー ・A4/163×108ミリ ・7月4日朝刊折込み 約28万部(栃木県内) ・栃木県内高校3年生の生徒へ、学校経路にて送付	理工学部
4月1日～(昨年度から契約更新)	JR桐生駅電照看板	理工学部改組紹介	JR桐生駅に電照看板設置	理工学部
12月1日(水)～	JR太田駅電照看板	理工学部改組紹介	JR太田駅に電照看板設置	理工学部
12月24日(金)～1月6日(木)	シネアド(呪術廻戦)	大学概要等の紹介	イオンシネマ高崎、太田、富士宮の3劇場にて、2週間、「呪術廻戦0」の上映前15秒間、広告を上映。	理工学部
1月17日(月)～2月4日(金)	マナビジョンDSP	理工学部改組紹介・出願促進	「ベネッセマナビジョン」会員と「進研模試」受験者の内、理工学部のターゲット層となる生徒に向けて、バナー広告を配信。(Google、Yahoo!等の媒体に配信)	理工学部

※大学説明会等の件数はfromページの高校アプローチ管理システムから集計(延べ数)

「夢ナビライブ 2021Web in Summer」参加報告

2021年9月

広報本部学生受入部門

総務部総務課広報係

「夢ナビライブ 2021Web in Summer」は2021年7月10日（土）・11日（日）の2日間、オンライン開催された（参加者実数 54,910名）。

群馬大学は、7月11日（日）に「講義ライブ質問対応・研究室訪問」と「オンラインセミナー」の2つのイベントに参加した。

1. 講義ライブ質問対応・研究室訪問

2名の教員が、Zoom ミーティングスタイルで実施。『講義ライブ(夢ナビ講義 Video)』（6月25日～7月11日オンデマンド配信）を視聴し学問に関心を高めた高校生が大学をより身近に感じるように、また、高校生からの質問に対応しながら、研究室を紹介した。

●共同教育学部 市川寛也 准教授

【テーマ】～「芸術」を学問にするととは？ 妄想が形になるまで～

【実施回数】3回

6時限目（13:20～13:50）、9時限目（15:20～15:50）、12時限目（17:20～17:50）

【参加者数】183名

【参考】市川准教授の紹介ページ

<https://doug.yumenavi.info/Lecture/PublishDetail/2021000491?back=>

●情報学部 齋藤 翔太 准教授

【テーマ】～現代の情報社会を支える数学 情報理論～

【実施回数】3回

5時限目（12:40～13:10）、8時限目（14:40～15:10）、11時限目（16:40～17:10）

【参加者数】104名

【参考】齋藤准教授の紹介ページ

<https://doug.yumenavi.info/Lecture/PublishDetail/2021000465?back=>

2. オンラインセミナー

4名の学生広報大使が、Zoom ミーティングスタイルで「学生広報大使トークライブ」を実施。高校生からチャットで寄せられた質問に答えながら、大学生活のリアルな実態を伝えた。

各回とも、本編終了後も50名近くの高校生が残って質疑応答が続くほどの盛況ぶりであった。

【テーマ】学生広報大使トークライブ「Youは何しにグンダイへ!？」

【実施回数】2回 9時限目(15:20～15:50)、12時限目(17:20～17:50)

【出演学生】

医学部医学科 神山紘太郎(1年)

情報学部情報学科 増田日菜里(1年)

理工学部電子情報理工学科 狩野 涼(3年)

理工学部化学・生物化学科 江原健泰(3年)

【参加者数】336名(詳細は別紙のとおり)

「夢ナビライブ 2021Web in Autumn」参加報告

2021年11月
広報本部学生受入部門
総務部総務課広報係

「夢ナビライブ 2021Web in Autumn」は2021年10月2日（土）・3日（日）の2日間、オンライン開催された（参加者実数 73,891 名）。

群馬大学は、「**学問の講義ライブ（夢ナビ講義 Video）**」（9月18日（土）～10月30日（木）オンデマンド配信）、「**講義ライブ質問対応・研究室訪問**」（10月2日（土）・3日（日）オンライン配信）、「**オンラインセミナー**」（10月3日（日）オンライン配信）に参加した。

1. 講義ライブ質問対応・研究室訪問

3名の教員が、Zoom ミーティングスタイルで実施。『講義ライブ(夢ナビ講義 Video)』（9月18日（土）～10月30日（木）オンデマンド配信）を視聴し学問に関心を高めた高校生が大学をより身近に感じるように、また、高校生からの質問に対応しながら、研究室を紹介した。

●医学部医学科 佐野利恵 准教授

【テーマ】 ABO 式血液型の 5 W1H

【実施回数】 1 回（10 月 3 日（日）：4 時限目（12:00～12:30））

【参加者数】 70 名

【参考】 佐野准教授の紹介ページ

<https://doug.yumenavi.info/Lecture/PublishDetail/2021000866?back=>

●医学部保健学科 柳奈津子 講師

【テーマ】 リラクゼーション法で心と身体の調子をととのえる

【実施回数】 2 回（10 月 2 日（土）：6 時限目（13:20～13:50）、8 時限目（14:40～15:10））

【参加者数】 66 名

【参考】 柳講師の紹介ページ

<https://doug.yumenavi.info/Lecture/PublishDetail/2021000980?back=>

●理工学部 武田茂樹 教授

【テーマ】薬はどのように働き、新薬はどうやって開発するのか

【実施回数】3回（10月2日（土）：1時限目（10:00～10:30）、2時限目（10:40～11:10）、3時限目（11:20～11:50））

【参加者数】105名（詳細は別紙のとおり）

【参考】武田教授の紹介ページ

<https://douga.yumenavi.info/Lecture/PublishDetail/2021000937?back=>

2. オンラインセミナー

6名の学生広報大使が、Zoom ミーティングスタイルで「学生広報大使トークライブ」を実施。高校生からチャットで寄せられた質問に答えながら、大学生活のリアルな実態を伝えた。各回とも、本編終了後も多くの高校生が残って質疑応答が続くほどの盛況ぶりであった。

なお、10月3日（日）の1時限目（10:00～10:30）にシステム障害があり（参加大学全てに影響が及んだ）、本学ではオンラインセミナーに参加したいのに参加できなかった高校生が出てしまったことから、オンラインセミナー申込者に対し、本学が実施予定であった、学生広報大使トークライブ「受験生応援編」（10/16・10/17）、オンライン個別進学相談（10/25～10/29）について、後日、メールにて事前案内を行った（フォームページが無償対応）。

【テーマ】学生広報大使トークライブ「Youは何しにグンダイへ!？」

【実施回数】2回（10月3日（日）1時限目（10:00～10:30）、4時限目（12:00～12:30））

【出演学生】

- ・共同教育学部 柳澤友美（4年）
- ・情報学部情報学科 小山友菜（1年）
- ・医学部保健学科看護学専攻 川島花果（1年）
- ・医学部保健学科検査技術科学専攻 二宮花凜（1年）
- ・医学部保健学科検査技術科学専攻 柴沼里桜（2年）
- ・理工学部電子情報理工学科 平山大夢（3年）

【参加者数】178名

5 健康支援総合センター

5.1 はじめに

令和3年度は令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策を前提とした対応のもとに、健康支援総合センター（以下「センター」という。）の活動・行事を行った。

まず、本来の基本事項であるが、センターは学生ならびに教職員の心身の健康の保持増進を図るため、学生健康診断やその事後措置としての助言・指導、健康に関する相談対応、感染症の流行情報の把握と予防教育活動及び健康に関連した調査や研究を行っている。大学を取り巻く環境が変化していく中で、近年その活動は、以下の新たな3つの点を中心に実施されてきた。

- 1) 学内関連組織との円滑な連携に基づく学生の心身の健康に関する支援拡充
- 2) 障害学生支援室との連携強化（平成28年4月障害者差別解消法施行）
- 3) 学外の医療・教育関係機関との連携による地域貢献活動の拡充

令和3年度は上記の点に加えて、新型コロナウイルス感染症の状況に柔軟に対応しながらの実施を余儀なくされたことから、各種活動の日程や内容の変更、支援活動の拡充について随時検討しながら実施されていった。以下に主な点を列挙する。

- ①危機対策本部会議との連携：上記の政府・文部科学省の方針の下、危機対策本部会議がほぼ毎月開催され、センター長（病院長）が出席。副センター長もオブザーバーとして出席し、検討に参加し対策実施に協力した。
- ②学部行事への予防対策助言：学部の要請に基づき、入学試験や講義における感染予防対策について個別の助言を行った。
- ③保健所との連携：新型コロナウイルス感染者及び感染疑い例への対応についての指導に沿って学生支援を行った。
- ④学生相談のオンライン化：令和2年度に引き続き、講義のオンライン化に伴い、従来の対面型の学生相談以外に、オンラインでの相談も随時継続した。
- ⑤カウンセラーによる学生向けセルフケアセミナーを企画、実施した。
- ⑥主幹大学として学会の実施：令和3年度は第59回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会総会をメール会議にて、また研究集会をオンラインにて実施した。
- ⑦教職員のためのカウンセリングの支援：令和2年度より人事労務課に協力して、非常勤産業カウンセラー1名を配置し、教職員のためのカウンセリングを実施し、産業保健活動へ貢献した。

5.2 令和3年度実施事業

5.2.1 学生定期健康診断の実施

令和2年度は対象者を限定して実施したが、令和3年度は例年通り対象者を全学生とし、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、資料5-1に示す日程で実施した。受検状況は資料5-2に示すとおりであった。学部学生の受検率は前橋地区全体で92.2%、桐生地区全体で73.8%であった。1年生については、共同教育学部99.0%、情報学部98.9%、医学部医学科97.5%、医学部保健学科98.1%、理工学部92.6%と良好であった。各検査結果は資料5-3に示すとおりであった。要精検者については、医療機関への紹介状を作成し、円滑な受診につなげている。

5.2.2 精神保健調査の実施

例年、4月の健康診断時に精神保健調査（スクリーニング検査）を実施している。対象者は各学部新入生、大学院新入生（医学系研究科生、保健学研究科生、理工学府生を除く）、特別支援教育特別専攻科新入生、編入生及びその他の学生（在学生）とした。なお、在学生については令和3年度より健康診断予約システムを用いて予約時にオンライン上で実施している。

調査方法は、メンタルヘルス質問票33項目を用い、抑うつ状態、気分変調、精神病像、食行動異常、生活支障度、相談希望、既往歴についてスクリーニングし、面接の可否を判定した。要面接と判定された者に対しては、センター医師2名が対面またはオンラインで診断的面接を実施した。

結果については資料5-4に示すとおりであった。要面接者は、新入生においては3.9%、在生学生においては2.1%と昨年度より増加した。

5.2.3 学校生活に関する困りごと調査の実施

例年、6月に新入生を対象とした講義内で実施しているが、令和2年度からは新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、10月にオンライン上で実施した。結果より「相談を希望する」「相談するべきかどうか迷っている」と答えた学生に対し面接を勧めた。面接は、センター医師（講師）が担当した。結果は資料5-5に示すとおりであった。

5.2.4 学生特殊健康診断の実施

特殊健康診断の受診対象者は、「常時使用する労働者」であり、教職員、非常勤教職員であるが、学生も実習や実験研究を通じて、教員等と同様の環境下にあることから特殊健康診断の対象とすることが必要であると考えられる。このことから、平成25年度より「特殊健康診断を受診している教員の研究室に配属している理工学部4年生及び理工学府生」、「作業環境測定結果が第二及び第三管理区域であった研究室に配属している理工学部4年生及び理工学府生」、「リスク評価システムにおいてリスクレベル「IV S」と判断された理工学部4年生及び理工学府生（一部Ⅲ Sも含む）」を対象に同健康診断を実施している。結果は資料5-6に示すとおりであった。受診者79名中、異常なし77名、要経過観察者2名、要精密検査者は0名であった。要精密検査の学生がいた場合には、医療機関を受診し必要な検査を受けるよう個別指導を行っている。

5.2.5 外国人留学生健康診断の実施

平成21年度から感染性肺結核症の有無を検査するクオンティフェロンTBゴールド検査を実施していたが、平成30年度よりT-SPOTに変更して検査を実施した。令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、新規の外国人留学生も少なく、T-SPOT検査は実施せず、11～12月に胸部レントゲン検査を実施した。結果は資料5-7に示すとおりであった。

5.2.6 自殺予防対策ワーキンググループの活動

令和元年に関係学部等と連携して自殺予防対策ワーキンググループを立ち上げ、令和2年はガイドラインを作成する年度に該当していたが、新型コロナウイルス感染症対策及びメンタルヘルス不調による個別緊急対応事例の増加から、延期となっていたが、事例の検討を行い、「群馬大学自殺予防ガイドライン」の素案を作成し、令和3年度は、その内容をもとに現場に必要な学びの場を作ることとして令和4年3月18日（金）に自殺予防ガイドライン策定ワーキンググループ研修会を開催し、一般社団法人日本グリーフ専門士協会代表理事、公認心理師の井手敏郎氏より「グリーフケア～悲嘆にどのように向き合うか」と題してご講演いただいた。また、研修会終了後には、自殺予防ガイドライン策定ワーキンググループ会議を開催し、ガイドラインの素案について意見交換を行った。

5.3 健康支援総合センター利用状況

5.3.1 利用人数及び件数

センター利用人数は、1,038名（年間延べ人数）であった。からだの健康相談、こころの健康相談、健康診断書の発行についての各件数を月別に集計した。新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンラインでの相談が主であった。結果は資料5-8に示すとおりであった。健康診断書については、そのほとんどが自動発行のシステムを利用して発行されており、所定の健康診断書への記入が必要であった20件に関してはセンターで発行した。

5.3.2 健康相談の対応内容別件数及びカウンセリング報告

健康相談を「からだの健康相談」と「こころの健康相談」に分けて月別に集計した。結果は資料5-9に示すとおりであった。さらに、こころの健康相談者数とその内容については資料5-10に示す。また、荒牧・桐生キャンパスでの公認心理師による月別カウンセリング利用者数及び動機内訳を資料5-11に示した。学生本人だけではなく、学生の家族や担当教員との面談や電話・メール相談も随時実施した。今後もセンターで受ける健康相談数は増加することが予測され、センター医師や公認心理師が対応する相談やカウンセリングに要する時間の増加は避けられないと想定される。

近年大きな課題となっている外国人留学生のメンタルヘルスサポートの問題は、令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策のために一時出入国が制限されていたこともあり減少傾向が見られたが、今後はむしろ増加することが予測され、動向を観察していく必要があると思われる。

5.3.3 疾病領域別利用者数

疾病領域別利用者数を月ごとに集計した表を資料5-12に示す。オンラインでの相談が主であり、メンタルヘルスに関連するものが圧倒的に多数を占めた。相談内容としてメンタルヘルス不調に関するケースは、前年度から379件増加しており、医師・カウンセラーによる心理相談を継続して行い、必要に応じて外部医療機関を紹介した。

5.3.4 診療科別医療機関紹介件数

センターから他の医療機関への紹介件数は、延べ学生34件、教職員0件であり、結果は資料5-13に示すとおりであった。

5.3.5 薬剤別処方日数

センターで処方した薬剤の量を投与日数で集計した。結果は資料5-14に示すとおりであった。

5.3.6 桐生地区・保健室利用状況

桐生地区での保健室利用状況は、資料5-15に示すとおりであった。

5.3.7 昭和地区・学生健康相談室利用状況

昭和地区での学生健康相談室利用状況は、資料5-16に示すとおりであった。

5.3.8 キャンパス・ソーシャルケースワーカーによる活動

キャンパス・ソーシャルケースワーカーの活動は、各キャンパスで教員からの要請に従い支援を行っている。令和3年度は資料5-17に示すとおり、桐生地区10名、荒牧地区5名の計15名の学生への対応の要請があった。事例から得られた経験を蓄積することで、更なる機能の向上をめざす。

5.4 教育関連活動

センターの医師は、教員として教養教育等の講義を担当している。新入生を対象とした教養基盤科目のスポーツ・健康「健康教育」について、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、他講義と同様にオンラインにて実施した。傷病対策及びメンタルヘルス不調対策として、それぞれ90分の講義を5回（同一内容）行った。内科医からは「からだからのサインに気づく」と題して大学生に必要となる傷病対策についての講義を行い、精神科医からは「精神の健康」をテーマに発達障害を含めたメンタルヘルス不調全般について講義を行った。なお、令和3年度は学期開始当初より新型コロナウイルス感染症対策のため全学オリエンテーションが実施できなかったことから、新入生向けの上記講義を例年より早めの5月連休後から実施し、講義の中で本センターのオリエンテーションを実施した。なお、例年オリエンテーションの際に実施しているアルコールパッチテストについては、簡単な説明のみ行った。

また、令和3年5月には学務部主催のゲートキーパー研修会において、例年のように「自殺予防について」と題して日本ゲートキーパー協会理事長 大小原利信氏よりオンラインにて40分間の講演を行ったが、今年度はこの中で新型コロナウイルス感染症対策及びいわゆる「コロナうつ」についての簡単な解説と対応についても講演を行った。この模様の一部は、参加者の同意を得て、NHK番組「未来スイッチ」にて放映された。

更に、精神科医師は、非常勤講師として医学部医学科3年生臨床行動科学講義「心の健康を保つには」を行った。また、医学部医学科5年生1名の地域保健実習を担当した。

5.5 健康管理に関する調査研究活動

群馬大学「性の多様性に関する学生意識調査」からみるSOGIへの展開
(人を対象とする医学系研究倫理審査委員会へ研究計画書提出)
研究責任者：長安めぐみ講師，研究分担者：宮崎博子，竹内一夫

5.6 健康支援総合センター主催の委員会等

下記の委員会等を主催した。

- 1) 令和3年度健康支援総合センター運営委員会（令和4年2月2日）
- 2) 令和3年度群馬県内大学等メンタルヘルス研究会「学生の自殺予防－折れない心を育てられるか？－」
講師 影山隆之 大分県立看護科学大学 看護学部教授
(令和4年1月24日オンライン開催)
- 3) 群馬県内大学等保健管理担当者会議（10月21日）
群馬県内の大学，短期大学，高等専門学校等の保健管理担当実務者及び事務担当者へのメール会議を開催した。会議内容は、研究集会の報告、「健康ミニガイド」の作成、保健管理担当者へのアンケート結果の報告などである。

5.7 健康支援総合センターの全国会議等出席

下記の全国会議等にセンターの教職員が出席し、最新の情報の収集を行い、センターの機能強化につなげた。さらに関係大学との情報交換を行い、連携を深めた。

- 1) 第13回全国大学保健管理協会総会（オンライン開催）：京都大学（6月22日）副センター長が出席
- 2) 第59回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会（オンライン開催）：群馬大学（9月16日，17日）
- 3) 第59回全国大学保健管理研究集会（オンライン開催）：広島大学（10月6日，7日）副センター長，センター講師が出席
- 4) 令和3年度国立大学法人保健管理施設協議会総会（オンライン開催）：徳島大学（10月8日）副センター長が出席
- 5) 第42回全国大学メンタルヘルス学会（オンライン開催）：東京医科歯科大学（12月16日，17日）副センター長，センター講師，公認心理師が出席
- 6) 第23回フィジカルヘルスフォーラム（オンライン開催）：東京大学（3月17日）センター講師が出席。

5.8 学内行事実施に伴う救護業務

下記の学内行事に教職員が救護活動を行った。

- ・入学式
- ・関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験
- ・社会情報学部第3年次編入学試験
- ・共同教育学部，情報学部推薦入学試験
- ・大学入学共通テスト
- ・個別学力検査（前期，後期）
- ・学位記授与式

5.9 出版・広報活動

下記の出版，広報活動を行った。

- 1) 「健康ミニガイド2021～よりよいキャンパスライフを送るために～」を発行した。先に示した群馬県内大学等保健管理担当者会議が，健康についての意識や知識を高めてもらうことを目的に共同で作成した冊子であり，新入生に配布した。
- 2) 「群馬大学 大学教育・学生支援機構報告書 健康支援総合センター」の令和2年度の原稿を作成して提出した。
- 3) NHK番組「未来スイッチ」で，本学が開催した「ゲートキーパー研修会」が紹介された2021年5月12日（水）23：35～23：40。
- 4) 前橋市公式YouTube 桂萱公民館「子どものストレス・親のストレス～講演風景と館長との対談～」に動画が公開された（副センター長）。
<https://www.youtube.com/watch?v=uCHG5MLzke0>（2022年7月現在視聴可能）
- 5) 群馬テレビ「ビジネスジャーナル」出演（副センター長）
「職場のメンタルヘルス～ウィズコロナ時代のストレス対策～」2021年8月4日
- 6) 上毛新聞「風っ子」に取材記事が掲載された（副センター長）
「人はなぜ笑うの？」2021年8月8日
- 7) 共著（副センター長）「シンプル衛生・公衆衛生学2021」（南江堂），2021年，東京
- 8) 共著（副センター長）全国柔道整復学校協会監修「衛生・公衆衛生学 改訂第6版第7

刷」(南江堂), 2022年1月, 東京

監修(副センター長)「衛生テキスト」(日本バーテンダー協会), 2021年, 東京

5.10 社会貢献活動

センターの医師は, 専門性を生かして下記の社会貢献活動を行った。

【精神科医・教授(副センター長)】

各種外部委員, 嘱託医及び各関係機関からのコンサルテーション要請への対応

令和3年度 群馬地方労働審議会・会長代行

令和3年度 群馬県障害者雇用対策プロジェクトチーム・座長

令和3年度 全国大学メンタルヘルス学会・理事

令和3年度 全国大学保健管理協会・評議員

令和3年度 前橋市教育委員会学校問題対策委員

令和3年度 群馬産業保健総合支援センター・相談員

令和3年度 群馬産業保健総合支援センター・評価委員

令和3年度 群馬大学医学部非常勤講師(公衆衛生学, 精神医学)

令和3年度 北関東医学会・評議員

令和3年度 群馬職域メンタルヘルス交流会・幹事

そのほか群馬県医師会, 群馬県障害者職業センター, 群馬県こころの健康センター, 群馬労働基準協会連合会, 群馬職域メンタルヘルス交流会, 群馬産業保健総合支援センター, 日本産業カウンセラー協会, 日本バーテンダー協会などの要請に応じて各種講演や講義を行った。第59回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会 代表世話人

【内科医・講師】

嘱託医及び各関係機関からのコンサルテーション要請への対応

令和3年度 渋川看護専門学校非常勤講師として看護研究に必要な基礎統計学講義を担当。

令和3年度 高崎市乳幼児健診事業 内科診察及び発達・発育相談対応。

令和3年度 群馬大学 性の多様性に関する基本的考え及び対応ガイドラインに基づく支援員(にじいろライン相談員)として初期相談対応。

第59回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会 幹事

第1回群馬大学SOGI理解促進のための講演会(アンコンシャス・バイアスについて)企画・運営及びオンライン開催。

5.11 産業保健活動

産業保健活動に関しては人事労務課が統括しているが, 平成25年度途中から荒牧・上沖・若宮地区に関しては, センター医師2名(内科, 精神科)が兼務する体制をとっている。昭和地区は非常勤産業医(精神科)1名が勤務しており, 桐生・太田地区は桐生市医師会医師に依頼している。平成27年度にはこれらの産業医の意見を集約するための産業医部会が発足し, 継続している。

5.11.1 安全衛生委員会

荒牧及び若宮事業場は講師・内科医が参加し, 毎月の委員会中での職場巡視の報告及び質疑応答を通じて, 職場環境改善のための指摘を行った(1回/月, 8月を除く。メール会議の月もあり, その場合は資料を閲覧)。

5.11.2 職員の定期健康診断

人事労務課からの依頼を受け、若宮事業場及び上沖事業場の職場健診における内科診察を行った。全事業場に勤務する教職員の健診結果の判定及び個別結果の事後措置、医療保健相談についてはセンター内科医が対応した。

5.11.3 スタッフカウンセリング

人事労務課に協力して、非常勤産業カウンセラー1名を配置し、教職員のためのカウンセリングを実施。

5.12 通常業務以外の支援業務

全学危機対策本部会議にオブザーバーとして招集され、新型コロナウイルス対策の一部について意見を述べた（副センター長）。

5.13 健康支援総合センターの現状及び今後の方向性

冒頭に記したように令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の予防対策に重点を置き、臨機応変な業務対応を余儀なくされる中、オンラインでできる活動の可能性を模索しながら日々の業務を遂行してきた。

その中でも主幹大学として、全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会をオンラインで無事に開催し、その任を果たし次年度主幹大学へ引き継ぐことができた。

また、学生の支援業務に関しては、令和2年度より続く大学教育のオンライン化に伴う学生の孤立や学生自身の将来への不安などを中心に、心身の不調を訴える学生が増加する中、個別対応事例の増加に対して関連教職員との連携を密にし、柔軟に対応した。例年であるとメンタルヘルス不調をきたしにくいパーソナリティと思われる学生も不調を訴える機会が多くなった印象もあり、学生自身の日頃からのセルフケアスキル向上の必要性も考慮し、「学生のためのセルフケアセミナー」（連続企画）の開催を新設するなど、コロナ禍に合わせた対応を検討し活動を行なった。今後もウィズコロナ時代にあわせた中・長期的な視点での支援体制を強化していくことが求められていると実感した1年であった。

5.14 健康支援総合センター資料集

- 資料5-1-1：令和3年度 前橋地区学生定期健康診断日程表
- 資料5-1-2：令和3年度 桐生・太田地区学生定期健康診断日程表
- 資料5-2-1：令和3年度 学生定期健康診断受検状況（前橋地区）
- 資料5-2-2：令和3年度 学生定期健康診断受検状況（桐生・太田地区）
- 資料5-3：令和3年度 学生定期健康診断結果
- 資料5-4：令和3年度 精神保健調査結果
- 資料5-5：令和3年度 学校生活に関する困りごと調査結果
- 資料5-6：令和3年度 学生特殊健康診断結果
- 資料5-7：令和3年度 外国人特別健康診断結果
- 資料5-8：令和3年度 健康支援総合センター利用状況
- 資料5-9：令和3年度 健康相談の対応内容

資料5-10：令和3年度	こころの健康相談者数
資料5-11：令和3年度	公認心理師による心理カウンセリング報告
資料5-12：令和3年度	疾病領域別利用者数
資料5-13：令和3年度	診療科別医療機関紹介件数
資料5-14：令和3年度	薬剤別処方日数
資料5-15：令和3年度	桐生地区・保健室利用状況
資料5-16：令和3年度	昭和地区・学生健康相談室利用状況
資料5-17：令和3年度	キャンパス・ソーシャルケースワーカー業務について

令和3年度 学生定期健康診断日程表（前橋地区）

【在学生】 ※予約制(人数枠)

日数	月日	9:00~9:30	9:30~10:00	10:00~10:30	10:30~11:00	11:00~11:30	11:30~11:45	13:00~13:30	13:30~14:00	14:00~14:30	14:30~15:00	15:00~15:30	15:30~16:00	16:00~16:15
1	3/25(木)							35	35	35	35	35	35	20
2	3/26(金)	35	35	35	35	35	20	35	35	35	35	35	35	20
3	3/29(月)	35	35	35	35	35	20	35	35	35	35	35	35	20
4	3/30(火)	35	35	35	35	35	20	35	35	35	35	35	35	20
5	3/31(水)	35	35	35	35	35	20	35	35	35	35	35	35	
6	4/1(木)	35	35	35	35	35	20	35	35	35	35	外国人留学生 (留学・休学)	外国人留学生 (留)	

【新入生】

日数	月日	9:00~9:30 (35名)	9:30~10:00 (35名)	10:00~10:30 (35名)	10:30~11:00 (35名)	11:00~11:30 (35名)	11:30~11:45 (20名)	13:00~13:30 (35名)	13:30~14:00 (35名)	14:00~14:30 (35名)	14:30~15:00 (35名)	15:00~15:30 (35名)	15:30~16:00 (35名)	16:00~16:15 (20名)	
1	4/5 (月)	医学部医学科1年			医学部保健学科(看護) 1年		医学部 保健学科(理学) 1年	医学部 保健学科(検査) 1年	理工学部1年 (物質・環境類)					医学部 保健学科(作業) 1年	
														医学部医学科 2年次編入	
2	4/7 (水)	共同教育学部1年						情報学部1年					社会情報学部 3年次編入	医学部保健学科 3年次編入	
3	4/8 (木)	理工学部1年 (物質・環境類)			理工学部1年 (電子・機械類)			理工学部1年 (電子・機械類)		大学院(教育学) 1年	大学院(医学系) 1年	大学院(保健学) 1年	外国人留学生 (4月入学の 研究生、聴講生、 交換留学生など)		

1) 健康診断項目: 既往歴、身体計測(自己申告)、視力計測(自己申告)、血圧測定、尿検査、胸部X線撮影、内科診察(該当者のみ)、アンケート

2) 健康診断会場: 健康支援総合センター、基幹棟

3) 健康診断を受けないと健康診断書の発行はできません。

令和3年度 学生定期健康診断日程表 (桐生・太田地区)

【在学生】 ※予約制(人数枠)

日数	月日	9:00~9:30	9:30~10:00	10:00~10:30	10:30~11:00	11:00~11:30	11:30~11:45	13:00~13:30	13:30~14:00	14:00~14:30	14:30~15:00	15:00~15:30	15:30~16:00
1	3/25(木)	35	35	35	35	35	20	35	35	35	35	35	35
2	3/26(金)	35	35	35	35	35	20	35	35	35	35	35	35
3	3/29(月)	35	35	35	35	35	20	35	35	35	35	35	35
4	3/31(水)	35	35	35	35	35	20	35	35	35	35	35	35
5	4/2(金)	35	35	35	35	35	20	35	35	35	35	35	35

【新入生】

	月日	9:00~9:30 (35名)	9:30~10:00 (35名)	10:00~10:30 (35名)	10:30~11:00 (35名)	11:00~11:30 (35名)	11:30~11:45	13:00~13:30 (35名)	13:30~14:00 (35名)	14:00~14:30 (35名)	14:30~15:00 (40名)	15:00~15:30 (40名)	15:30~16:00 (40名)
1	4/10(土)	理工学府修士1年 物質・生命			理工学府修士1年 知能機械創製		/	3年次編入生	理工学府 修士1年 知能機械創製	理工学府 修士1年 環境創生	理工学府 修士1年 環境創生 理工学府 博士1年	理工学府修士1年 電子情報・数理	

- 1)健康診断項目:既往歴. 身体計測(自己申告). 視力計測(自己申告). 血圧測定. 尿検査. 胸部X線撮影. 内科診察(該当者のみ). アンケート
 2)健康診断会場:大講義室(桐生キャンパス)
 3)健康診断を受けないと健康診断書の発行はできません。

令和3年度 学生定期健康診断受検状況（荒牧・昭和地区）

	対象者数	血圧測定		尿検査		胸部X線撮影	
		受検者数	受検率	受検者数	受検率	受検者数	受検率
学部合計	3,299	3,043	92.2%	2,652	80.4%	3,038	92.1%
大学院等の合計	435	130	29.9%	117	26.9%	124	28.5%
合計	3,734	3,173	85.0%	2,769	74.2%	3,162	84.7%

対象者数は令和3年4月1日現在の学生数とし休学者は除いた。

受検率は小数点第二位を四捨五入。

上記の他に、下記の18名が受検した。

教育学部特別聴講学生2名、社会情報学部研究生5名・特別聴講学生3名、医学部研究生1名

理工学部7名【2年1名、4年3名、大学院理工学部1年2名、大学院理工学部2年1名】

今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、身体測定、視力測定は自己申告とし、尿検査は外注で別日に実施した。

<学部学生>

	対象者数	血圧測定		尿検査		胸部X線撮影			
		受検者数	受検率	受検者数	受検率	受検者数	受検率		
共同教育学部	1年	201	199	99.0%	177	88.1%	199	99.0%	
	2年	202	192	95.0%	175	86.6%	192	95.0%	
教育学部	3年	227	212	93.4%	194	85.5%	212	93.4%	
	4年	241	214	88.8%	186	77.2%	214	88.8%	
合計	871	817	93.8%	732	84.0%	817	93.8%		
情報学部	1年	183	181	98.9%	168	91.8%	181	98.9%	
社会情報学部	2年	102	84	82.4%	68	66.7%	84	82.4%	
	3年	120	84	70.0%	66	55.0%	84	70.0%	
	4年	136	111	81.6%	95	69.9%	111	81.6%	
合計	541	460	85.0%	397	73.4%	460	85.0%		
医学部	医学科	1年	122	119	97.5%	102	83.6%	118	96.7%
		2年	132	112	84.8%	80	60.6%	112	84.8%
		3年	123	104	84.6%	86	69.9%	104	84.6%
		4年	130	110	84.6%	79	60.8%	108	83.1%
		5年	133	127	95.5%	90	67.7%	127	95.5%
		6年	109	107	98.2%	71	65.1%	107	98.2%
	合計	749	679	90.7%	508	67.8%	676	90.3%	
	保健学科	1年	161	158	98.1%	148	91.9%	157	97.5%
		2年	163	160	98.2%	151	92.6%	160	98.2%
		3年	158	155	98.1%	140	88.6%	154	97.5%
		4年	156	151	96.8%	137	87.8%	151	96.8%
		合計	638	624	97.8%	576	90.3%	622	97.5%
	合計	1,387	1,303	93.9%	1,084	78.2%	1,298	93.6%	
理工学部	1年	500	463	92.6%	439	87.8%	463	92.6%	
学部合計	3,299	3,043	92.2%	2,652	80.4%	3,038	92.1%		

<大学院学生>

	対象者数	血圧測定		尿検査		胸部X線撮影				
		受検者数	受検率	受検者数	受検率	受検者数	受検率			
教育学研究科	修士課程	2年	1	0	0%	0	0%	0	0%	
		1年	20	7	35.0%	6	30.0%	7	35.0%	
	専門職学位課程	2年	20	1	5.0%	1	5.0%	1	5.0%	
教育学部特別支援教育特別専攻科		12	9	75.0%	7	58.3%	9	75.0%		
合計	53	17	32.1%	14	26.4%	17	32.1%			
社会情報学研究科	修士課程	1年	13	9	69.2%	8	62%	8	61.5%	
		2年	6	3	50.0%	3	50.0%	3	50.0%	
	合計	19	12	63.2%	11	57.9%	11	57.9%		
医学研究科	医科学専攻	修士課程	1年	9	7	77.8%	7	78%	7	77.8%
			2年	6	4	66.7%	3	50.0%	4	66.7%
		博士課程	1年	35	13	37.1%	13	37.1%	13	37.1%
			2年	44	10	22.7%	10	22.7%	8	18.2%
			3年	51	14	27.5%	14	27.5%	13	25.5%
	4年		89	16	18.0%	13	14.6%	15	16.9%	
	合計	234	64	27.4%	60	25.6%	60	25.6%		
	保健学専攻	博士前期課程	1年	38	14	36.8%	11	28.9%	14	36.8%
			2年	52	18	34.6%	16	30.8%	17	32.7%
		博士後期課程	1年	8	1	12.5%	1	12.5%	1	12.5%
			2年	9	0	0%	0	0%	0	0%
3年			22	4	18.2%	4	18.2%	4	18.2%	
合計		129	37	28.7%	32	24.8%	36	27.9%		
合計	363	101	27.8%	92	25.3%	96	26.4%			
大学院の合計	435	130	29.9%	117	26.9%	124	28.5%			

令和3年度 学生定期健康診断受検状況（桐生・太田地区）

区 分		対象者数	血圧測定		尿検査		胸部X線撮影		
			受検者数	受検率	受検者数	受検率	受検者数	受検率	
理 工 学 部	2年	563	469	83.3%	439	78.0%	469	83.3%	
	3年	586	399	68.1%	343	58.5%	399	68.1%	
	4年	543	381	70.2%	333	61.3%	381	70.2%	
	合計	1,692	1,249	73.8%	1,115	65.9%	1,249	73.8%	
大 学 院 理 工 学 府	修 士 課 程	1年	332	271	81.6%	254	76.5%	271	81.6%
		2年	342	296	86.5%	265	77.5%	295	86.3%
		合計	674	567	84.1%	519	77.0%	566	84.0%
	博 士 課 程	1年	20	6	30.0%	6	30.0%	6	30.0%
		2年	26	10	38.5%	9	34.6%	10	38.5%
		3年	27	7	25.9%	6	22.2%	7	25.9%
		合計	73	23	31.5%	21	28.8%	23	31.5%
	大学院合計		747	590	79.0%	540	72.3%	589	78.8%
合 計		2,439	1,839	75.4%	1,655	67.9%	1,838	75.4%	

対象者数は令和3年4月1日現在の学生数とし休学者は除いた。

受検率は小数点第2位を四捨五入

上記の他に、理工学部1年生3名、研究生6名、社会情報学部4年生1名が受検した。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、身体測定、視力測定は自己申告とし、尿検査は外注で別日に実施した。

令和3年度 学生定期健康診断結果

※新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、健診項目は身体測定と視力測定は自己申告

(1) 身体測定

	受検者数	結 果									
		やせ				正常		肥満			
		BMI 17.0以下		BMI 17.1～18.6		BMI 18.6～24.9		BMI 25.0～29.9		BMI 30.0以上	
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
共同教育・教育学部	834	12	1.4%	61	7.3%	673	80.7%	74	8.9%	14	1.7%
情報・社会情報学部	472	16	3.4%	53	11.2%	359	76.1%	37	7.8%	7	1.5%
医学部	1,404	27	1.9%	128	9.1%	1,137	81.0%	98	7.0%	14	1.0%
理工学部	463	18	3.9%	55	11.9%	336	72.6%	47	10.2%	7	1.5%
合 計	3,173	73	2.3%	297	9.4%	2,505	78.9%	256	8.1%	42	1.3%

(2) 血圧測定

1) 一次検査

	受検者数	結 果			
		正常血圧		高血圧疑い	
		人数	%	人数	%
共同教育・教育学部	834	822	98.6%	12	1.4%
情報・社会情報学部	472	465	98.5%	7	1.5%
医学部	1,404	1,382	98.4%	22	1.6%
理工学部	463	460	99.4%	3	0.6%
合 計	3,173	3,129	98.6%	44	1.4%

2) 二次検査

	対象者数	結 果			
		正常血圧	経過観察	医療機関紹介	未受検
共同教育・教育学部	12	11	0	0	1
情報・社会情報学部	7	6	0	0	1
医学部	22	19	0	0	3
理工学部	3	3	0	0	0
合 計	44	39	0	0	5

(3) 尿検査

1) 一次検査

	受検者数	結 果		陽性項目内訳			
		陽性者数	%	蛋白	潜血	蛋白・潜血	糖
共同教育・教育学部	746	22	2.9%	5	16	0	1
情報・社会情報学部	408	18	4.4%	3	14	1	0
医学部	1,176	36	3.1%	2	29	0	5
理工学部	439	12	2.7%	3	8	0	1
合 計	2,769	88	3.2%	13	67	1	7

2) 二次検査

	対象者数	結 果						医療機関紹介結果			
		異常なし	蛋白陽性	潜血陽性	潜血・蛋白陽性	糖陽性	未受検	異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし
共同教育・教育学部	22	13	0	1	0	0	8	0	0	0	1
情報・社会情報学部	18	11	0	1	0	0	6	0	1	0	0
医学部	36	29	0	3	1	0	3	0	1	0	3
理工学部	12	8	0	2	0	0	2	0	0	0	2
合 計	88	61	0	7	1	0	19	0	2	0	6

(4) 胸部X線間接撮影検査

	受検者数	要 精 検		医療機関紹介結果			
		人数	%	異常なし	経過観察	要治療	結果報告なし
共同教育・教育学部	834	4	0.5%	0	4	0	0
情報・社会情報学部	471	4	0.8%	0	2	1	1
医学部	1,394	11	0.8%	0	6	0	5
理工学部	463	2	0.4%	0	0	1	1
合 計	3,162	21	0.7%	0	12	2	7

(5) 内科診察

	受検者数	心雑音	
		人数	%
共同教育・教育学部	27	0	0%
情報・社会情報学部	13	0	0%
医学部	49	0	0%
理工学部	26	0	0%
合 計	115	0	0%

令和3年度 精神保健調査結果

(1) 新入生の精神保健調査

学生健康診断時に提出した「健康状態記録票」内の「メンタルヘルス質問票」を基に要面接者を抽出し、センター常勤医師で面接を行った。(対象学生は、学部1年生で「健康状態記録票」提出者とし、編入生(社会情報学部・医学部・理工学部)を含めた。)

	対象学生数	要 面 接		面接をうけた学生数	結 果			
		人数	%		問題なし	随時の相談を推奨	カウンセリング継続	医療機関紹介
共同教育学部	198	8	4.0%	3	0	1	1	1
情報学部	199	9	4.5%	5	0	2	3	0
医学部	300	9	3.0%	4	0	1	3	0
理工学部	506	21	4.2%	2	0	0	2	0
合 計	1,203	47	3.9%	14	0	4	9	1

要 面 接			
令和2年度		令和元年度	
人数	%	人数	%
4	2.1%	2	0.9%
1	0.8%	3	2.5%
7	2.5%	3	1.1%
18	3.2%	7	1.3%
30	2.6%	15	1.3%

※これまでに精神科、心療内科、神経科に通院歴あり:46名(3.8%)

(2) 在学生の精神保健調査

学生健康診断予約時に入力した「メンタルヘルス質問票」を基に要面接学生を抽出し、センター常勤医師が面接を行った。(対象学生は、質問票に入力した学生とした。)

	対象学生数	要 面 接		面接をうけた学生数	結 果				
		人数	%		問題なし	随時の相談を推奨	カウンセリング継続	学生支援センター紹介	通院中
共同教育・教育学部	646	17(2)	2.6%	2	0	1	0	1	0
社会情報学部	285	7	2.5%	1	0	1	0	0	0
医学部	1,151	11	1.0%	4	0	2	2	0	0
理工学部	1,810	46(3)	2.5%	11	2	3	4	0	2
合 計	3,892	81(5)	2.1%	18	2	7	6	1	2

要 面 接			
令和2年度		令和元年度	
人数	%	人数	%
15	2.6%	17	2.3%
5	2.2%	2	0.6%
8	0.8%	18	1.7%
28(2)	1.8%	44(1)	2.0%
56(2)	1.7%	83(1)	1.9%

注:()は、通院中またはカウンセリング中にて、面接除外を希望した学生数で内数

※これまでに精神科、心療内科、神経科に通院歴あり:298名(7.7%)

(3) 追記

質問内容

平成29年度から、新入生用と在学生用の違いをなくし、33項目版に一本化して、抑うつ状態、気分変動、精神病像、食行動異常、生活支障度、相談希望、既往歴等をスクリーニングしている。

結果の分析

対象学生数は、新入生1,203名(前年1,152名)、在学生(3,892名;前年3,301名)である。コロナ禍が進む中、昨年からWEB上での問診票回答へと変更しており、昨年は全学生数の2/3の回答率であったが、今年は若干、回答数が増えている。それでも従来の紙媒体のときと比べて回答率は低いため、今後はより積極的に呼びかけていく予定である。要面接者(スクリーニング陽性者)の割合は、新入生は従来の1%台から昨年2%台に倍増していたが今年度はさらに3.9%と急増を続けており(30名→47名)、在学生も増加して昨年度の1%台から2.1%(56名→81名)となっている。コロナ禍における不安が二年越しとなり、新入生と在学生ともにメンタルヘルス不調者が増加していることが推察される。実際に面接を受けた者は、新入生は9名から14名、在学生は10名から18名と微増していた。一方、「これまでに精神科、心療内科、神経科に通院歴のあるもの」の人数は、新入生では46名(3.8%)とここ数年で初めて若干の減少が見られたが、在学生については、通院歴のあるものは今年度298名(7.7%)と微増しており、一昨年までと比べると倍増している。このように年々、通院経験のある学生の比率が増加しているところから、学外の専門医療機関と連携しながら、学内におけるメンタルヘルス支援体制の拡充を進めていく必要性がさらに高まっている。面接結果について、新入生においては14名中14名が、在学生においても18名中16名が、何らかの対応を必要としており、カウンセリング業務の維持あるいは拡充の必要性が、引き続き認められた。コロナ禍によりキャンパス内への立ち入りができなかったためリモート面談が多かったという事情があるが、この数年の経過を見ても陽性者の中で「問題なし」とされるものが減少して来ており、スクリーニング精度の上昇と同時に、その後の経過観察が必要と判断されるケースが増えて来ている。また、この数年、障害学生サポートルームと共同して支援にあたる、発達障害を背景とした学生への対応頻度と時間数が右肩上がりに増加している。今後も発達障害学生サポート体制の拡充が同時に必要になると考えられる。

面接実施状況について

面接については、今回はコロナ禍における学生入構禁止時期に該当したため、常勤医師がリモート中心に実施した。

令和3年度 新入生の「学校生活に関する困りごと調査」結果

平成28年4月に新たに本調査を入学時に実施したところ、「新入学にあたっての困り事(不安事)」という観点からの回答が多く、実際の大学生活が開始されて解消されたという学生が半数いた。そのため、平成29年度からは、調査時期を変え、6月の講義の際、「学校生活に関する困りごと調査」(24項目)として実施している。調査結果から、「相談を希望する」学生全員に対して、呼び出しを行い、改めて相談希望の有無をたずね、希望者に対してセンター医師による面接を行っている。

平成30年度より質問項目を25項目とし、まず「相談を希望する」「相談するべきかどうか迷っている」と答えた学生に対し面接をすすめた。昨年度、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のためオンライン授業となり、調査は昨年度から10月に教務システムから呼びかけを行い、Webで実施した。そのため、回答率は51.4%(昨年度は55.6%)であった。面接は健康支援総合センター講師(内科医)が担当した。面接の結果で医療的なサポートが必要なケースは当センターへ、修学サポートが必要なケースに関しては、学生支援センターへ紹介し、その後も継続的な支援を行った。調査対象学生は、各学部新入生(大学院入学生、特別支援教育特別専攻科、編入生を除く)とした。

	対象 学生数	要 面 接		面接をうけた 学生数	結 果			
		人数	%		問題なし	随時の相談を 推奨	カウンセリング 継続	学生支援センターで継続対応 (障害学生サポートルーム紹介)
共同教育学部	94	13	13.8%	5	0	0	5	0
情報学部	104	6	5.8%	1	0	0	1	0
医学部	145	10	6.9%	1	0	1	0	0
理工学部	254	22	8.7%	5	0	3	2	0
合 計	597	51	8.5%	12	0	4	8	0

※「新入生の精神保健調査」との関連

	「学校生活に関する 困りごと調査」 要面接者数	「新入生の精神保健調査」 においても 要面接と判断された学生 数
共同教育学部	13	2
社会情報学部	6	2
医学部	10	1
理工学部	22	2
合 計	51	7

※「学校生活に関する困りごとについて」の相談希望の有無別結果

	○を記入	面接を うけた 学生数	結 果			
			問題なし	随時の相談を 推奨	カウンセリング 継続	学生支援センターで継続対応 (障害学生サポートルーム紹介)
相談希望あり	4	3	0	1	2	0
相談を迷っている	41	5	0	3	2	0
相談希望なし	552	0	0	0	0	0

※「その他について」の相談の有無別結果

	○を記入	面接を うけた 学生数	結 果			
			問題なし	随時の相談を 推奨	カウンセリング 継続	学生支援センターで継続対応 (障害学生サポートルーム紹介)
相談希望あり	1	0	0	0	0	0
相談を迷っている	25	8	0	3	5	0
相談希望なし	571	0	0	0	0	0

資料 5-6

令和3年度 学生特殊健康診断結果

特定化学物質及び有機溶剤を取り扱う学生を対象とする特殊健康診断を実施した。

実施日：令和3年12月8日(水)

受検者数	結 果		
	異常なし	要経過観察	要精密検査
79	77	2	0

令和3年度 外国人留学生特別健康診断結果

本学では、第8回健康支援総合センター運営委員会(平成21年8月3日開催)において、外国人留学生への特別健康診断項目として結核感染診断マーカー検査を行うことが決定され、例年秋入学時期に合わせて、検査を実施してきたが、4月に入学した学生で7月に感染性肺結核を発症し、入院加療が必要になった学生がいたことから、入学後すぐに、胸部レントゲン検査を実施していく方針に決定した。また、令和2年度より新型コロナウイルス感染症予防の観点から、血液検査は実施せず、胸部レントゲン検査のみを実施している。

1. 受検状況

	対象者数	受検者	
		人数	%
共同教育・教育学部	1	1	100%
情報・社会情報学部	7	5	71.4%
医学部	4	4	100%
理工学部	37	29	78.4%
合計	49	39	79.6%

対象者:4月の学生定期健康診断(胸部レントゲン検査)を受検していない外国人留学生

2. 胸部レントゲン検査結果

	受検者数	異常なし		要精検	
		人数	%	人数	%
共同教育・教育学部	1	1	100%	0	0%
情報・社会情報学部	5	5	100%	0	0%
医学部	4	4	100%	0	0%
理工学部	29	29	100%	0	0%
合計	41	41	100%	0	0%

資料 5-8

令和3年度 健康支援総合センターの利用状況について

利用人数(学生・教職員)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧キャンパス	共同教育・教育学部	19	18	23	24	10	8	14	14	28	18	17	14	207
	情報・社会情報学部	8	21	13	16	9	6	13	9	10	4	9	7	125
	医学部	4	7	3	4	2	3	1	7	8	3	1	3	46
	理工学部	9	9	11	3	2	6	8	10	7	4	3	7	79
昭和キャンパス	医学部	17	16	13	22	6	9	7	6	12	3	5	11	127
桐生・太田キャンパス	理工学部	31	32	51	41	32	38	35	43	31	28	30	33	425
学 生 合 計		88	103	114	110	61	70	78	89	96	60	65	75	1,009
教 職 員		19	21	24	24	25	34	34	36	33	23	8	18	299
合 計		107	124	138	134	86	104	112	125	129	83	73	93	1,308

利用件数(学生)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
からだの健康相談	22	13	17	14	3	6	8	6	9	1	2	4	105
こころの健康相談	62	79	95	95	58	64	70	83	87	59	62	71	885
健康診断書発行	4	12	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	20
合 計	88	104	114	110	61	70	78	89	96	60	65	75	1,010

利用件数(教職員)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
からだの健康相談	0	0	0	0	1	0	0	4	2	0	0	0	7
こころの健康相談	19	21	24	24	24	34	34	32	31	23	8	18	292
健康診断書発行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	19	21	24	24	25	34	34	36	33	23	8	18	299

資料 5-9

令和3年度 からだの健康・こころの健康相談の対応内容

【学生】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
からだの健康相談	相談のみ(助言・指導)	13	10	9	2	0	1	1	1	1	0	0	1	39	
	管理栄養士による栄養相談	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	外傷処置	1	0	0	3	1	2	1	0	1	0	1	0	10	
	検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	投薬	3	0	3	8	2	1	2	1	2	0	0	0	22	
	休養ベッド使用	3	0	0	1	0	0	2	0	2	0	0	0	8	
	健康・保健用器具貸し出し	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	4	
	医療機関紹介	1	4	1	3	0	1	4	4	4	1	1	3	27	
	救急転送	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	
こころの健康相談	医師	メンタルヘルス相談	27	25	35	34	20	22	29	30	40	21	19	30	332
		カウンセラー紹介	4	7	11	9	1	3	8	6	5	2	4	0	60
		障害学生サポートルーム紹介	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	3
		医療機関紹介	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	1	1	7
	カウンセラー	カウンセリング	35	54	60	61	38	42	41	53	47	38	43	41	553
		センター医師紹介	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		医療機関紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		89	101	120	126	63	74	88	97	103	62	70	76	1,069	

【教職員】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
健康相談	相談のみ(助言・指導)	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3	
	管理栄養士による栄養相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	外傷処置	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	
	検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	投薬	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	
	休養ベッド使用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	健康・保健用器具貸し出し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医療機関紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	救急転送	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
こころの健康相談	医師	メンタルヘルス相談	10	10	13	12	14	14	22	21	18	12	4	8	158
		カウンセラー紹介	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		障害学生サポートルーム紹介	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0
		医療機関紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	カウンセラー	カウンセリング	9	11	11	12	10	20	12	11	13	11	4	10	134
		センター医師紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医療機関紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		19	21	24	24	25	34	34	37	33	23	8	18	300	

令和3年度 こころの健康相談者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧キャンパス	共同教育・教育学部	12	14	17	17	8	8	13	12	24	17	17	13	172
	情報・社会情報学部	3	10	10	11	9	6	9	8	8	4	8	6	92
	医学部	3	5	3	4	2	2	1	6	7	3	1	3	40
	理工学部	4	7	4	2	1	3	6	8	6	4	3	5	53
昭和キャンパス	医学部	10	11	11	22	6	8	7	6	12	3	5	11	112
桐生・太田キャンパス	理工学部	30	32	50	39	32	37	34	43	30	28	28	33	416
学 生 合 計		62	79	95	95	58	64	70	83	87	59	62	71	885
教 職 員		19	21	24	24	24	34	34	32	31	23	8	18	292
合 計		81	100	119	119	82	98	104	115	118	82	70	89	1,177

令和3年度 こころの健康相談内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理性格	24	20	23	32	15	20	18	31	32	21	21	36	293
対人関係	1	1	2	3	0	1	2	2	0	0	2	3	17
心体の不調	57	46	27	49	38	36	46	49	65	39	31	26	509
修学	35	16	20	29	25	25	28	18	11	14	14	16	251
その他	12	20	17	11	8	12	7	14	11	11	9	14	146
合 計	129	103	89	124	86	94	101	114	119	85	77	95	1,216

1回の相談につき、相談内容が複数の場合があり。

スタッフカウンセリングについては相談内容を確認していないため除外

令和3年度 公認心理士（非常勤）による心理カウンセリング報告

1. 学生

カウンセリング人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	22	36	34	41	27	25	23	28	32	25	25	22	340
桐生地区	1	1	3	1	1	5	4	4	4	2	2	2	30
合計	23	37	37	42	28	30	27	32	36	27	27	24	370

カウンセリング回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧地区	35	54	60	61	38	42	41	53	47	38	43	41	553
桐生地区	2	1	5	1	1	7	11	9	12	4	4	3	60
合計	37	55	65	62	39	49	52	62	59	42	47	44	613

カウンセリング動機内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理性格	21	16	24	26	13	20	23	28	38	18	16	26	269
対人関係	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
心体の不調	6	22	26	19	14	11	10	15	15	14	17	9	178
修学影響心理等	15	13	26	24	19	16	24	13	9	15	16	11	201
その他	11	17	10	10	6	10	4	16	11	9	9	11	124
合計	53	68	86	79	52	59	61	72	73	56	58	57	774

カウンセリング動機内訳は複数の場合あり

2. カウンセラー配置状況

	荒牧地区		桐生地区	
	面接時間	カウンセラー	面接時間	カウンセラー
月曜日	10:00~17:00	内山 知子	13:00~17:00	畠山 正文
火曜日	10:00~15:00	内山 知子	(9:00~12:00)	(酒井 晃洋※)
水曜日	10:00~15:00 【9月~】	内山 知子	12:00~16:00	諸星 聡美
木曜日	10:00~17:00	金子 美咲		
金曜日	10:00~17:00	金子 美咲	13:00~17:00 【隔週】	川合 利恵

※キャンパスソーシャル・ケースワーカー：業務内容にカウンセリングも業務も追加

資料 5-12

令和3年度 疾病領域別利用者数

【学生】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	循環器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	呼吸器系	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	6
	消化器系	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	腎臓系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内分泌・代謝系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	15	6	12	5	0	1	3	0	3	0	0	0	45
精神科	62	79	95	95	58	64	70	83	87	59	62	71	885	
外科・整形外科	2	0	4	7	3	3	2	3	3	1	1	0	29	
脳神経外科	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
耳鼻咽喉科	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	4	
眼科	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	
皮膚科	2	1	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	7	
歯科・口腔外科	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
産婦人科	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	
合計		84	92	112	109	61	70	78	89	96	60	64	75	990

【教職員】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	循環器系	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	呼吸器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	消化器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎臓系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内分泌・代謝系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	19	21	24	24	24	34	34	32	31	23	8	18	292	
外科・整形外科	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	3	
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	
歯科・口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
産婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		19	21	24	24	25	34	34	36	33	23	8	18	299

令和3年度 診療科別医療機関紹介件数

【学生】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	循環器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	呼吸器系	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	4
	消化器系	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	腎臓系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内分泌・代謝系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	7
外科・整形外科	0	0	0	2	0	0	1	3	1	1	0	0	0	8
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	4
眼科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
皮膚科	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
歯科・口腔外科	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
産婦人科	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
合計		2	5	1	6	0	1	4	4	4	1	2	4	34

【教職員】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	循環器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	呼吸器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	消化器系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎臓系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内分泌・代謝系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科・整形外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科・口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

令和3年度 薬剤別処方日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
抗 生 剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
解熱・消炎・鎮痛剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感 冒 剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鎮咳剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
去痰剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
漢方剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
健胃剤・抗潰瘍剤	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
整 腸 剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鎮 吐 剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
抗アレルギー剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
含嗽剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口腔内塗布剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外用副腎皮質ホルモン剤	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
外用抗生剤	0	0	0	2	1	2	1	0	0	0	0	0	6
外用抗ウイルス剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外用保湿剤	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
外用消炎剤	1	0	3	4	3	3	0	0	2	0	0	0	16
広範囲抗菌点眼剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
抗炎症点眼剤	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
人工涙液型点眼剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経口補水液	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3
合 計	4	0	3	9	4	5	2	2	2	0	0	0	31

※の薬剤については、処方日数ではなく、個装単位とした。

令和3年度 桐生地区保健室利用状況

利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部生	44	21	61	49	30	7	30	22	30	88	36	45	463
大学院生	40	14	33	8	13	19	6	6	6	15	25	11	196
学生合計	84	35	94	57	43	26	36	28	36	103	61	56	659
教職員	13	14	23	11	16	13	19	11	10	22	14	18	184
合計	97	49	117	68	59	39	55	39	46	125	75	74	843

利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
からだの健康相談	69	28	98	46	52	26	36	29	23	117	65	58	647
こころの健康相談	2	1	6	1	1	8	13	9	14	5	6	5	71
健康診断書発行	12	1	4	0	1	2	1	0	0	1	0	3	25
キャンパスソーシャル・ケースワーカー関係	2	4	4	2	4	1	2	0	6	0	2	0	27
学生教育研究災害傷害保険関係	12	15	5	19	1	2	3	1	3	2	2	8	73
合計	97	49	117	68	59	39	55	39	46	125	75	74	843

※「こころの健康相談」は、桐生キャンパスにおいて対面で実施した数を集計

利用内訳

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
からだの健康相談	相談のみ(助言・指導)	35	24	52	35	49	24	31	22	18	114	62	55	521
	外傷処置	2	0	6	1	0	1	3	4	2	1	0	2	22
	検査	30	0	27	3	0	0	0	0	0	1	2	0	63
	休養ベッド使用	0	2	7	3	3	1	1	1	0	0	1	0	19
	保健用器具貸し出し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医療機関紹介	1	1	6	4	0	0	1	2	2	1	0	1	19
	救急転送	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
こころの健康相談	医師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	カウンセラー	2	1	6	1	1	8	13	9	14	5	6	3	69
合計		71	29	104	47	53	34	49	38	37	122	71	63	718

※「こころの健康相談」は、桐生キャンパスにおいて対面で実施した数を集計

※健康支援総合センター医師による相談状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談回数 (半日)	精神科医	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内科医	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	学部生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	大学院生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※桐生キャンパスにおいて対面で実施した数を集計

令和3年度 昭和地区・学生健康相談室利用状況

利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医学科	3	0	6	5	1	1	1	3	5	0	0	1	26
保健学科	12	0	9	6	3	2	3	6	9	2	0	0	52
大学院	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
学生合計	15	1	15	11	4	3	4	10	14	2	0	1	80
教職員	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
合計	15	1	15	11	5	3	5	10	14	2	0	1	82

利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
健康相談	0	1	0	0	0	0	0	2	3	1	0	1	8
外傷処置	0	0	0	2	1	0	1	1	0	0	0	0	5
ベット休養	1	0	2	0	1	1	1	2	5	0	0	0	13
予防接種相談	14	0	13	9	3	2	3	5	6	1	0	0	56
医療機関紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	15	1	15	11	5	3	5	10	14	2	0	1	82

1. 「予防接種・感染症検査証明書」業務

新入生（医学部1年、編入生：計283名）については例年、入学前に医療機関を受診し必要な検査とワクチン接種を受け、「予防接種・感染症検査結果証明書」を入学時に提出することを義務としている。項目はB型肝炎、結核、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎の6項目である。B型肝炎、結核は検査結果、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎の4種の感染症については予防接種歴を提出し、必要に応じて追加ワクチン接種、抗体検査を行うことになっている。令和元年度までは入学後すぐに全員と面談し、証明書を受領、内容の確認とデータの管理を行っていた。内容の複雑さから証明書の不備が非常に多く、提出書類に不備・不足等がある学生に対して適切に検査やワクチン接種が受けられるよう指導を行ったり、引越し等の事情からスムーズに受診が進まない学生には、速やかに受診し証明書を提出できるよう、アドバイスを行ってきた。かしながら、令和2年1月に発生した新型コロナウイルス流行とその後の緊急事態宣言による措置のため、積極的な検査・ワクチン接種のための受診が勧められず、対面による受領、面談が困難になった。そのため、令和2年度から連絡・提出方法等を検討し、提出はLMSに行う方法とし、確認作業を進めた。連絡は基本的にメール又は電話で行い、相談を受けた。内容、状況によって必要だと判断した場合は対面での確認作業や相談も行った。令和3年度も同様の方法で実施した。

2. B型肝炎ワクチン接種について

学生に対するB型肝炎ワクチン接種については、令和元年度まで集団接種で行ってきた。新型コロナウイルス流行により、三密を避ける必要が生じ、集団で行うワクチン接種はできないため、令和2年度は実施できず、令和3年度から掛かりつけ医療機関で個人でワクチン接種と抗体検査を受け、大学に証明書類を提出する方法に変更した。提出方法は「予防接種・感染症検査結果証明書」と同様、LMSに提出する方法とした。令和3年度は令和2年度入学者、令和3年度入学者、2年分の対応を行ったが、新型コロナウイルスワクチン接種との兼ね合いもあり、多くの学生が年度末では完了できなかった。そのため、令和4年度に持ち越されている。

【参考資料：B型肝炎ワクチン接種状況（令和4年6月23日集計）】

学科	入学年度	完了	未完了	ワクチン不要	ワクチン不可
医学科	令和2年度入学者 (127名)	37	78	12	0
	令和3年度入学者 (123名)	60	50	13	0
保健学科	令和2年度入学者 (162名)	105	54	3	0
	令和3年度入学者 (160名)	79	79	1	1

3. その他の業務

月	内 容
4月	学生定期健康診断再検査
4～3月	新入生「予防接種・感染症検査結果証明書」に関する相談業務 証明書内容確認、データ整理作業
4～3月	「B型肝炎ワクチン接種」に関する相談業務、証明書内容確認、 データ整理作業、ワクチン接種スケジュールの確認（新型コロナ ワクチン接種に関連して）

資料 5-17

令和3年度 キャンパス・ソーシャルケースワーカー業務について

学生が修学から離脱することを防止し、円滑な学生生活がおこなえるようにすることを目的とし、臨床心理士の資格を有するキャンパスソーシャルケースワーカーを配置した。教職員からの依頼に応じて、健康支援総合センターの医師や保護者とも連携して業務を行っている。

実施キャンパス	学 部	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
荒牧・昭和地区	共同教育学部													0
	情報学部													0
	医学部													0
	理工学部													0
桐生地区	共同教育学部													0
	情報学部													0
	医学部													0
	理工学部													0
合 計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※対象学生の例

- ①欠席調査結果における面接対象者であり、教職員からの頻繁な連絡にも関わらず連絡が不能である状態
- ②欠席調査結果における面接対象者ではないが、教職員からの頻繁な連絡にも関わらず連絡が不能である状態
- ③無届けで長期に授業等を欠席している状態

※業務内容の例

- ①当該学生に対しメール及び電話、郵送などにより、担当教官等に連絡を取るよう促すこと
- ②当該学生に対し、大学での支援体制(障害学生サポートルーム、学習支援、キャリアサポートなど)を説明し、利用を勧める
- ③メンタルヘルスに問題を抱えている可能性がある学生に対しては、健康支援総合センターの受診を促す

6 教育改革推進室

教育改革推進室は平成28年度概算要求「地域と連携した教育体制の整備と展開」が予算措置されたことを受け、平成28年7月に、大学教育・学生支援機構の教育基盤センター及び教育企画室の改編とともに設置された。大学教育に関する、(1)教育実施体制及び教育方法、(2)地域と連携した教育、(3)社会ニーズを踏まえた教育プログラム、(4)アクティブ・ラーニングに関する企画立案を行うことが業務となっている。

6.1 教育課程・学習成果に関する取り組み

各講義、演習等が学位授与の方針であるディプロマ・ポリシー、教育課程編成・実施の方針であるカリキュラム・ポリシーと整合するように、かつ、学生が主体的に学ぶことができるようにシラバスの整備を継続している。それと並行して、カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップの点検を実施している。そのうえで、学生が評価の観点毎に到達基準を把握できるルーブリックの導入を進めている。また、学生が振り返りを通して学修目標を自覚し自学自習できるポートフォリオシステムの利用推進や、学習の管理やレポート執筆に関するフレイヤーの作成、配布を行っている。

各教員の講義、演習等に関する授業コンサルテーションを随時受け付けている。特に、オンライン授業の効果的な方法、LMS (Learning Management System : 学習管理システム) の一つであるMoodleの利用、アクティブ・ラーニングの推進についての相談活動を実施している。

6.2 内部質保証に関する取り組み

教育活動に関する適切な根拠(資料、情報)を収集するために、インスティテューショナル・リサーチ(IR)を実施している。入学から卒業までの学生のGPA推移の分析、入試区分とGPAとの関係についての分析、講義毎の成績評価分布の分析、履修パターンの分析等を行っている。また、分析結果の一部をIRレターとして全学へ配布している。

学習成果を把握する一環として、群馬大学全学学習ふりかえりアンケート調査(学部対象)、群馬大学全学卒業時アンケート調査(学部対象)、群馬大学全学修了時アンケート調査(大学院対象)を毎年実施している。なお、本年度は3年に1度実施することになっている群馬大学卒業生・修了生就職先機関アンケート調査を行った。

また、教育研究活動を推進、点検・評価する各学部・研究科等の組織—医学部医学科カリキュラム評価委員会、医学部IR室会議、数理データ科学教育研究センター運営会議／数理データ科学教育研究センター定例ミーティング、ぐんま未来学WG、教育アセスメント委員会、大学教育センター学部教務委員会、大学教育センター大学院教務委員会、大学教育センター学部教務委員会教養教育部会—において、教育のPDCAサイクルを機能させる取り組みについての専門的助言を実施している。

6.3 その他の取り組み

6.3.1 ベストティーチャー賞

ベストティーチャー賞は、教育実践に顕著な成果を挙げた教員に対して、その功績を表彰するとともに、受賞者による公開模擬授業を通して、本学の教員の意欲向上及び大学教育の

活性化を図ることを目的として、平成18年度から実施している。各学部等より推薦された候補者から、審査委員会による書面審査により学長賞及び優秀賞を選出した。

6.3.2 第13回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」

平成21年度から実施している全学FD連続講演会を引き続き開催した。本年度は「大学院改革について―東北大学の取組―」をタイトルとして、先行する取組について東北大学の執行部の先生方からご講演いただいた。

資料6-1：教学IRレター vol.4

資料6-2：群馬大学卒業生・修了生就職先機関アンケート

資料6-3：第13回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」開催案内

資料6-4：新入生配布物①フライヤー「学習を管理してみよう」

資料6-5：新入生配布物②フライヤー「レポートを提出する前に」



教学IRレター vol. 4

群馬大学 大学教育・学生支援機構

教育改革推進室 二宮 祐・幾田 英夫

(内線：7521)

2021年9月発行(第4号)

はじめに

このたび『教学IRレター』Vol.4を発行することとなりました。

令和2年度は新型コロナウイルスにより日本中が大きな影響を受けました。

「コロナ禍」は危機管理の側面が強かった一方で、未来の遠隔授業の在り方などを考える契機ともなりました。この「コロナ禍」で学生がどのように考え大学生活を送ったか、有志学生との対談を実施しました。

ここではその対談を全文掲載します。

座談会の概要

2020年11月10日(火)の夕方に学部1年生4名の学生と二宮祐准教授の5名で行いました。学生の名前は仮名で座談会当日にアールさん、ルートさん、ユーエムエー(UMA)さん、デルタさんと決めました。

なおこの座談会の内容は外部に公開することを予め参加者全員から承諾を得ています。

以下、座談会の内容を全文掲載します。

1. 大学に入ってよかったこと

二宮 まず最初に、群馬大学に入ってよかったなっているのがあれば教えてくださいませんか。

アールさん じゃあ私、話します。うまく話せるかわかんないんですけど、オンライン授業で最初やっぱり不安なこともたくさんあったんですけど、授業開始日の前に、チューターの先生がZoomの練習をしてくださって、そうやって授業の始まる前から安心できるようにサポートしてくださったのは、すごくありがたかったなと思いました。

二宮 それは授業ですか。

アールさん 4月の授業が開始される前に、チューターの先生から連絡がきて、授業前に使い方がある程度わかるようにというも含めて、やってくださいました。

二宮 授業とは関係ないんですね。

アールさん ほんとうに雑談というか(笑)。

二宮 そうだったんですか。

アールさん そこで同じ学年の学生とLINEの交換もさせていただいたりして、すごく安心できたなと思いました。

二宮 LINEの交換って、具体的にどうやって交換しました？

アールさん チューターの先生が、LINEグループとかに入れるかを聞いてくださって、学生は3人参加していたんですけど、1人は入れていて、私ともう一人は入れていなかったの、先生に仲介してもらって、メールでLINEのバーコードを送り合って、交換して入るっていう(笑)。

二宮 (笑)、メールで。

アールさん そうです。大学のメールを使って。

二宮 3次元バーコードを送ったんですね。

アールさん そうです(笑)。

二宮 (笑)、なんだか面倒です。でも、そうやるしかないのかな。

アールさん 後でカメラに映せばできるってこともわかったんですけど(笑)。そのときは慣れていなかったの。

二宮 それで、1年生同士でつながることができた感じですかね。

アールさん そうです。

二宮 なるほど。安心できましたよね。

アールさん はい。

二宮 LINEを使うことにちょっと嫌だとか、抵抗とかってありませんでした？

アールさん でもやっぱりオンラインだと会えないので、先生に質問するほどでもないっていうようなこととか、同級生であれば聞きやすいので、Twitterでつながるのは不安

だったんですけど、LINEで先生を介しているの、あんまり抵抗はない感じでした。

二宮 たとえばTwitterだと、もしかしたら不安があるかもしれませんよね。

アールさん そうです。それで私は迷ってやらなかったの。

二宮 ありがとうございます。ほかの方はどうでしょう？群大に入ってよかったこと。

ルートさん 授業でよかったことになるんですけど、授業をぜんぶ生配信、リアルタイムでやってくださったっていうのが、私にとってはよかったです。

二宮 そうですね。基本的にはライブでした。

ルートさん はい。他大ではファイル配信でお昼から受け始めたら、真夜中になってしまったとか、生活リズムが崩れてしまったということを聞きます。リアルタイムの場合、対面の授業とあまり変わらないような生活リズムで授業に参加できているのがいいなと思います。

二宮 他大に進学した知り合いに連絡していますか？

ルートさん はい、いちおう連絡は。

二宮 オンデマンド方式や、映像がなくて紙、PDFの資料だけの講義を行う大学もあったようですけれども、なかなか大変そうですね。

ルートさん そうですね。先生の顔が見えたりすると、今何しゃべってるのかすごくわかりやすく、うれしいです。

二宮 それは実はお尋ねしたかったことなんですけど、先生の顔は見えたほうがいいですか。

ルートさん どうだろう。私は見えたほうが好きなんですけど。ただ人数が多い授業だと、先生が顔を出した途端にカメラが止まるといった問題もあったと聞いていますので、そうであればカメラはないほうがいいけど、大丈夫そうならば、しゃべっている口調などで、次に何をしゃべるのかがわかりやすくなるので、カメラはあったほうが、私としては進めやすいなって思います。

二宮 ちなみに、学生がカメラで顔を出すことについて、何かお考えとかありますか？嫌だとか。

ルートさん 私が履修しているある授業ではブレイクアウトルームを使うことが多くて、それは学生同士で話し合うことがメインなので、もちろんカメラがないとづらいんですけど、個人的にはあんまり顔を出したくないっていうのがあって、カメラオンが求められる授業でも結局みんな頭

だけしか映してないとか。

二宮 頭だけしか映してない？

ルートさん そう、カメラはあまり役に立ってない気がする。カメラの位置を調整して(笑)、顔がぎりぎり映らない位置にしている学生もいて。講義を聞いているだけの授業だったら、そんなに意味がないのかなって思いました。

二宮 そうすると学生の側も、カメラオンにしなさいって言われても工夫をするわけですね。

ルートさん (笑)、人によってはって感じです(笑)。

二宮 まあ工夫しますよね(笑)。

ルートさん そういう人も、まあ。

二宮 ありがとうございます。ほかの方、どうですかね。群大に入ってよかったこと。

一同 ……

2. 大学生になった実感

二宮 特にないですかね。では、質問を変えて、大学生になったなあっていう実感みたいな持ったきっかけとか、経験とかがありますか？大学生っぽいなって。どうでしょう？

UMAさん 大学生っぽいなっていうか、自覚を持ったきっかけは、やっぱり一人暮らしが大きいかなと思います。

二宮 確かに大学生っぽいですね。

UMAさん そうですね。

二宮 ご実家、具体的な場所は言わなくてもいいですけども、結構遠いんですか。

UMAさん そうですね、遠いです。

二宮 そうすると家族と離れて群馬に住むということは、高校のときとはまったく違う生活になりますよね。

UMAさん そうですね。

二宮 楽しいですか、一人暮らし。

UMAさん いや、どうですかね。通常と比べて引きこもっているの、その中で楽しんでいるかと言われれば、楽しい気はするんですけど、通常より楽しめているかって言われると、はてなっていう感じです。

二宮 一人暮らしをして、そのうえで友達の家に行ったり、友達が来たりするってことが、もっとたくさんできればいいんでしょうけど。

UMAさん そうですよ。

二宮 もう一人暮らしには慣れました？

UMAさん ある程度は(笑)。

二宮 ある程度？

UMAさん はい。

二宮 一人暮らし、高校のときからしたい感じでした？

UMAさん はい、そうですね。

二宮 よかったですね。

UMAさん はい。

二宮 確かに一人暮らしはそうだよ。すごい楽しい。大人になった感じしますよね。

UMAさん (笑)

二宮 ありがとうございます。ほかの方、どうですか。大学生になったなって感じることに。

アールさん 私は前期から実習の授業があったので、実習をしてレポートを書くって作業をしたときに、大学生になったなっていう実感がいちばんわきました。

二宮 高校の勉強とは、同じ勉強という名前でもぜんぜん違うことをやってるからですかね。

アールさん そうですね。ただ授業を受けてレポートを書いているだけだったら、高校でもないことはなかったですけど、データを見たりして自分で考えるっていうのは初めてだったので、うれしかったです。

二宮 たぶんそうですね。受験勉強みたいに暗記するっていうのもないし、データを見て、自分で頭を使って考えなきゃいけない感じですかね。

アールさん はい。

二宮 学部学科によるけれども、実験や実習が1年生からあるところだと、それが実際にできるといいですよ。

アールさん はい。

二宮 実は今年、やはり問題になっていたのは、皆さんもご存じのとおり実験や実習をどうしようってことだったんですよ。家でできないので、

アールさん (笑)

3. オンライン授業の感想(1)―授業時間中の問題

二宮 では、そろそろ次、オンライン授業についてお尋ねします。前期と、今、後期の半分ぐらいオンライン授業を受けて、こういうことが問題だ、できていない、ちょっと工夫が必要だろうっていうことがあれば、ぜひ、もうぜひぜひ教えていただければ、大学に伝えたいと思っていますので、皆さんご意見どうでしょうか。

デルタさん これは主に理数系の授業なんですけど。

二宮 はい。

デルタさん 教室で行う授業であれば、隣に座っている学

生と解答を見せ合ったりとか、わからなかったところを質問できたりっていうことがあると思うんですけど、家でパソコンに向かって勉強しているとすぐ疑問を解消できないので、その点はオンライン授業の弱みだなと思います。

二宮 教室ならば、たとえば数学の問題を解いていて、わからなければ横にいる友だちに聞けるわけですよ。だけどオンライン授業だと、それができない。ちょっとした疑問とか、質問ですよ、たぶん。

デルタさん そうなんですよね。わざわざ聞く…。

二宮 わざわざメールで聞くようなことじゃない？

デルタさん そうなんですよね。

二宮 そう、それなんですよね。しかも数式を使う場合、LINEで入力とかできなかつたり。

デルタさん そうですね。

二宮 確かに難しいですよ。どうすればいいですかね。授業中にちょっとした質問を受けつけるコーナーとかがあればいいですかね。

デルタさん 結構先生も、「質問ないですか？」って呼びかけたりするんですけど、やっぱりちょっとハードルがあるというか。

二宮 わかります(笑)。

デルタさん そういうのがあるので。

二宮 先生に聞かれたら、なにか難しい質問をしなきゃいけないみたいな感じとかですかね。

デルタさん そうですね。

二宮 こんな質問しちゃいけない、だめかなとか。だから、友だち、知り合い同士で考えて解決できるような仕組みがあればいいんですかね。先生に聞くまでもない。横にいる友だちに、ちょっと聞けるようなインターフェースみたいのがあるといいですかね。

デルタさん そうですね。

二宮 おそらく数学とか、物理とかですよ。

デルタさん そうですね。一緒だと思います。

二宮 化学とか、自分で考えて問題を解かなければいけない。答えがあらかじめ決まっていて、だけど答えまでたどり着けないような感じですよ。

デルタさん そうですね。

二宮 それはすごく重要な問題ですよ。ありがとうございます。ほかの方はどうですか。オンライン授業の問題点とか、何か困ったことがあったとか、ご自身が経験してなくてもいいです。人から聞いたとかでもいいです。どうでしょう？

ルートさん 一部の授業で動画を見るものがあるんですけど、スムーズに流れないときがあって、細切れみたいになって。ひどいものだと内容すらわからないときもあって、それがもったいないなって思うのが結構あります。

二宮 カクカクしちゃうやつですね。

ルートさん はい。

二宮 どうすればいいのかな。ただ Zoom だとどうしても、結構カクカクしちゃうんですね。

ルートさん そうですね。

二宮 ぜんぜん内容がわからないっていうの、よくないですね。

ルートさん そうですね。授業が終わったあとに自前で見られればよくわかるのになって、ちょっと思います。

二宮 たぶん、そうですね。授業後にもう一度見ることができいいですね。たとえば容量の問題があるんですけども、Moodleに上げるとか、著作権などの問題がない場合には YouTube に上げてもらうとかですね。せつかくパソコンを使っているのに動画が見づらいうって、もったいないですね。それもどうすればいいんだろうな。でも、ありがとうございます。

ルートさん ありがとうございます。

4. オンライン授業の感想(2)

一課題に取り組むときの難しさ

二宮 ほかの方は、どうですか。オンライン授業の問題点、何かありますか。困ったこととか、大変だったこととか。では、質問を変えますね。宿題って多かったですか。宿題というか、授業時間外でやらなければいけない勉強ですね、いろいろ。たとえばそれが多かった場合に、大変だったかどうか、多くても大丈夫だったのか、そのあたりを教えてくださいなと思います。

アールさん 私はあまり多いとも少ないとも感じなかったです。やっぱり慣れていないっていうところがあったので、プレゼンテーションを自分で作る授業とか、レポートとかは、少し時間がかかって大変だなと思ったのですけれども、自分で管理をするのが大学生なのかなというふうに入れたので、できる範囲内の量ではあったとは思いますが。

二宮 できる範囲の量であった。

アールさん はい。

二宮 高校のときの勉強時間と比べて、どうですか。多いですか。少ないですか。

アールさん 高校の頃は部活をやっていたので、引退するまではほとんど勉強できてなかったの。

二宮 (笑)

アールさん (笑)、それに比べたら勉強する時間はあるかなと思いました。

二宮 今すごくいいポイントのお話で、パワーポイントを作るとか、レポートを作るとかって、終わりがいい感じしません？ そんなことないですか。

アールさん あります (笑)。

二宮 どこまでやればいいのかって、わかりづらいですね。

アールさん はい。

二宮 どれだけ時間をかければ大丈夫なのか。難しいと思いませんか？

アールさん 思いました。レポートはまだよかったんですけど、パワーポイントをあまり作ったことがなかったので、アニメーションの機能とかもあまりわからなくて (笑)。いろいろ調べて一回作ったものも、ほんとうにこれでいいのかって、やっぱり提出してからも何回も不安になったりとかして、そこはちょっと困ったなと思ったんですけど、実際に発表した際に「こういうふうに作って見たらどう？」って先生からアドバイスをいただいたので、そういうのがあると、ちょっと助かったなと思いました。

二宮 先生のアドバイスがモデルというか、ひな型みたいな感じですかね。

アールさん そうです。最初に説明していただいたので、とりあえずそのとおりに作ればという気持ちはあったので。ただ授業によってはレポートも、提出したら出しっ放しみたいときは、次に書くときにどうしたらいいのかなっていうのはちょっとあったので、なるべくアクションを返していただけると、ありがたいなとは思いました。

二宮 レポートを提出しても、そのレポートが良い評価だったのか、悪い評価だったのかわからないし、わかったとしても、何が良かったのか、何か悪かったのかっていうのが、学生には教えられていないってことですね。

アールさん そうです。

二宮 改善のしようがないんですね。

アールさん 前期の成績が返ってきたときに、大丈夫だったんだって安心するみたいな

二宮 でも成績だけを見ても、レポートのどこが良かったのかわかんないですね。

アールさん はい。

二宮 だからフィードバックがないっていうのは、問題ですね。

アールさん 一言だけでもあると、かなり違うかなとは思いますが。

二宮 ですよ。ありがとうございます。ほかの方、どうですか。宿題のこととか、あと今紹介にあった成績評価のこととかで、ちょっと不安だったとか、困ったとかっていうことありますかね。

UMA さん たとえばなんですけど、課題としてレポートを2枚とかっていうふうに出されたときに、どこまでが2枚なのかっていう問題があって。

二宮 (笑)

UMA さん それを周りの人に聞こうにも、やっぱりオンラインなのでなかなか聞けないっていう問題があったかなと感じました。

二宮 2枚といっても、字の大きさとか、余白の取り方によって違うだろうって意味ですかね。

UMA さん そうですね。それもありました。

二宮 紙の大きさでも異なるので、戸惑いますよね。

UMA さん そうです (笑)。

二宮 いや、2枚ならわかるけど、どう2枚なのさっていう説明が必要なわけですよ。

UMA さん はい。

二宮 たぶん2年生になると、2枚って言われたときに、もう相場感がわかるので、2枚ってこれぐらいだろうなってわかるので、いちいち先生は説明しないんだけど、1年生には伝えたほうがいいですよ。

UMA さん そうですね。

5. オンライン授業のよい点

二宮 今度は逆にオンライン授業でよかったこと、メリットって何かありますか。オンラインだからよかったとか、オンラインだからこういうことが自分にとっては助かったみたいなことがあれば、ぜひ教えてください。

ルートさん メリットはやっぱりオンライン授業なので、みんなが同じ条件で受けられるというか、対面だとどうしても近い席と遠い席で差が出るような気がして、先生の説明の声の聞こえ具合とか、スライドの見え具合とかに差が出てしまうと思ったので、いつでもいちばん近くで先生の説明を聞けるっていうのは結構ありがたいなと思っていました。

二宮 ネットで他の大学の学生の意見を見ていると、それは確かにありましたよね。いちばん前で聞いている授業の感じがするってことですかね。

ルートさん はい、そうです。

二宮 だから資料なんかも見やすいと。それは確かにありますよね。でも、皆さんにお尋ねしたいんですけども、かえって目が疲れることはなかったですか。

ルートさん それは結構あります。特に最初の4月5月、ほんとうに毎日疲れ目がひどくて、目薬をすごく何回も1日にさして乗り切りたいのが多くて。最近は結構慣れてきたんですけど、やっぱり視力が低下したなっていう感じることはあります。

二宮 視力が低下した。目薬をさせば、何とかなる感じですかね。

ルートさん ずっと授業をパソコンで見続けるので、やっぱり近くに焦点が合ってしまって、遠くがちょっと見づらくなったなっていう感じです。

二宮 それって慣れるようなものですか。慣れました？

ルートさん 疲れ目とかは、最近はなくなりました。

二宮 慣れたってことですかね。

ルートさん はい、おそらくそうだと思います。

二宮 やっぱり一長一短ありますよね。

ルートさん はい。

二宮 いいご意見ありがとうございます。ほかの方、どうでしょう？オンラインの授業だからよかったこととかありますかね。

デルタさん 準備に時間をかけなくていいっていうのはあると思いますね。実際の教室に行く場合だと、大学の教科書は大きくて重くて、これを毎日持っていくってなると結構大変なんじゃないかなって思ったりもして。でも今、家に忘れ物をすることもなく、かなり楽なんじゃないかなと思います。

二宮 大学に通学する準備ですよ。

デルタさん そうですね。

二宮 朝起きて身だしなみを整えて、その日の時間割にそろえて、教科書とノートをかばんに入れるって話ですよ。

デルタさん そうですね。

二宮 大学の教科書は、学部学科によってはすごく重くなりますからね。それは確かにメリットかもしれないですね。あとはおそらく遠くに住んでいる学生にとっては、通学時間が減らすことができたのもあるんですかね。

デルタさん あるんじゃないかなと思いますけど、私は一人暮らしで、大学まで近いところに住んでいるのでそれはないんですけど、県外から通っている人もいますので、そういう人は登校時間の節約にもなるんじゃないかなって。

二宮 ですよ。ありがとうございます。ほかの方、どうですかね。

アールさん やっぱり時間に余裕があるっていうのが大きいなと思って、私も一人暮らしをしているんですけど、授業が終わって、すぐもう自分の時間になるので。

二宮 (笑)

アールさん 夜遅くなる前にいろいろやりたいことをできちゃったりとか、あと空きコマのときにちょっと掃除をしたりとか、そういうこともできたりするのはありがたいなと思うんですけど、やっぱりその反面、ちょっと時間のメリハリをつけるのは、自分で注意してやらないと、だらけようと思ったら、いくらでもだらけちゃうので。

二宮 (笑)

アールさん そこはちょっと難しいなと思います。先ほども話しにもあったんですけど、パソコンをずっと見てると目が痛くなったり、私はどっちかっていうと頭が痛くなっちゃって、それはすごくつらかったなと思います。

二宮 頭が痛くなるのも、ありますね。

アールさん はい。

二宮 時間の使い方が、より自由にできる感じですかね。

アールさん はい。

二宮 ちょっとさぼろうと思えば、さぼれちゃうこともあるわけですよ。

アールさん はい。

6. 友だち付き合いのこと

二宮 でも、いかにもそれこそ大学生っぽいかもしないですね。自分で時間をマネジメントしないとイケないですよ。少し話しは変わるんですけども、だいぶ時間が過ぎてしまいましたけど、皆さん夏休みはゆっくり休めましたか。大学の夏休みは長いです。学部学科によって少し違いがありますけれども。

アールさん ゆっくりできました。

二宮 よかったですね。言える範囲でどんなことされました？夏休み。

アールさん 夏休みは地元に戻っていたので、何度か地元の友だちと話してリフレッシュすることができたり、自

分の趣味の時間を取れたりしました。あと、前期の授業でちょっと不安だったところがあったので、それを勉強したりと、有意義に使えたかなとは思っています。

二宮 地元に戻る学生は、そこで夏休みに友だちと少し遊んだりもできた感じですかね。

アールさん はい、少しできました。

二宮 ですよ。ほかの方、どうですか。夏休みはうまく休めましたか。自動車の免許とか、取った方いますか。

ルートさん 私、取りました、免許。

二宮 夏休みに？

ルートさん はい。地元の教習所に夏休み前から通っていたんですけど、本格的に教習を夏休みに毎日入れて、取れたという感じです。

二宮 おめでとうございます。

ルートさん ありがとうございます。

二宮 それもなかなか大学生っぽくていいですよ。夏休みに免許を取る。まだ取られていない方は、いちおう皆さん知ってると思いますけれども、多くの学部学科は2年生になるとすごく忙しくなるので、できれば1年生のうちに取っておくといいかもしれないという話もあります。では今日最後のテーマとして、いちばんお尋ねしたいところなんですから、友だち付き合いについて皆さんのお考えを聞かせてください。大学に入って、大学の友だち付き合いってというのは、やっぱりなかなか難しいものがありましたか。どうでしょう？

デルタさん やっぱり難しいなと思いますね。私はある科目で、前期と後期1年間かけて履修するっていうのがあるんですけど、たぶんそういうのを実際に会っていたら、ある程度知り合いになれたりとかっていうのもあると思うんですけど、顔も出さないでやってるので、もう名前と声ぐらいしかわかんないっていう感じで。たぶん今会ってもわかんないだろうなって(笑)。そういうの何かもったいなくなってしまいますね。

二宮 せっかく同じ群大生なのにね。

デルタさん そうですね。同じ授業を履修しているって共通点もあるのに、もったいないと思いました。

二宮 そういう授業で、LINEのグループ作ったりとかはしないですか。

デルタさん LINEのグループを作ったのはある講義だけで、たぶんの担当の先生が調整してくれていたんだと思うんですけど、でもその他は…。

二宮 それ先生が作ったってことですかね。

デルタさん 作ったのは生徒のグループで。

二宮 学生？

デルタさん 学生だけなんですけど、作るように仕向けてくれるっていうか、作ったらどう？みたいなふうに言ってくれたみたいな。

二宮 そういう LINE は、知り合いを増やすのに役立つ感じします？そうでもない？

デルタさん 私自身があんまりグイグイと連絡を取るほう性格ではないので（笑）。でも授業のペアワークで、グループ LINE から個人 LINE のほうに移って、その 2 人の会話っていうのをやったりとかするものもあるので、それだと知り合いにはなれたって感じることもありました。

二宮 それでそういう知り合いと、勉強のやり方を相談することってあります？試験の情報交換とか。

デルタさん 今のところはないですね。でも、グループだとある授業に限るんですけど、「課題の提出がいつまでかな」とか、「先生は今日説明しなかったけど、この内容はこういう意味だよ」みたいな話しは入るので、それはかなり役立つなって思いました。

二宮 聞き漏らしてしまったこととかがもしあれば、そこで確認できる感じですかね。

デルタさん そうですね。

二宮 LINE グループ、授業ごとにあったほうがいいんですかね。でもたくさんあると、逆にめんどろかな。どうだろう？

デルタさん 学部ごととか、あとはクラスもあるじゃないですか。そういうグループとかあってもいいんじゃないかなって。

二宮 ないのですか？

デルタさん 履修が一緒っていうのはあるんですけど、クラスの LINE グループもないですし、クラスで何かホームルームみたいなことをやっているっていうこともないです。私のところでは。

二宮 たぶんみんな大体似た講義を履修しているだろうから、そこで情報交換もできそうですけどね。学生の誰かが音頭を取って、作ったって言ってくれればいいんでしょうね。じゃあ、そうすると今、高校までの友達との付き合いのほうが、やっぱり多い感じですかね。

デルタさん 私はそうですね。高校までの人との場は多いかなと思います。

二宮 その人たちは、もしかすると進路は別ですよ。

デルタさん 大学、そうですね。全員別ですね。

二宮 全員別。

デルタさん そうですね。

二宮 全員別かあ。では、あまり授業の情報とか、やり取りできないですよ。

デルタさん そうですね。アバウトな相談だったらできるんですけど、オンライン授業のことで。そういうのは結構気休めになるっていうのはあるんですけど、具体的な話とかはできません。

二宮 そうですよ。大学が違ったら、当然そうですね。ありがとうございます。

デルタさん ありがとうございます。

二宮 ほかの方、どうですか。友達付き合いに関して、何か言いたいこと、言っておくべきこととか、何か教えてください。

アールさん 私は同じ専攻で、LINE グループがわりと早い時点で先生方が協力してくださったこともあって、クラスの全員が入っていたので、その中でゴールデンウィークあたりの時期に、クラスで Zoom で交流会とかを開いてくださる学生がいて、顔と名前がだいたい一致できるようになりました。あとは授業の情報だったり、テストの情報をみんなで共有したり、中間試験の前には Zoom でつないでみんなで一緒に勉強したりとかもできて。

二宮 へえー、すごい。

アールさん そういうことができたので、実際に会ったときにも、仲良くなるまでに短い時間でできたかなとは思っています。

二宮 学生が大学とは関係なしに進めた感じですかね。

アールさん そうです。勝手にクラスの中でやろっかみたいな感じになって。

二宮 すごいですね。

アールさん たぶん、もともと仲の良い学生たちで企画して、クラスのほうに持ってきてくれたっていう感じなんですけど。

二宮 仲良くなるのも大事なんだけど、一緒に勉強するっていいですね。

アールさん やっぱ最初のテストで、ちょっと不安だったこともあって、みんなでやろっかってなりました。

二宮 それはすばらしいですね。

アールさん でもやっぱり同じ専攻ではそういう絡みがあるんですけど、他学部とか、他専攻ってなると、ちょっとまだあんまりないかなという気はして……。

二宮 特に1年生の授業で、他学部とか、他学科の学生と一緒にになる、受けるような授業だと、そういうまとまりが作れない感じですかね。

アールさん そうですね。やっぱり総合大学なので、ほかの専攻、学部の学生たちとかかかわりを楽しみにしていたところもあったので、教養の授業も1年生で終わってしまうから、残念だったなと思います。

二宮 そうですね。群馬大学を志望する理由の一つは、いろんな学部や学科があるからっていうのありますもんね。

アールさん はい。

二宮 でも、学部学科によってはそれぐらいのまとまりで、そういうZoom上での集まりとか、勉強会をしていることもあるわけですね。

アールさん はい。

二宮 これはいいことですね。ただし、学部学科の枠を越えるとなると、なかなか難しい。

アールさん そうですね。

二宮 ですよ。でもとてもいいことを聞きました。ありがとうございます。すごくとってもヒントになります、これは。

アールさん ありがとうございます。

二宮 ほかの方、どうですかね。友達付き合いについて。

UMAさん やっぱり地元が遠いっていうのもあって、なかなか大学にも来られず、知り合いを作るきっかけっていうのがないと、難しいですね、友達付き合いのスタート地点に立てないっていうか。

二宮 ですよ。特に地元が遠い学生だと、やっぱり厳しいですよ。

UMAさん そうですね。

二宮 そうはいつでも、皆さんLINEとか、ほかのSNSとかも使っていると思うんですけど、さっきちょっと話がありましたけれども、SNSを使うことに対する抵抗感ってありますか？たとえば、もしかしたら高校まででは、学校の先生があまりSNSを使っではいけないって言っていたこともあるかもしれないんですけど、どうでしょうか。

UMAさん 私はSNSに関しては、LINEだけで済ませたいタイプなので。

二宮 LINEだけで済ませたい。

UMAさん そうですね。ほかのものはあまり使いたくないっていうか、抵抗感が（笑）。

二宮（笑）、それは怖いとか、そういう感じですかね。

UMAさん そうですね。勝手に誰かに入ってきてほしく

ないっていうか（笑）。

二宮 わかります。大学の先生の中には、もう学生なんだから、どんどんSNSを使って友だち作ればいいじゃんっていう人もいますけれども、今UMAさんが言ってくれたように、ちょっとそれが嫌だっていう学生もいると思うんですよ。ほかの方、どうですかね。

ルートさん 私はいちおうアカウントは高校のときから持っていて、ずっとやっているんですけど、SNSを使うことじたいには特に抵抗はないんですけど、それで友だちを作れと言われると、ちょっと困りますっていうか。

二宮（笑）

ルートさん 知っている人になら、別に自分の情報を与えても、学部学科がどことか、名前はこうっていうのはいいんですけど、プロフィールに大学、学科が書いてあっただけで、その人ともし相互にフォローできたとして、そこで友だちになるかと言われると、ならないっていう感じですよ。

二宮 先にリアルな関係性が大事な感じですかね。

ルートさん 私は先にリアルな、会っていないと怖いっていう感じはします。

二宮 それでリアルなところで仲良くなれば、SNSの交換してもありって感じですかね。ありがとうございます。それでは約束の1時間なので、今日はこれぐらいで終わりにしておきたいと思います。今日皆さんに教えてもらったことは、おそらく皆さんの中では当たり前、18歳、19歳の若者が持っている、すごく当たり前の話を皆さんはしていたかもしれませんが、この当たり前のことが大学の先生とか、職員さんにはたぶんわからない、知らない世界なんですよ。ぜんぜん知らない世界。なので、今皆さんが言ってくれたことは、極めて重要なことばかりで、これは私としては、ぜひ大学へ伝えなければいけないという強い思いを持っています。ほんとうに今日は、ありがとうございます。おつかれさまでした。

一同 ありがとうございます。

群馬大学卒業生・修了生 就職先機関アンケート2021

集計結果 概要

教育改革推進室

1

1. 調査の概要

【送付について】

・2021年8月末 アンケート用紙を該当企業等機関に郵送

・2021年9月～11月 アンケート返送期間

※12月に到着した回答も若干あり。

・送付対象：2019年3月～2021年3月本学卒業者の就職先機関として学務部学生支援課で把握している企業等

・返信は送付時に同封した料金後納郵便により紙で回答

※郵便外の方法で返答してくる機関もあり（宅配メールなど）

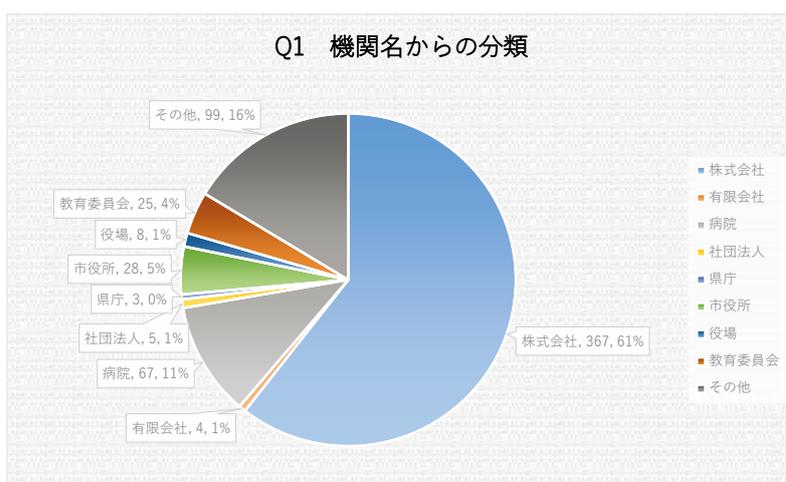
2

2. 回答状況

- ・ 質問紙送付：1578機関
- ・ 返信あり：606機関
- ・ 返答率：38.4%
- ・ 月別回答数 9月：511機関
10月：71機関
11月：23機関
12月：1機関

3

3. 回答機関の6割が株式会社



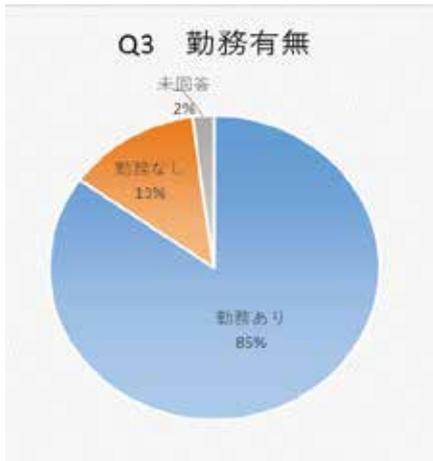
回答が返送されてきた606機関のうち6割(367)が勤務ありとしています。

今回は教育関係・医療関係からも返答が相当数ありました。

n=606

4

4. 回答のあった機関のうち85%が勤務あり

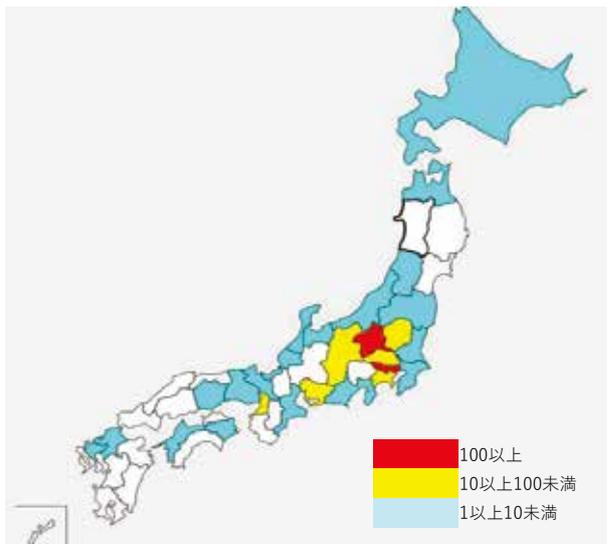


回答が返送されてきた606機関のうち85%の514機関が勤務ありとしています。

n=606

5

5. 回答機関は群馬県と周辺の都県に集中

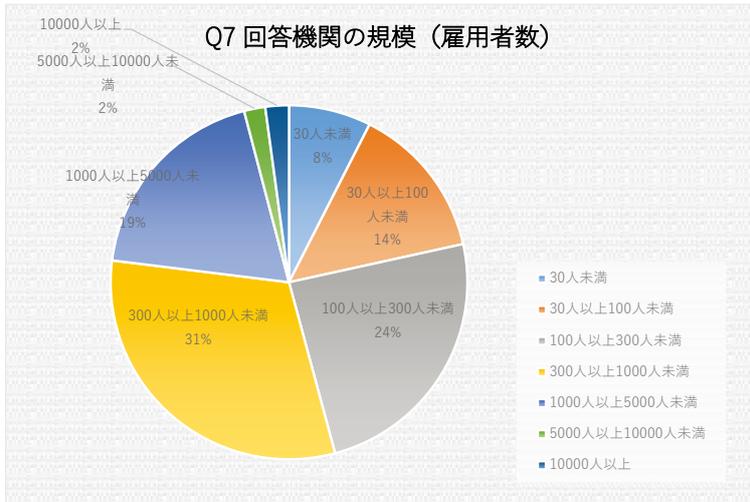


Q5では回答機関の本社・本店所在地を答えてもらう質問ですが、回答機関は群馬県とその周辺の都県に集中しています。

n=465

6

6. 回答機関は雇用者中規模の機関がメイン

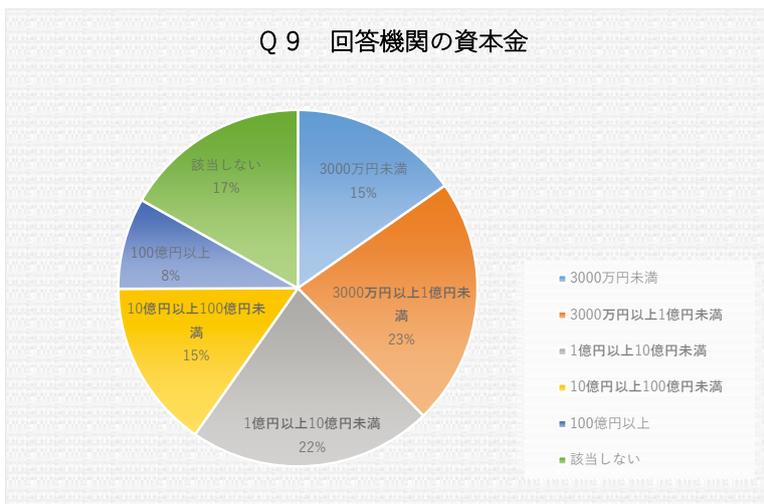


Q5では回答機関の正規雇用者数を答えてもらう質問でしたが、100人以上～1000人未満の機関からの回答で過半数を超えました。

n=469

7

7. 回答機関は中小規模の機関がメイン(資本金)



Q5では回答機関の資本金を答えてもらう質問でした。100億円未満の機関で75%を占めた。

n=459

8

8. 卒業生への能力評価(Q10～Q12)

Q10以降は学生の能力への機関の考えを評価してもらうものです。

Q10は期間が必要と考える能力・資質

Q11は群馬大学出身者の能力・資質

Q12は群馬大学出身者と他大学出身者と比較した職務遂行能力

について回答を求めています。

ここではQ3において「勤務している」を回答した機関について全体の集計と各学部等単位で集計した結果を示します。各学部等はQ4において回答のあった機関で集計しました。

1機関で複数の学部から採用している機関もあります。そのため機関によっては複数の学部で集計対象となっています。よって各学部等の回答数の総和と全体の集計は一致しないことに注意してください。

9

Q10～12の集計の基礎数(標本)

• Q10～12の各項目の結果については2018年度実施(前回)の結果と比較できるように表示しました。

• 各設問の回答機関数は以下のとおりです。

• (1つの機関で複数の学部から採用している機関があるため、各学部の合計は全体とならないことに注意。)

• 全体	2018年：507	2021年：514
• 教育学部・教育学研究科・特別支援教育特別専攻科	2018年：66	2021年：82
• 社会情報学部・社会情報学研究科	2018年：99	2021年：109
• 医学部医学科・医学系研究科	2018年：26	2021年：27
• 医学部保健学科・医療技術短期大学部・保健学研究科	2018年：67	2021年：71
• 理工学部・工学部・工業短期大学部・理工学府・工学研究科	2018年：302	2021年：288

10

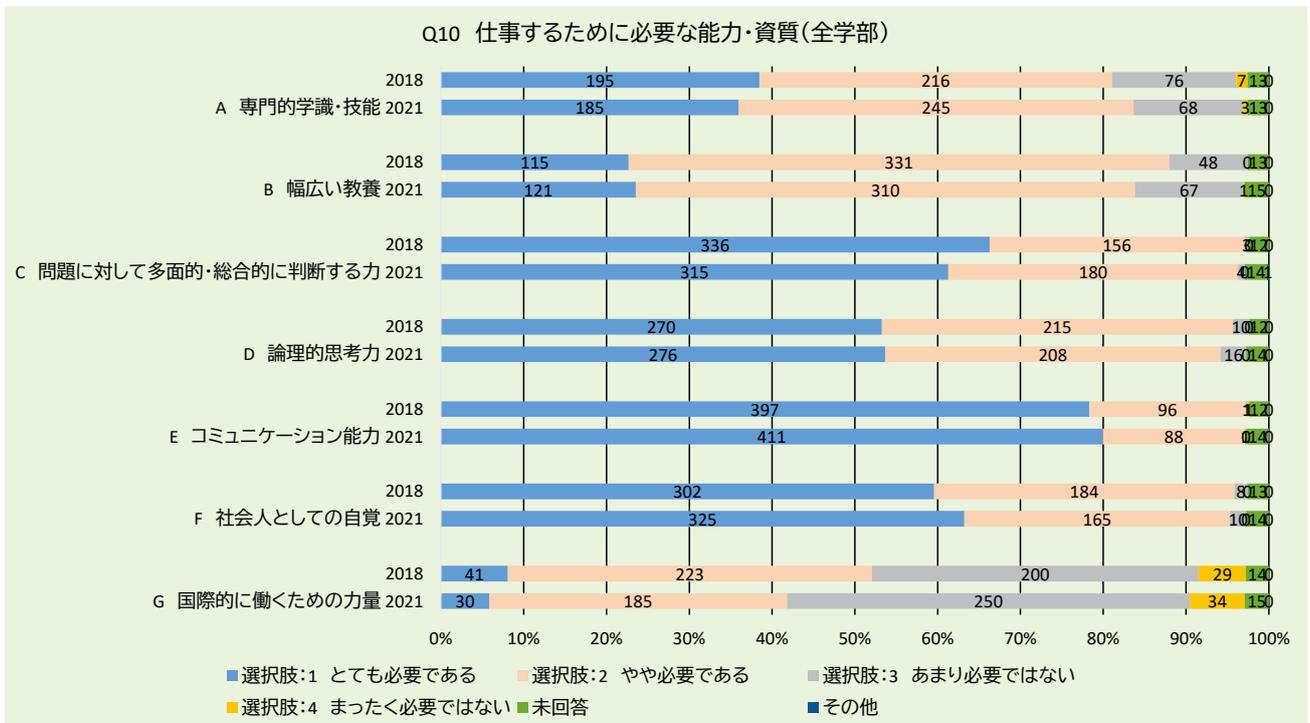
全体

【回答機関数】

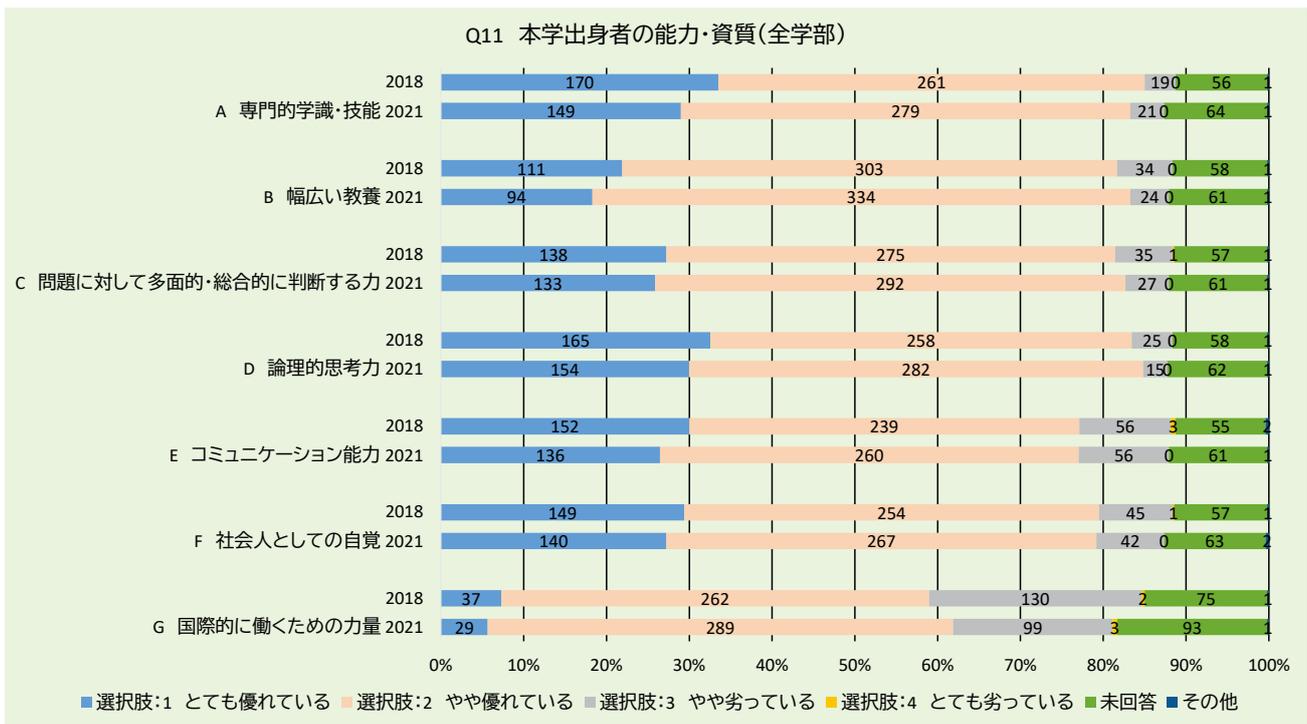
2018年：507

2021年：514

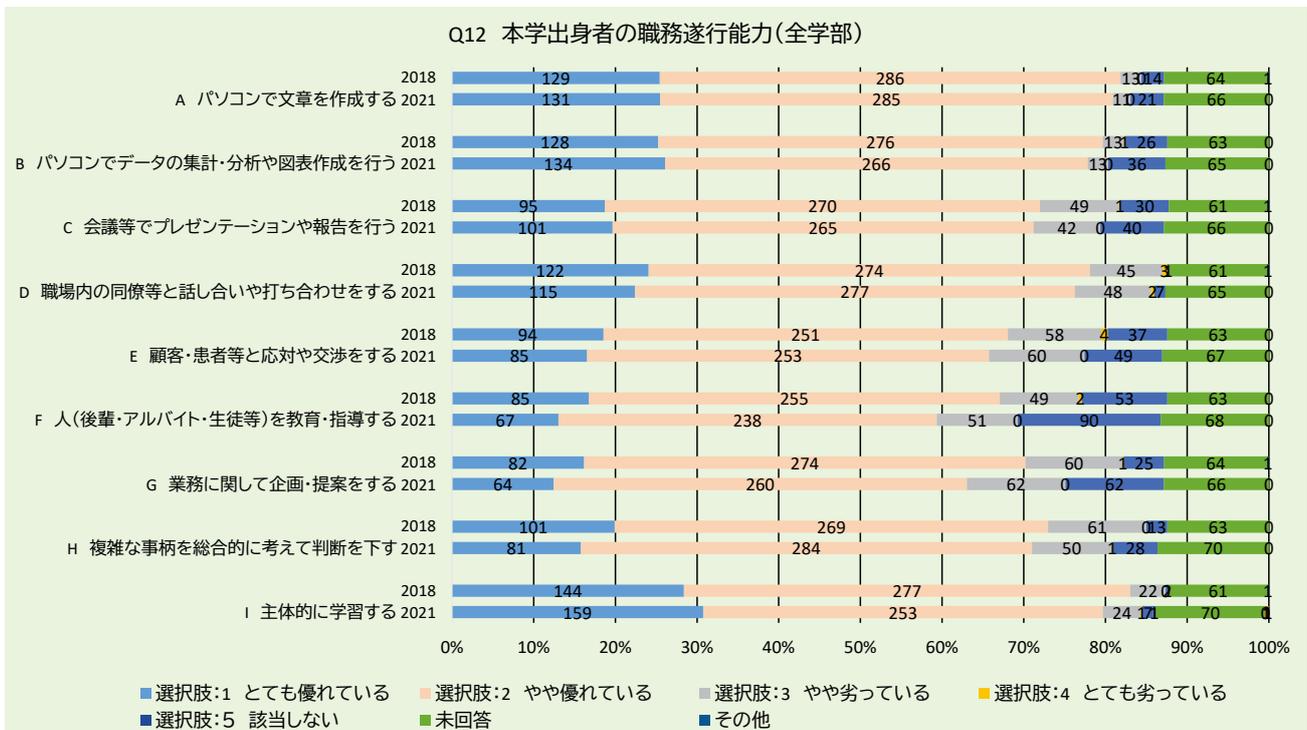
11



12



13



14

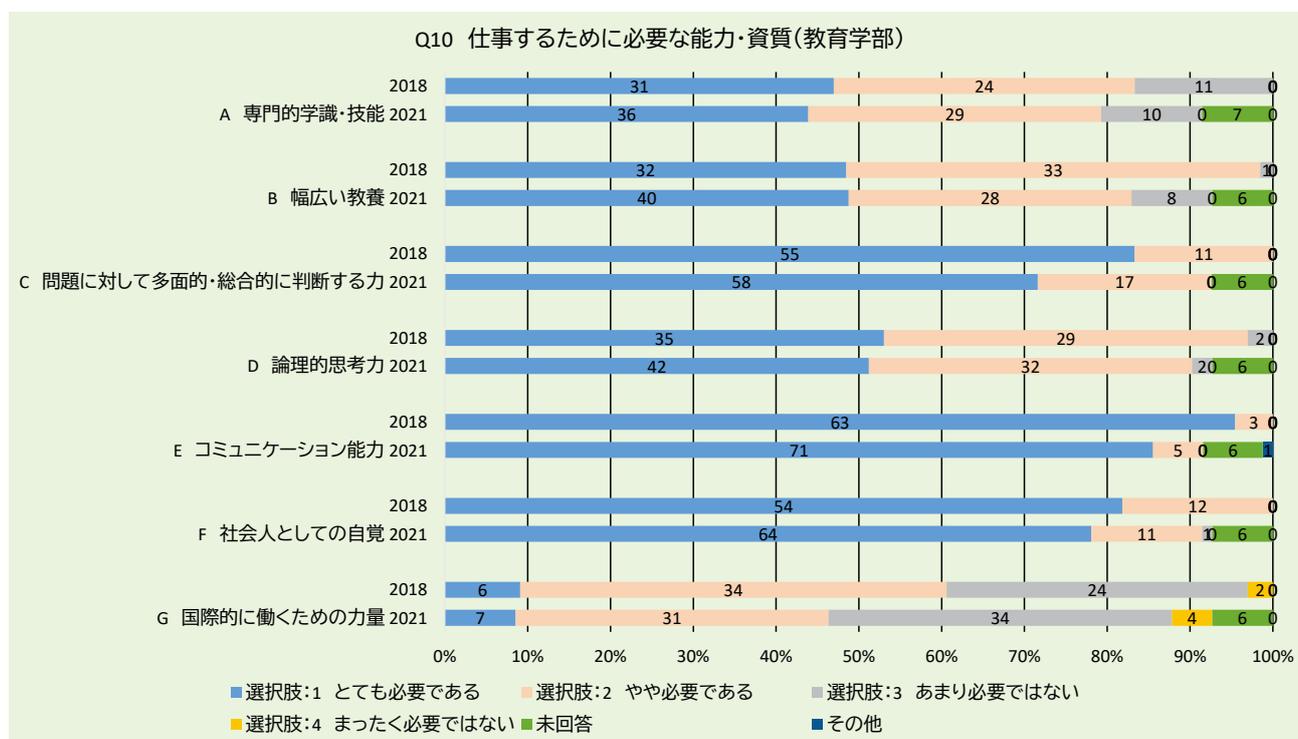
教育学部・教育学研究科 特別支援教育特別専攻科

【回答機関数】

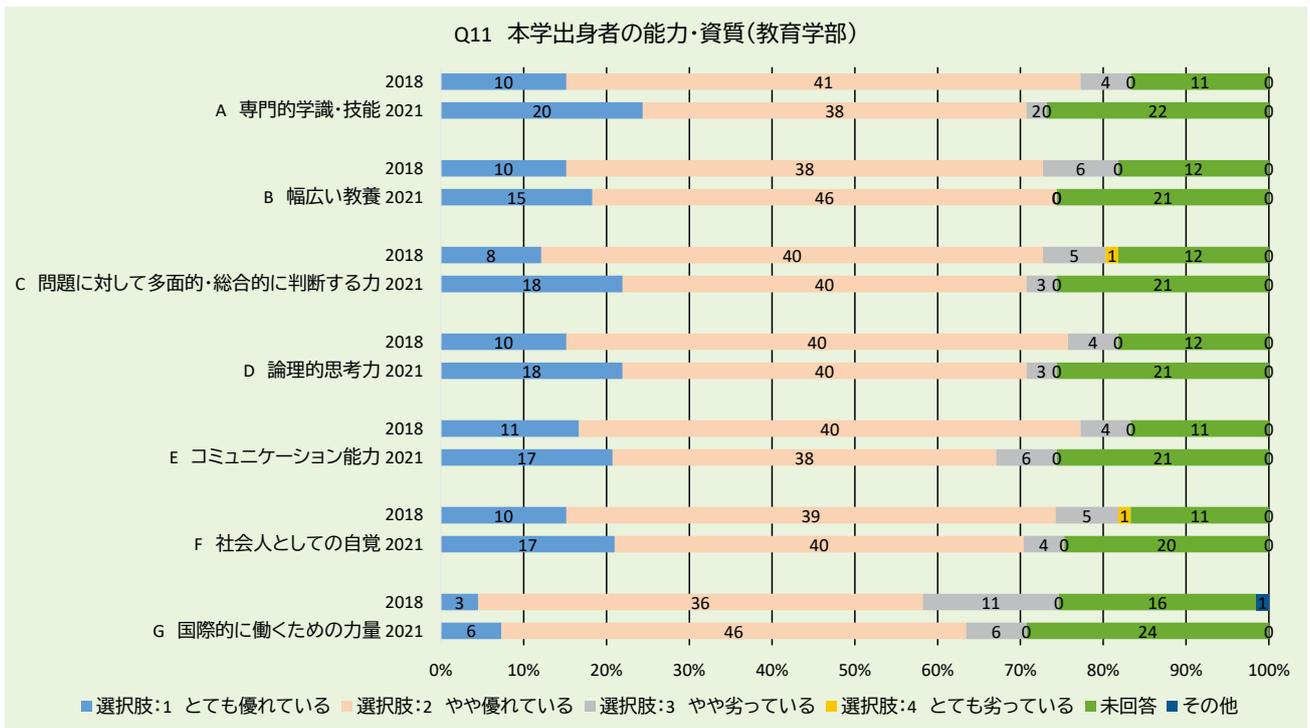
2018年：66

2021年：82

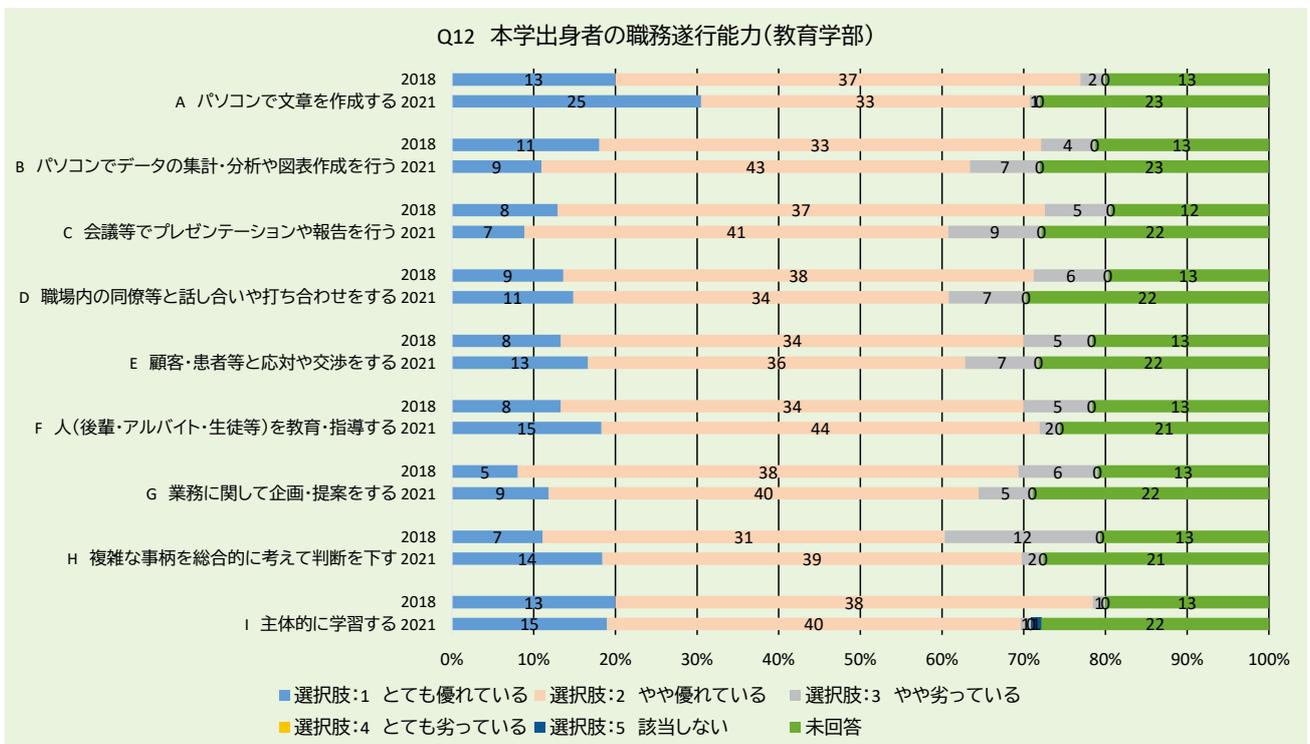
15



16



17



18

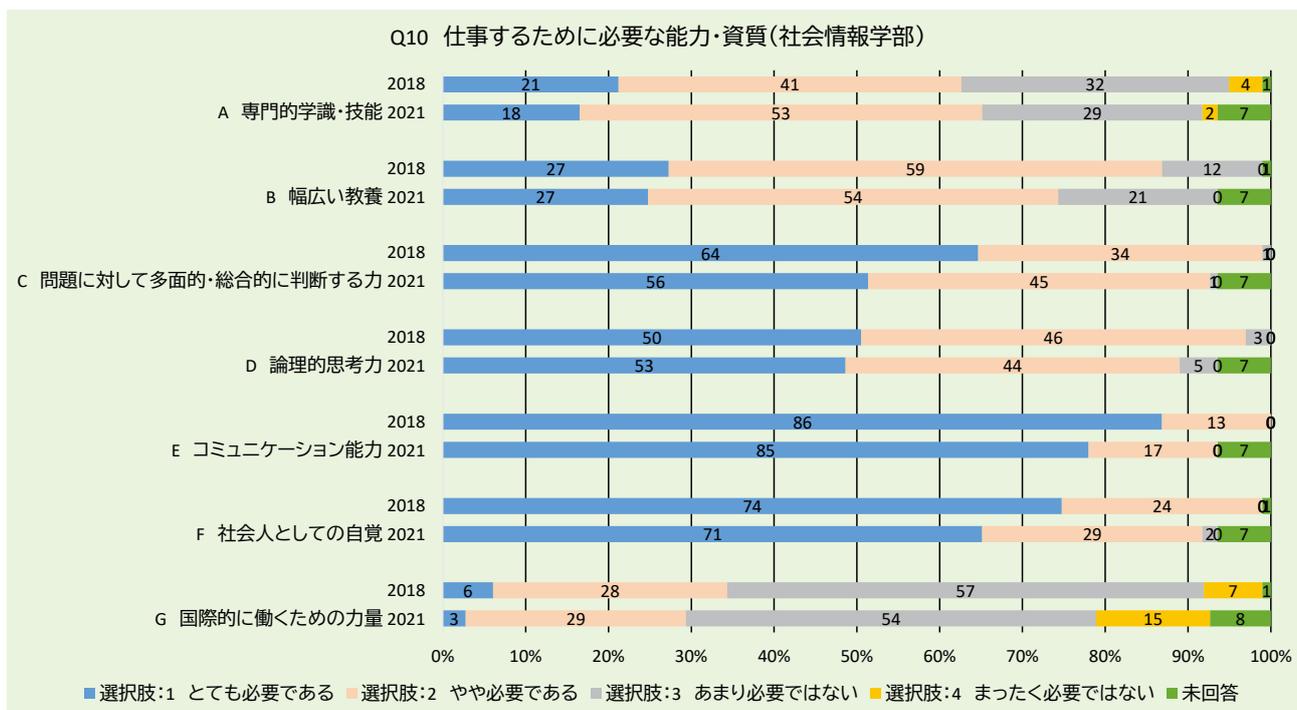
社会情報学部・社会情報学研究科

【回答機関数】

2018年： 99

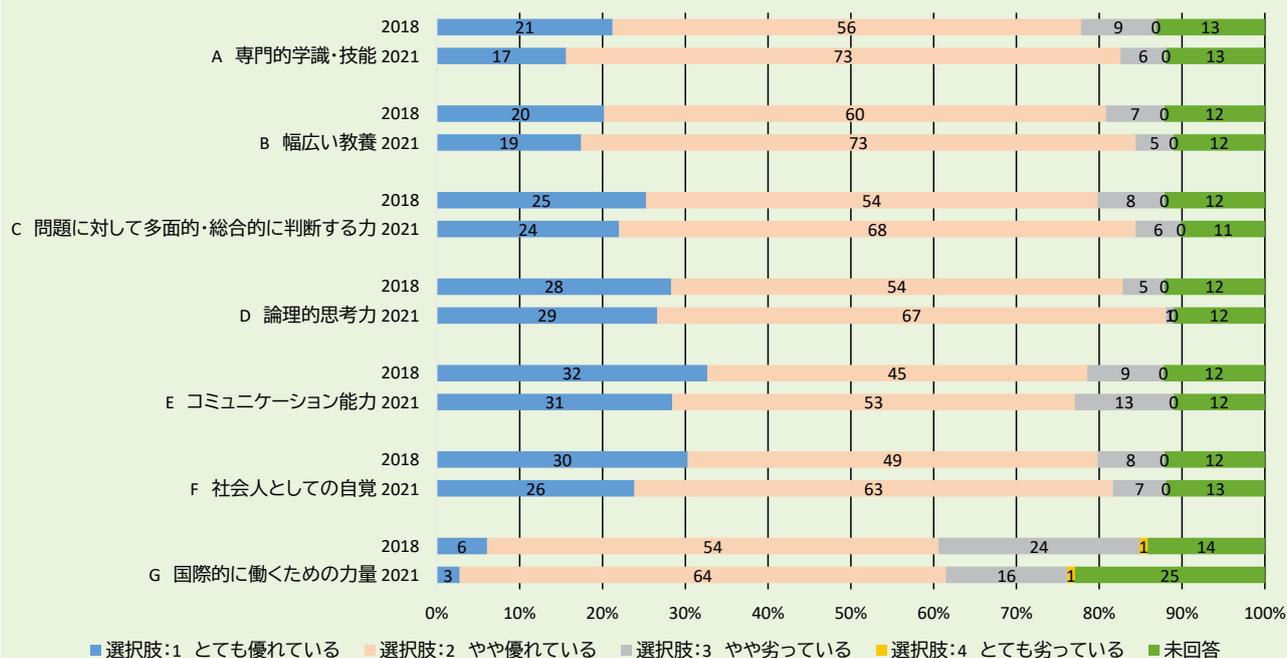
2021年： 109

19



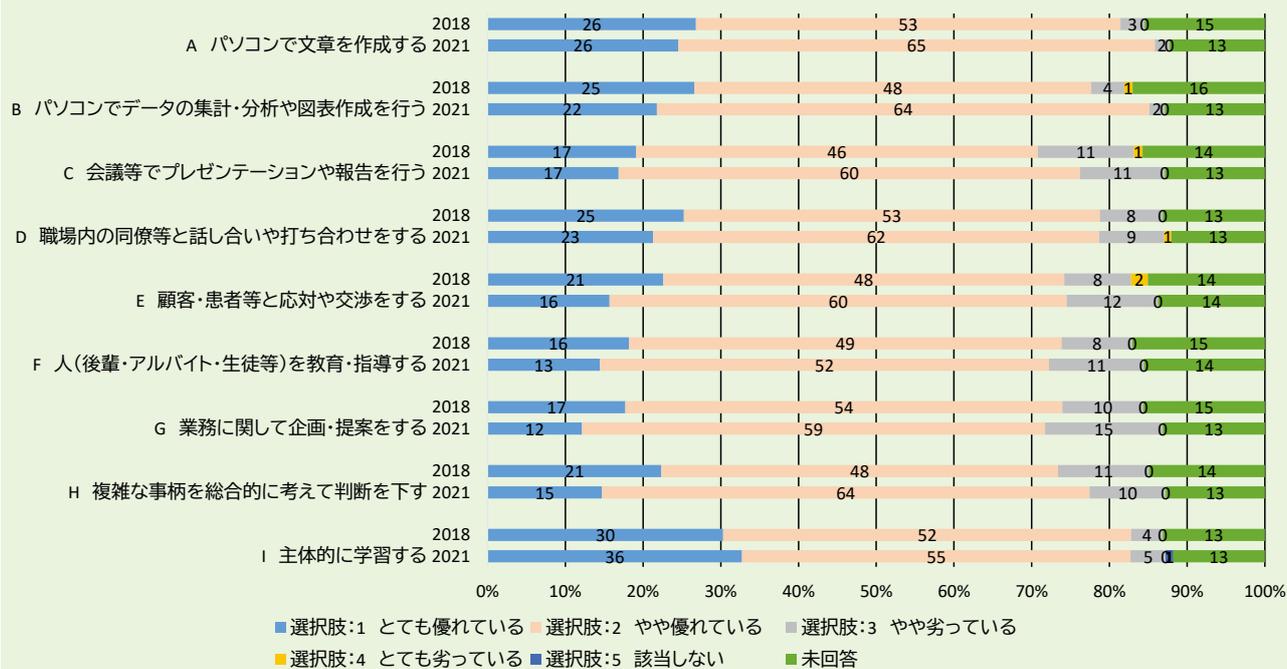
20

Q11 本学出身者の能力・資質(社会情報学部)



21

Q12 本学出身者の職務遂行能力(社会情報学部)



22

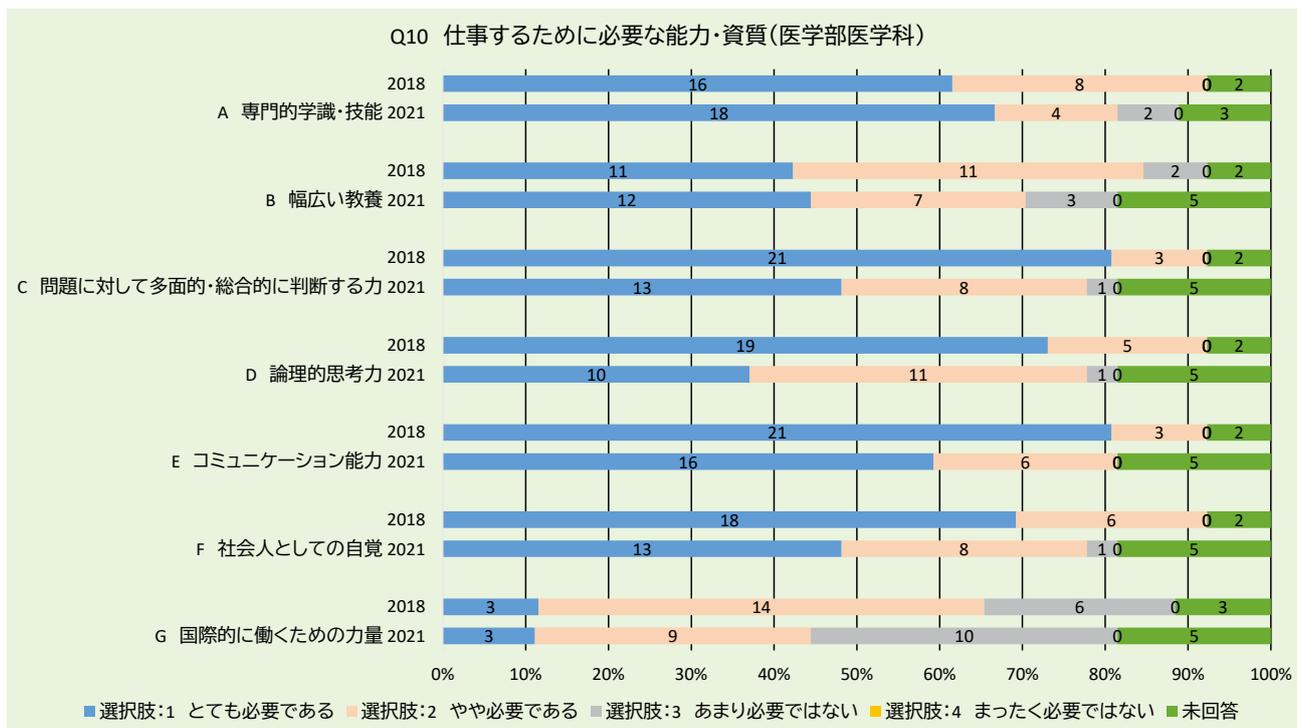
医学部医学科・医学系研究科

【回答機関数】

2018年：26

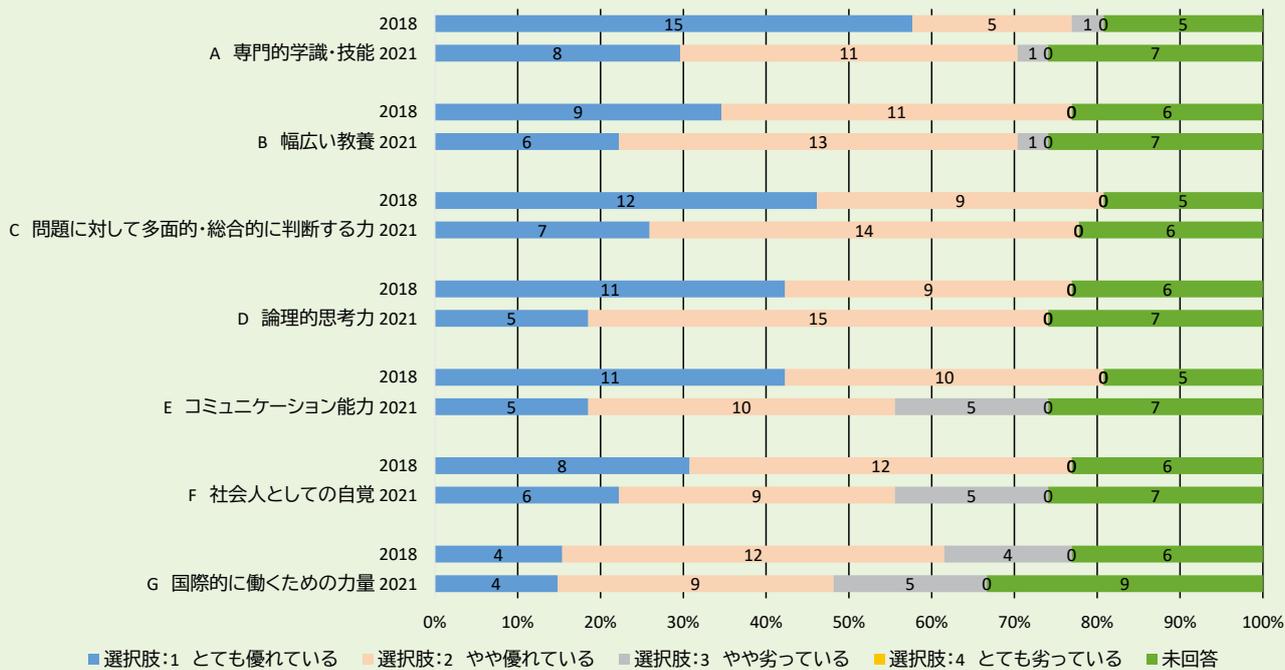
2021年：27

23



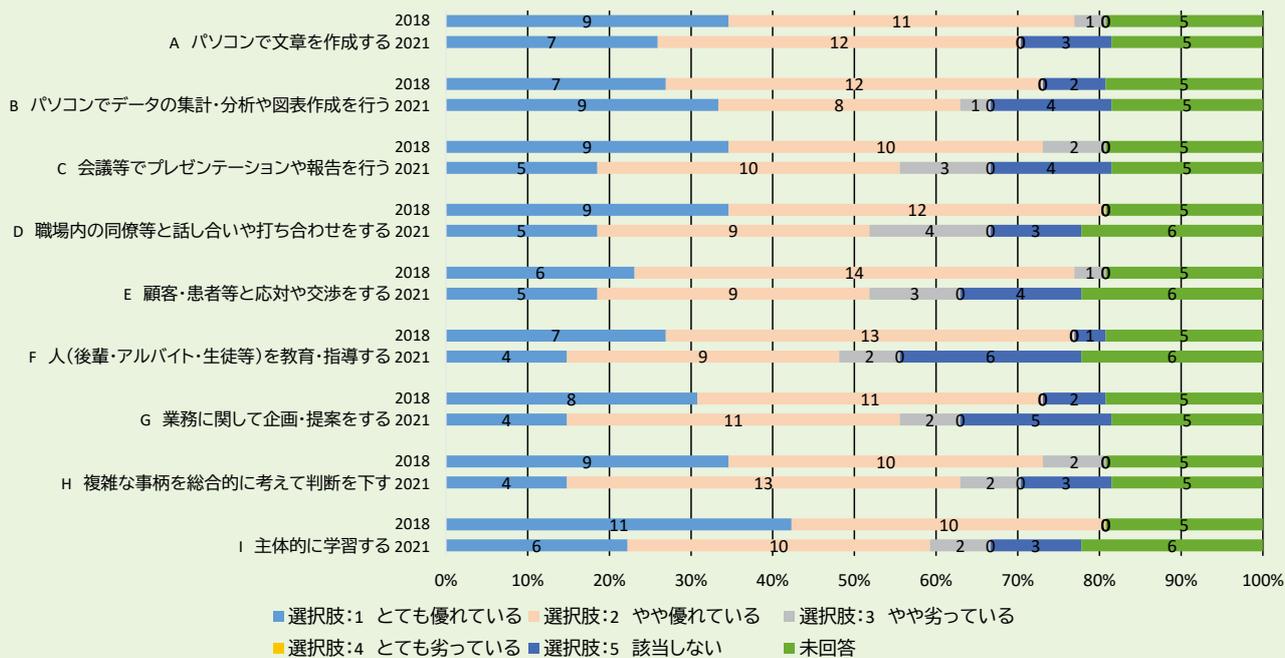
24

Q11 本学出身者の能力・資質(医学部医学科)



25

Q12 本学出身者の職務遂行能力(医学部医学科)



26

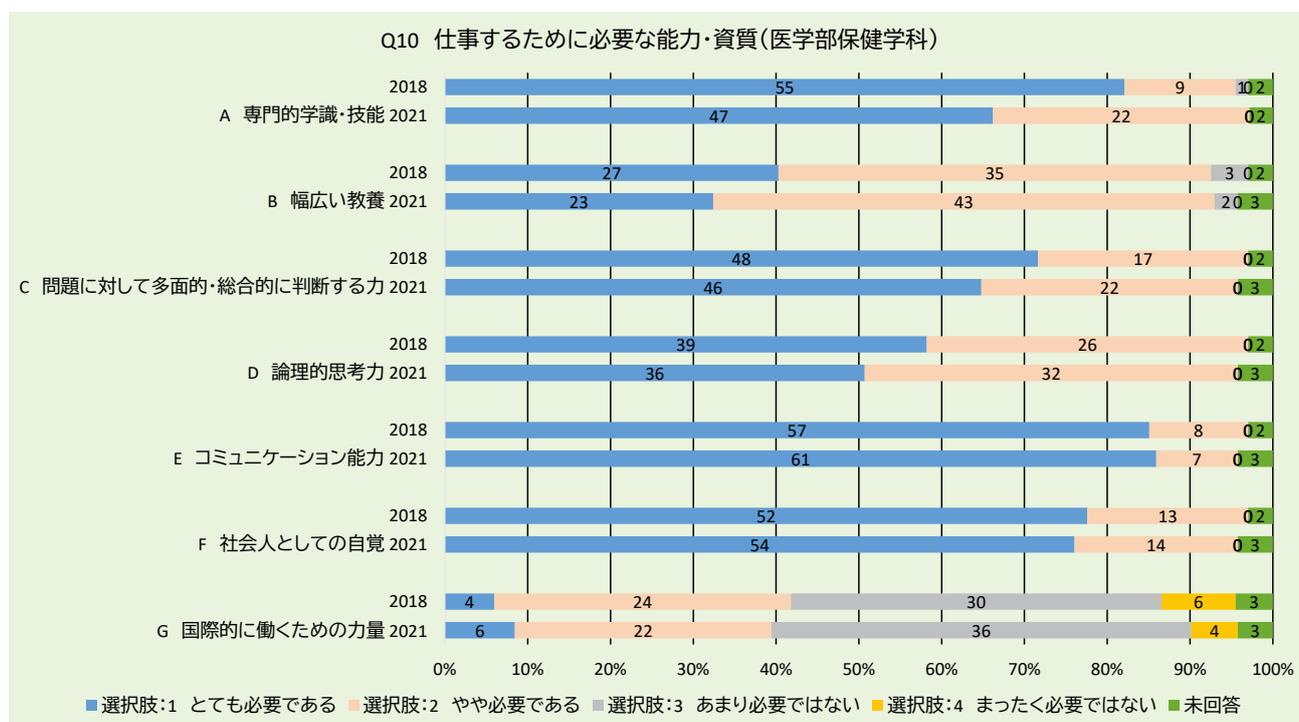
医学部保健学科・医療技術短期大学部 保健学研究科

【回答機関数】

2018年：67

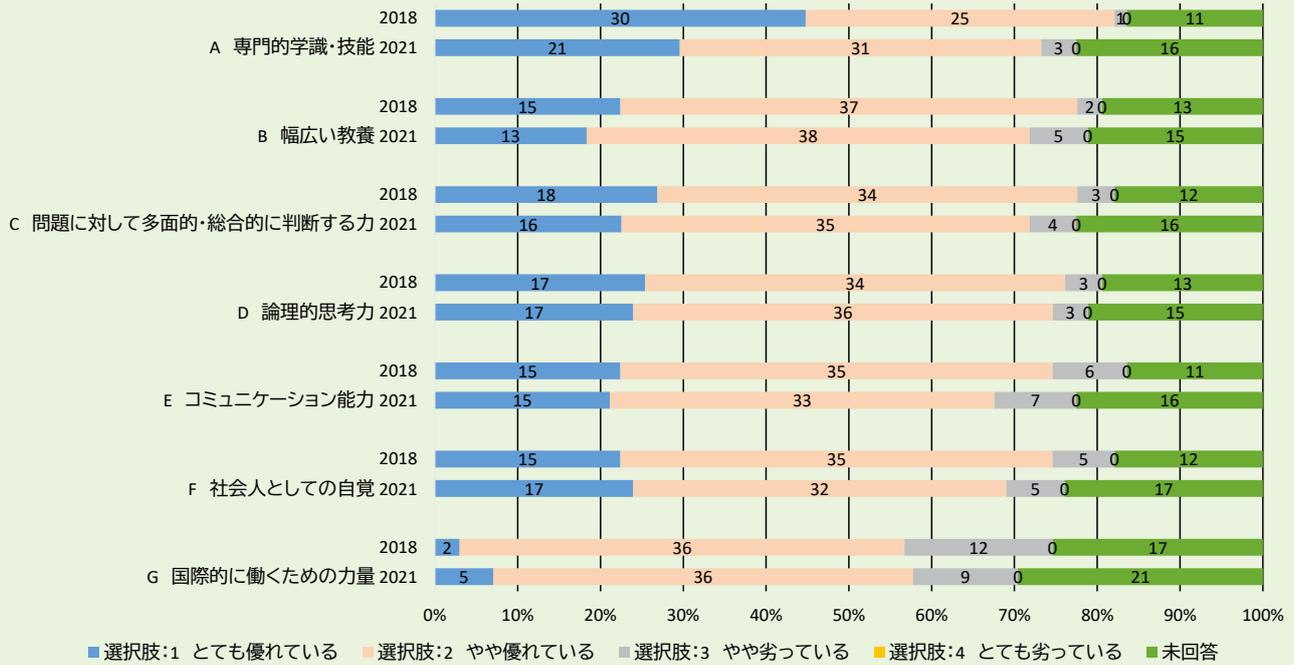
2021年：71

27



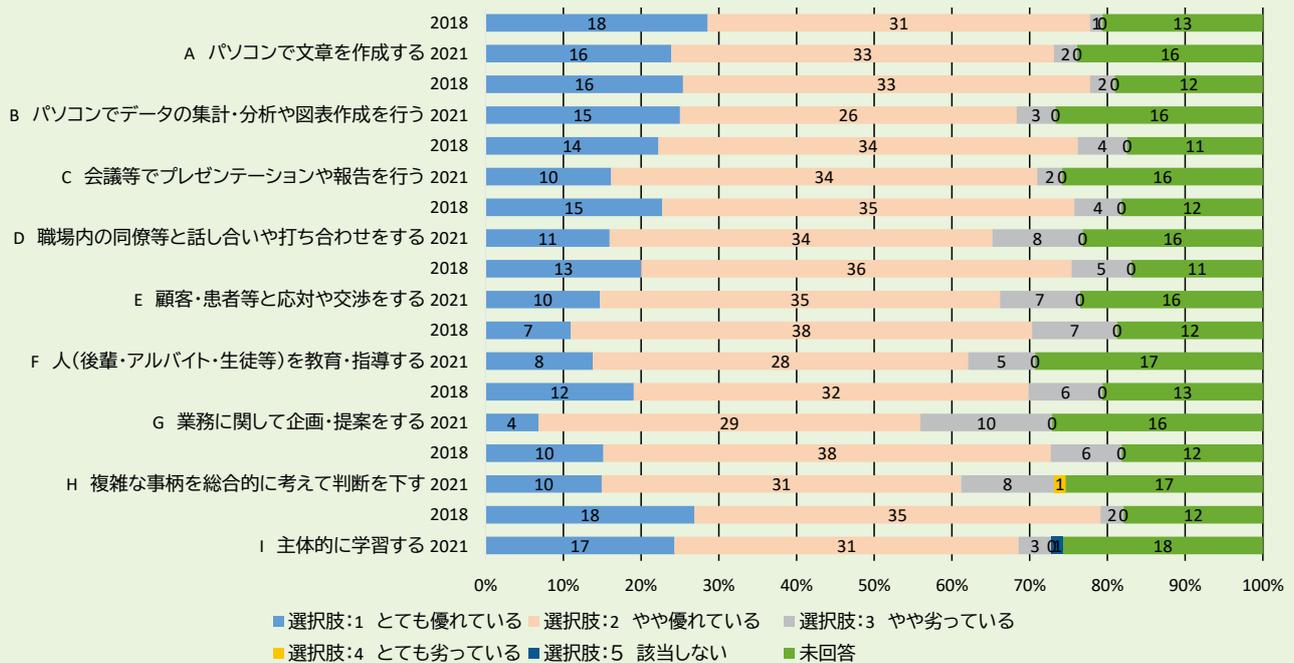
28

Q11 本学出身者の能力・資質(医学部保健学科)



29

Q12 本学出身者の職務遂行能力(医学部保健学科)



30

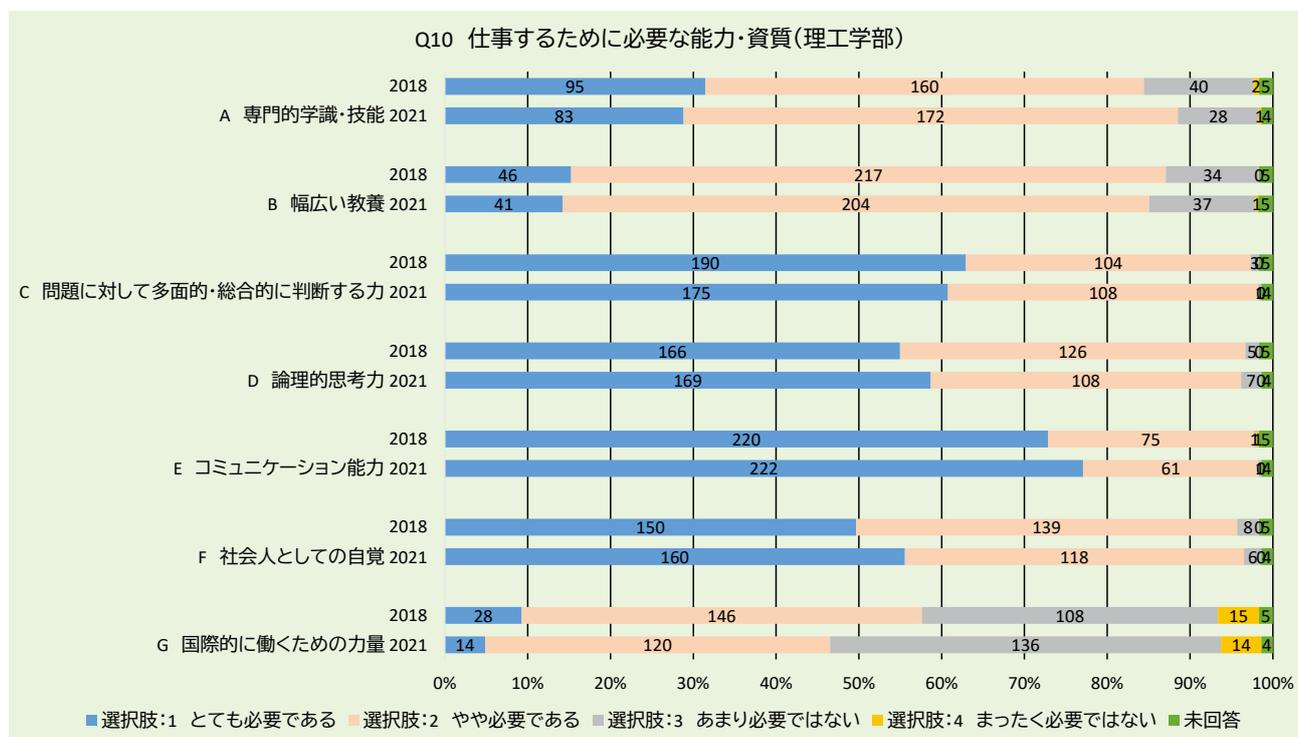
理工学部・工学部・工業短期大学部 理工学府・工学研究科

【回答機関数】

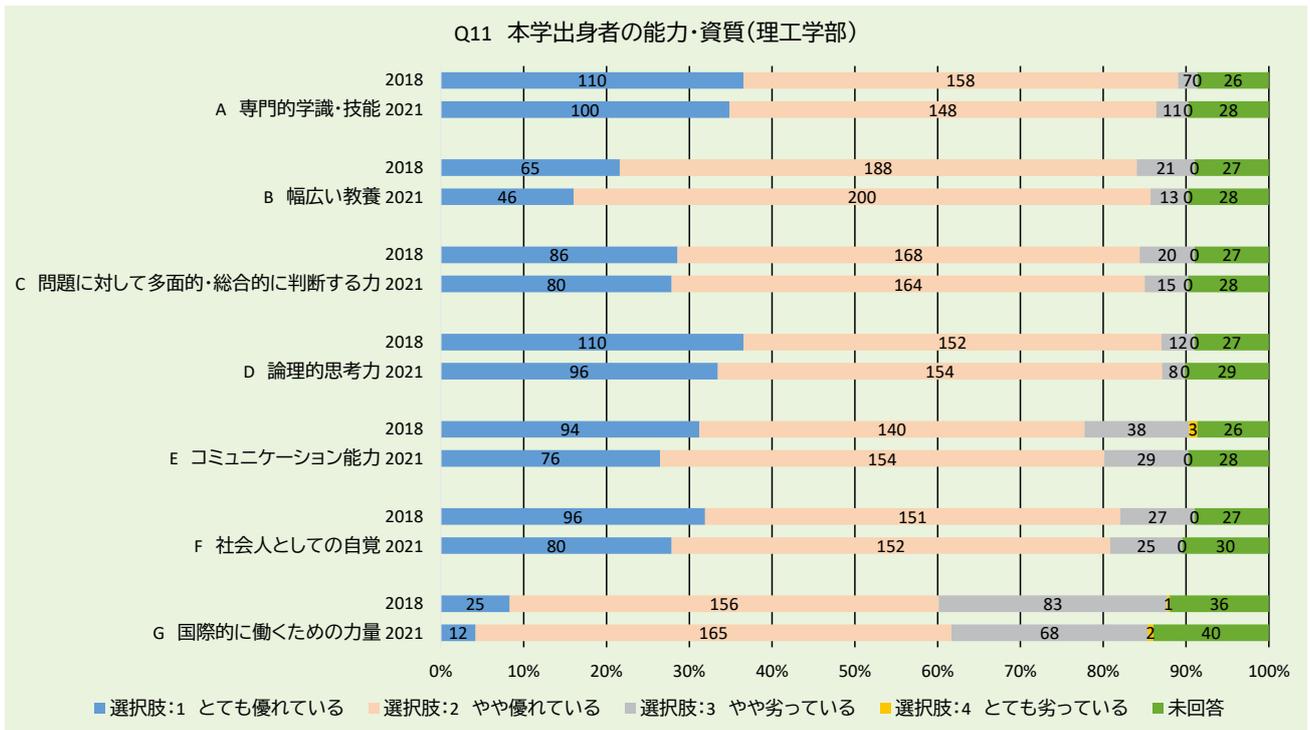
2018年：302

2021年：288

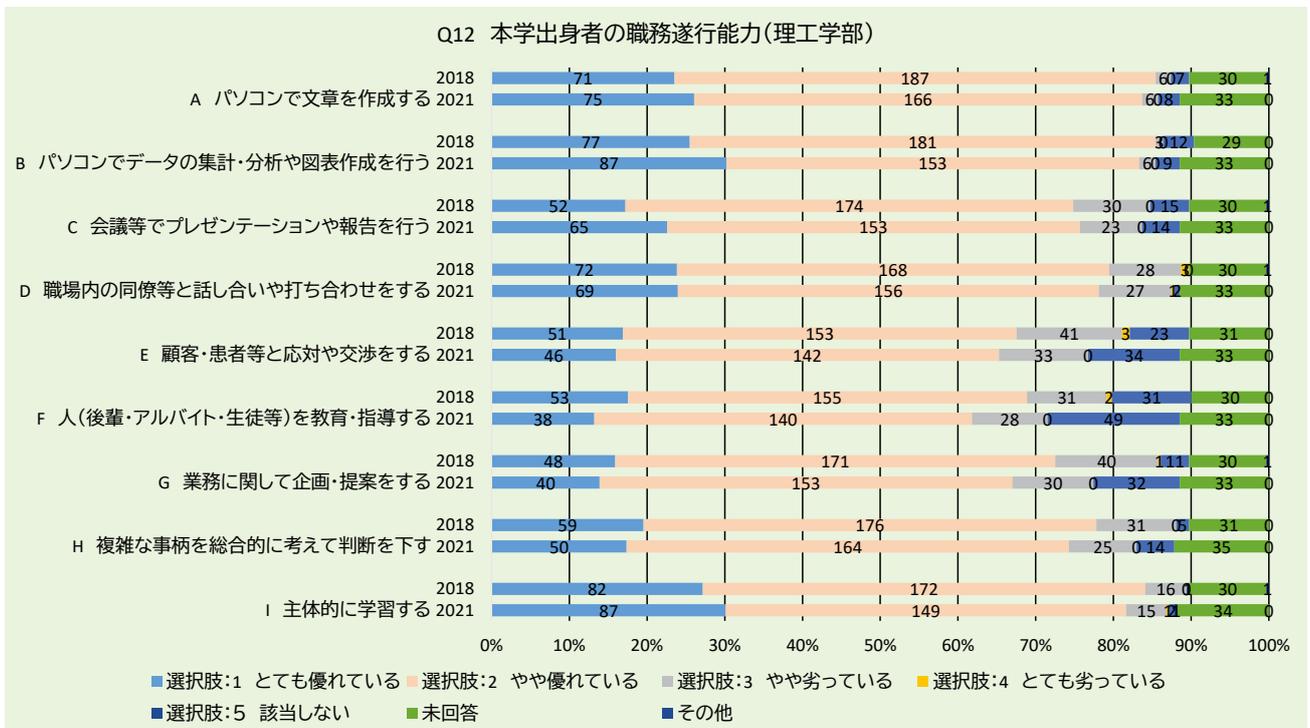
31



32



33



34

第13回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」開催案内

第13回全学FD連続講演会

「大学教育のグランドデザイン」

大学院改革について～東北大学の取組～

日 時：令和3年10月8日（金）14時30分～16時30分（予定）

実施方法：Zoomによるオンライン開催

【概要】

全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」は、平成21年度から毎年、学外から大学教育の専門家をお招きして実施しています。

今年度は、本学においても重要な検討課題となっております「大学院改革」について、先行する東北大学の取組を、東北大学の現執行部の先生方からご紹介いただきます。

【内容】

時間	内容	講演者等
14:30	開会・挨拶	理事（教育・評価担当） 林 邦彦
14:35～15:20	東北大学の取組① 高等大学院機構の取組（学位プログラム）について	東北大学 副学長 山口 昌弘 先生
15:20～16:05	東北大学の取組② 工学教育院の6年一貫教育について	東北大学 副理事 安藤 晃 先生
16:05～16:15	東北大学の取組 総合コメント（まとめ）	東北大学 理事・副学長 青木 孝文 先生
16:15～16:30	質疑応答	
16:30	閉会	

（司会：教育改革推進室 二宮 祐）

【参加方法】

時間になりましたら、以下によりZoomにアクセスしてください。

（URL）<https://gunma-u-ac-jp.zoom.us/j/85487141204?pwd=YzBkY2d0NXpTcGpIU3ZjNWgzZytkZz09>

（ミーティングID） 854 8714 1204 （パスコード） 397947

事前の参加登録は必要ありませんが、FDとして参加実績を把握する必要がありますので

※参加者は、講演会当日に、必ず以下のURL（Google Forms）から、出席登録をお願いします。

（出席登録URL）<https://forms.gle/faTkKkYQ5HaiMFAC7>

（主催：大学教育・学生支援機構 大学教育センター）

群馬大学 学生の皆さんへ 学習を管理してみよう

群馬大学 学生の皆さんへ
学習を管理してみよう

2022年 3月

大学では学生が自分で学習を管理しなければなりません。さまざまなことを自分で考えて、決めることになります。そのために必要な方法を紹介します。

□ 教務システム

主な機能

シラバス 検索機能を利用して授業の情報を調べることができます。

履修登録 自分で履修する授業を登録します。

授業情報 休講や補講などについて確認できます。

ポートフォリオ 過去、現在、未来についての自分の考えを記録できます。



□ 群馬大学LMS

主な機能

課題の提出、配布資料のダウンロード、

先生への質問・学生同士でのディスカッション



学習を計画的に進めるために、手帳やPCを活用することもお勧めします。

□ 手帳

スマートフォンで利用する手帳アプリや時間割アプリも便利です。

時間割（教室の場所、先生の名前）、課題の提出方法と締切り日時、サークルやアルバイトの情報などを入力しましょう。

□ PCの活用

自分のPCやオンラインストレージへ大学生活に関するフォルダを作りましょう。

フォルダに配布資料、提出済みの課題、サークルの記録などを保存しましょう。

ポートフォリオと合わせて、進路について考えるときに振り返るための資料になります。



群馬大学 大学教育・学生支援機構教育改革推進室

群馬大学 学生の皆さんへ レポートを提出する前に

群馬大学 学生の皆さんへ レポートを提出する前に

2022年 3月

1. 書式の確認をしましょう。

教員から指示がない場合、次に示す書式を守りましょう。

- 学部・学科、学籍番号、氏名を書く。
- 横書きにする。
- 常体（だ・である）を用いる。
- 段落の最初の一文字を空ける。
- ページ番号を挿入する。
- 参考文献（引用文献、書誌情報）リストをつける。
- 指定された字数を守る。

2. 適切な引用・参考の確認をしましょう。

引用とは他人の文章を使うことです。その際、自分と他人の意見を明確に区分する必要があります。その方法には「直接引用」と「参考（間接引用）」があります。

直接引用：紹介する文章を一字一句抜き出して「 」をつける。

二宮（2022）は「〇〇の主な理由は……………△△である」という。

参考（間接引用）：自分なりに紹介する文章を要約する。

二宮（2022）によると△△が〇〇の主な理由であるという。

以下に示す事例は著作権の侵害になります。また、過去には不正行為（※）として対処されたこともありますので、ぜひ注意してください。

- 引用した文献やURLを書かないで、他者の文章、図、表、画像を使う。
- 先輩や友だちのレポートを丸写しする。

※群馬大学学則第56条「本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、学長が懲戒する」による。

中央図書館（荒牧キャンパス）でレポートの書き方に関する書籍を借りることができます。その一部を紹介します。

川崎昌平、2020、『大学1年生の君が、はじめてレポートを書くまで。』ミネルヴァ書房。

小山透、2011、『科学技術系のライティング技法—理系文・実用文・仕事文の書き方・まとめ方』慶應義塾大学出版会。

近藤裕子ほか、2019、『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房。

佐藤望（編著）、2012、『大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会。

高谷修、2013、『看護学生のためのレポート・論文の書き方—正しく学ぼう「書く基本」「文章の組み立て」』金芳堂。

山口裕之、2013、『コピペと言われないレポートの書き方教室—3つのステップ：コピペから正しい引用へ』新曜社。

吉岡友治、2019、『マンガでやさしくわかる論文・レポートの書き方』日本能率協会マネジメントセンター。

群馬大学 大学教育・学生支援機構教育改革推進室